

第三 財団・運営

第一章 財団法人

第一節 組織

一八一 財団法人私立東洋大學設立認可

申請書〔明治三十九年六月六日〕

申請書

今般民法第參拾四條ニ依リ財団法人私立東洋大學ヲ設立致候ニ付御許可相成度別紙寄附行為及財産目錄相添此段申請仕候也

明治參拾九年六月六日

東京市本郷區駒込曙町參番地平民

私立東洋大學設立者 井上円了

文部大臣 牧野伸顯殿

〔別紙〕

私立東洋大學寄附行為〔略〕
私立東洋大學財産目錄

財産目錄

財団法人私立東洋大學ノ資産ヲ組織スル金錢物件次ノ如シ

甲 基本財産ノ部

第壹 土地

一 參仟九百拾參坪四合九勺

此時価金六万八仟四百八拾六円七錢五厘也

第貳 有価証券

一 額面価額金四仟壹百円也

此時価金參仟八百九拾五円也

乙 其本財産以外ノ財産

第壹

一 拾八棟外ニ表門及裏門廊下

此時価金壹万七仟八百參拾六円貳拾錢也

第貳 動産

一 金七仟四百円五拾貳錢也

現金及預ケ金

一 圖書什器類八仟壹百七拾壹点

此時価金七仟六百貳拾七円壹錢也

資産総額金拾万五仟貳百四拾四円八拾錢五厘也

右ノ通相違無之候也

明治参拾九年六月六日

東京市本郷区駒込曙町参番地平民

私立東洋大学設立者 井上四了[㊦]

『明治卅九年 文書類纂 学事』

東京都公文書館所蔵

一八一—二 財団法人私立東洋大学設立認可書写

〔明治三十九年七月四日〕

(写)

私立東洋大学設立者

文学博士 井上四了

本年六月六日付申請財団法人設立ノ件民法第三十四条ニ
ヨリ許可ス

明治三十九年七月四日

文部大臣 牧野伸顯

『明治卅九年 文書類纂 学事』

東京都公文書館所蔵

一八二 稟告 財団法人私立東洋大学役員

〔明治三十九年七月六日〕

稟 告 (諸新聞に広告)

今般私立哲学館大学を私立東洋大学と改称し同大学に充
用せる現在の資産全部金拾万五千貳百四拾四円八拾錢五
厘を寄附して之を財団法人組織とし左の者を役員に指名
し

理事(学長) 前田 慧雲 理事(主事) 安藤 弘

監事(一名) 湯本武比古

商議員十七名

石川 照勤	伊藤長次郎	滝川 浩
田中 治六	武 信之	中島 徳藏
村上 专精	内田 周平	山脇 貞夫
八木 光貫	松本文三郎	斎藤 唯信
境野 哲	桜井 義肇	森田徳太郎

及前記理事二名

本月四日文部大臣の許可を得たり依て同学に關係ある諸
君に稟告す

明治三十九年七月六日

設立者 井上四了

『南船北馬集』第六編(明治四五年四月二五日)

一八三 財団法人私立東洋大学設立者変更認可

申請書〔大正二年五月二十六日〕

設立者変更ニ付申請

私立京北中学校

私立京北実業学校

右設立者京北財団ハ今般解散シテ其資産全部ヲ財団法人
私立東洋大学ニ寄附スルコトニ致度候ニ就テハ右両校ノ
設立者ヲモ後者ニ変更致度候間御認可被成下度兩財団理
事連署ヲ以テ及御願候也

大正二年五月二十六日

財団法人私立東洋大学理事 前田 慧雲^印

京北財団理事 湯本武比古^印

同 杉谷佐五郎^印

同 田中 治六^印

同 安藤 弘^印

同 三島定之助^印

同 三石 賤夫^印

同 神崎 一作^印

文部大臣 法学博士奥田義人殿

『大正2年 学事 私立学校 第一種 冊ノ二』

東京都公文書館所蔵

一八四 東洋大学財団組織に関する文部省専門局

意見書〔昭和一〇年一二月四日〕

1 東洋大学財団組織に関する文部省専門局の意見書
東洋大学の経営難を救済する方法は、京北両校の会
計、人事経営を合同するを以て、最良の方法と思考
す。

2 京北両学校を事実上独立経営とすれば、各校五万円
以上宛の基本金其他校地を有するを条件として、再
設立認可さるべきなり。

3 右に依れば京北両学校は、各自校の敷地時価額と、
基本金五万円以上宛を準備すべきものと思考さる。
表面上同一財団の経営と表示しながら、東洋大学よ
り京北両校に対して借地料を徴集し、或は両者間に
於て貸金の利子を徴するが如きは、財団寄附行為に
反するものにあらざるか。

5 両当局理事者間に於て政治的折衝を行い、全財団の
経営を合同一丸とするか、又は目下余裕ある京北兩
校に於て、前記二、三項の実現を図るか、其他財団
安定の方法を講ずるを緊急事と認む。

右は昭和十年十二月二日より三日間、文部省専門学務局より高橋、美作両名調査の爲め出張の節、藤村学長、広井、西山、三島、安藤両校長同席の上、注意せられたる要点を記録するもの也。

昭和十年十二月四日記

西山哲治印

『東洋大学八十年史』三三〇—三三一頁

(学校法人東洋大学、昭和四二年一月二三日)

一八五 私立哲学館大学顧問 (明治三十九年一月)

顧問	文学博士	男爵	加藤弘之
同	法学博士	男爵	石黒忠憲
同	文学博士	重野安繹	
同	文学博士	井上哲次郎	
同	講師	大内青巒	

「哲学館大学顧問」(『東洋哲学』第一三編第一号、

明治三十九年一月五日)

一八六 私立東洋大学顧問 (大正五年五月二〇日)

今回新に左の諸氏に本大学顧問を囑托す

本大学前学長 前田 慧 雲氏
教授、商議員 前 田 雷 斧氏
前 眞 言 宗 豊山派 管長 権 田 順次郎氏
帝国大学文科大学教授 高 楠 順次郎氏
本大学 前教授 大正五年五月十日

『東洋哲学』第二三編第六号 (大正五年六月一日)

一八七 東洋大学顧問 (大正二〇年十一月)

顧問 (イロハ順)

東京帝国大学教授	文学博士	井上哲次郎
成田山新勝寺住職	石川 照勤	
陸軍軍医総監	子爵 石黒 忠憲	
頭本法華宗管長	犬養 毅	
内務大臣	本多 日生	
法学博士	床次竹次郎	
司法大臣	小川滋次郎	
伯爵	大木 遠吉	
	大岡 育造	
	岡田 良平	
	河野 広中	
	高楠順次郎	

東京帝国大学教授 文学博士

文学博士 南条 文雄
文学博士 村上 專精
教授 内田 周平

東京帝国大学講師 教授 前田 慧雲
京都帝国大学教授 文学博士 松本文三郎

男爵 後藤 新平
権田 雷斧
京都帝国大学講師 齋藤 唯信

文学博士 沢柳政太郎
文学博士 三宅雄二郎

『東洋大学学則』（大正一〇年一月）

一八八 私立哲学館大学評議員（明治三十九年二月）

哲学館大学評議員（イロハ順）

五十嵐光竜 本多 日生
高瀬武次郎 滝川 浩
田中 治六 山脇 貞夫
松本文三郎 藤岡 勝二
齋藤 唯信 境野 哲

「哲学館大学」（『東洋哲学』第一三編第二号、

明治三十九年二月五日）

第二節 寄附行為

一八九 私立東洋大学寄附行為

（明治三十九年七月四日認可）

寄附行為

第壹 目的

第壹条 本財団法人ハ高等、普通ノ學術技芸ヲ教授シ
併セテ之ニ關スル有益ノ圖書講義錄及雜誌ヲ
發行ス

第貳 名称

第貳条 本財団法人ハ私立東洋大学ト称ス

第參 事務所

第參条 本財団法人ノ事務所ハ東京市小石川区小石川
原町拾七番地ニ置ク

第四 資産ニ關スル規定

第四条 文学博士井上円了ノ所有ニ屬シ從來其設立ニ
係ル私立東洋大学ニ充用セル現在ノ動産不動
産全部並右井上円了ガ今回新ニ寄附シタル財

産ヲ以テ本財団ノ資産トス

第五 条

本財団法人ノ事業年度ハ毎年四月壹日ニ始まり翌年三月三十一日ニ終ル

第六 条

本財団法人ノ経費ハ基本財産ヨリ生ズル収入、生徒ノ授業料其他臨時ノ雑収入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七 条

本財団法人ノ資産ハ主事タル理事之ヲ管理ス但シ経費支弁ノ上現金ニ剰余アリタルトキハ理事ノ協議ヲ以テ確実ナル有価証券ヲ買入ルルモノトス

本財団法人ニ対シテ贈与ヲ為サントスル者アルトキハ理事ニ於テ諾否ヲ決シ若シ之ヲ受クルトキハ基本財産ニ組入ルルモノトス
経費支弁ノ為臨時有価証券（基本財産ニ属スル分ハ之ヲ除ク）ヲ換価スル必要アルトキハ理事ノ協議ヲ以テ其価格換価方法ヲ定ムルモノトス

第八 条

本財団法人ガ解散スルニ至リタルトキハ其解散當時ニ於ケル商議員ノ決議ヲ以テ財産帰屬權利者ヲ指定ス

第九 条

清算人ノ選定ハ前条ニ掲ケタル同一ノ方法ニ従フモノトス

第拾 条

第五 役員ニ関スル規定

本財団法人ヲ代表シ其事務ヲ処理セシムル為メ理事二名ヲ置ク但シ理事ノ内壹名ヲ学長ト称シ他ノ壹名ヲ主事ト称ス

理事ハ商議員会ノ決議ニ反シテ法人ノ事務ヲ処理スルコトヲ得ズ

第拾壹 条

理事ハ当然商議員ヲ兼ヌルモノトス
本財団法人ニ監事壹名ヲ置キ財産及業務執行ノ状況ヲ監査セシメ若シ不整ノ廉アルトキハ之ヲ主務官庁ニ報告セシムルモノトス

第拾貳 条

理事ハ本法人設立許可ノ時及毎事業年度ノ終ニ於テ財産目録並ニ出納ニ関スル計算書ヲ作成シ監事ノ承認ヲ經テ商議員会ノ決議ヲ受クベキモノトス

第拾參 条

理事及監事ノ任期ハ滿五箇年トス但再任ヲ妨ゲズ

第拾四 条

理事監事及商議員ノ選任、辞任、又ハ免黜ハ商議員会ノ決議ヲ經ベキモノトス

学長タル理事ニ欠員ヲ生シタル場合ニ於テ前任者ノ指名アリタルトキハ商議員会ハ之ニ基キテ議決スルモノトス

第拾五 条

本財団法人ニハ商議員拾七名ヲ置キ本寄附行

為所定ノ事務及其他重要ナル事項ヲ審議スルモノトス但其任期ハ滿六箇年トシ再任ヲ妨ゲズ

第拾六条

商議員ニ欠員ヲ生ジタルトキハ從來私立東洋大学ニ縁故アルモノ及嘗テ商議員タリシモノノ中ヨリ商議員会ノ決議ヲ經テ理事之ヲ依嘱ス

第拾七条

商議員会ノ議事ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決定ス理事監事及商議員ノ補欠員ノ任期ハ前任者ノ残任期間トス

第拾八条

第六 寄附行為ノ變更

第拾九条

本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外商議員会ノ決議ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

附則

第貳拾条

本法人設立許可ノ際ハ前田慧雲安藤弘ノ式名ヲ理事トシ前田慧雲ヲ私立東洋大学長ニ安藤弘ヲ同大学主事ニ湯本武比古ヲ同大学監事トス

第廿壹条

本法人設立許可ノ際ハ前条理事式名及石川照勤 伊藤長次郎 滝川浩 田中治六 武信之中島徳藏 村上專精 内田周平 山脇貞夫

八木光貫 松本文三郎 斎藤唯信 境野哲
桜井義肇 森田徳太郎 ヲ以テ商議員トス但

本寄附行為許可ノ日ヨリ滿三箇年ヲ經過シタル後前記商議員（理事タル商議員ヲ除ク）ノ内八名ハ抽籤ニ依リ改選スルモノトス

明治參拾九年六月六日

東京市本郷区駒込曙町參番地平民

私立東洋大学設立者 井上円了

「財団法人私立東洋大学」(『東洋哲学』第一三編

第六号、明治三十九年七月一日)

一九〇 私立東洋大学寄附行為

(大正二年四月認可)

私立東洋大学寄附行為(大正二年四月認可)

第壹 目 的

第壹条 本財団法人ハ教育事業ヲ經營ス

第貳 名 称

第貳条 本財団法人ハ私立東洋大学ト称ス

第參 事 務 所

第參条 本財団法人ノ事務所ハ東京市小石川区原町十

七番地ニ置ク

第四 資 産

第四 条

文学博士井上四了ノ所有ニ属シ從來其設立ニ係ル私立東洋大学ニ充用セル現在ノ不動産及不動産全部並ニ元京北財団ノ所有ニ係ル動産及不動産ノ全部ヲ以テ本財団法人ノ資産トス

第五 条

本財団法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始まり翌年三月三十一日ニ終ル

第六 条

本財団法人ノ経費ハ資産ヨリ生ズル收入、生徒ノ入学金、授業料及其他ノ雑收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七 条

本財団法人ノ資産ハ商議員会ノ指定シタル方法ニ依リ理事之ヲ管理ス

第八 条

本財団法人ガ解散スルニ至リタル時ハ其解散当時ニ於ケル商議員会ノ決議ヲ以テ財産帰属權利者ヲ指定ス

第九 条

清算人ノ選定ハ前条ニ掲ゲタルト同一ノ方法ニ従フモノトス

第五 役 員

第十 条

本財団法人ニハ商議員十四名ヲ置キ本寄附行為所定ノ事務及其他重要ナル事項ヲ議決シ其任期ヲ滿六ケ年トス 但シ再任ヲ妨ゲズ

第十一 条

商議員ハ本財団法人ニ關係アル者ヨリ商議員

会ニ於テ選定ス

第十二 条

商議員ハ其任期終了ニ先立チ商議員会ニ於テ次期ノ商議員ヲ選定ス

第十三 条

商議員会ハ理事之ヲ召集ス

第十四 条

商議員会ノ議事ハ拾名以上ノ同意アルニ非ザレバ決定スルヲ得ズ

第十五 条

本財団法人ヲ代表シ其事務ヲ処理セシムル為メ理事式名ヲ置キ其任期ヲ滿六ケ年トス 但シ再任ヲ妨ゲズ

理事ハ商議員会ニ於テ商議員中ヨリ選定シ之ヲ兼任セシム

理事ハ商議員会ノ決議ニ反シ法人ノ事務ヲ処理スル事ヲ得ズ

第十六 条

商議員及理事ノ補欠員ノ任期ハ前任者ノ残任期間トス

第六 寄附行為ノ變更

第十七 条

本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外商議員会ノ決議ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ得テ之ヲ變更スル事ヲ得

第七 附 則

第十八 条

役員ノ任期ハ新タニ大正二年四月一日ヨリ起算ス

右之通變更スルコトヲ決議ス

大正二年六月二十三日

商議員 前田惠雲 中島徳藏 境野 境

石川義昌 安藤正純 鼎 義曉

『東洋大学創立五十年史』二〇四—二〇六頁

(東洋大学、昭和十二年二月二三日)

一九一 私立東洋大学財団寄附行為

(大正八年六月三〇日認可)

東洋大学財団寄附行為

第壹章 目 的

第壹条 本財団法人ハ教育事業ヲ經營ス

第貳章 名 称

第貳条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第參章 事 務 所

第參条 本財団法人ノ事務所ハ東京市小石川区原町拾七

番地ニ置ク

第四章 資 産

第四条 文学博士井上円了ノ所有ニ属シ從來其設立ニ係

ル東洋大学ニ充用セル現在ノ動産及不動産全部
並ニ元京北財団ノ所有ニ係ル動産及不動産ノ全

部ヲ以テ本財団法人ノ資産トス

第五条 本財団法人ノ事業年度ハ毎年四月壹日ニ始マリ

翌年參月參拾壹日ニ終ル

第六条 本財団法人ノ經費ハ資産ヨリ生ズル收入学生生

徒ノ入学金授業料及其他ノ雜收入ヲ以テ之ヲ支
弁ス

第七条 本財団法人ノ資産ノ管理及使用ハ維持委員会ノ決

議ニ基キ理事之ヲ行フ

第五章 事 業

第八条 本財団法人ハ第壹条ノ目的ヲ達センガ為メ東洋

大学京北中学校京北実業学校京北幼稚園等ヲ經
營ス

第六章 役 員

第九条 本財団法人ニ左ノ役員ヲ置ク

理事貳人 維持員貳拾人 會計監査貳人

第壹款 理 事

第拾条 理事ハ本財団法人ヲ代表シ維持委員会ノ決議ニ基

キ本財団法人ノ一切ノ經營ニ任ス

但シ理事ノ代表權ハ東洋大学側ト京北中学校
京北実業学校京北幼稚園側トヲ互ニ分担シ代
表スルモノトス

第拾壹条 本財団法人ノ理事中一人ハ東洋大学長一人ハ

第拾貳条

京北中学校長タルモノトス
理事辞任ノ時ハ各自其後任候補者ヲ推薦シ維持員会ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム
但シ事情ニ因リ其後任候補者ヲ推薦スルコト能ハザルトキハ維持員会ニ於テ適當ナル推薦者ヲ選任シ之ヲシテ後任候補者ヲ推薦セシム

第貳款 維持員

第拾參条

維持員ハ維持員会ニ於テ本財団法人ニ關スル重要ナル事項ヲ審議決定ス

第拾四条

維持員ハ左ノ參種トス

甲種 東洋大学長 壹人

京北中学校長 壹人

乙種 東洋大学職員中ヨリ選出ノモノ 五人

東洋大学出身者中ヨリ選出ノモノ 四人

丙種 京北中学校京北実業学校職員中ヨリ選出ノモノ 五人

京北中学校京北実業学校卒業業者中ヨリ選出ノモノ 四人

前条乙種維持員及丙種維持員ノ任期ハ滿參年トス

第拾五条

トス

第拾六条

維持員ノ選舉ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第拾七条

維持員会ハ理事之ヲ召集ス

第拾八条

維持員会ハ全員ノ參分ノ式以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ

第拾九条

維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム

第貳拾条

維持員会ニ關スル細則ハ本会ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第參款 會計監査

第貳拾壹条

會計監査ハ本財団法人ノ會計ヲ監査スルモノトス

第貳拾貳条

會計監査ハ維持員会ニ於テ第拾四条ノ乙種維持員及丙種維持員中ヨリ各壹人ヲ選定ス

第貳拾參条

會計監査ノ任期ハ滿參年トス

第四款 役員通則

第貳拾四条

本財団法人有期役員ノ後任者ハ補闕ノ場合ヲ除キ各任期滿了前相當ノ期間ニ於テ選出セラルルモノトス

第貳拾五条

本財団法人有期役員補闕ノ為メ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第貳拾六条 本財団法人ノ有期役員ハ重任スルコトヲ得

第七章 解散及清算

第貳拾七条 本財団法人ガ解散スルニ至リタル時ハ解散

ノ当時ニ於ケル維持員会ノ決議ヲ以テ財産
帰屬權利者ヲ指定スルモノトス

第貳拾八条 清算人ノ選任ハ前条ト同一ノ方法ニ依ルモ

ノトス

第八章 寄附行為ノ変更

第貳拾九条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維

持員会ニ於テ全員四分ノ参以上ノ同意ニ依
リ主務官庁ノ認可ヲ経テ之ヲ変更スルコト
ヲ得

第九章 附 則

第参拾条 役員ノ任期ハ大正八年七月壹日ヨリ之ヲ起算
ス

第参拾壹条 本寄附行為実施ノ際ニ於ケル理事ハ現東洋

大学長及現京北中学校長之ニ当ル

第参拾貳条 本寄附行為実施ニ際シ維持員会ニ属スル権

限ハ現在ノ商議員会之ヲ行フ

「財団寄附行為認可成る」(『東洋哲学』第二六編

第一〇号、大正八年一月一〇日)

一九二一—東洋大学財団寄附行為變更認可

申請書 (大正一四年九月二十四日)

寄附行為變更認可申請

本財団寄附行為維持員会ノ決議ニ依リ別冊ノ通り變更致
度候条御認可相成度此段申請候也

大正十四年九月二十四日

東京市小石川区原町十七番地

東洋大学財団理事 湯本武比古

文部大臣 岡田良平殿

〔別冊〕

(写) 東洋大学財団維持員会決議録

大正十四年九月十八日午後五時東京市小石川区原町十七
番地東洋大学ニ於テ東洋大学財団維持員会ヲ開ク

出席者十九名 定員貳拾名(一名欠員)

一、理事湯本武比古氏ハ維持員会ノ開会ヲ告ケ議長ノ選
挙ヲ求メ出席者一同ハ中島徳藏氏ヲ議長ニ選挙シタ
リ

一、議長中島徳藏氏ハ議長席ニ就キ別紙東洋大学財団寄
附行為改正原案ノ通り變更シ且ツ之ヲ認可ヲ申請ス
ル件ヲ謀リタルニ維持員全員ノ同意ヲ得タルヲ以テ

別冊原案通り変更スヘキコトヲ決議シタリ
右決議ヲ証スル為メ左ニ署名捺印スルモノナリ

前同日於同所

神崎 一作

石川 義昌

三島定之助

安藤 弘

南木 性海

田中 治六

広井辰太郎

藤村 作

森 清

中島 徳蔵

大野 修

藤岡 勝二

林 竹次郎

酒井喜太郎

早川 清

斎藤孝一郎

湯本武比古

平賀 周

都河 竜

東洋大学財団寄附行為（現行之部）

東洋大学財団寄附行為

第一章 目的

第壹条 本財団法人ハ教育事業ヲ經營ス

第二章 名称

第貳条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第三章 事務所

第參条 本財団法人ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地ニ置ク

第四章 資産

第肆条 文学博士井上円了ノ所有ニ属シ從來其設立ニ係

ル東洋大学ニ充用セル現在ノ動産及不動産全部並ニ

元京北財団ノ所有ニ係ル動産及不動産ノ全部ヲ以テ

本財団法人ノ資産トス

第五条 本財団法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ

翌年參月參拾壹日ニ終ル

第六条 本財団法人ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入学生生

徒ノ入学金授業料及其他ノ雜收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団法人ノ資産ノ管理及使用ハ維持員会ノ決

議ニ基キ理事之ヲ行フ

第五章 事業

第八条 本財団法人ハ第壹条ノ目的ヲ達センカ為メ東洋

大学京北中学校京北実業学校京北幼稚園等ヲ経営ス

第六章 役員

第九条 本財団法人ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 貳人 維持員 貳拾人 會計監査 貳人

第壹款 理事

第拾条 理事ハ本財団法人ヲ代表シ維持員会ノ決議ニ基

キ本財団法人ノ一切ノ経営ニ任ス但シ理事ノ代表權

ハ東洋大学側ト京北中学校京北実業学校京北幼稚園

側トヲ互ニ分担シ代表スルモノトス

第拾壹条 本財団法人ノ理事中一人ハ東洋大学長一人ハ

京北中学校長タルモノトス

第拾貳条 理事辭任ノ時ハ各自其ノ後任候補者ヲ推薦シ

維持員会ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

但シ事情ニ因リ其ノ後任候補者ヲ推薦スルコト能ハ

サルトキハ維持員会ニ於テ適當ナル推薦者ヲ選任シ

之ヲシテ後任候補者ヲ推薦セシム

第貳款 維持員

第拾參条 維持員ハ維持員会ニ於テ本財団法人ニ関スル

重要ナル事項ヲ審議決定ス

第拾四條 維持員ハ左ノ三種トス

甲種 東洋大学長

京北中学校長

壹人

壹人

乙種 東洋大学職員中ヨリ選出ノモノ 五人

東洋大学出身者中ヨリ選出ノモノ 四人

丙種 京北中学校京北実業学校職員中ヨ

リ選出ノモノ 五人

京北中学校京北実業学校出身者中

ヨリ選出ノモノ 四人

第拾五條 前条乙種維持員及丙種維持員ノ任期ハ滿參年

トス

第拾六條 維持員ノ選舉ニ関スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第拾七條 維持員会ハ理事之ヲ召集ス

第拾八條 維持員会ハ全員ノ參分ノ貳以上出席スルニ非

サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第拾九條 維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ

決ス

但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム

第貳拾條 維持員会ニ関スル細則ハ本会ノ決議ヲ以テ別

ニ之ヲ定ム

第參款 會計監査

第貳拾壹條 會計監査ハ本財団法人ノ會計ヲ監査スルモ

ノトス

第貳拾貳條 會計監査ハ維持員会ニ於テ第拾四條ノ乙種

維持員及丙種維持員中ヨリ各壹人ヲ選定ス

第貳拾參条 會計監査ノ任期ハ滿參年トス

第四款 役員通則

第貳拾四條 本財団法人有期役員ノ後任者ノ補闕ノ場合

ヲ除キ各任期滿了前相當ノ期間ニ於テ選出セラル、
モノトス

第貳拾五條 本財団法人有期役員補闕ノ為メ選任セラレ

タル者ノ任期ハ前任者ノ残任期間トス

第貳拾六條 本財団法人ノ有期役員ハ重任スルコトヲ得

第七章 解散及清算

第貳拾七條 本財団法人力解散スルニ至リタルトキハ法

人ノ財産ハ別ニ定ムル財産目錄ニ依リ夫々東洋大学
及京北中学校京北実業学校並京北幼稚園ニ区分シ東
洋大学側ニ属スル財産ハ東洋大学ヲ財団法人ト為シ
之ニ帰属セシメ京北側ニ属スル分ハ京北中学校京北
実業学校並京北幼稚園ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セ
シムヘキモノトス

第貳拾八條 前条ノ財産目錄ハ元京北財団併合當時ノ財

産状態ヲ基礎トシ其後ノ増減ヲ記入シテ維持會ノ
決議ヲ經テ理事之ヲ作成スルモノトス

第貳拾九條 前条ノ財産目錄調製後新ニ増減アリタル法

人ノ財産ハ維持會ノ決議ヲ經テ夫々財産目錄ニ登
載スルモノトス

第參拾條 清算人ノ選任ハ解散當時ニ於ケル維持會ノ

決議ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第八章 寄附行為ノ變更

第參拾壹條 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維

持員會ニ於テ全員四分ノ參以上ノ同意ニ依リ主務官
庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第九章 附 則

第參拾貳條 役員ノ任期ハ大正八年七月壹日ヨリ之ヲ起

算ス

第參拾參條 本寄附行為實施ノ際ニ於ケル理事ハ現東洋

大学長及現京北中学校長之ニ當ル

第參拾四條 本寄附行為實施ニ際シ維持會ニ属スル權

限ハ現在ノ商議會之ヲ行フ

〔朱書〕
「別紙ノ通訂正」

東洋大学財団寄附行為（改正之部）

東洋大学財団寄附行為

第一章 名 稱

第一條 本財団法人ハ東洋大学財団ト稱ス

第二章 目 的

第二條 本財団ハ教育事業ヲ經營ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地

ニ之ヲ置ク

第四章 事業

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為東洋大学京北

中学校京北実業学校京北中等学校及京北幼稚園等ヲ

経営ス

第五章 資産及會計

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其設立ニ係ル元財団法

人私立東洋大学ニ属スル資産全部並元京北財団ニ属

スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産トス

第六条 本財団ノ経費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ

入学金授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三

月三十一日ニ終ル

第八条 本財団ノ予算ハ毎會計年度開始前維持員会ノ決

議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遲滞ナク維持員

会ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持員会ノ決議ニ

基キ理事之ヲ行フ

第六章 役員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理事

六名

維持員

二十六名

監事

二名

第一款 理事

第十一条 理事ハ東洋大学側及京北諸学校（中学校実業

学校中等学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）側ニ分属

シ維持員会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学ニ在リテハ学長

京北諸学校ニ在リテハ校長専ラ之ニ当リ其ノ他ノ理

事ハ各其ノ所属ニ從ヒ学長又ハ校長ヲ補佐ス

学長又ハ校長ニ欠員若ハ事故アルトキハ理事会規則

ニ依リ分属理事之ヲ代理ス

第十二条 東洋大学分属理事ハ別ニ定ムル所ノ銓衡規定

ニ依リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ経テ之ヲ定ム

京北諸学校分属理事ハ京北諸学校側ノ選出ニ係ル維

持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認ヲ経テ之

ヲ定ム

第十三条 学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用イス第九

条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ数ハ前項

ノ理事ヲ合算シテ各三名トス

第二款 維持員

第十四条 維持員ハ左ノ三種トス

第一種 理事

六名

第二種 東洋大学職員中ヨリ選出ノ者

五名

哲学館哲学館大学東洋大学ノ卒業者

並同等待遇者中ヨリ選出ノ者

五名

第三種

京北諸学校職員中ヨリ選出ノ者

五名

京北諸学校卒業者中ヨリ選出ノ者

五名

第十五条 維持員選挙ニ関スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第三款 監 事

第十六条 監事ハ左ノ種別ニ従ヒ維持員会ニ於テ之ヲ選

定ス

第一種 東洋大学職員及哲学館哲学館大学東

一名

洋大学卒業者並同等待遇者中ヨリ

一名

第二種 京北諸学校職員及同卒業者中ヨリ

一名

第十七条 監事ハ維持員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十八条 監事ノ職務左ノ如シ

一、本財団ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト

二、理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト

三、財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコ

トヲ発見シタルトキハ維持員会又ハ主務官庁ニ

報告スルコト

四、前号ノ報告ヲ為ス為必要アルトキハ維持員会ヲ

招集スルコト

第十九条 監事ハ維持員会ニ出席シテ意見ヲ述フルコト

ヲ得ルモ決議ニ加ハルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第二十条 役員ノ任期ハ各満三年トス但シ重任スルコト

ヲ妨ケス

第二十一条 役員ノ任期満了前相当ノ期間ニ於テ後任者

ヲ選定スルコトヲ得

第二十二条 役員ニシテ辞任其他ノ事由ニ因リ闕員ヲ生

シタルトキハ遲滞ナク之ヲ補闕スルモノトス

第二十三条 補闕ノ為選任セラレタル役員ノ任期ハ前任

者ノ残任期間トス

第二十四条 役員交代ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者

其職務ヲ行フモノトス

第二十五条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス

一、辞任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ經タルトキ

二、維持員ニシテ維持員被選挙資格ヲ失ヒタルトキ

三、一箇年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサル事情アリテ維持員会ノ決議ヲ經タルトキ

四、除名

第二十六条 役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ

維持員会ニ於テ総維持員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ

之ヲ除名スルコトヲ得

一、本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其ノ平和ヲ

攪亂スル等ノ行為アリタルトキ

二、体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 維持員会

第二十七条 維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ

審議決定ス

第二十八条 維持員会ハ左ノ順位ニ依リ理事之ヲ招集ス

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者之ヲ為ス

一、東洋大学学長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其他ノ理事

第二十九条 維持員五名以上ヨリ会議ノ目的タル事項ヲ

明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以内ニ臨時

維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第三十条 維持員会ハ維持員ノ三分ノ二以上出席スル

ニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第三十一条 前条ノ定足数ニ充タサル為同一事項ニ付再

回招集ヲナシタルトキハ前条ノ規定ニ拘ハラズ決議

ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東洋大学側及京北

諸学校側各六名（理事ヲ含ム）以上タルコトヲ要ス

第三十二条 維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之

ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム

第三十三条 維持員会ニ関スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第八章 学長及校長

第三十四条 東洋大学長ハ別ニ定ムル所ノ銓衡規定ニ依

リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム学長ノ任

期ハ滿三年トシ重任スルコトヲ得

第三十五条 京北諸学校校長ハ京北諸学校側ノ選出ニ係

ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認ヲ經

テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス

第九章 解散

第三十六条 本財団解散スルニ至リタルトキハ其財産ハ

別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学及京北諸学校

ニ区分シ東洋大学ニ属スル財産ハ別ニ東洋大学ヲ財

団法人ト為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校「ニ属スル

財産ハ京北諸学校」ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシ

ムヘキモノトス

第三十七条 前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学

ト元京北財団トノ合併當時ノ財産状態ヲ基礎トシ之

ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議ヲ經テ理事之ヲ作成

スルモノトス

第三十八条 前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産

ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登載スルモ

ノトス

第三十九条 清算人ハ解散当時ニ於ケル維持委員会ノ決議

ニ依リ之ヲ選任ス

第十章 寄附行為変更

第四十条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除クノ外

維持委員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務
官庁ノ認可ヲ経テ之ヲ変更スルコトヲ得

第十一章 附 則

第四十一条 本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持委員会ノ

決議ヲ経テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第四十二条 本寄附行為実施当時ノ役員ハ本寄附行為ニ

依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其任期ハ大正

十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕

選挙ヲ行フモノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準

ス

〔関係書類〕

(写) 東洋大学財団維持委員会決議録

大正十四年十月二十日午後五時東京市小石川区原町十七
番地東洋大学ニ於テ東洋大学財団維持委員会ヲ開ク

出席者十六名 定員貳拾名(二名欠員)

一、仮理事中島徳蔵氏ハ維持委員会ノ開会ヲ告ケ議長ノ選

挙ヲ求メ出席者一同ハ中島徳蔵氏ヲ議長ニ選挙シタ
リ

一、議長中島徳蔵氏ハ議長席ニ就キ別紙東洋大学学長及
分属理事銓衡規定并ニ理事会規則ノ新設原案及東洋
大学財団維持委員会規則并ニ維持員選挙規則ノ改正原
案通リ新設シ変更シ且ツ之カ認可ヲ申請スル件ヲ謀
リタルニ維持員出席者全員ノ同意ヲ得タルヲ以テ別
冊原案通リ新設シ変更スルコトヲ決議シタリ

右決議ヲ証スル為メ左ニ署名捺印スルモノナリ

前同日於同所

齊藤孝一郎

藤岡 勝二

安藤 弘

南木 性海

田中 治六

三島定之助

林 竹次郎

酒井喜太郎

森 清

早川 清

石川 義昌

広井辰太郎

神崎 一作

大野 修

藤村 作

中島 徳藏

東洋大学財団維持員選舉規則〔略〕

維持員會規則（現行之部）〔略〕

東洋大学學長及分屬理事銓衡規定

第一條 銓衡委員ハ左記各団体ニ於テ規定ノ員數ヲ選出

スルモノトス

但シ其選出方法ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ムルコトヲ得

一、東洋大学側選出維持員代表

三名

二、東洋大学教授會代表

二名

三、東洋大学校友會代表

二名

第二條 東洋大学財団維持員會招集ノ權能ヲ有スル理事ハ維持員會ノ決議ヲ經テ前條各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモノトス

第三條 前條ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体ハ直ニ之ヲ選出シ其氏名ヲ前條ノ理事ニ報告スルヲ要ス前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡委員會ヲ

招集スルコトヲ要ス

第四條 銓衡委員會ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員中年長者之ニ當ル

第五條 銓衡委員ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員會ニ提出スルモノトス

第六條 銓衡委員會ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハサルトキハ維持員會ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設ケ候補者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

附 則

本規定ハ改正東洋大学財団寄附行為ノ実施ト同時ニ其ノ効力ヲ生スルモノトス

理事会規則

第一條 理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 理事会ハ東洋大学財団ノ經營ニ関スル重要ナル事項ヲ審議スルモノトス

第三條 東洋大学財団ヲ代表スル理事ハ本會ニ於テ決定スルモノトス

第四條 理事会ハ毎年少クトモ三回學長タル理事之ヲ招集ス理事会ノ座長ハ學長タル理事之ニ當ル

第五條 理事会ニ部會ヲ置キ毎月一回之ヲ開ク部會ハ學

長タル理事又ハ校長タル理事各分属理事ヲ招集シ其座
長ハ学長又ハ校長タル理事之ニ当ル

校長タル理事二人以上アル場合ハ中学校長タル理事之
ヲ招集スルモノトス

第六条 寄附行為第十條三項ノ場合ニ於ケル学長又ハ校
長ヲ代理スル理事ハ各分属理事中年長者之ニ当ル

第七条 理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルトキハ
抽籤ニ依ルモノトス

第八条 理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会又ハ部会ノ
招集ヲ請求スルコトヲ得

第九条 監事ハ理事会ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ
得

第十条 本規則ヲ變更スル場合ハ理事会ノ決議ヲ以テ維
持委員会ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

附 則

本規則ハ改正東洋大学財団寄附行為ノ実施ト同時ニ其ノ
効力ヲ生ス

東洋大学財団維持委員会規則

第一条 維持委員会ヲ分チテ通常維持委員会及臨時維持委員
トス

第二条 通常維持委員会ハ各會計年度ノ始終ニ於テ之ヲ開

クモノトス

第三条 臨時維持委員会ハ臨時緊急ノ必要アルトキ其ノ他
理事ニ於テ必要ト認ムルトキ之ヲ招集スルコトヲ得

第四条 通常維持委員会ハ少クトモ七日以前ニ臨時維持員
会ハ少クトモ三日以前ニ會議ノ目的タル事項又ハ議案
ヲ通知シテ之ヲ招集スルモノトス

第五条 急迫ノ必要アルトキハ前條ノ日数ニ拘ラス臨時
維持委員会ヲ招集スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ其ノ
出席維持員四分ノ三以上ノ同意ニヨリ該維持委員会成立
ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第六条 維持委員会ノ議長ハ維持員中ヨリ之ヲ互選ス

第七条 議長ハ決議ノ数ニ加ハルコトヲ得

附 則

本規則ハ改正東洋大学財団寄附行為ノ効力ヲ生シタル時
ヨリ其ノ効力ヲ生ス

維持員選舉規則

第一章 選舉權及被選舉權

第一条 維持員ノ選舉ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学学長、教授、幹事

第二種 京北中学校及京北実業学校校長、幹事

二年以上引続キ在職ノ教員

第三種 東洋大学校友会評議員

第四種 京北中学校鶏声会評議員京北実業学校京実会

評議員

第二條 選挙長ハ前条ノ中第一種及第三種ニ付テハ東洋

大学長第二種及第四種ニ付テハ京北中学校長之ニ當
リ選挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ校長事故
アルトキハ其事務ヲ代理スル者之ヲ代理ス

第三條 維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学教授幹事ノ各員

第二種 京北中学校及京北実業学校幹事専任教員ノ各

員

第三種 哲学館哲学館大学東洋大学卒業者並同等待遇

者

第四種 京北中学校京北実業学校卒業者全員（推薦卒

業者ヲ含マス）

第四種団体ヨリ選出セラルヘキモノハ中学校

側三名実業学校側二名トス

第四條 第一條第一種ニ属スル者ノ為ス選挙ハ第三條第

一種ニ属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以下之ニ準ス

第五條 第一條及第三條ノ各種ニ該当スル者ハ各其ノ資

格ニ応シテ選挙権及被選挙権ヲ有ス

第二章 選挙人名簿

第六條 各選挙長ハ其所管ノ選挙団体ニ関スル選挙人名

簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノトス

第三章 投票及投票所

第七條 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十日前

ニ選挙長ヨリ各選挙人ニ通知スルモノトス

第八條 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノトス

第九條 投票ノ順序ハ第一條ニ定ムル種別ノ次第二依ル

第十條 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第一條第一種及第三種ニツイテハ東洋大学内第二種

及第四種ニ付テハ京北中学校内

第十一條 各選挙長ハ第一條所定ノ種別ニ於ケル選挙人

中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第十二條 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ於

テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第十三條 投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ焼棄スル

モノトス

第四章 当選人

第十四條 投票ノ最多数ヲ得タル者ヲ以テ当選人トス得

票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及出身者ハ其

ノ卒業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム就職又ハ卒業及出

身ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第十五条 二以上ノ種別ヨリ当選シタル者ハ自己ノ選任ニ依リ其ノ一二就任スルモノトス

第五章 補闕選舉

第十六条 維持員ニ闕員ヲ生シタルトキハ三十日以内ニ補闕選舉ヲ行フモノトス

附 則

本規則ハ改正東洋大学財団寄附行為ノ実施ト同時ニ其ノ効力ヲ生ス

〔關係書類〕

寄附行為變更ヲ要スル理由

第一、東洋大学財団ハ其ノ目的タル教育事業ノ經營日々ニ進展スルニ從ヒ之カ事業ノ執行ニ干与スル理事ノ定員カ從來東洋大学側京北諸学校側各一名ナリシヲ以テ其職務執行上ニ於テモ亦財団經營上ニ於テモ常ニ不便ヲ感シ且ツ理事事故アルトキノ如キハ殆ント之カ代行ノ機關ヲ欠キ現ニ仮理事ヲ選定シテ之カ職務ヲ執行シツ、アル次第ナリ斯クテハ財団本来ノ目的ヲ遂行スル上ニ於テ遺憾アリシヲ以テ之カ定員ヲ増加スル必要ヲ認メ改正案ニハ理事ノ定員各二名ヲ増加シタリ

第二、從來財団ノ理事ハ無任期ニシテ且ツ其ノ隱退ノ場

合ニ於テ自己^(已)カ其後任者ヲ推薦スルカ如ク規定シアリテ理事者其者カ公平ナル批判ヲ無視スルカ如キ場合ハ財団ノ永遠ノ平和ト發展ヲ阻害スルコトナキヲ保セサルヲ感シ本改正案ニハ理事ノ定員ヲ増加シテ合議制度ヲ採用シ且ツ任期ヲ附スルコトトナシタリ

第三、學長タル理事其ノ他ノ理事ノ選任ハ可成學校干係者多數ノ輿論ヲ聴キ之ヲ銓衡スル必要ヲ認メ之カ銓衡ニ干スル規定ヲ本改正案ニ設ケタリ

第四、本財団ハ監事ヲ置カス從來會計監查ノ制度ナリシヲ本改正案ニハ會計ノ監查ヲ嚴重ニスル必要上法律上法人ノ機關トシテ監事ヲ設ケタリ

第五、本財団ノ役員ニシテ多數者ノ意見ヲ無視スルカ如キ場合アルモ現在ハ其ノ資格ヲ除却スル方法ナカリシヲ以テ本改正案ニハ財団永遠ノ平和ヲ維持スル必要上役員除名ニ干スル規定ヲ設ケタリ

第六、從來維持員選舉規則ハ別ニ之ヲ規定シアリシヲ今回ハ本則中ニ規定シ尙學長理事銓衡ニ干スル規定並ニ理事会規則等ヲ追加シタリ
以上主要ナル改正ノ理由トス

大正十四年十一月 日

東洋大学財団仮理事 中島徳藏

同 維持員 一同

寄附行為改正ノ要旨

- 一、理事維持員ノ定員増加ヲナシタル点
- 二、学長タル理事ニ任期ヲ附シタル点
- 三、理事会ノ規定ヲ設ケタル点
- 四、学長タル理事並ニ分属理事ノ銓衡ニ関スル規定ヲ設ケタル点
- 五、維持員選舉規則ヲ寄附行為中ニ規定シタル点
- 六、監事ヲ置キタル点
- 七、役員除名ニ干スル規定ヲ設ケタル点

東洋大学財団寄附行為

第一章 名 称

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第二章 目 的

第二条 本財団ハ教育事業ヲ經營ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地ニ之ヲ置ク

第四章 事 業

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学京

北中学校京北実業学校京北中等学校及京北幼稚園等ヲ經營ス

第五章 資産及會計

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産トス

第六条 本財団ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ入学金授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八条 本財団ノ予算ハ毎會計年度開始前維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遲滞ナク維持員会ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持員会ノ決議ニ基キ理事之ヲ行フ

第六章 役 員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク
理事 六名

維持員 二十六名
監事 二名

第一款 理 事

第十一条 理事ハ東洋大学側及京北諸学校（中学校実業

学校中等学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ側ニ分属シ維持員会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学ニ在リテハ學長京北諸学校ニ在リテハ校長專ラ之ニ当リ其ノ他ノ理事ハ各其ノ所屬ニ從ヒ學長又ハ校長ヲ輔佐ス

學長又ハ校長ニ欠員又ハ事故アルトキハ他ノ分属理事之ヲ代理ス

第二項ニ属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依リ理事之ニ当ル

一、東洋大学學長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其ノ他ノ理事

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以テ之ニ充ツ

第十二条 東洋大学學長及分属理事ハ第十四条乃至第十九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム

學長ノ任期ハ滿参年トシ重任スルコトヲ得

京北諸学校校長及分属理事ハ京北諸学校側ノ選出ニ係ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス

第十三条 學長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用キス第十

条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ数ハ前項ノ理事ヲ合算シテ各三名トス但シ京北諸学校校長三名ヲ超過スル場合ハ第十二条第三項ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十四条 東洋大学學長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定ノ員數ヲ選出スルモノトス但シ其ノ選出方法ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ムルコトヲ得

一、東洋大学側選出維持員代表 三名

二、東洋大学教授会代表 二名

三、東洋大学校友会代表 二名

第十五条 東洋大学學長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ經テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモノトス
第十六条 前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡委員會ヲ招集スルコトヲ要ス

第十七条 銓衡委員會ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員中年長者之ニ当ル

第十八条 銓衡委員會ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ

其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会ニ提出
スルモノトス

第十九条 銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハ
サルトキハ維持員会ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設ケ候補
者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

第二款 維持員

第二十條 維持員ハ理事タル維持員六名ノ外左ノ四種ト

ス

第一種 東洋大学職員中ヨリ選出ノ者 五名

第二種 哲学館哲学館大学東洋大学卒業者

並ニ同等待遇者中ヨリ選出ノ者 五名

第三種 京北諸学校職員中ヨリ選出ノ者 五名

第四種 京北諸学校卒業者中ヨリ選出ノ者五名

第二十一條 維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種ト

ス

第一種 東洋大学学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 京北中学校及京北実業学校長幹事

二年以上引続キ在職ノ教員

第四種 京北中学校鶏声会評議員京北実業学校

京実会評議員

第二十二條 選挙長ハ前条ノ中第一種及第二種ニ付テハ

東洋大学長第三種及第四種ニ付テハ京北中学校長
之ニ当リ選挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ
校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理スル者之ヲ代
理ス

第二十三條 維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種ト

ス

第一種 東洋大学教授幹事ノ各員

第二種 哲学館哲学館大学東洋大学卒業者並ニ

同等待遇者

第三種 京北中学校及京北実業学校幹事専任教

員ノ各員

第四種 京北中学校京北実業学校卒業者全員

(推薦卒業者ヲ含マス)

第四種団体ヨリ選出セラルヘキモノハ

中学校側三名実業学校側二名トス

第二十四條 第二十一條第一種ニ属スルモノノ為ス選挙

ハ第二十三條第一種ニ属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以

下之ニ準ス

第二十五條 第二十一條及第二十三條ノ各種ニ該当スル

者ハ各其資格ニ応シテ選挙権及被選挙権ヲ有ス

第二十六條 各選挙長ハ其ノ所管ノ選挙団体ニ関スル選

挙人名簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノトス

第二十七条 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十

日前ニ選挙長ヨリ各選人ニ通知スルモノトス

第二十八条 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノトス

第二十九条 投票ノ順序ハ第二十一条ニ定ムル種別ノ次

第二依ル

第三十条 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東洋大学内第三

種及第四種ニ付テハ京北中学校内

第三十一条 各選挙長ハ第二十一条所定ノ種別ニ於ケル

選人人中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第三十二条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ

於テ之ヲ選人ニ交付スルモノトス

第三十三条 投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ焼棄ス

ルモノトス

第三十四条 投票ノ最多数ヲ得タルモノヲ以テ当選人ト

ス得票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及出身者

ハ其ノ卒業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム

就職又ハ卒業及出身ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第三十五条 二以上ノ種別ヨリ当選シタル者ハ自己ノ選

択ニ依リ其ノ一二就任スルモノトス

第三十六条 維持員ニ關員ヲ生シタルトキハ第二十一条

乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ補闕選挙

ヲ行フモノトス

第三款 監 事

第三十七条 監事ハ左ノ種別ニ從ヒ維持員会ニ於テ之ヲ

選定ス

第一種 東洋大学職員及哲学館哲学館

大学東洋大学卒業者並ニ同等

待遇者中ヨリ

第二種 京北諸学校職員及同卒業者中

ヨリ

第三十八条 監事ハ維持員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三十九条 監事ノ職分左ノ如シ

一、本財団ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト

二、理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト

三、財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉ア

ルコトヲ発見シタルトキハ維持員会又ハ主

務官庁ニ報告スルコト

四、前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ維持

員会ヲ招集スルコト

第四十条 監事ハ維持員会ニ出席シテ意見ヲ述フルコト

ヲ得ルモ決議ニ加ルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第四十一条 役員ノ任期ハ各滿三年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス

第四十二条 役員ノ任期滿了前理事ハ相当ノ期間ニ於テ後任者ヲ選定スルコトヲ要ス

第四十三条 役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十四条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス

- 一、 辞任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ經タルトキ
- 二、 維持員ニシテ維持員被選挙資格ヲ失ヒタルトキ
- 三、 一ケ年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサル事情アリテ維持員会ノ決議ヲ經タルトキ

四、 除名

第四十五条 役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ維持員会ニ於テ總維持員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

- 一、 本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其ノ平和ヲ攪乱スル等ノ行為アリタルトキ
- 二、 体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 理事会

第四十六条 理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十七条 理事会ハ必要ニ依リ學長タル理事之ヲ招集シ其ノ座長ハ學長タル理事之ニ当ル

第四十八条 理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依ルモノトス

第四十九条 理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第五十条 監事ハ理事会ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八章 維持員会

第五十一条 維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ審議決定ス

第五十二条 維持員会ハ第十一条第四項ニ準シ理事之ヲ招集ス

第五十三条 維持員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以内ニ臨時維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十四条 維持員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第五十五条 前条ノ定足数ニ充タサル為メ同一事項ニ付再招集ヲナシタルトキハ出席員數ニ拘ラス決議ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東洋大学側及京北諸学校側各五名（理事ヲ含ム）以上タルコトヲ要ス

第五十六条 維持委員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ決ス

第九章 解散

第五十七条 本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学及京北諸学校ニ区分シ東洋大学ニ属スル財産ハ別ニ東洋大学ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校ニ属スル財産ハ京北諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシムヘキモノトス

第五十八条 前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学ト元京北財団トノ合併当時ノ財産状態ヲ基礎トシテ之ニ増減ヲ記入シ維持委員会ノ決議ヲ経テ理事之ヲ作成スルモノトス

第五十九条 前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産ハ維持委員会ノ決議ヲ経テ之ヲ財産目録ニ登載スルモノトス

第六十条 清算人ハ解散当時ニ於ケル維持委員会ノ決議ニ依リ之ヲ選任ス

第十章 寄附行為變更

第六十一条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維持委員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務官

庁ノ認可ヲ経テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一章 附 則

第六十二条 本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持委員会ノ決議ヲ経テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十三条 本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日ヨリ効力ヲ生スルモノトス

第六十四条 本寄附行為実施当時ノ役員ハ本寄附行為ニ依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕選挙ヲ行フモノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準ス

新旧規則比較

現行東洋大学
財団寄附行為

改正東洋大学財団寄附行為

第二条

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第一章 名 称

第一条

第二条 本財団ハ教育事業ヲ經營ス

第二章 目 的

第三章 事務所

第三条

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地ニ之ヲ置ク

第四章 事業

第八条

一部追加

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学京北中学校京北実業学校京北中等学校及京北幼稚園等ヲ経営ス

第五章 資産及会計

第四条

文字修正

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産トス

第六条

第六条 本財団ノ経費ハ資産ヨリ生スル収入学生生徒ノ入学金授業料其ノ他ノ収入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第五条

第七条 本財団ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

新設

第八条 本財団ノ予算ハ毎会計年度開始前維持員会ノ決議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ其終了後遅滞ナク維持員会ノ承認ヲ

第七条

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持員会ノ決議ニ基キ理事之ヲ行フ

第九条

定員増加理事

二名、維持員

二十名、会計

監査維持員中

ヨリ二名

第十条改正

第六章 役員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理事

六名

維持員

二十六名

監事

二名

第一款 理事

第十一条 理事ハ東洋大学側及京北諸学校(中学校実業学校中等学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ)側ニ分属シ維持員会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学ニ在リテハ学長京北諸学校ニ在リテハ校長專ラ之ニ当リ其ノ他ノ理事ハ各其ノ所属ニ從ヒ学長又ハ校長ヲ輔佐ス

学長又ハ校長ニ欠員又ハ事故アルトキハ他ノ分属理事之ヲ代理ス

第二項ニ属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依リ理事之ニ当ル

一、東洋大学学長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其ノ他ノ理事

新設

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以テ之ニ充ツ

第十二条 東洋大学学長及分属理事ハ第十四条乃至第十九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム
学長ノ任期ハ滿參年トシ重任スルコトヲ得

新設

京北諸学校校長及分属理事ハ京北諸学校側ノ選出ニ係ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス

新設

第十一条改正

第十三条 学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用キス第十条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

新設

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ数ハ前項ノ理事ヲ合算シテ各三名トス但シ京北諸学校校長三名ヲ超過スル場合ハ第十二条第三項ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

新設

新設

第十四条 東洋大学学長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定ノ員數ヲ選出ス

新設

ルモノトス但シ其ノ選出方法ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ムルコトヲ得

- 一、東洋大学側選出維持員代表三名
- 二、東洋大学教授会代表 二名
- 三、東洋大学校友会代表 二名

第十五条 東洋大学学長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ經テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモノトス

第十六条 前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡委員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第十七条 銓衡委員会ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員中年長者之ニ当ル

第十八条 銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会ニ提出スルモノトス

第十九条 銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハサルトキハ維持員会ニ

於テ別ニ銓衡委員ヲ設ケ候補者ヲ銓衡
セシムルコトヲ得

第二款 維持員

新設

第二十条 維持員ハ理事タル維持員六名

元別ニ規定シ
アリタリ

ノ外左ノ四種トス

第一種 東洋大学職員中ヨリ選
出ノ者 五名

第二種 哲学館哲学館大学東洋
大学卒業者並ニ同等待
遇者中ヨリ選出ノ者 五名

第三種 京北諸学校職員中ヨリ
選出ノ者 五名

第四種 京北諸学校卒業者ヨリ
選出ノ者 五名

第二十一条 維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモ
ノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 京北中学校及京北実業
学校長幹事

二年以上引続キ在職ノ

新設

新設

教員

第四種

京北中学校鶏声会評議
員京北実業学校京実会

評議員

第二十二條 選挙長ハ前条ノ中第一種及

第二種ニ付テハ東洋大学長第三種及第

四種ニ付テハ京北中学校長之ニ当リ選

挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ

校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

ル者之ヲ代理ス

第二十三條 維持員ニ選挙セラルヘキモ

ノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学教授幹事ノ各
員

第二種 哲学館哲学館大学東洋
大学卒業者

並ニ同等待遇者

第三種 京北中学校及京北実業
学校幹事専任教員ノ各
員

第四種 京北中学校京北実業学
校卒業者全員（推薦卒

新設	業者ヲ含マス） 第四種団体ヨリ選出セ ラルヘキモノハ中学校 側三名実業学校側二名 トス	新設
新設	第二十四条 第二十一条第一種ニ属スル モノノ為ス選挙ハ第二十三条第一種ニ 属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以下之二準 ス	新設
新設	第二十五条 第二十一条及第二十三条ノ 各種ニ該当スル者ハ各其ノ資格ニ応シ テ選挙権及被選挙権ヲ有ス	新設
新設	第二十六条 各選挙長ハ其所管ノ選挙団 体ニ関スル選挙人名簿ヲ選挙期日二十 日前ニ調製スルモノトス	新設
新設	第二十七条 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日 ヨリ少クトモ十日前ニ選挙長ヨリ各選 挙人ニ通知スルモノトス	新設
新設	第二十八条 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ 投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノト ス	新設
新設	第二十九条 投票ノ順序ハ第二十一条ニ 定ムル種別ノ次第二依ル	新設
新設	第三十条 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設 ク	新設
新設	第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東 洋大学内第三種及第四種ニ付テハ京北 中学校内	新設
新設	第三十一条 各選挙長ハ第二十一条所定 ノ種別ニ於ケル選挙人中ヨリ二名ノ投 票立会人ヲ指名スルモノトス	新設
新設	第三十二条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙 長ヨリ投票所ニ於テ之ヲ選挙人ニ交付 スルモノトス	新設
新設	第三十三条 投票用紙ハ当選人確定ノ上 直ニ之ヲ焼棄スルモノトス	新設
新設	第三十四条 投票ノ最多數ヲ得タルモノ ヲ以テ當選人トス得票同數ノ場合ニハ 職員ハ就職順卒業者及出身者ハ其ノ卒 業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム	新設
新設	就職又ハ卒業及出身ノ日時同シキ時ハ 年長順ニ依ル	新設
新設	第三十五条 二以上ノ種別ヨリ當選シタ ル者ハ已ノ選択ニ依リ其一ニ就任ス	新設

新設	ルモノトス	第三十六条 維持員ニ關員ヲ生シタルトキハ第二十一条乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ補闕選舉ヲ行フモノトス	不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ維持員会又ハ主務官庁ニ報告スルコト
新設	第三款 監事	第三十七条 監事ハ左ノ種別ニ從ヒ維持員会ニ於テ之ヲ選定ス	四、前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ維持員会ヲ招集スルコト
第一種	東洋大学職員及哲学館 哲学館大学東洋大学卒業者並ニ同等待遇者中ヨリ	新設	第四款 役員通則
第二種	京北諸学校職員及同卒業者中ヨリ	新設	第四十一条 役員ノ任期ハ各滿三年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス
新設	第三十八条 監事ハ維持員ヲ兼ヌルコトヲ得ス	新設	第四十二条 役員ノ任期滿了前理事ハ相當ノ期間ニ於テ後任者ヲ選定スルコトヲ要ス
新設	第三十九条 監事ノ職分左ノ如シ 一、本財団ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト 二、理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト 三、財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付	新設	第四十三条 役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者其ノ職務ヲ行フモノトス
			第四十四条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス 一、辭任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ經タルトキ 二、維持員ニシテ維持員被選舉資格

新
設

ヲ失ヒタルトキ
三、一ヶ年以上其ノ職務ヲ行フコト
能ハサル事情アリテ維持委員会ノ
決議ヲ経タルトキ
四、除名
第四十五条 役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ
該当スルトキハ維持委員会ニ於テ総維持
員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ除名
スルコトヲ得

一、本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ
又ハ其ノ平和ヲ攪乱スル等ノ行
為アリタルトキ
二、体面ヲ汚辱シタル行為アリタル
トキ

第七章 理事会

新
設

第四十六条 理事会ハ東洋大学財団ノ理

事ヲ以テ之ヲ組織ス

新
設

第四十七条 理事会ハ必要ニ依リ学長タ

ル理事之ヲ招集シ其ノ座長ハ学長タル
理事之ニ当ル

新
設

第四十八条 理事会ノ議事ハ多数決トシ
可否同数ナルトキハ抽籤ニ依ルモノト

新
設

ス
第四十九条 理事ハ必要ト認メタルトキ
ハ理事会ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

新
設

第五十条 監事ハ理事会ニ出席シテ意見
ヲ述フルコトヲ得

第十三条

第八节 維持委員会
第五十一条 維持委員会ハ本財団ニ関スル
重大ナル事項ヲ審議決定ス

新
設

第五十二条 維持委員会ハ第十一条第四項
ニ準シ理事之ヲ招集ス

新
設

第五十三条 維持員五名以上ヨリ会議ノ
目的タル事項ヲ明示シテ請求アリタル

トキハ理事ハ七日以内ニ臨時維持員会
ヲ招集スルコトヲ要ス

第十八条

第五十四条 維持員ノ三分ノ二以上出席
スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

新
設

第五十五条 前条ノ定足数ニ充タサル為
メ同一事項ニ付再回招集ヲナシタルト

キハ出席員数ニ拘ラス決議ヲ為スコト
ヲ得但シ此場合ニ於テ東洋大学側及京
北諸学校側各五名（理事ヲ含ム）以上
タルコトヲ要ス

第十九条

第五十六条 維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ決ス

第九章 解 散

第二十七条

第五十七条 本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学及京北諸学校ニ区分シ東洋大学ニ属スル財産ハ別ニ東洋大学ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校ニ属スル財産ハ京北諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシムヘキモノトス

第二十八条

第五十八条 前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学ト元京北財団トノ合併當時ノ財産状態ヲ基礎トシテ之ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議ヲ經テ理事之ヲ作成スルモノトス

第二十九条

第五十九条 前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登載スルモノトス

第三十条

第六十条 清算人ハ解散當時ニ於ケル維持員会ノ決議ニ依リ之ヲ選任ス

第三十一条

第十章 寄附行為變更
第六十一条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維持員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一章 附 則

新設

第六十二条 本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持員会ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

新設

第六十三条 本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日より効力ヲ生スルモノトス

新設

第六十四条 本寄附行為實施當時ノ役員ハ本寄附行為ニ依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス
本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕選舉ヲ行フモノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準ス

『大正十四年 学務兵事課 学事教育法人

第一種 冊ノ二

東京都公文書館所藏

一九二二 東洋大学財団寄附行為變更認可書

(大正一四年一月二日)

東專三二六号

東洋大学財団仮理事

中島徳蔵

大正十四年九月二十四日申請其ノ法人寄附行為中變更ノ件認可ス

大正十四年十二月十二日

文部大臣 岡田良平印

『認可書等級 法人』

自大正九年二月至昭和四十六年二月』

東洋大学秘書課所蔵

一九三一 東洋大学財団寄附行為改正認可

申請書〔昭和五年四月一七日〕

寄附行為改正ノ認可申請

京北中等学校廃止ニ付東洋大学財団寄附行為ヲ別紙ノ通り改正致度候条御認可被成下度東洋大学財団寄附行為改正案写及同維持員会決議録写及新旧同寄附行為写相添へ

此段申請仕候也

東京市小石川区原町十七番地

昭和五年四月十七日 東洋大学財団

代表理事 中島徳蔵印

文部大臣 田中隆三殿

〔別紙〕

東洋大学財団寄附行為改正案写

東洋大学財団寄附行為中左ノ通り改正ス

第四条中「京北中等学校」ノ六字ヲ削除ス

参照

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋

大学東洋大学専門部元東洋大学京北中学校京北実業

学校京北中等学校及京北幼稚園等ヲ經營ス

第十一条中京北諸学校ノ次ノ括弧内ノ「中等学校」ノ四

字ヲ削除ス

参照

第十一条 理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門

部元東洋大学等ヲ含ム以下同シ）側及京北諸学校（中

学校実業学校中等学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）

側ニ分属シ維持員会ノ決議ニ基キ事業ノ經營ニ任ス

（以下条文ハ之ヲ略ス）

東洋大学財団維持員会決議録写

昭和五年三月三十一日午後五時東京市小石川区原町十七番地東洋大学財団ハ同大学ニ於テ第三回ノ維持員会ヲ招集シ左記ノ通り決議ヲ為シタリ

一、東洋大学財団寄附行為第四條中「京北中等学校」ノ六字及同第十一條中「中等学校」ノ四字ヲ削除スル件

右緊急動議トシテ維持員南木性海氏提出シ座長ハ之ヲ議題ニ供シタル処全会一致ヲ以テ可決シタリ
右決議録ヲ朗読シ出席セル維持員左記ノ通り各自署名捺印ス

昭和五年三月三十一日開会ノ維持員会ニ於テ

維持員 座長 中島 德藏 印

笹川 種郎 印
広井 辰太郎 印
齊藤 孝一郎 印
神崎 一作 印
渡辺 海旭 印
田中 治六 印
三島 定之助 印
柴田 甚五郎 印
所 金藏 印

〔添付書類〕

(新) 東洋大学財団寄附行為

第一章 名 称

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第二章 目 的

第二条 本財団ハ教育事業ヲ經營ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地ニ之ヲ置ク

第四章 事業

森 清 印
平岡 藤太郎 印
中西 保人 印
南木 性海 印
池田 澄達 印
飯田 堯一 印
酒井 勝三郎 印
助川 賢藏 印
藤村 作 印
下沢 瑞世 印
加藤 精神 印
石川 義昌 印

第四条

本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学東洋大学専門部元東洋大学京北中学校京北実業学校及京北幼稚園等ヲ経営ス

第五章 資産及会計

第五条

故井上四了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産トス

第六条

本財団ノ経費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ入学金授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条

本財団ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八条

本財団ノ予算ハ毎会計年度開始前維持委員会ノ決議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遲滞ナク維持会ノ承認ヲ経ヘキモノトス

第九条

本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持委員会ノ決議ニ基キ理事之ヲ行フ

第六章 役員

第十条

本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 六 名

維持員 二十六名

監事 二 名

第十一条

第一款 理事

理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門部元東洋大学等ヲ含ム以下同シ）側及京北諸学校（中学校実業学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）側ニ分属シ維持委員会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学側ニ在リテハ学長京北諸学校ニ在リテハ校長専ラ之ニ当リ其ノ他ノ理事ハ各其ノ所属ニ從ヒ学長又ハ校長ヲ輔佐ス

学長又ハ校長ニ關員又ハ事故アルトキハ他ノ分属理事之ヲ代理ス

第二項ニ属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依リ理事之ニ当ル

一 東洋大学学長タル理事

二 京北諸学校校長タル理事

三 其ノ他ノ理事

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以テ之ニ充ツ

第十二条

東洋大学学長及分属理事ハ第十四条乃至第十九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持委員会ノ承認ヲ経テ之ヲ定ム

学長ノ任期ハ滿參年トシ重任スルコトヲ得
京北諸学校校長及分属理事ハ京北諸学校側ノ
選出ニ係ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持
員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期
ヲ附セス

第十三条

学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用ヒス第十
条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス
東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ數
ハ前項ノ理事ヲ合算シテ各三名トス但シ京北
諸学校校長三名ヲ超過スル場合ハ第十二条第
三項ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十四条

東洋大学学長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左
記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定
ノ員數ヲ選出スルモノトス但シ其ノ選出方法
ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ムルコトヲ得

一 東洋大学側選出維持員代表 三名

二 東洋大学教授会代表 二名

三 東洋大学校友会代表 二名

第十五条

東洋大学学長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ經
テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモ
ノトス

第十六条

前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体

ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報
告スルコトヲ要ス

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡
委員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第十七条

銓衡委員会ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員
中年長者之ニ当ル

第十八条

銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ
其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会
ニ提出スルモノトス

第十九条

銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハ
サルトキハ維持員会ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設
ケ候補者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

第二款 維持員

第二十条

維持員ハ理事タル維持員六名ノ外左ノ四種ト
ス

第一種 東洋大学側職員中ヨリ選出ノ者五名

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋大

学東洋大学専門部卒業業者並ニ同等待

遇者中ヨリ選出ノ者 五名

第三種 京北諸学校職員中ヨリ選出ノ者五名

第四種 京北諸学校卒業業者中ヨリ選出ノ者

五名

第二十一条

維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学側学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 京北中学校及京北実業学校幹事

二年以上引続キ在職ノ教員

第四種 京北中学校鶏声会評議員京北実業

学校京実会評議員

第二十二条

選挙長ハ前条ノ中第一種及第二種ニ付テハ東洋大学長第三種及第四種ニ付テハ京北中学校長之ニ当リ選挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理スル者之ヲ代理ス

第二十三条

維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学側教授幹事ノ各員

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋

大学東洋大学専門部卒業業者並ニ同

等待遇者

第三種 京北中学校及京北実業学校幹事専

任教員ノ各員

第四種 京北中学校京北実業学校卒業業者全

員（推薦卒業者ヲ含マス）

第四種団体ヨリ選出セラルヘキモ

ノハ中学校側三名実業学校側二名

トス

第二十四条

第二十一条第一種ニ属スルモノノ為ス選挙ハ第二十三条第一種ニ属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以下之ニ準ス

第二十五条

第二十一条及第二十三条ノ各種ニ該当スル者ハ各其ノ資格ニ応シテ選挙権及被選挙権ヲ有ス

第二十六条

各選挙長ハ其ノ所管ノ選挙団体ニ関スル選挙人名簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノトス

第二十七条

選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十日前ニ選挙長ヨリ各選挙人ニ通知スルモノトス

第二十八条

選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノトス

第二十九条

投票ノ順序ハ第二十一条ニ定ムル種別ノ次
第二依ル

第三十条

投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク
第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東洋大

第三十一条

学内第三種及第四種ニ付テハ京北中学校内各選挙長ハ第二十一条所定ノ種別ニ於ケル選挙人中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第三十二条

投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ於テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第三十三条

投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ焼棄スルモノトス

第三十四条

投票ノ最多数ヲ得タルモノヲ以テ当選人トス得票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及出身者ハ其ノ卒業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム

就職又ハ卒業及出身ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第三十五条

二以上ノ種別ヨリ当選シタル者ハ自己ノ選沢ニ依リ其ノ一ニ就任スルモノトス

第三十六条

維持員ニ闕員ヲ生シタルトキハ第二十一条乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ補闕選挙ヲ行フモノトス

第三十七条

監事ハ左ノ種別ニ従ヒ維持委員会ニ於テ之ヲ選定ス

第三款 監事

第一種 東洋大学側職員及哲学館哲学館大

学元東洋大学東洋大学東洋大学専門部卒業者並ニ同等待遇者中ヨリ

一名

第二種 京北諸学校職員及同卒業者中ヨリ

一名

監事ハ維持員ヲ兼スルコトヲ得ス

第三十八條
第三十九條

監事ノ職分左ノ如シ

一 本財団ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト

二 理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト

三 財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ

廉アルコトヲ発見シタルトキハ維持員

会又ハ主務官庁ニ報告スルコト

四 前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ

維持委員会ヲ招集スルコト

第四十条

監事ハ維持委員会ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルモ決議ニ加ルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第四十一条

役員ノ任期ハ各満三年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス

第四十二条

役員ノ任期満了前理事ハ相当ノ期間ニ於テ後任者ヲ選定スルコトヲ要ス

第四十三条 役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者

其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十四条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス

一 辞任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ経タル

トキ

二 維持員ニシテ維持員被選挙資格ヲ失ヒ

タルトキ

三 一ケ年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサ

ル事情アリテ維持員会ノ決議ヲ経タル

トキ

四 除名

第四十五条 役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ

維持員会ニ於テ総維持員四分ノ三以上ノ同

意ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

一 本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其

ノ平和ヲ攪乱スル等ノ行為アリタルト

キ

二 体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 理事会

第四十六条 理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組

織ス

第四十七条 理事会ハ必要ニ依リ学長タル理事之ヲ招集

第四十八条

シ其ノ座長ハ学長タル理事之ニ当ル
理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルト
キハ抽籤ニ依ルモノトス

第四十九条

理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会ノ招集
ヲ請求スルコトヲ得

第五十条

監事ハ理事会ニ出席シテ意見ヲ述フルコト
ヲ得

第八章 維持員会

第五十一条

維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ
審議決定ス

第五十二条

維持員会ハ第十一条第四項ニ準シ理事之ヲ
招集ス

第五十三条

維持員五名以上ヨリ会議ノ目的タル事項ヲ
明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以

内ニ臨時維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十四条

維持員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ
議事ヲ開クコトヲ得ス

第五十五条

前条ノ定足数ニ充タサル為メ同一事項ニ付
再回招集ヲナシタルトキハ出席員数ニ拘ラ
ス決議ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東
洋大学側及京北諸学校側各五名（理事ヲ含
ム）以上タルコトヲ要ス

第五十六条

維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ決ス

第九章 解 散

第五十七条

本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学側及京北諸学校ニ区分シ東洋大学側ニ属スル財産ハ別ニ東洋大学側諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校ニ属スル財産ハ京北諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシムヘキモノトス

第五十八条

前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学ト元京北財団トノ合併当時ノ財産状態ヲ基礎トシテ之ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議ヲ經テ理事之ヲ作成スルモノトス

第五十九条

前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登載スルモノトス

第六十条

清算人ハ解散当時ニ於ケル維持員会ノ決議ニ依リ之ヲ選任ス

第十章 寄附行為變更

第六十一条

本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維

持員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一章 附 則

第六十二条

本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持員会ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十三条

本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日より効力ヲ生スルモノトス

第六十四条

本寄附行為実施當時ノ役員ハ本寄附行為ニ依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕選舉ヲ行フモノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準ス

第六十五条

本寄附行為ニ於ル東洋大学ハ昭和三年三月三十日以後ハ大学令ニ拠リタル東洋大学ヲ表示シ従前ノ専門学校令ニ拠リタル東洋大学ハ元東洋大学トシテ區別スルモノトス

(旧) 東洋大学財団寄附行為

(昭和三年三月三十日認可)

第一章 名 称

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第二章 目 的

第二条 本財団ハ教育事業ヲ経営ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地ニ之ヲ置ク

第四章 事 業

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学東洋大学専門部元東洋大学京北中学校京北実業学校京北中等学校及京北幼稚園等ヲ経営ス

第五章 資産及会計

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産トス

第六条 本財団ノ経費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ入学金授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八条 本財団ノ予算ハ毎会計年度開始前維持委員会ノ決議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遅滞ナク維持委員会ノ承認ヲ経ヘキモノトス

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持委員会ノ決議ニ

基キ理事之ヲ行フ

第六章 役 員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理 事	六 名
維持員	二十六名
監 事	二 名

第一款 理 事

第十一条 理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門部元東洋大学等ヲ含ム以下同シ）側及京北諸学校（中学校実業学校中等学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）側ニ分属シ維持委員会ノ決議ニ基キ事業ノ経営ニ任ス事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学側ニ在リテハ学長京北諸学校側ニ在リテハ校長専ラ之ニ当リ其ノ他ノ理事ハ各其ノ所属ニ從ヒ学長又ハ校長ヲ輔佐ス学長又ハ校長ニ闕員又ハ事故アルトキハ他ノ分属理事之ヲ代理ス

第二項 二属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依リ理事之ニ当ル

一、東洋大学学長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其ノ他ノ理事

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以テ之ニ充

ツ

第十二条 東洋大学学長及分属理事ハ第十四条乃至第十九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム

学長ノ任期ハ滿參年トシ重任スルコトヲ得

京北諸学校校長及分属理事ハ京北諸学校側ノ選出ニ係ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス

第十三条 学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用キス第十條ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ數ハ前項ノ理事ヲ合算シテ各三名トス但シ京北諸学校校長三名ヲ超過スル場合ハ第十二条第三項ノ規定ニヨリ之ヲ選定ス

第十四条 東洋大学学長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定ノ員數ヲ選出スルモノトス但シ其ノ選出方法ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ムルコトヲ得

- 一、東洋大学側選出維持員代表 三名
- 二、東洋大学教授会代表 二名
- 三、東洋大学校友会代表 二名

第十五条 東洋大学学長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ經

テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモノトス

第十六条 前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡委員會ヲ招集スルコトヲ要ス

第十七条 銓衡委員會ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員中年長者之ニ当ル

第十八条 銓衡委員會ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会ニ提出スルモノトス

第十九条 銓衡委員會ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハサルトキハ維持員会ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設ケ候補者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

第二款 維持員

第二十条 維持員ハ理事タル維持員六名ノ外左ノ四種トス

- 第一種 東洋大学側職員中ヨリ選出ノ者 五名
- 第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋大学
東洋大学専門部卒業者並ニ同等待遇者
中ヨリ選出ノ者 五名
- 第三種 京北諸学校職員中ヨリ選出ノ者 五名

第四種 京北諸学校卒業者中ヨリ選出ノ者五名
第二十一条 維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種ト

ス

第一種 東洋大学側学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 京北中学校及京北実業学校長幹事二年

以上引続キ在職ノ教員

第四種 京北中学校鶏声会評議員京北実業学校

京実会評議員

第二十二条 選挙長ハ前条ノ中第一種及第二種ニ付テハ

東洋大学長第三種及第四種ニ付テハ京北中学校長之ニ

当リ選挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ校長事故

アルトキハ其ノ事務ヲ代理スル者之ヲ代理ス

第二十三条 維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種ト

ス

第一種 東洋大学側教授幹事ノ各員

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋大学

東洋大学専門部卒業者並ニ同等待遇者

第三種 京北中学校及京北実業学校幹事専任教

員ノ各員

第四種 京北中学校京北実業学校卒業者全員

(推薦卒業者ヲ含マス)

第四種団体ヨリ選出セラルヘキモノハ
中学校側三名実業学校側二名トス

第二十四条 第二十一条第一種ニ属スルモノノ為ス選挙

ハ第二十三条第一種ニ属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以下

之ニ準ス

第二十五条 第二十一条及第二十三条ノ各種ニ該当スル

者ハ各其ノ資格ニ応シテ選挙権及被選挙権ヲ有ス

第二十六条 各選挙長ハ其ノ所管ノ選挙団体ニ関スル選

挙人名簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノトス

第二十七条 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十

日前ニ選挙長ヨリ各選挙人ニ通知スルモノトス

第二十八条 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノトス

第二十九条 投票ノ順序ハ第二十一条ニ定ムル種別ノ次

第二依ル

第三十条 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東洋大学内第三種

及第四種ニ付テハ京北中学校内

第三十一条 各選挙長ハ第二十一条所定ノ種別ニ於ケル

選挙人中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第三十二条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ

於テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第三十三条 投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ燒棄スルモノトス

第三十四条 投票ノ最多數ヲ得タルモノヲ以テ當選人トス得票同數ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及出身者ハ其ノ卒業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム

就職又ハ卒業及出身ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第三十五条 二以上ノ種別ヨリ當選シタル者ハ自己ノ選択ニ依リ其ノ一二就任スルモノトス

第三十六条 維持員ニ闕員ヲ生シタルトキハ第二十一条乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ補闕選舉ヲ行フモノトス

第三款 監事

第三十七条 監事ハ左ノ種別ニ從ヒ維持員會ニ於テ之ヲ選定ス

第一種 東洋大学側職員及哲學館哲學館大学元

東洋大学東洋大学東洋大学専門部卒業者並ニ同等待遇者中ヨリ 一名

第二種 京北諸学校職員及同卒業者中ヨリ一名

第三十八条 監事ハ維持員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三十九条 監事ノ職分左ノ如シ

- 一、本財団ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二、理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト

三、財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ発見シタルトキハ維持員會又ハ主務官庁ニ報告スルコト

四、前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ維持員會ヲ招集スルコト

第四十条 監事ハ維持員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルモ決議ニ加ルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第四十一条 役員ノ任期ハ各滿三年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス

第四十二条 役員ノ任期滿了前理事ハ相当ノ期間ニ於テ後任者ヲ選定スルコトヲ要ス

第四十三条 役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十四条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス

- 一、辭任ヲ申出テ維持員會ノ承認ヲ經タルトキ
- 二、維持員ニシテ維持員被選舉資格ヲ失ヒタルトキ

三、一ヶ年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサル事情アリテ維持員會ノ決議ヲ經タルトキ

四、除名

第四十五条 役員ニシテ左ノ各号ノ一二該當スルトキハ

維持員会ニ於テ総維持員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

一、本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其ノ平和ヲ攪乱スル等ノ行為アリタルトキ

二、体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 理事会

第四十六条 理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組織ス

織ス

第四十七条 理事会ハ必要ニ依リ学長タル理事之ヲ招集シ其ノ座長ハ学長タル理事之ニ当ル

第四十八条 理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依ルモノトス

キハ抽籤ニ依ルモノトス

第四十九条 理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第五十条 監事ハ理事会ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八章 維持員会

第五十一条 維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ審議決定ス

審議決定ス

第五十二条 維持員会ハ第十一条第四項ニ準シ理事之ヲ招集ス

招集ス

第五十三条 維持員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ

明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以内ニ臨時維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十四条 維持員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第五十五条 前条ノ定足数ニ充タサル為メ同一事項ニ付再回招集ヲナシタルトキハ出席員数ニ拘ラス決議ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東洋大学側及京北諸学校側各五名（理事ヲ含ム）以上タルコトヲ要ス

第五十六條 維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ決ス

第九章 解散

第五十七条 本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学側及京北諸学校ニ区分シ東洋大学側ニ属スル財産ハ別ニ東洋大学側諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校ニ属スル財産ハ京北諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシムヘキモノトス

シムヘキモノトス

第五十八条 前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学ト元京北財団トノ合併當時ノ財産状態ヲ基礎トシテ之ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議ヲ經テ理事之ヲ作成スルモノトス

第五十九条 前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産

ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登載スルモノトス

第六十条 清算人ハ解散當時ニ於ケル維持員会ノ決議ニ依リ之ヲ選任ス

第十章 寄附行為變更

第六十一条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維持員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一章 附 則

第六十二条 本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持員会ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十三条 本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日より効力ヲ生スルモノトス

第六十四条 本寄附行為實施當時ノ役員ハ本寄附行為ニ依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕選舉ヲ行フモノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準ス

第六十五条 本寄附行為ニ於ル東洋大学ハ昭和三年三月三十日以後ハ大学令ニ拠リタル東洋大学ヲ表示シ従前ノ専門学校令ニ拠リタル東洋大学ハ元東洋大学トシテ區別スルモノトス

『昭和五年 学務課 教育法人 第一種 冊ノ八七』
東京都公文書館所蔵

一九三二 東洋大学財団寄附行為改正認可書
〔昭和五年五月二一日〕

東專二〇三号

東洋大学財団

昭和五年四月十七日申請寄附行為中變更ノ件認可ス

昭和五年五月二十一日

文部大臣 田中隆三

『昭和五年 学務課 教育法人 第一種 冊ノ八七』
東京都公文書館所蔵

一九四一 東洋大学財団寄附行為改正認可

申請書〔昭和六年四月一五〕

寄附行為改正ノ認可申請

元東洋大学廃止其他ニ付東洋大学財団寄附行為ヲ別紙ノ通り改正致度候条御認可被成下度東洋大学財団寄附行為改正案写及同維持員会決議録写及新旧同寄附行為写相添ヘ此段申請仕候也

東京市小石川区原町十七番地

東洋大学財団

昭和六年四月十五日

代表理事 中島徳蔵

文部大臣 田中隆三殿

〔別紙〕

東洋大学財団寄附行為改正案提出ノ理由写

東洋大学財団経営ノ「元東洋大学」ハ昭和六年三月三十一日ヲ以テ廃止シタルヲ以テ同寄附行為中之ニ関聯セル条項ヲ削除シ又同寄附行為中「出身者」ナル語ハ不適当ニツキ「同等待遇者」ト訂正センガ為メ本案ヲ提出スルモノナリ

〔添付書類〕

東洋大学寄附行為改正案写

東洋大学寄附行為中左ノ通り改正ス

第四条中「元東洋大学」ノ五字ヲ削ル

参 照

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大

学東洋大学専門部元東洋大学京北中学校京北実業

学校及京北幼稚園等ヲ経営ス

第十一条中「元東洋大学」ヲ削ル

参 照

第十一条 理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門

部元東洋大学等ヲ含ム以下同シ）……………以下条文

ハ略之

第三十四条第一項中「出身者」ヲ「同等待遇者」ニ

「卒業及出身順」ヲ「卒業順及同等待遇者タル資

格發生順」ニ第二項中「出身」ヲ「同等待遇者タ

ル資格發生」ニ改ム

参 照

第三十四条 投票ノ最多数ヲ得タルモノヲ以テ当選

人トス得票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及

出身者ハ其ノ卒業及出身順ニ依リテ之ヲ定ム

就職又ハ卒業及出身ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

東洋大学財団維持員會決議録写

昭和六年三月三十一日午後五時東京市小石川区原町十七

番地東洋大学財団ハ同大学ニ於テ第八回維持員會ヲ招集

シ左記ノ通り決議シ為シタリ

一、東洋大学財団寄附行為中改正案

本案ハ本財団経営ノ「元東洋大学」ハ昭和六年三月三

十一日限り廃止シタルヲ以テ同寄附行為中之ニ関聯セ

ル条項ヨリ「元東洋大学」ヲ削リ又「出身者」ノ語ハ

不適当ニ付「同等待遇者」ト訂正スルモノニシテ詳細

ハ別紙改正案ノ通り

右ハ本財団寄附行為第六十一条ノ規定ニ依ル全員四分ノ
参以上ノ同意ヲ以テ可決シタリ

右決議録ヲ朗読シ出席セル維持員左記ノ通り各自署名捺
印ス

昭和六年三月三十一日開会ノ維持員会ニ於テ

維持員 座長

中島 徳藏 ^印	笹川 種郎 ^印	大島 正徳 ^印	所 金藏 ^印	神崎 一作 ^印	朝原 梅一 ^印	酒井勝太郎 ^印	早川 清 ^印	助川 賢藏 ^印	平岡藤太郎 ^印	安藤 弘 ^印	加藤 精神 ^印	三島定之助 ^印	柴田甚五郎 ^印	藤村 作 ^印	田中 治六 ^印	石川 義昌 ^印
--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------

〔朱書〕
〔新〕 東洋大学財団寄附行為

第一章 名 称

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト称ス

第二章 目 的

第二条 本財団ハ教育事業ヲ経営ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地

ニ之ヲ置ク

第四章 事 業

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学東

洋大学専門部京北中学校京北実業学校及京北幼

稚園等ヲ経営ス

第五章 資産及會計

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団

法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京

北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産

トス

第六条 本財団ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ

齊藤孝一郎^印
都河 竜^印
渡辺 海旭^印
広井辰太郎^印

入学金授業料其ノ他ノ収入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年

三月三十一日ニ終ル

第八条 本財団ノ予算ハ毎会計年度開始前維持員会ノ決

議ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遅滞ナク維持員会ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持員会ノ決議ニ

基キ理事之ヲ行フ

第六章 役員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 六 名

維持員 二十六名

監事 二 名

第一款 理事

第十一条 理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門部等

ヲ含ム以下同シ）側及京北諸学校（中学校実業学

校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）側ニ分属シ維持員

会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学側ニ在リテハ

学長京北諸学校ニ在リテハ校長専ラ之ニ当リ其ノ

他ノ理事ハ各其ノ所屬ニ從ヒ学長又ハ校長ヲ輔佐

ス

学長又ハ校長ニ闕員又ハ事故アルトキハ他ノ分属理事之ヲ代理ス

第二項ニ属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依リ理

事之ニ当ル

一、東洋大学学長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其ノ他ノ理事

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以テ之

ニ充ツ

第十二条 東洋大学学長及分属理事ハ第十四条乃至第十

九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持員会ノ承認ヲ經テ

之ヲ定ム

学長ノ任期ハ滿參年トシ重任スルコトヲ得

京北諸学校校長及分属理事ハ京北諸学校側ノ選出

ニ係ル維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承

認ヲ經テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス

第十三条 学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用ヒス第十

条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ数ハ前

項ノ理事ヲ合算シテ各三名トス但シ京北諸学校校

長三名ヲ超過スル場合ハ第十二条第三項ノ規定ニ

依リ之ヲ選定ス

第十四条 東洋大学学長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左

記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定ノ員

数ヲ選出スルモノトス

但シ其ノ選出方法ハ各自団体ニ於テ任意之ヲ定ム
ルコトヲ得

一、東洋大学側選出維持員代表 三名

二、東洋大学教授会代表 二名

三、東洋大学校友会代表 二名

第十五条 東洋大学学長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ經
テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモノト
ス

第十六条 前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体
ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報告ス
ルコトヲ要ス

前条ノ報告ヲ受ケタルトキハ理事ハ直ニ銓衡委員
会ヲ招集スルコトヲ要ス

第十七条 銓衡委員会ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員
中年長者之ニ当ル

第十八条 銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ
其ノ仮承諾ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会ニ提
出スルモノトス

第十九条 銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハ

サルトキハ維持員会ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設ケ候
補者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

第二款 維持員

第二十条 維持員ハ理事タル維持員六名ノ外左ノ四種ト
ス

第一種 東洋大学側職員中ヨリ選出ノ者 五名

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋大学東

洋大学専門部卒業業者並ニ同等待遇者中ヨ
リ選出ノ者 五名

第三種 京北諸学校職員中ヨリ選出ノ者 五名

第四種 京北諸学校卒業業者中ヨリ選出ノ者 五名

第二十一条 維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種ト
ス

第一種 東洋大学側学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 京北中学校及京北実業学校校長幹事二年以
上引続キ在職ノ教員

第四種 京北中学校鶏声会評議員京北実業学校京
実会評議員

第二十二条 選挙長ハ前条ノ中第一種及第二種ニ付テハ
東洋大学長第三種及第四種ニ付テハ京北中学校校
長之ニ当リ選挙ニ関スル事務ヲ統轄ス但シ学長又ハ

校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理スル者之ヲ代理ス

第二十三条 維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学側教授幹事ノ各員

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋大学東洋大学専門部卒業業者並ニ同等待遇者

第三種 京北中学校及京北実業学校幹事専任教員ノ各員

第四種 京北中学校京北実業学校卒業者全員（推薦卒業者ヲ含マス）

第四種団体ヨリ選出セラルヘキモノハ中学校側三名実業学校側二名トス

第二十四条 第二十一条第一種ニ属スルモノノ為ス選挙ハ第二十三条第一種ニ属スル者ノ中ヨリ之ヲ為シ以下之ニ準ス

第二十五条 第二十一条及第二十三条ノ各種ニ該当スル者ハ各其ノ資格ニ応シテ選挙権及被選挙権ヲ有ス

第二十六条 各選挙長ハ其ノ所管ノ選挙団体ニ関スル選挙人名簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノトス

第二十七条 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十日前ニ選挙長ヨリ各選挙人ニ通知スルモノトス

第二十八条 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ無記名トシ連記式ニ依ルモノトス

第二十九条 投票ノ順序ハ第二十一条ニ定ムル種別ノ次

第二依ル

第三十条 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東洋大学内第三種及第四種ニ付テハ京北中学校内

第三十一条 各選挙長ハ第二十一条所定ノ種別ニ於ケル選挙人中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第三十二条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ於テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第三十三条 投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ焼棄スルモノトス

第三十四条 投票ノ最多数ヲ得タルモノヲ以テ当選人トス得票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業業者及同等待遇者ハ其卒業順及同等待遇者タル資格発生順ニ依リテ之ヲ定ム

就職又ハ卒業及同等待遇者タル資格発生ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第三十五条 二以上ノ種別ヨリ当選シタル者ハ自己ノ選

択ニ依リ其ノ一ニ就任スルモノトス

第三十六条 維持員ニ關員ヲ生シタルトキハ第二十一条

乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ補闕選

挙ヲ行フモノトス

第三款 監 事

第三十七条 監事ハ左ノ種別ニ從ヒ維持員会ニ於テ之ヲ

選定ス

第一種 東洋大学側職員及哲学館哲学館大学元東

洋大学東洋大学東洋大学専門部卒業業者並

ニ同等待遇者中ヨリ 一名

第二種 京北諸学校職員及同卒業業者中ヨリ 一名

第三十八条 監事ハ維持員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三十九条 監事ノ職分左ノ如シ

一、本財団ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト

二、理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト

三、財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アル

コトヲ発見シタルトキハ維持員会又ハ主務官

庁ニ報告スルコト

四、前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ維持員

会ヲ招集スルコト

第四十条 監事ハ維持員会ニ出席シテ意見ヲ述フルコ

トヲ得ルモ決議ニ加ルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第四十一条 役員ノ任期ハ各滿三年トス但シ重任スルコ

トヲ妨ケス

第四十二条 役員ノ任期滿了前理事ハ相当ノ期間ニ於テ

後任者ヲ選定スルコトヲ要ス

第四十三条 役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者

其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十四条 役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス

一、辞任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ經タルトキ

二、維持員ニシテ維持員被選挙資格ヲ失ヒタルト

キ

三、一ケ年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサル事情

アリテ維持員会ノ決議ヲ經タルトキ

四、除名

第四十五条 役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ

維持員会ニ於テ總維持員四分ノ三以上ノ同意ヲ以

テ之ヲ除名スルコトヲ得

一、本財団ニ對シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其ノ平和

ヲ攪亂スル等ノ行為アリタルトキ

二、体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 理事会

第四十六条 理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組

織ス

第四十七条 理事会ハ必要ニ依リ学長タル理事之ヲ招集

シ其ノ座長ハ学長タル理事之ニ当ル

第四十八条 理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルト

キハ抽籤ニ依ルモノトス

第四十九条 理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会ノ招集

ヲ請求スルコトヲ得

第五十条 監事ハ理事会ニ出席シテ意見ヲ述フルコト

ヲ得

第八章 維持員会

第五十一条 維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ

審議決定ス

第五十二条 維持員会ハ第十一条第四項ニ準シ理事之ヲ

招集ス

第五十三条 維持員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ

明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以内ニ臨

時維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十四条 維持員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ

議事ヲ開クコトヲ得ス

第五十五条 前条ノ定足数ニ充タサル為メ同一事項ニ付

再回招集ヲナシタルトキハ出席員数ニ拘ラス決議

ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東洋大学側及京
北諸学校側各五名（理事ヲ含ム）以上タルコトヲ

要ス

第五十六条 維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之

ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ

決ス

第九章 解 散

第五十七条 本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産

ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学側及京北

諸学校ニ区分シ東洋大学側ニ属スル財産ハ別ニ東

洋大学側諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属セシメ

京北諸学校ニ属スル財産ハ京北諸学校ヲ財団法人

ト為シ之ニ帰属セシムヘキモノトス

第五十八条 前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学

ト元京北財団トノ合併当時ノ財産状態ヲ基礎トシ

テ之ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議ヲ經テ理事之

ヲ作製スルモノトス

第五十九条 前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産

ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登載スル

モノトス

第六十条 清算人ハ解散当時ニ於ケル維持員会ノ決議

ニ依リテ之ヲ選任ス

第十章 寄附行為變更

第六十一条 本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除ク外維

持員會ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ依リ主務官庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一章 附 則

第六十二條 本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持員會ノ

決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十三條 本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日ヨリ効力ヲ生スルモノトス

第六十四條 本寄附行為實施當時ノ役員ハ本寄附行為ニ

依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ

大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス本寄附行為ニ

依リ増員セラレタル役員ニ付テハ補闕選舉ヲ行フ

モノトス但シ其ノ任期ノ起算ハ前項ニ準ス

第六十五條 本寄附行為ニ於ル東洋大学ハ昭和三年三月

三十日以後ハ大学令ニ拠リタル東洋大学ヲ表示シ

従前ノ専門學校令ニ拠リタル東洋大学ハ元東洋大

学トシテ區別スルモノトス

〔舊〕東洋大学財団寄附行為

〔昭和五年五月二十一日認可〕〔略〕

* 1 〔付箋〕

旧寄附行為第三十四條第二項參照ノコト〔變
更ノ必要ナキモノノ如ク思考セラル〕

『昭和六年 學務課 教育法人 第一種 冊ノ一〇一』

東京都公文書館所藏

一九四二 東洋大学財団寄附行為改正認可書寫

〔昭和六年六月九日〕

東專二〇六号

東洋大学財団

昭和六年四月十五日申請寄附行為中變更ノ件認可ス

昭和六年六月九日

文部大臣 田中隆三

『昭和六年 學務課 教育法人 第一種 冊ノ一〇一』

東京都公文書館所藏

一九五二 東洋大学財団寄附行為

〔昭和十二年六月二日認可〕

東洋大学財団寄附行為〔昭和十二年六月二日認可〕

第一章 名 稱

第一条 本財団法人ハ東洋大学財団ト稱ス

第二章 目 的

第二条 本財団ハ教育事業ヲ經營ス

第三章 事務所

第三条 本財団ノ事務所ハ東京市小石川区原町十七番地

ニ之ヲ置ク

第四章 事業

第四条 本財団ハ第二条ノ目的ヲ達スル為メ東洋大学東

洋大学専門部京北中学校京北実業学校及京北幼

稚園等ヲ経営ス

第五章 資産及会計

第五条 故井上円了ノ所有ニ属シ其ノ設立ニ係ル元財団

法人私立東洋大学ニ属スル資産ノ全部並ニ元京

北財団ニ属スル資産ノ全部ヲ以テ本財団ノ資産

トス

第六条 本財団ノ経費ハ資産ヨリ生スル收入学生生徒ノ

入学金授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支弁ス

第七条 本財団ノ会計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年

三月三十一日ニ終ル

第八条 本財団ノ予算ハ毎会計年度開始前維持委員会ノ決

議ヲ経テ之ヲ定メ決算ハ其ノ終了後遅滞ナク維

持委員会ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第九条 本財団ノ資産ノ管理及使用ハ維持委員会ノ決議ニ

基キ理事之ヲ行フ

第六章 役員

第十条 本財団ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 四名

維持員 二十八名

監事 二名

第一款 理事

第十一条 理事ハ東洋大学（東洋大学東洋大学専門部等

ヲ含ム以下同シ）側及京北諸学校（中学校実

業学校及幼稚園等ヲ含ム以下同シ）側ニ分属

シ維持委員会ノ決議ニ基キテ事業ノ経営ニ任ス

事業ノ執行及財団ノ代表ハ東洋大学側ニ在リ

テハ学長京北諸学校側ニ在リテハ校長専ラ之

ニ当リ其ノ他ノ理事ハ各其ノ所属ニ從ヒ学長

又ハ校長ヲ輔佐ス

学長又ハ校長ニ關員又ハ事故アルトキハ他ノ

分属理事之ヲ代理ス

第二項ニ属セサル事項ニ付テハ左ノ順位ニ依

リ理事之ニ当ル

一、東洋大学学長タル理事

二、京北諸学校校長タル理事

三、其ノ他ノ理事

但シ同順位ノ者数人アルトキハ最年長者ヲ以

テ之ニ充ツ

第十二条 東洋大学学長及分属理事ハ第十四条乃至第十

九条ノ規定ニ依リテ銓衡シ維持委員会ノ承認ヲ

経テ之ヲ定ム 学長ノ任期ハ満参年トシ重任
スルコトヲ得

第十三条

京北諸学校校長ハ京北諸学校側ノ選出ニ係ル
維持員ノ協議ニ依リテ推薦シ維持員会ノ承認
ヲ経テ之ヲ定ム但シ校長ニハ任期ヲ附セス
学長又ハ校長ハ理事選任ノ手續ヲ用ヒス第十
条ノ定員内ニ於ケル理事タルモノトス

第十四条

東洋大学側及京北諸学校側ニ属スル理事ノ数
ハ前項ノ理事ヲ合算シテ各二名トス
東洋大学学長及東洋大学分属理事ノ銓衡ハ左
記各団体ノ代表者七名ノ銓衡委員ニ於テ規定
ノ員数ヲ選出スルモノトス
但シ其ノ選出方法ハ各団体ニ於テ任意之ヲ定
ムルコトヲ得

一、東洋大学側選出維持員代表 三名

二、東洋大学教授会代表 二名

三、東洋大学校友会代表 二名

第十五条

東洋大学学長タル理事ハ維持員会ノ決議ヲ経
テ前条各団体ニ銓衡委員ノ選出ヲ委嘱スルモ
ノトス

第十六条

前条ノ銓衡委員選出ノ委嘱ヲ受ケタル各団体
ハ直ニ之ヲ選出シ其ノ氏名ヲ前条ノ理事ニ報

告スルコトヲ要ス 前条ノ報告ヲ受ケタルト
キハ理事ハ直ニ銓衡委員会ヲ招集スルコトヲ
要ス

第十七条

銓衡委員会ニ於ケル座長ハ維持員代表ノ委員
中年長者之ニ当ル

第十八条

銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ銓衡シタルトキハ
其ノ仮承認ヲ得タル上座長ヨリ之ヲ維持員会
ニ提出スルモノトス

第十九条

銓衡委員会ニ於テ候補者ヲ選出スルコト能ハ
サルトキハ維持員会ニ於テ別ニ銓衡委員ヲ設
ケ候補者ヲ銓衡セシムルコトヲ得

第二款 維持員

第二十条 維持員ハ理事タル維持員四名ノ外左ノ四種

トス

第一種 東洋大学側職員中ヨリ選出ノ者

六名

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋

大学東洋大学専門部卒業者並ニ同
等待遇者中ヨリ選出ノ者 六名

第三種 甲 京北中学校職員中ヨリ選出ノ

者 三名

乙 京北実業学校職員中ヨリ選出

ノ者 三名
第四種 甲 京北中学校卒業中ヨリ選出 三名
ノ者 三名

乙 京北実業学校卒業中ヨリ選出ノ者 三名

第二十一条 維持員ノ選挙ヲ為シ得ルモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学側学長教授幹事

第二種 東洋大学校友会評議員

第三種 甲 京北中学校長幹事及二年以上引続キ在職ノ教員

乙 京北実業学校長幹事及二年以上引続キ在職ノ教員

第四種 甲 京北中学校鶏声会評議員

乙 京北実業学校京実会評議員

第二十二条 選挙長ハ前条ノ中第一種及第二種ニ付テハ

東洋大学長第三種甲及第四種甲ニ付テハ京

北中学校長第三種乙及第四種乙ニ付テハ京

北実業学校長之ニ当リ選挙ニ関スル事務ヲ

統轄ス

第二十三条 維持員ニ選挙セラルヘキモノハ左ノ四種トス

第一種 東洋大学側教授幹事

第二種 哲学館哲学館大学元東洋大学東洋

大学東洋大学専門部卒業中並ニ同

待遇者

第三種 甲 京北中学校幹事及専任教員

乙 京北実業学校幹事及専任教員

第四種 甲 京北中学校卒業中（推薦卒業

者ヲ含マス）

乙 京北実業学校卒業中（推薦卒業

者ヲ含マス）

第二十四条 第二十一条第一種ニ属スルモノノ為ス選挙

ハ第二十三条第一種ニ属スル者ノ中ヨリ之

ヲ為シ以下之ニ準ス

第二十五条 第二十一条及第二十三条ノ各種ニ該当スル

者ハ各其ノ資格ニ応シテ選挙権及被選挙権

ヲ有ス

第二十六条 各選挙長ハ其ノ所管ノ選挙団体ニ関スル選

挙人名簿ヲ選挙期日二十日前ニ調製スルモノ

トス

第二十七条 選挙ノ日時ハ選挙ヲ行フ日ヨリ少クトモ十

日前ニ選挙長ヨリ各選挙人ニ通知スルモノ

トス

第二十八条 選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ハ無記名ト

シ連記式ニ依ルモノトス

第二十九条 投票ノ順序ハ第二十一条ニ定ムル種別ノ次

第二依ル

第三十条 投票ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第二十一条第一種及第二種ニ付テハ東洋大学内第三種甲及第四種甲ニ付テハ京北中学校内第三種乙及第四種乙ニ付テハ京北実業学校内

第三十一条 各選挙長ハ第二十一条所定ノ種別ニ於ケル

選挙人中ヨリ二名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第三十二条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ

於テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第三十三条 投票用紙ハ当選者確定ノ上直ニ之ヲ焼棄ス

ルモノトス

第三十四条 投票ノ最多数ヲ得タルモノヲ以テ当選人ト

ス得票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順卒業者及同等待遇者ハ其ノ卒業順及同等待遇者タル資格発生順ニ依リテ之ヲ定ム 就職又ハ同等待遇者ハ其ノ卒業順及同等待遇者タル資格発生ノ日時同シキ時ハ年長順ニ依ル

第三十五条 二以上ノ種別ヨリ当選シタル者ハ自己ノ選

択ニ依リ其ノ一ニ就任スルモノトス

第三十六条 維持員ニ闕員ヲ生シタルトキハ第二十一条

乃至第三十五条ノ規定ニ依リ三十日以内ニ

補闕選挙ヲ行フモノトス

第三款 監事

第三十七条 監事ハ左ノ種別ニ從ヒ維持員会ニ於テ之ヲ

選定ス

第一種 東洋大学側職員及哲学館哲学館大

学元東洋大学東洋大学東洋大学専門部卒業
者並ニ同等待遇者中ヨリ 一名

第二種 京北諸学校職員及同卒業者中ヨリ 一名

第三十八条 監事ハ維持員ヲ兼スルコトヲ得ス

一名

第三十九条 監事ノ職分左ノ如シ

一、本財団ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト

二、理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト

三、財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ

廉アルコトヲ発見シタルトキハ維持員

会又ハ主務官庁ニ報告スルコト

四、前号ノ報告ヲ為スタメ必要アルトキハ

維持員会ヲ招集スルコト

第四十条

監事ハ維持員会ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルモ決議ニ加ハルコトヲ得ス

第四款 役員通則

第四十一条

役員ノ任期ハ各満参年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス

第四十二条

役員ノ任期満了前理事ハ相当ノ期間ニ於テ後任者ヲ選定スルコトヲ要ス

第四十三条

役員交替ノ場合ハ後任者就任スル迄前任者其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十四条

役員タル資格ハ左ノ事由ニ因リ喪失ス
一、辞任ヲ申出テ維持員会ノ承認ヲ經タルトキ

二、維持員ニシテ維持員被選挙資格ヲ失ヒタルトキ

タルトキ

三、一ケ年以上其ノ職務ヲ行フコト能ハサル事情アリテ維持員会ノ決議ヲ經タルトキ

四、除名

第四十五条

役員ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ維持員会ニ於テ総維持員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

一、本財団ニ対シ不正ノ行為ヲ為シ又ハ其ノ

平和ヲ攪乱スル等ノ行為アリタルトキ
二、体面ヲ汚辱シタル行為アリタルトキ

第七章 理事会

第四十六条

理事会ハ東洋大学財団ノ理事ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十七条

理事会ハ必要ニ依リ学長タル理事之ヲ招集シ其ノ座長ハ学長タル理事之ニ当ル

第四十八条

理事会ノ議事ハ多数決トシ可否同数ナルトキハ抽籤ニ依ルモノトス

第四十九条

理事ハ必要ト認メタルトキハ理事会ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第五十条

監事ハ理事会ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八章 維持員会

第五十一条

維持員会ハ本財団ニ関スル重大ナル事項ヲ審議決定ス

第五十二条

維持員会ハ第十一条第四項ニ準シ理事之ヲ招集ス

第五十三条

維持員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ明示シテ請求アリタルトキハ理事ハ七日以内ニ臨時維持員会ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十四条

維持員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ

第五十五条

議事ヲ開クコトヲ得ス

前条ノ定足数ニ充タサル為同一事項ニ付再
回招集ヲナシタルトキハ出席員数ニ拘ラス
決議ヲ為スコトヲ得但シ此場合ニ於テ東洋
大学側及京北諸学校側各五名(理事ヲ含ム)
以上タルコトヲ要ス

第五十六条

維持員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之
ヲ決ス但シ可否同数ナルトキハ抽籤ニヨリ
テ之ヲ決ス

第九章 解 散

第五十七条

本財団解散スルニ至リタルトキハ其ノ財産
ハ別ニ定ムル財産目録ニ依リテ東洋大学側
及京北諸学校ニ区分シ東洋大学側ニ属スル
財産ハ別ニ東洋大学側諸学校ヲ財団法人ト
為シ之ニ帰属セシメ京北諸学校ニ属スル財
産ハ京北諸学校ヲ財団法人ト為シ之ニ帰属
セシムヘキモノトス

第五十八条

前条ノ財産目録ハ元財団法人私立東洋大学
ト元京北財団トノ合併^(時)並事ノ財産状態ヲ基
礎トシテ之ニ増減ヲ記入シ維持員会ノ決議
ヲ經テ理事之ヲ作成スルモノトス

第五十九条

前条ノ財産目録作成ノ後増減アリタル財産

第六十条

ハ維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ財産目録ニ登
載スルモノトス

第十章 寄附行為變更

第六十一条

本寄附行為ハ目的ニ関スル規定ヲ除クノ外
維持員会ニ於テ全員四分ノ三以上ノ同意ニ
依リ主務官庁ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコ
トヲ得

第十一章 附 則

第六十二条

本寄附行為施行ニ関スル細則ハ維持員会ノ
決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十三条

本寄附行為ハ主務官庁ノ認可アリタル日ヨ
リ効力ヲ生スルモノトス

第六十四条

本寄附行為実施當時ノ役員ハ本寄附行為ニ
依リ選任セラレタルモノト看做ス但シ其ノ
任期ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ起算ス
本寄附行為ニ依リ増員セラレタル役員ニ付
テハ補闕選舉ヲ行フモノトス但シ其ノ任期
ノ起算ハ前条ニ準ス

第六十五条

本寄附行為ニ於ケル東洋大学ハ昭和三年三
月三十日以後ハ大学令ニ拠リタル東洋大学

ヲ表示シ従前ノ専門学校令ニ拠リタル東洋
大学ハ元東洋大学トシテ区別スルモノトス

『東洋大学出身者名簿（昭和十二年度）』

（昭和十二年一月二三日）

一九六 哲学館大学と京北中学校との敷地および

賃借に関する契約書下書

〔明治三十八年二月二十九日〕

一九五—二 東洋大学財団寄附行為変更認可書

〔昭和十二年六月二日〕

東專四〇五号

東洋大学財団

昭和十二年五月十七日附庶第一三八号寄附行為変更ノ件
認可ス

昭和十二年六月二日

文部大臣 林銑十郎印

『認可書等綴 法人

自大正九年二月至昭和四十六年二月』

東洋大学秘書課所蔵

第三節 契 約

契約（下書）

一、両校ノ敷地ハ哲学館大学ノ所有ニシテ京北中学校ヨ
リ毎月地代及教場使用料トシテ六十円ツ、ヲ哲学館
大学ヘ支払フコト

一、校舎ハ山上ヲ哲学館所有トシ山下ヲ京北所有トス
但山ノ中段ナル図画教室、表門番所、監督舎ハ哲学
館ノ所有トス

一、新築費不足金七千九百八十八円九十八銭七厘ハ之ヲ
折半シ三千九百九十四円四十九銭ヲ京北ノ負債トシ
毎月其利子トシテ金二十円ヲ哲学館ヘ支払フコト

一、校舎ノ修繕費及教室用椅子「テーブル」ノ新調費ハ
両校ニテ兼用スル教室ニ限り両校ノ負担トスルコト
一、監督舎ノ舎費ハ哲学館ノ収入トシ修繕ハ哲学館ノ負
担トス

一、構内道路及庭園ノ手入、垣根ノ修繕ハ図画教室ノ下
側ヨリ学長宅ノ松門ヲ貫キテ界線ヲ引キ其上ノ方ヲ
哲学館、其下ノ方ヲ京北ノ負担トスルコト

- 一、電話料ハ両校ニテ折半スルコト
- 一、教室巡夜ノ手数料ハ両校ニテ負担スルコト
- 一、薪炭油費ハ凡ソ両校ノ生徒数ニ応シテ分担スルコト
- 一、大小便ハ哲学館ノ収入トシ町内ノ衛生費ハ哲学館ノ負担トス
- 一、両校ノ器具ハ帳簿ヲ作リテ之ヲ記入シ孰レノ所有ナルヲ明カニスルコト
- 一、京北ノ図書ハ哲学館ニ委托シ両校所有ノ図書ハ両校生徒ノ閲覧ニ備フルコト
- 一、其他ノ事項ハ両校幹事及会計主任ノ協議ニヨリテ決スルコト若シ協議纏ラサル場合ニハ両校長ノ協議ニヨリテ決スルコト
- 一、生徒ノ取締ニ関スル方法ハ両校ノ協議ニヨリテ定ムルコト

年 月

明治三十八年十二月二十九日

哲学館大学代表者

前田 慧雲

京北中学校代表者

湯本武比古

立会人

井上 円了

第二章 各種委員会

第一節 維持委員会

一九七 東洋大学財団維持委員会規則

〔大正八年一〇月一四日制定〕

維持委員会規則

第壹条 維持委員会ハ主トシテ東洋大学財団全体ニ関スル

予算決算其他重要ナル事項ヲ審議決定スルモノ
トス

但人事ニ関シテハ財団経営ノ諸学校各別ニ之
ヲ処理スヘク一々此会ニ諮ルコトナシ

第貳条 定期維持委員会ハ毎事業年度ノ終始ニ之ヲ開クモ
ノトス

第参条 臨時維持委員会ハ臨時緊急事項ノ生セシ場合ニ開

クモノトス

第四条 理事ハ必要ト認メタルトキハ臨時維持委員会ヲ召
集スルコトヲ得

第五条 維持員五人以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ明示
シテ請求シタルトキハ理事ハ十日以内ニ臨時維
持委員会ヲ召集スルコトヲ要ス

第六条 定期維持委員会ニハ少クトモ七日以前ニ臨時維持
委員会ニハ少クトモ三日以前ニ會議ノ目的タル事
項若クハ議案ヲ通知スヘキモノトス

第七条 維持委員会ノ議長ハ維持員中ヨリ之ヲ互選ス

第八条 議長ハ決議ノ数ニ加ハルコトヲ得

第九条 財団経営ノ諸学校ノ幹事會計ハ員外トシテ維持
員会ニ列席スルコトヲ得

但決議ノ数ニ加ハルコトヲ得ス

第拾条 維持委員会ノ会場ハ理事之ヲ定ム

第拾壹条 維持員ニシテ其ノ選舉団体ニ於ケル位置ヲ失
ヒタルトキハ同時ニ其資格ヲモ失フモノトス

「維持員会規則を制定す」(『東洋哲学』第二六編)

第一〇号、大正八年一月一〇日)

一九八 東洋大学財団維持員選舉規則

〔大正八年一〇月一五日施行〕

東洋大学財団維持員選舉規則

第一章 選舉団体

第壹条

維持員ハ左記各選舉団体ニ於テ之ヲ選舉ス

甲、東洋大学職員(学長、教授、幹事、會計)

乙、京北中学校京北実業学校職員(校長、満

参年以上引続キ在職ノ教員、幹事、會計)

丙、東洋大学出身者(東洋大学校友会評議員)

丁、京北中学校京北実業学校卒業者(鶏声会

評議員、京実会評議員)

第貳条

各団体ノ選舉長ハ第壹条四種ノ中甲丙ハ東洋大

学長乙丁ハ京北中学校長之ニ任シ投票ニ関スル

事務ヲ統轄ス

但シ選舉長事故アル時ハ上席幹事之ヲ代理ス

第二章 選舉權及被選舉權

第参条

選舉權ハ第壹条所定ノ甲乙丙丁四種ノ団体員各

自之ヲ有ス

第四条 左ニ掲グルモノハ被選舉權ヲ有ス

甲、東洋大学長、教授、幹事、會計ノ各員

乙、京北中学校長京北実業学校長、専任教員、

幹事、會計ノ各員

丙、東洋大学出身者全員

丁、京北中学校京北実業学校卒業者全員(推

選卒業者ヲ含ム)

丁種団体ヨリ選出セラルベキモノハ其ノ一校ノ卒

業者ノミニ限ルコトヲ得ズ

第五条

東洋大学職員及出身者、京北中学校京北実業学

校職員及卒業者ハ各其資格及ビ身分ニ応シテ第

壹条四種ノ孰レニ於テモ選舉及被選舉ノ權利ヲ

有スルモノトス

第三章 選舉人名簿

第六条

各選舉長ハ其ノ所管ノ選舉ニ関スル選舉人名簿

ヲ選舉期日三拾日前ニ調製スルモノトス

第四章 選舉投票及投票所

第七条

選舉期日及選舉ヲ為シ得ヘキ時間ハ選舉ヲ行フ

日ヨリ少クトモ拾日前ニ選舉長ヨリ各選舉人ニ

通知スルモノトス

第八条

選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ無記名トシ單記式ニ依ルト連記式ニ依ル

トハ各選挙長之ヲ定ム

第九条 投票ノ順序ハ第壹所定ノ甲乙丙丁ノ次第二依ル

第拾条 投票所ハ左記ノ場所ニ之ヲ設ク

第壹条所定ノ甲丙ハ東洋大学内、乙丁ハ京北中学校内

第拾壹条 各選挙長ハ各選挙団体ニ於ケル選挙人中ヨリ

式名ノ投票立会人ヲ指名スルモノトス

第拾貳条 投票用紙ハ選挙ノ当日選挙長ヨリ投票所ニ於

テ之ヲ選挙人ニ交付スルモノトス

第拾参条 投票用紙ハ当選者及次点者確定ノ上其就任承

諾アリタル後ハ直チニ之ヲ焼棄スルモノトス

第五章 当選人

第拾四条 投票ノ最多数ヲ得タル者ヲ以テ当選人トス得

票同数ノ場合ニハ職員ハ就職順出身者及ヒ卒業
者ハ其出身及ヒ卒業順ニ依リテ之ヲ定ム就職又

ハ出身卒業ノ日時同シキ時ハ抽籤ニ依ル

第拾五条 当選者ニシテ就任ヲ拒ミ又ハ止ム事ヲ得スシ

テ就任スル能ハサルトキハ次点者ヲ以テ之ニ充
ツ

第拾六条 第壹条所定ノ四選挙団体内中以上ノ資格ヲ具

有シ式以上ノ団体ヨリ各当選シタルモノハ自己
ノ選沢ニ依リ其一ヲ定メ之ニ就任スルモノトス

第六章 補闕選挙

第拾七条

選挙ノ日ヨリ壹箇年以内ニ維持員ノ闕員ヲ生

シタルトキハ次点者ヲ以テ当然之ニ充テ次点者

ニ於テ就任セサルトキハ更ニ補闕選挙ヲ行フヘ
シ

前項ノ場合ニ於テ補闕選挙ヲ行ヒ又ハ壹箇年以

後ニ維持員ノ闕員ヲ生シタルトキハ闕員ノ日ヨ

リ参拾日以内ニ更ニ補闕選挙ヲ行フモノトス

第七章 附 則

第拾八条

選挙ニ関スル費用ハ東洋大学財団ノ經費ヲ以

テ之ヲ支弁ス

第拾九条

本規則ハ大正八年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

「維持員選挙規則の決定」(『東洋哲学』第二六編

第一〇号、大正八年二月一〇日)

一九九 東洋大学制規改正臨時維持員會議事録

(昭和一三年四月二日)

小林昌治発言

只今御紹介ヲ頂キマシタ小林昌治デ御座イマス。

本日ハ各位ノ御多用中ヲ御参集方御願致シ、誠ニ恐縮

ニ存ジマス。

扱、今回、私共ガ、コノ臨時維持員會招集ヲ請求致シマシタノハ、次ノ如キ理由ニ基クモノデアリマス。

併シテ私ハコノ理由説明以前ニ、更ニ先ヅ理事者ニ向ツテ、茲ニ一ツノ要求ヲ致シタイト存ジマス。

ソレハ、他デハ無イノデスガ、今日マデノ維持員會議事録ヲ拝見シテミマス、ドウシタモノカ、ドウモ議事ノ速記ガ不充分デアル様ニ見受ケラレマス。

ソコデ、私ノ考ヘマスルニハ、此ノ議事録ナルモノハ、本會ギニ於ケル、最モ大切ナ将来ヘノ証拠トナルベキ書類デアルト存ジマスノデ、從ツテ、之ガ發言記録ノ確實ヲ期スルタメ、今回カラ、コノ會ギニハ、二名ノ速記者ヲ御配置相願ヒ度ト存ジマス。

議長ノ答弁……。可否。

小林昌治發言

デハ理由ノ説明ヲ致シマス。

扱、去ル三月二十八日昭和十二年度第九回維持員會即チ十三年度予算案審議ノ際ニ置キマシテ、私ハ、皆様御承知ノ如キ（議事録記載）^{（趣）}質問ヲ試ミマシタガ、其ノ際、私ノ質問事項ニ就テハ「後日ニ譲ルベシ」ト云フ動議ガ出デ（議事録ニハ記載ナシ）^{（趣）}、之ニ就テ議長ヨリ一同ニ賛否ヲ問ヒタルニ、異議無ク、即チ「後日ニ

於テ審議スル」ト云フ事ニ決定イタシマシタ。

依ツテ私ハ、其ノ翌日即チ二十九日学校当局ニ伺ツテ寄附行為關係書類ノ閲覧方ヲ申出マシタ。

其処デ、原田幹事長ヨリ、右ノ關係書類綴ヲ拝見スル様ニナツタ次第有リマス。

茲ニ於テ先ヅ私ハ本學ノ憲法トモ云フベキ財團寄附行為ヲ精読イタシマシタ。

デ、コノ寄附行為ヲ研究シテ見マス、私ノ要求ヲ審ギシテ頂キマスニハ、先ヅ、理事者ニ伺ツテ意見ノ開陳デアリマスガ、然シ理事者トシテモ、一維持員ノ要求ガアツタカラトテ、サウ早急ニ會ギヲ招集スル事ガ出来マセン。

其処デ、私トシテ執ルベキ合法的手段ハ、即チ本日お願い致シマシタコノ第五十三條ニ依ル「臨時維持員會」ヨリ他ニ道ガナイノデアリマス。

右何卒御承知置キ願ヒマス

扱、本學ニハ、コノ財團寄附行為ノ他、東洋大学々則、東洋大学専門部學則、東洋大学學位規定（認可申請中）、東洋大学研究員規定（昭和五年三月三十一日決定）其他東洋大学職制、外種々ナル規定、或ハ内規ナルモノガ沢山定メラレテアリマス。然モ亦、之等多クノ規定、或ハ内規ナルモノハ屢々改正セラレテモ居リマス。

例へば、東洋大学職制ナルモノハ「昭和四年九月十八日刷」ト云フ日付入りデ印刷セラレタモノガ始マリデ、此ノ刷物ニ更ニ活孤^(括弧)ニテ「昭和四年九月十六日決定」ト書入ガシテアリ、又更ニ其側ニ「昭和九年十月一日ヨリ改正ス」ト記入シテアル。(資料第一)コノ「東洋大学職制」ガ始マリデ、更ニ之ヲ「昭和九年九月十七日評ギ員会決定」「昭和九年十月一日ヨリ実施」ト記入ノアル印刷物ニテ改正セラレタモノガアリマス。然モ更ニコノ同ジ綴リトシテ其時即チ昭和九年九月十七日ニ、コノ評ギ員会ナルモノデ定メラレタモノデアル様ニ見受ケラレル所ノ「東洋大学任用規程」ナルモノモアリマス。更ニ同ジク其ノ中ニ「東洋大学給与規程」ナルモノモアリマス。(資料第二参考)

更ニ、コノ職制ナルモノハ^(昭和十一年十一月十七日決定)昭和十一年十一月十七日付入りデ印刷ニ付サレタルモノガアリマス。(第三資料参照)(コレ等ハ何レモ評ギ員会決定ナリ)

ツマリ、之ハ単ナル一例ニスギマセンガ、斯ノ如ク幾多ノ規則ニ類スルモノガ、作ラレタリ、改正セラレタリ等シテアリマス。然モ之ガ多ク現在用ヒラレテ居ル様デアリマス。

其処デ、私ハ始メテ不審ニ感ジマシタノデアリマス。ト申シマスノハ、我ガ東洋大学財団^(マデ)行為第六十二条ハ

次ノ様ニ定メラレタルノデアリマス。

第六十二条 本寄附行為ニ関スル細則ハ維持員会ノ

決ギヲ經テ、別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

ト云フ条項ナノデアリマス。

此ノ条項ニ準拠致シマス、即チ我ガ財団ノ目的ヲ達成致シマスルタメニハ、種々ナル細カイ規則モ必要デアラウカラ、定メルノモ宜シイ。ガ、其レニシテモヤハリ、之等ノ作ラレタ細カイ規則ハ「維持員会ノ決ギ」ヲ經ナケレバナラナイモノデアルト云フ事ガ明瞭デアリマス。

因ツテ、私ハ之等ノ細則ガ作ラレタル時、又改正セラレタル時、何時モ必ズ維持員會議ニカケラレテ有ルヤ否ヤヲ検討致シテミマシタ。然ルニ昭和二年以來今日マデノ議事録(三冊アリ)ノ中ニハ、左様ノ事ノ審議セラレテ居ル事ハ一回モ無イト云フ事ガ判明シマシタ。

之ガ即チ前ニ申シマシタ、私ノ不審ヲイダキ始メタ理由デアリマス。之ニ反シテ本学ニハ「東洋大学評ギ員会記録」(自昭和七年九月)(昭和九年九月起)ト表紙ニ日付ノ入りタルモノ二冊ガアリマス。

デ、之ヲ調べテ見マスト、東洋大学講堂建築ノ件、(昭和七年九月十七日)カラ人事ニ関スル件、其ノ他一切ノ件ガ、コノ評ギ員会ニ於テ審ギセラレテ居リマス。

ト云フ実事が判リマシタ。

然モ、之ハ参考デアリマスガ、昭和八年二月九日(木)ノ評ギ員会デハ、人事ニ関シテ、即チ某(菊地氏)教授ノ人事ニ関シテ投票ヲ以テ後任者ヲ詮考シ、且ツコノ当選詮考ノ推センセル者ヲ以テ、其ノ人事ヲ決定スルト云フ事ガ、茲ニ実行セラレテオル次第デス。

之ガ、コノ評ギ員会ナルモノガ、人事ニ関シテ容喙ヲ為シ始メタル始マリナリト思考セラレマス。

ソレカラ以後引続キ其ノ例ガ、所謂「物ヲ云フ」ト云フ事ニナツテ、今日ニ及ンデオルヨウニ見受ケラレマス。

ソゴデ即チ茲ニ至リタル過程ヲ尋ネテ見マスルニ、之ハ参考資料(第二)ニアリマス「東洋大学任用規定」ナルモノト更ニ之ヲ細キ定メタル「東洋大学教員銓衡内規」(資料第五)ナルモノガアリマシテ、之ニ依ツテヤツテイルモノノ様デアリマス。

然シ私ハ今茲ニ、コノ評ギ員会ナルモノヲ善、惡シト批評スルモノデハアリマセン。只、先程来申述ベテ参リマシタ如ク、「東洋大学職制」ト云フモノガ作ラレ更ニ其中ニ「評ギ員会」ナルモノガ設ケラレ、又更ニ其ノ中ニ「東洋大学教員任用規定内規」ナルモノマデアルヤウニ、実ニ用意周到ナル規則ガ作ラレテアリナ

ガラ、之ガ、我財団ノ最高機関デアル維持員會議ニカケラレタル例事モナク、維持員ノ不知ノモノデアルト云フ事ヲ、私ハ誠ニ慨歎ニ堪エナイノデアリマス。

如上ノ様ナ理由カラ、私ハ意ヲ決スル所アリ、茲ニ先輩諸氏ニ諮リ、本日ノ臨時維持員会招集方ヲ当局ニ請求致スニ至リマシタ次第デアリマス

即チ私ノ請求目的ハ東洋大学ニ現在アル所ノ学内制規ナルモノヲ檢討シテミル事ニアルノデアリマシテ、何レガ、維持員会ノ議ニカケラレタルカ、何レガ、カケラレナイモノデアルカラ、茲ニ先ヅ再檢シ、若未審ギノモノアレバ、之ヲ十分檢討致シタイト思フノデアリマス。

然シテ、之ヲシテ我東洋大学百年ノ基礎タルモノニ致シタイト望ム者デアリマス。

其処デ私ハ理事者ニ御伺ヒ致シマスガ、現在本学ニ於テ作ラレタル学内制規(内規ヲ含ム)ナルモノガ何程アルカ、御説願マス。

学長 答弁 ……題目説明

小林 質問

只今御説明ノ学内制規ハ全部本会ギデ審ギ決定シタルモノデアリマスカ

学長 答弁、……エハ審ギ決定セラレタモノノ様デアリ

マスガ、エハ未審ギノモノノ様デアリマス。

小林 質問

然ラバ未審ギノモノハ本日茲ニ当局者ノ審ギ案トシテ、更メテ提出シテ貰ヒタイモノデアリマス。

議長

小林君ノ質問ノ主旨ハ御尤ト思ヒマス。依テ私ハ理事者トシテ議事ノ題目加入変更ノ件ヲ緊急動議トシテ提致シマス。

校友側一同

異議無シ

議長

デハ、茲ニ動議ガ成立致シマシタ。依ツテ理事者トシテ次ノ諸案ヲ提案致シマス。何卒充分御審ギノ程願ヒマス。

小林 質問

此ノ案件ハ今茲デ十分議了シツクスト云フ事ハナカ
 〈容易デハナイト思ヒマス。依テ

私ハコレハ小委員会ヲ設ケテ之ニ付託審ギセシメタイト思ヒマス。之ヲ^(緊)急ニ動ギトシテ提案イタシマス。

議長 小委員会設置、之ニ付託スルノ緊急動ギガ出マシタガ如何致シマスカ。

校友側

異ギ無シ

議長 デハ

デハ動ギガ成立イタシマシタ。委員ノ選出ハ如何致シマスカ。

小林 質問

二名ノ委員ヲ選舉ニ依ツテ定メタイト思ヒマス。

二名ノ委員ヲ選舉ト云フ動ギ出マシタ如何イタシマスカ。

校友側

異ギナシ

ギ長、

デハ只今ヨリ選舉ヲ行ヒマス。

発表 散会

千秋文庫所蔵

二〇〇 第四回東洋大学制規改正委員会筆記

〔昭和一三年六月八日〕

第四回改正委員会筆記

文責 菊地勇之助

昭和十三年六月八日午后三時四十分開始（同五時終了）

場所 東洋大学第一会議室

委員 宇野・藤村・柴田・小林（順序不同）

筆記

宇野氏 では私から申し上げます、

小林氏 一寸お待ち下さい只今から第四回改正委員会を開きます、筆記を土屋君に前回通りお願する筈でしたが未だまいりませんので来たら変はることにして愛沢、菊地両君にお願いしたいと思いますですが如何でせう。

全員 善いでせう。

宇野氏 小林委員改正案は前三回で大体議了したわけであるがどうしても賛成し兼ねる点がありますので審議して戴きたいと思ふ

小林氏 中座

宇野氏 第五条（職制ヲ指ス）講師の問題であるが帝大も文理科大学も一ケ年になつて居りますから真似するのどうかと思ふが解任する場合の便宜もあるから一ケ年とした方が善い、其の方がやり善いと思ふがどうでせう。

小林氏 では職制第五条二項として

宇野氏 其の任期は一ケ年とすと挿入しませう

全員 結構でせう

小林氏 宇野先生の意見で第五条に講師の任期は一ケ年とすと挿入するが皆様如何でせう。

全員 結構でせう。

小林氏 学長は□□評議員会に諮問する程度であるから□□学長の意を体するものでなければならぬと思ふ□□休職解職自由□□

宇野氏 従来の評議會は諮問機関と言ひながら決議をするといふ風が見えたから之を報告としたら如何之なら善いでせう

全員 結構でせう

小林氏 第十四条予科長、専門部長、各科長及び学生主

事及び図書館長の補職、解職は学長協議員会に諮問して之を行ふべし、を「予科長、専門部長、

各科長、学生主事及び図書館長ノ補職、解職ヲ

ナストキハ学長協議会ニ報告スヘシ」と訂正す

皆様御意見がありませんか

全員 善いでせう

宇野氏 第十五条を教授講師の任免を為さんとするときは学長之を行ふべしと訂正したい

小林氏 文部省で内々御意見を伺つたら大東文化学院、

二松学舎等経営の困難なのは之を全部合同した

宇野氏	小林氏	宇野氏	小林氏	柴田氏	小林氏	藤村氏	小林氏	全 員	藤村氏	小林氏	宇野氏
らどうかと言つて居りましたが私は之を聞いて 実に淋しい気がしました	中島・藤村両先生の様な方々が学長であつた場 合なら弟子、或は友人が多いのだからそれ程で もないが大倉現学長の如く全々関係のない方が 来られたやうな場合困りあしないでせうか	宇野先生の御意見は一般的には非常に結構な事 であるが学園の為通して戴きたい 私も宇野氏と同一考へであることを申して置き ます。	では之を以て職制の審議を議了致します。	賛成（このとき藤村氏発言）	之は（十五条ヲ指ス）保留になるのぢあないか。 改めるわけにも行かないと思ひますから維持員 会に報告するにとゞめる	（これより教授会規則案審議に入る）	第七条第一項を「授業ノ予定及進度ニ関スル件」 と訂正したい	これは私も善く分らないから幹事長、教務幹事			

小林氏	宇野氏	小林氏	全 員	小林氏	宇野氏
に伺ひたいから五分間休憩して戴きます。	お待たせ致しました、原田幹事長にお伺ひたら先般宇野先生ともお話した通りこの会議に関することは聞かないで下さいと言ふ話ですから教授会には報告程度に学期始めに進度を提出せしむれば責任上、一学期に出来なかつたら二期に努力するとかといふ風にやらないわけにゆかないと思ふが	では教授会規則に異議有りませんか	賛成	(これより評議員会規則ニ入る)	<p>第六条を次の如く訂正したい</p> <p>一、教員ノ任用ニ関スル事項</p> <p>二、教科目ニ関スル事項</p> <p>三、緊急ヲ要スル事項ニシテ各教授会ノ議ヲ経ル暇ナシト学長思料シタルトキ</p> <p>四、其ノ他学長ヨリ諮問シタル事項</p> <p>第二項は異議が無いと思ふが第一項は前回もさうであつた様にどうしても君(小林氏ヲ指ス)と意見が合はない</p>

小林氏	第二項に就いてもう少し詳しく御説明願へませんか
宇野氏	今迄は古城氏と二人で相談して定めて居つたのだがこれではいけないと思ふからもつと広く意見を聞くために評議員会にかけたい
小林氏	之は財政に関係ありませんか
宇野氏	之は毎年定まつてやる学科目の内で何をやるかを相談するだけだから財政には関係ありません
小林氏	学校の許す範囲に於て
宇野氏	第六条第二項として「教科目ニ関スル事項」と挿入す。
小林氏	其点（第六条第一項）は幾度も言ふやうに君とは意見の相違なのだから宇野案・小林案とどうしても承知出来ないからと報告したい
藤村氏	皆んな相談して推戴した学長だから学長の意見を尊重したい
小林氏	評議員会で大倉学長が審議をお願いしましたら古城氏は何んだ前例も慣習も知らないでと一蹴した例を引く
小林氏	では第六条第一項だけを残し審議決定とします、異議なし
小林氏	（これより教職員規律に入る）
小林氏	休職中今迄は給与を支給しなかつたからこれを挿入したい
小林氏	之を以て教職員規律を決定します、 （これより懲戒規程に入る）
宇野氏	第二十三条の本規程施行前の事項に之を適用すはどうも
小林氏	部長或は左翼教授等が徒党をなした場合等が後で分つた場合
宇野氏	総ての法律は既往に遡ずと言ふのが原則だがこゝの会計にはそんなことはないが若し公金を費消したことが分つたような場合等で説明し附則第二十三条の必要を力説す、
小林氏	○こゝで宇野氏の意見あり
小林氏	附則第二十三条の規定を削除し第二十四条を第二十三条に改む。
小林氏	之を以て懲戒規定の審議を終了します。
小林氏	（之れより事務規定に入る）
全員	事務規定は別に異議もないでせう、
小林氏	事務規定は御意見有りませぬね、 （協議員会規則に入る）
宇野氏	これはどうも前のと関連して居るのだが第五条

藤村氏

第三項を削除致しまして四を三、五を四、六を五、七を六としたい、
私も宇野氏と同一意見である
こゝで小林柴田両氏は原案を支持し各自若干の意見の開陳あり

藤村氏

第一条を本財団としたい

小林氏

此処で全員意見の開陳あり「本学財団ノ大学側ニ協議員会ヲ置ク」と訂正したしと一致す、
藤村委員の意見により「本学財団ノ大学側ニ協議員会ヲ置ク」と改む

小林氏

では之を以て協議員会審議決定します。
(これより人事規程に入る)

小林氏

宇野氏此処で左の私案を提出す、
第一条 東洋大学ノ人事ハ学長之ヲ行フ
第二条 教授講師ノ任用ニ就テハ学長ハ予メ其々ノ各部長、各科長ハ当該各々一人以上ノ候補者ヲ選定シテ之ヲ評議員会ニ審議ス但シ一人ナル場合ハ関係ノ蜜ナル
第三条 教授講師ハ前学年二月中決定シ其ノ内諾ヲ得ルモノトス 以上
只今宇野委員より私案の提出が御座いましたが、之を見まするに穏やかな字句を使用して居

宇野氏

りますが原案より以上学長を拘束するものと意見を開陳ぶ

小林氏

学長は教授を任用する場合、実際として善く分らないと思ふ、私の場合に仮定して見ましても仏教等に関することになるから分らないから各部長、科長の推薦した者を審議すると言ふのであつて拘束すると言ふことにはならないと思ふ。
この特定人に委嘱するといふのがいけない例へばこの特定人を幹事長の場合とすると自薦他薦と山をなし公平に行くまい

藤村氏

前々から学長の自由、重みをつける等色々申し居りましたが第四条は其の自由を認め人格を尊重する意味に於ても原案を支持すと陳ぶ

小林氏

中島氏の時代にやはり困りまして私が作つたものだがやはり善いと(宇野氏私案を指す)思ふ
原案を絶対支持し一步も譲るわけに行かぬ旨力説

宇野氏

同じく同氏私案を絶対支持し一步も譲らざる旨力説す

小林氏

では改正委員会は之を以て終ることに致しまして其旨を維持員会に報告します。以上拾五頁。

二〇一 東洋大学財団維持員會議事速記録

〔昭和十三年六月一三日〕

○大学側財団維持員會議事速記録

昭和十三年六月十三日午後四時十分開会

○大倉学長 ソレデハ始メマセウ、此前ノ維持員会ノ決議事項ニナツテ居リマス東洋大学制規及評議員会ニ關スル規定修正ノ件ニ付キマシテ、東洋大学側維持員第一種ヨリ二名、第二種ヨリ二名選出シテ小委員会ヲ作ツテ、之ヲ審議決定シテ維持員会ニ報告スルコトニナツテ居リマス、其決議ノ決定シタモノヲ茲デ發表シテ戴キタイト思ヒマス、ソレデハ小委員小林サンカラ：

：

○小林委員 私ノ報告ハ此処デ申述ベルト云フコトガ、後刻申述ベルト重複シマスシソレカラ維持員会ノ決議ハ維持員会ニ報告ヲスルト云フコトニナツテ居リマスカラ、幾度モ繰返スコトヲ省略シタラドウカト思ヒマス、維持員会ノ席上ニ於テ報告致シタイト思ヒマス

○高島委員 ドンナモノヲ拵ヘタノデスカ

○小林委員 案ヲ配ツテ下サイ

(起草案配付)

○小林委員 其中ニ小委員会デ訂正致シマシタ箇条が別刷ニシテ挿入シテゴザイマスカラ……

○高島委員 是ハ大變ナモノダネ、コンナモノノ報告ナド聴イタツテ分リハシナイ、報告ヲ聴イテ、ソレデ僕等ガ宜シウゴザイマスト鵜呑ニハ出来ナイ

○小林委員 申上ゲマス、御説ノ通り之ヲ作ツテ御覧ニ入レマシテ、ウムサウカト所謂鵜呑ニ出来ナイガ故ニ、財団維持員中吾々四名ガ選出ヲ受ケマシテ立案シ、慎重審議決定シタモノデアリマス

○高島委員 一寸尋ネマスガ、四人ノ委員諸君ハ全会一致デ之ヲ決定セラレタノデアリマスガ、ソレトモドウ云フ事ニナツテ居リマスガ

○小林委員 全会一致決定致シテ居リマス

○宇野委員 一寸聴キマスガ、僕等ハ小林君ノ改正案ニ對シテ修正案ヲ出シタ積リデアリマスガ、是ハドウナリマシタカ

○小林委員 修正案ハ御出シニナラレタ憶エハゴザイマセヌガ……

○宇野委員 私ハ確ニ修正案ヲ出シマシタ

○小林委員 アナタハアナタノ御意見ガ是々デアル、維持員会ノ時ニ、自分ハ是々ノ箇条ハ絶対反對デアツタト云フ意味ヲ報告シテ呉レト云フノデ、此案ニ對スル

改正案デナシ、又之ヲ留保セラレタノデハ絶対アリマセヌ

○宇野委員 其修正案ハ藤村君ガ賛成シテ、其問題ニ対シテハ小委員会ハ二名宛ニ分レタト云フコトハ御承知ニナリマセヌカ

○小林委員 決シテ分レテ居リマセヌ、議事録ヲ御覧願ヒマス

○宇野委員 ソレデハ私ガ修正案ヲ出シタノハ修正案ト認メナイノデスカ

○小林委員 ソレハ載ツテ居リマセウ、議事録ニハ……

○高島委員 兎ニ角小林君ハ全会一致ト云フケレドモ、委員会ノ中デ全会一致デナイト云フコトヲ言ツテ居ル人ガアル、吾々ハドウモ之ヲ全会一致ノ決議トシテ鵜呑ニハ出来ヌ

○宇野委員 或ル簡条ダケハ小林君ノ信念ハ小林君自身トシテドウシテモ正シイト言フシ、私ハ私ノ長イ教育生活カラ、絶対ニ私ノ信念ハ曲ゲラレナイト言ウテ、結局此点ハドウシテモ一致シ兼ネルカラ、此改正案ニ対シテ修正案ヲ出シタト云フコトヲ報告シテ貰ヒタイ、斯ウ私ハ言ツタ憶エガアル

○小林委員 ソレハ違ヒマス

○宇野委員 サウオ取リニナリマセヌカ

○小林委員 サウハ取リマセヌ

○宇野委員 ソレナラソレデ宜シウゴザイマス、私ハサウ思ツタノデスケレドモ、サウオ取リニナラヌナラバオ取リニナラヌデ宜イ、驚キ入ツタコトダ、何シロ私ハ今日ノ会ニ対シテ、先ヅ此前ノ議事録ヲ一遍拝見シテ、自分ノ言ツテ居ルコト、違ツテ居ルカドウカト云フコトヲ確メテデナケレバ此議事ニ臨ミマセヌ、私ハ今日ハ一人デス、藤村君ガ居マセヌカラ、私カラ此点ハ明ニ申シマス

○大倉学長 ソレデハ議事録ヲ見テカラ……

○宇野委員 一寸此議事録ヲ見テ戴キマスト、例ヘバ評議員会規則ニ付テハ前ノ問題ト関係スルコトデアルガ、第五条第三項ノ人事ニ関スル事項ハ削除シ、以下一条ヅ、繰上ゲタイト私ガ申シタ、藤村君私モ同意見デス、小林君ノ話、トスルト宇野、藤村両委員ハ修正意見デ、柴田、小林両委員ハ原案支持ト云フコトナリマスネ、斯ウナツテマスネ、其修正意見ト云フノヲ修正意見ト認メナイノデスカ

○小林委員 後マデズツト御覧下サイマシ。参考マデニ申上ゲマスガ、私ハ公正ヲ期スル為ニ此速記録ハマダ目ヲ通シテ居リマセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○宇野委員 結構デス、私モマダ見テ居リマセヌ

○高島委員 一体議長サン、此原案ト云フモノハ、四人ノ委員ダケデ決メタノデ、謄写版カ何カデ間ニ合フ訳ダガ、活版刷ニナスツタノハドウ云フ訳デスカ

○小林委員 是ハ私ノ費用デ私ガ刷ツタノデス

○高島委員 費用ノ問題デハナイ、

○小林委員 高島委員ハ妙ナ質問ヲナサイマスガ、大体小委員会ト云フモノハ、去四月八日ニ私ノ本学ノ根本的建直シヲ致シタイト云フ精神カラ臨時維持員会ノ御招集ヲ願ヒ、其臨時維持員会ニ於キマシテ第一種カラ二名、第二種カラ二名ノ小委員ヲ選ンデ、東洋大学ノ根本的建直シヲスル為ニ、制規並ニ今日迄ノ評議員会ナルモノヲ改正セネバ可カスト云フノデ、色々ナ意見ヲ持チ出シマシタ、ソレハ議事録ヲ御覧下サレバ分ルト思ヒマス、其際ニ第一種、第二種カラ出サレル委員ハ、各自ノ自覚ニ基イテ推薦スルト云フコトデ推薦ヲセラレ、教授側カラ宇野博士、藤村博士ノ両委員ガ選バレ、校友側カラハ柴田先生ト不肖私ガ選バレタ訳デアリマス、其第一回委員会、即チ選バレマシタ四名ニ依ル所ノ第一回委員会ハ、去四月三十日此処デ開会サレマシタ、其席上ニ於キマシテ宇野委員ノ發言ニ基キマシテ、小林昌治ガ色々意見ヲ述ベタガ、本学ノ職制初メ諸制規ニ対スル改正ヲシタイト云フ具体的ナル成

案ヲ持ツテ居ルヤ否ヤト云フ御質問ニ接シマシタノデス、其際ニ私ハ、之ニ対スル成案ハ持ツテ居リマス、乍去ソレヲ小林昌治ガ提出スルト云フコトハ諸先生並ニ先輩ノ前ニ於テ甚ダ烏滯ガマシイ事デアアルガ故ニ、皆サント共ニ立案シ審議シタイ、ト云フコトヲ申述ベ、其際ニ従来ノ職制ニアリマシタ所ノ謄写版刷ノモノヲ各一部ヅ、手許ニ置キマシテ、サウシテドウ云フ所ガ良イカ、ドウ云フ所ガ悪イカト云フヤウナコトヲ種々意見ヲ戦ハシマシタ結果、宇野委員ノ發言ニ依リマシテ、之ニ対スル立案ハ一ツ小林昌治ニ一任シヨウト云フ事デアリマシタノデ、洵ニ厚カマシイ事デハゴザイマシタガ、皆サンノ折角ノ御言付ケデモアリマシタカラ、不肖私ハ之ヲ御受ケ致シマシタ、二週間ト云ツタ日限ヲ置イテ戴イテヤリマシタノデスガ、ソレガ二週間ヨリ三日遅レマシテ、十七日間掛リマシタ、ソレデ十七日間ノ後ニ於テ之ヲ審議シテ戴キタイト思ヒ、各委員ノ所ヘオ電話ナド致シマシタノデスガ、宇野委員ハ御郷里ノ方ニ御不幸ガアラレマシテ、ソレデ御帰国アラレタト云フコトヲ御宅ノ方カラ耳ニ致シタモノデアリマスカラ、私ハ宇野委員ノ御帰リニナラレルノヲ御待致シ、漸クニシテ六月二日ニ宇野委員ガ御帰リニナラレタト云フモノデスカラ、委員会ヲ開催スルコト

ニ致シマシタ、然ルニ其二日ノ第二回委員会ニハ藤村博士ハ無断欠席、宇野博士ハ御差支ガアリマシテ欠席サレルト云フ御申出ガアリマシテ、私ト柴田両委員ニ於キマシテ是ガ成案ニ対スル第一回ノ審議ヲ致シタノデアリマシタ、吾々ト致シマシテハ全文ヲ無修正デ以テ可決シタノデアリマシタガ、併シ教授側ノ両委員ノ御欠席ノコトデモアルカラ之ヲ一日ニ於テ審議確定スルト云フコトハ穩カデナイト云フノデ之ヲ延シタノデアリマス、サウシテ六月五日ニ第三回ノ委員会ヲ開キマシタ、六月五日ノ第三回委員会デハ一応全部議了致シマシタガ、矢張り決定ニ至ラズ、六月八日ニ第四回委員会ヲ開キマシテ、修正文ヲソコニ挿入致シマシタ以外ハ全部可決致シタノデアリマス、右様ナ次第第二基キマシテ、私ハ立案ヲ命ゼラレタ立場カラ其責任ヲ果ス為ニ印刷ニ附シ且ツ皆サンノ御手許マデ差上ゲルコトニ致シマシタ次第デアリマス、ドウカス様ナ理由ニ基キマシテ印刷ニナリマシタ次第デアリマスカラ、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○高島委員 イヤ洵ニ御好意ハ有難イガ、僕ガ聴イタノハサウ云フコトデ聴イタノデハナイ、ソレハ原案ナンダカラネ、之ヲドウ修正サレルカ分ラヌ、或ハ場合ニ依ツテハ全部廃案ニナラヌトモ限ラヌ、ダカラ四人ノ

委員諸君ダケガ御覽ニナツテ決定シタモノヲ御印刷ニナツテ遲シトモセヌニ拘ラズ、斯ウ云フ原案ノ儘ヲ印刷サレテ居ルト云フコトハ、何カ知ラ吾々ハ一種ノ強圧ヲ感ズルヤウナ氣ガスルンダネ、原案ヲ以テ吾々ニ強制スルト云フ意思ハ無論ナカラウガ、沢山印刷シテアル所ヲ見ルト、何カ知ラソソナヤウナ感ジガスルモノダカラ、其辺ヲ一寸聴イタダケデアツテ、兎ニ角モウ時間ガナイ、次ノ会ガ始ル時間ダ

○小林委員 然ラバ私ノ之ニ対スル説明ハ、維持員会ニ於テ述ベルコトニ致シマス

○柴田委員 私モ委員ノ末席ヲ汚シマシタ關係上、一寸私ノ立場ヲ申上ゲマス、委員会ニ於キマシテハ先程小林君ガ御話ニナリマシタ通り、非常ナ熱心ヲ以テ慎重審議ノ結果、原案ノ通り決定シタノデアリマス、ソレニ宇野委員ノ方カラ修正案ガ出マシテ、ソレハ維持員会ニ於テ報告ヲスルト云フ御話ガアツタノデアリマス、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

○宇野委員 議事録ハ私ガ言ツタ通り書イテアリマスカネ

○小林委員 維持員会デ報告スルコトニ致シタラドウデスカ、私ハ茲デ報告スル自由ヲ持チマセヌ

○宇野委員 私ハ修正案ヲ出シタケレドモ、修正案ガ用

キラレナイト云フナラバソレデ宜シイ、小委員会ト云フモノハ御互ニ都合ヲ聞合セテ、集ツタ時ニ相談スルノガ小委員会ノ性質ト私ハ思ツテ居リマシタガ、私ノ都合ガアツテ悪い時デモ開イテ勝手ニヤツテ、ソレデモ委員会トシテ成立シタモノトスルノデゴザイマスカ、サウ云フ規則ガアルノデスカ

○大倉学長 ソレハ規則デハアリマスマイ

○小林委員 第二回ノ委員会ハ決シテ私共ガ独断専行デヤツタノデハアリマセヌ、十七日ニ成案ガ出来タモノヲ、宇野先生御不幸ノ為ニ二十日マデ私共ハ御待致シマシタ、ケレドモ二十日ニナツテ御帰リニナラナイ、二十二日モ二十三日モ、毎日ノヤウニ御電話致シマシタ、然ニ二十三日ニ御宅ノ方カラ今晚御帰リニナルト云フ御電話ガアリマシタ、ソコデ二十四日ニ実ハ又御電話ヲショウカト思ツタノデスガ、昨晚帰ラレタノニ今日御電話スルト云フコトハ余リニモ厚カマシイ事ダト思ヒマシタノデ、一日措キマシテ二十六日御電話致シマシタ、サウ致シマス丁度日曜日デゴザイマシタガ、別荘ノ方ニ御出ニナツテ居ラレル、実ハ私ハ其別荘ノ方ヘ御出ニナツテ居ルト承リマシタ時ニ、其以前ニモ実ハ斯ウ云フ訳デ先生ハ御承知デアルガ、東洋大学デ是々ノ委員会ガアリマシテ、ソレノ成文ガ既ニ出

来テ居リマス、ドウカソレニ付キマシテ一日モ早く審議ヲ進メテ戴キタイト思ヒマスカラ、先生ガ御帰リニナリマシタラ、大学ノ方ヘ直チニ御電話ナリデモ御知セ下サイマスヤウニト云フコトヲ呉々モ申上ゲタノデアリマス、然ニ二十六日ニナリマシテモ二十七日ニナリマシテモ、二十八日二十九日ニナリマシテモ何等ノオ便リニ接シナカツタモノデスカラ、確カ二十九日カ三十日カ、御待スルダケ御待シタ上ニ於テ御出ニナラヌモノデスカラ、実ハ御端書ヲ差上ゲタノデアリマス、其時ニ第二回ノ委員会ノ通知ヲ財団理事ノ名前ニ於テ出シタコトハ穩カデナイト云フ御話ガアリマシタ、其際ニ申述べマシタノハ、即チ小林昌治ノ成案ガ出来タナラバ是ハ小林昌治ノ名ニ於テ委員会ヲ招集スルト云フ申合せガゴザイマシタ、其承諾ヲ得テ私がヤツタノデアリマス、故ニ第二回委員会ハ財団理事ニハ全然責任ハアリマセヌ、殊ニ財団理事ニ責任ガナイバカリデナク、財団理事ガ通知ヲ出スト云フコトハ怪シカラヌトマデ宇野委員ハ仰セラレタ、故ニ小林昌治ハ、サウ云フ御意思デアラレル宇野委員ガ、小林昌治ノ名ニ於テ第二回ノ委員会ヲ招集シタ、ソレニ対スル尻ヲ財団理事ニ持ツテ行カレルト云フコトハ、私ハ甚ダ當ヲ得テ居ナイト思ヒマス

○宇野委員 デハ私申シマスガネ、私ガ色々ナ都合上：

：

○高島委員 モウ時間デスカラ、止メタラドウデス

○宇野委員 デハ時間ガナイカラ止シテ置キマセウ

○大倉学長 ソレデハアトハ維持員会デ御願シマス

午後四時三十八分散会

千秋文庫所蔵

二〇二 東洋大学財団維持員会議事速記録

〔昭和十三年六月一三日〕

○東洋大学財団維持員会総会議事速記録

昭和十三年六月十三日午後五時開会

○大倉議長 ソレデハ是カラ維持員会ヲ開催致シマス、

維持員二十八名ノ出席者二十四名、委任状一名デア

リマシテ、定数ニ満チマスカラ是カラ維持員会ヲ開キ

マス、御手許ニ差上ゲマシタ議案ノ第一京北実業学校

昭和十三年度分追加予算ノ件、ドウゾ……

○安藤理事 京北実業学校十三年度分追加予算デアリマ

スガ、実業ノ方ノ暖房ハ建築ヲ致シマスル時ニ、中学

ノ方ノ暖房室ノ一部分ヲ借りマシテ、彼処カラ「コー

ス」ヲ取ツテ実業ノ方へ来テ居ルノデゴザイマス、所
ガ中学ノ方ハ石炭ヲ使用シテ焚イテ居ラレマシタガ、
実業ノ方ハ重油ヲ用ヒルヤウニ機械ヲ備付ケタノデア
リマス、所ガ今回警視庁ノ方カラ暖房ニ重油ヲ用ヒル
ト云フコトハ此際廢メテ呉レ、同時ニ石炭ヲ用ヒルヤ
ウニ其設備ヲ改造シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ話ガアリマ
シタ、ソコデ已ヲ得ズ中学ノヲ其儘ニ置イテ改造ヲス
ルコトガ出来ルカドウカト云フコトモ研究ヲシテ見タ
ノデアリマスガ、ドウモ機関室ノ前デ焚クヤウニシマ
スノデ、又中学ノ方ハ非常ニ水ノ出ル所デアリマシテ
中々難シイ、モウ一ツハアレヲ建テマシタ時ト今日ト
ハ規則ガ變ツテ居ルサウデ、アレヲ若シ改造スルトナ
ルト、中学ノ煙突ハ細クテイケンイ、アレヲモット大
キナ物ニシナケレバナラス、斯ウ云フヤウナ二ツノ事
ガゴザイマスノデ、一層ノコト実業学校ノ裏ノ方ヘ持
ツテ来ルコトヲ考ヘマシテ、幸ナ事ニハ三月ノ時ニ是
マデ汚物汚水ヲ浄化シテ居リマシタ其浄化装置ガ不要
トナツタ、ソレハ汚物汚水ヲ浄化シナイデ其儘直グ東
京市ノ下水ニ放流シサヘスレバ宜イ、斯ウ云フ事ニナ
リマシタノデ、ソレハ三月ニ改造シタノデアリマス、其
跡ノ浄化槽ト云フモノガ空クコトニナリマシタノデ、
其処ニ暖房室ヲ特設シヨウ、斯ウ云フ訳デゴザイマス、

ソコデソレヲ改造致シマス、ソレニ付テ又現在裏ノ方ニ自転車置場ガゴザイマスガ、ソレガドウモ低クナリマシテ、頭ガ支ヘテ暖房装置ノ邪魔ニナリマスカラ、随テ自転車ノ置場モ亦改造ヲシナケレバナラス、斯ウ云フヤウナ事ニナリマシテ、此追加予算ヲ提出シタ次第デゴザイマス、ソレデ其暖房改造工事ニドレダケ掛ルカト云フト、一万一千三百七十九円デアリマス、ソレハ「ボイラー」室ヲ改造スル工事が二千四百二十円、煙突工事二千五百七十円、煙突ヲ裏ニ立テルノデゴザイマス、ソレカラ「ボイラー」ノ組替、中学ノ方ノ暖房室ニ借リテ居リマシタノヲ持ツテ来マシテ、ソレヲ組替ヲシタリ、又配管ヲ變更スル工事が三千七百四十八円、ソレカラ中デ暗室等ニナリマスカラ電灯及電力ノ引込ヲスル工事が三百五十円、其序ニ是ハ必シモヤラナケレバナラスト云フ訳デハアリマセヌガ、便所ノ方ノ水ヲ井戸カラ揚ゲテ居ルノデアリマスガ、ソレガ時々狂ヒマシテ、毎月一回位ヅ、修繕等ヲヤツテ居リマス、ソレヲ一層ノコト階下ダケナリ水道ノ方カラ持ツテ行クヤウニ変換シタイ、斯ウ云フ事デゴザイマシテ、其便所ノ配管變更ガ五百二円、ソレカラ先刻申シマシタ自転車置場ヲ一ツ拵ヘ直サウト云フノガ是ガ中々掛リマスノデ千八十二円、以上ガ合計デ一万三百八

十二円、其見積リハ大倉土木株式会社カラ見積ヲ致シタノデゴザイマス、ソレカラ水道ヲ引込スル工事中ノ^{ロスキ}□□迄ハ市ノ方ノ水道課ガスルモノデ、此方デ手ヲ著ケルコトガ出来ナイド云フ訳デアリマスガ是ガ二百円、サウシテ浄化槽ノ跡片付工事、是ハ田中工務所ニ依ツテ殆ド片付キマシタガ、中ノ浄化槽ノ分ハ区分ケニナツテ居ル其仕切ヲ除ツタリ、中ヲ綺麗ニ致シマシタノガ六百九十七円デアリマス、其次ニ予算費ト書イテアリマス、是ハ「タイピスト」ガ間違ヒマシテ、予備費ノ間違デアリマス、予備費ト申シマスカ、雑費ト申シマスカ、ソレヲ百円計上シテ置イタノデアリマシテ、合計一万三千三百七十九円掛リマス、其金ハドウシテ出スカト云フト、前年度迄ノ剰余金ガ相当ニゴザイマスカラ、其中カラ一万三千三百七十九円ハ出サウ、斯ウ云フ計算ヲ立テタノデゴザイマスガ、ドウカ一ツ御承認ヲ願ヒタイト存ジマス、尚ホ茲ニ図面等モ参ツテ居リマス、大倉ノ見積書モ出テ居リマス、御質問ガゴザイマシタラ御答致シマス

○大倉議長 追加予算ノ件ノ御説明ガアリマシタガ、御意見如何デスカ

○鈴木委員 収入支出ノ予算表ハ拝聴致シマシタ、前年度ノ剰余金カラ支出スルト云フコトデアリマスガ、吾

々ハマダ決算ヲ承ツテ居リマセヌカラ分リマセヌガ：
○安藤理事 前カラ剰余金ガ残ツテ居ルノデス、ソレハ決算ヲ御覽ニナレバ分リマス

○鈴木委員 ソレヲ承リマシテ吾々非常ニ安心致シマシタガ、ドウゾ是ハ必要欠^ツグベカラザル費用ト感ジマスガ故ニ、是非皆サンノ御同意ヲ得タイト申上ゲマシテ私ハ賛成シマス、ト同時ニ予算、決算ノ方ハマダ拝聴致シマセヌケレドモ、必ズ会計年度ニ支払フベキモノト確信シテ居リマスガ故ニ、モウ六月ニナリマシタカラ財団ノコツチノ方ニドウゾ御序ニ御漏シ下サレバ洵ニ結構ト存ジマス、唯是ダケヲ希望申上ゲマシテ、実業学校ノ方ノ今度ノ申入ニ対シ、安藤先生ヲ信用致シマシテ、全部賛成致シマス、皆サンモドウゾ御賛成下サレバ結構ト存ジマス、是ダケ申上ゲマス

○安藤理事 実ハ十二年度ノ決算ヲ是ト同時ニ出ス積リデアリマシタ、所ガマダ一方ノ方デ準備ガ出来ナカッタ為ニ、先ヅ差当リ之ヲ先ニヤラナケレバ警視庁ニ出願シナケレバナラヌ、ソレガ中々手間ガ取リマスカラ、ソレデ是ダケ急イデ出シタヤウナ次第デゴザイマス

○鈴木委員 学長サンニ洵ニ済ミマセヌガ、実ハ私ハ此財団ノ財産ニ非常ニ心配ガアルノデス、此前ニ私ハ維持員トシテ賛成ハ致シマシタガ、非常ニ反対ノ方モ居

ラレマシタ、ドウモ年々ノ借財ノ増スト云フコトニハ吾々ハ非常ニ憂慮ニ堪ヘマセヌ、是ハ特ニ此際申添ヘテ置キマス

○大倉議長 ソレデハ追加予算ノ件ハ是デ決定シタモノト見テ宜シウゴザイマスカ

（「異議ナシ」「賛成」ト呼ブ者アリ）

○大倉議長 ソレデハ十三年度追加予算ハ原案通り決定致シマス

○大倉議長 次ニ此前四月八日ノ維持員会ニ於キマシテ決議サレタ事項ガゴザイマス、ソレハ御記憶ダト思ヒマスガ、東洋大学制規及評議員会ニ関スル規定改正ノ件ニ付キ、東洋大学側維持員第一種ヨリ二名、第二種ヨリ二名ヲ推薦シ小委員会ヲ作り、之ヲ審議決定シ維持員会ニ報告スル事、斯ウ云フコトガ決議サレテ居リマス、ソレニ依ツテ小委員会ハ度々会合ヲシテ大変御苦勞ヲ願ツタノデアリマスガ、本日其審議決定ヲ維持員会ニ報告ヲ伺ヒタイト存ジマスガ、原案ヲ作ラレタ小委員小林サン、説明ヲ願ヒマス

○小林委員 只今御指名ヲ戴キマシタ小林デアリマス、財団理事カラ御説明ガゴザイマシタヤウニ、去四月八日臨時維持員会ニ於キマシテ、東洋大学制規制度ニ関

スル事ニ付キマシテ、私共意見ヲ開陳致シマシタ所、只今議長ガ報告サレマシタ如ク、維持員会ノ決議ニ依リマシテ、東洋大学維持員カラ四名ノ小委員ガ選出セラレマシテ、ソレハ教授側カラ宇野哲人先生、藤村作先生、校友側カラハ柴田甚五郎先生、不肖私ノ四名デゴザイマス、此四人ニ依リマシテ構成致シマシタ小委員四名ハ、三十日はガ第一回ノ委員会ヲ招集致シマシタ次第デゴザイマシタガ、其委員会ニ於キマシテ私共四名ガ出席致シ、従来ノ東洋大学制規、東洋大学職制ト名付ケテゴザイマシタモノヲ資料ト致シマシテ慎重ニ審議致シマシタ所、各委員共其不備ヲ発見シ、何トシテモ之ヲ是正シナケレバナラヌト云フコトニ意見ガ一致シタノデゴザイマシタガ、其際ニ宇野委員カラ、何力成案デモナイカト云フ御質問ガ不肖私ニ対シテゴザイマシタノデスガ、私モ多少ノ成案ハ有ツテハ居リマスガ、乍去私が教授ト力、先輩ノ方ノ前ニノサバリ出テ、自ラ其成案ヲ申述ベルト云フコトハ洵ニ僭越デアリマスカラ、ドウカ皆サント共ニ審議致シタイ、或ハ是正スル所ハ是正シ、或ハ補フ所ハ補ヒタイト云フ意見ヲ申述ベマシタ所、其後色々不備ナ点ニ付テノ質問応答ノアリマシタ後ニ、宇野委員カラ、此改正ヲスルト云フ事ニ付テハ賛成デアアルガ、併シ其立案方ヲ

小林昌治ニ一任シテハドウカト云フコトガ委員会ニ掛ケラレタ、サウシマスト他ノ委員諸氏ハ宜カラウト云フ御言葉デゴザイマシタノデ、私洵ニ厚カマシウゴザイマシタガ、デハ皆サンノ御指名ニ依リマシテ及ズナガラ御受致スコトニナリマシタ訳デアリマス、其後約二旬ノ日ヲ経過致シマシテ御手許ニ差上ゲマシタ所ノ、甚ダ杜撰ナ案デハゴザイマスガ、自ラノ及ブ限リノ力ヲ尽シテ作成致シマシタノガ此案デゴザイマス、此案ガ出来マシタ所、一日モ早ク母校ノ為、又自ラノ責任ヲ果シテ戴キタイ為ニ、委員会ヲ開イテ戴キタイト思ツタノデアリマスガ、宇野先生ノ方ニ御取込ガゴザイマシテ、先生ガ御帰国等ノ事ガアリマシタ為ニ遅延致シマシテ、是ガ第二回ノ委員会ハ六月二日ト云フ日ニナツタノデアリマス、所ガ更ニ宇野先生ガ御差支ガアリマシテ、第二回ノ委員会ニハ御欠席ニ相成ルト云フ御通知ヲ戴キマシタ、然ニモウ一方ノ藤村委員ガ無断デ御欠席ニ相成リマシタノデ、私共ハ予定ノ二時ニ委員会ヲ開クマデ、御出デ下サルカノト思ヒマシテ、実ハ六時半マデ御待チシタ次第デゴザイマシタガ、矢張り御出ガゴザイマセヌ、デモ是ダケ御待シテモ御出願ヘナイ以上ハ、是ハ己ヲ得ヌ、既ニ半数ノ人間ガ出席シテ居ルノデアラカラ審議致シマセウト云フノデ、

柴田委員ト私トデ以テ審議致シマシタ、デ第二回委員会ニ於キマシテハ慎重審議致シマシタ結果、無修正ヲ以テ原案通り可決シタノデゴザイマス、乍併可決ヲシタト申スモノ、是ガ決定ニ付テハ教授側ノ兩委員ガ御見エニナツテ居ラヌノデアリマスカラ、兩委員ノ御出ヲ願ヒ、モウ一度委員会ヲ開イテ其席デ決メルコトニシヨウ、是ガ人間トシテ穩カナ道デアラウト云フ申合セヲ致シマシテ、第三回ノ委員会ヲ去六月五日ニ致シマシタ次第デゴザイマス、所ガ其第三回委員会ノ劈頭、宇野委員ヨリ、第二回ノ委員会ノ申合セナルモノヲ見テ見ルト、無修正通過トシテアルガ、誤植其他ニ付テノ間違モ全然認メナイノカト云フ御話ガゴザイマシタノデ、誤植等ガゴザイマスナラバ、是ハドウカ直チニ御修正ガ戴キタイ、改メル場所ガゴザイマスレバ改メ、又誤植等ガゴザイマスナラバ是ハ是正シタイト思ヒマスト釈明ヲ致シマシテ、イヤソレナラバ分リマシタト云フノデ、懲戒規程ノ第三頁ノ十六條但書「但本人ノ居所不明ナルトキ又ハ審問ニ応ゼザルトキハ此ノ限りニ非ス」ト云フ「ニ」ガ抜ケテ居リマシタ、脱落シテ居ツタ訳デアリマス、是ダケガ要スルニ誤植デアルト云フ御修正ヲ戴キマシテ、アトハ無い、ソレカラ議事録ハソチラニ整備サレテ居ルト思ヒマスガ、議

事録ニゴザイマスヤウニ種々宇野先生カラ御意見ガ出マシテ、又藤村先生カラモ御意見ガ出マシテ、更ニ柴田先生カラモ御意見ガ出マシタ、不肖私モ亦及ブ限リノ答弁ハ申上ゲタ次第デゴザイマス、デ第三回ノ委員会ニ於キマシテ、一應議論ハシテ戴キマシタガ、矢張り二、三賛成シ兼ネル所ガアルト云フコトデ、審議決定ハ次回ノ第四回ノ委員会ニ持越スト云フコトデ、第三回委員会ハ散会ヲシタ次第デアリマス、デ第四回ノ委員会ヲ去六月八日ニ矢張り本学ニ於テ開会シマシタ、別項「東洋大学制規改正委員会修正ニヨル条項抜萃」ト云フモノヲ差上ゲテ置キマシタガ、是ダケノモノガ委員会デ修正ヲ受ケマシテ、一ツ／＼審議シテ戴キマシタ結果、全部審議決定ヲ戴キマシタ次第デゴザイマス、唯茲ニ一言補ツテ申上ゲテ置キマス事ハ、東洋大学協議員会規則ナルモノガ、ズツト終ヒノ四十九頁ニゴザイマスガ、此協議員会規則ニ、本学ノ人事ニ関スル事ヲ初メテ申述ベテアリマスガ、此人事問題ニ端ヲ発シマシテ、宇野委員ハ、自分ハ此協議員会規則第五條第三項ノ人事ニ関スル事項、此一項目ニ対シテハ賛成シ兼ネル、且又他ノ規則中ニ於テモ人事ニ関スル事ニ於テハドウモ賛成出来ナイ、更ニ教授評議員会規則ニハ、人事ノ項ガ省カレテ居ルガ、之ヲ教授評議

員会規則ノ中ニ挿入シテ貰ヒタイト云フ修正意見ヲ御提案ニナリマシタガ、是ハ不肖私司会者トシテノ立場カラ審議致シマシタ結果、遺憾ナガラ吾々ハ之ニ対シテハ賛意ヲ表シ兼ネル、飽迄モ言ヒ切ツタノデゴザイマス、スルト宇野委員ハ、イヤハ第三回委員会ニ於テモ飽マデ君ト意見ヲ戦シタコトデアル、デ君ノ意見ハ能ク分ツテ居ル、ガ併シ同時ニ自分ノ意見モ斯ウデアルト云フコトヲ、委員会ニ於テ報告シテ貰ヒタイ、此案ハ此案デ審議決定シテ宜シイト云フコトデ、審議決定ヲ戴イタ訳デアリマスガ、唯今申上ゲマシタ如ク、宇野委員カラハ人事ニ対シテハ反对デアツタト云フ御意見ダケハ出マシタ、ソレヲ維持員会ニ報告セヨト云フ御言葉ガアツタ事ダケヲ茲ニ附加ヘテ申上ゲマス、以上ノヤウナ経過ヲ以マシテ委員会ハ各条文ノ審議ヲ一ツ／＼御進メ願ヒ、サウシテ一ツ／＼審議決定ヲ致シ、全部ガ審議決定ニナリマシタヤウナ次第デアリマス、ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス、尚ホ御不審ノ点ガゴザイマシタナラバ承ツテモ宜シウゴザイマスガ、ドウカ左様ナ事情デアリマスカラ私共ノ微衷ヲ御諒察戴キマシテ、何卒本案ガ無事ニ皆サンニ依ツテ御承認ヲ賜ランコトヲ委員ノ一人ト致シマシテ切ニ御願申ス次第デアリマス

○宇野委員 私ハ小委員ノ一人トシテ審議ニ参加シマシタ宇野ト云フ者デゴザイマス、只今小林君ノ報告ハ、大体ニ於テ其通りデアツタノデアリマスガ、最後ノ人事ニ関スル規定ノ問題ハ、私ハ修正案ヲ提出シテ小林君ノ案ニハ絶対ニ賛成ガ出来ナイト云フコトヲ申シマシ^マデアリマス、其時ノ小委員ハ無論只今御話ノアツタヤウニ四名デアリマシタガ、其中二名宛ニ分レマシテ、其議論ガ遂ニ決定ニ至ラナカツタト私ハ記憶シテ居リマスガ、小林君ハ只今御話ノヤウニ此案ハ全部四人ノ同意ヲ得テ決定サレタト云フ御話デアリマスガ、私ハ其時ニ人事ニ関スルモノダケハ絶対ニ賛成シナイト言ヒ切ツテ、サウシテ其審議ヲ止メタノデアリマス、ソレダケノ事ヲ私ハ申上ゲテ置キマス、私ノ人事ニ関スル問題ヲドウシテモ賛成シ得ナカツタ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、只今小林君カラ申サレマシタヤウニ、小林君ハ学園将来ノ発展ノ為ニ非常ニ憂フル所アツテ、サウシテ非常ナ努力ヲ以テ此案ヲ作ラレマシタカラ、ソレニ対シテ私共ハ非常ニ敬意ヲ表シタノデアリマス、但私ノ信ズル所ニ依リマス、人事ニ関スル限リ小林君ノ考ト、私ノ考トハドウシテモ一致スルコトガ出来ナカツタノデアリマス、小林君ガ此学園ノ為ニ斯ウデナクチヤナラスト信ゼラレル所ガニ盛ラレテアリマ

ス、私ハマダ是デハドウシテモイケナイト信ズル所ガアリマス、此問題ニ付テハ度々議論ヲ戦ハシマシテ、小林君モチヤント是ダケ作ラレル位デアリマスカラ、私ガ幾ラ言ツテモ自説ヲ枉格拉レマセヌ、私モ長イ間ノ教育生活ノ経験上、人事ニ関スル限リ私ノ信ズル所ハ幾ラ小林君ガ言ハレテモ、私ノ信念ヲ枉ゲル訳ニ行キマセヌ、ソコデ私ハ私ノ主張ヲ申シマシテ、最後ニ此案ハ人事ニ関スル限リドウシテモ賛成ガ出来ナイト云フコトヲ申シ張ツタノデアリマシテ、其際ノ私ノ説ト小林君ノ説ト二名ツ、分レマシテ、不幸ニシテ満場一致ト云フコトニ至ラナカツタノデアリマス、人事ニ関スル事ハ協議員会規則ノ外ニ、条章ガゴザイマスカラ、其条章ニ対シテ私ハ一々此点ハト云フコトデ訂正スベキ所ヲ私ノ修正意見ヲ出シタノデアリマシタガ、只今小林君ノ言ハレタヤウナ風ニシテ、小林君自身私ノ案ハ修正案トシテ認メナイト云フ立場デアツタカト考ヘラレマスガ、私ハドウシテモ賛成出来ナイト云フコトヲ強情ニ言ヒ張ツテ、此小委員会ハ閉ジタ訳デアリマス、ソレデ私ノ言ツタコトヲ是非報告シテ貰ヒタイト云フコトヲ最後ニ申シタコトハ私モ認メテ居リマス、ソレダケノ事ヲ一寸申上ゲテ置キマス、

○鈴木委員 此東洋大学財団ノ規定ハ一条カラ二十四条

デアリマス、乍併京北中学及実業ノ方ハ五十条ゴザイマス、此財団ノ事ニ付テハ兩ヲ冒シ雪ヲ冒シ、サウシテ実業学校ノ校舍ヲ造ルガ為ニ、銀座辺マデ歩イテ、靴ノ先ガバラ／＼ニナツテ金ヲ貰ツテ来タコトヲ知ツテ居ル、之ヲ若シ此案ノ如クニシテ、東洋大学ノ方ノ側ノ方ガ、京北中学若クハ実業学校側ノ人事ノコトニ関係シテ宜シイト言フナラバ、学長ハ如何ニ致シマスカ、学長ノ任免ニ付テノ所信ヲ承リタイ、私トシテハ中学ソレカラ実業学校ノ方ハ、私一人ノ意見デハ、学長ノ意見ハ御免ヲ蒙リマス、吾々ハ与ヘラレタル所ノ予算ニ基イテ実行シタイト斯ウ感ジマスガ故ニ、大倉サンガ如何ニジタバタシテモ、吾々ハ断ジテ受付ケマセヌ、若シ之ヲ東洋大学ノ維持員会ノ議ニ諮ツテ人ノ詮衡マデ為サルト云フ事ヲ為サルナラバ、吾々ハ断然反对致シマス、学長ノ意見ヲ承リタウゴザイマス

○早川委員 只今鈴木委員カラ学長ノ御意見ヲ求メテ居リマスカラ、或ハ何カ御意見ノ開陳ガアルカモ知レナイノデアリマスケレドモ、小林サン宇野サンノ御話ニ基イテ私申上ゲマス、大学ノ制規改正委員会ガ出来マシテ、委員方ガ非常ナ御苦労デアツタト云フコトハ十分御察申上ゲマス、デアリマスガ此問題ガ今日此席ニ御報告ニナツタト云フコトニ対シテハ、決シテ非難ハ

致シマセヌ、異議モアリマセヌ、前回ノ維持委員会ノ成行カラ見マシテ、必然ノ御報告ダト考ヘマスガ、唯私共ハサウ云フ委員会ノ經過デアツタノカ知ラント云フ事、及び此案ヲマダ拝見致シマセヌガ、是ガ非常ニ厶大ナル多岐ニ亘ル複雑ナルモノデアルト云フコトヲ吾々ハ承ツテ置クニ止メタイト存ジマス、何トナレバ大学内部の問題トシテ是ハ非常ニ重大ナ問題デアルカトモ考ヘマス、随ツテソレガ為ニ今突然之ヲ出サレマシテモ、之ヲ拝見スル時間ガアリマセヌシ、且又今日迄ニ從來ノ制規ハドウ云フ風ニナツテ居ルカ、甚ダ迂遠デアリマスケレドモ、維持員トシテ知ツテ居ルベキ筈ノモノデアツタラウト思ヒマスケレドモ、事実ハ余リ存ジテ居リマセヌシ、且又四五ノ独立ノ案ガゴザイマスガ、從來ノ御規則トドンナ關係ニアルカ、從來ノモノヲ全部廢止シテ新シク之ヲ作ツタノデアアルカ、或ハモウ一ツ從來ナカツタモノヲ御作りニナツタノデアアルカ、或ハ從來アツタモノナラバ從來ノ何処ヲドウ云フ風ニ御變更ニナリマシタノカト云フコトヲ、抜萃式ニハツキリ御示下サイマスレバ洵ニ分リ宜イノデアリマス、從來アツタモノトスレバ、今之ヲ配付サレマシタ時ニ、是ト比較シテ直グ分ルンダト思ツタ所ガ、サウデナイ、此改正案ヲ更ニ修正スル条項ノ抜萃ト、是ト

比較シマス、只今御報告ニナリマシタ程度ノコトハ分リマスケレドモ、從來ノ規則ト此改正案ト區別サレテドウ云フ風ニ改正サレタカト云フコトハ、今之ヲ拝見シテ今直グ是ガ意見ナド、云フモノハアル筈ハアリマセヌシ、且又吾々ハ意見ヲ申述べル地位ニナイト考ヘマスガ故ニ、此前ノ維持員會デ、三島理事ガ京北側ノ職員トシテ申サレタ其意見ハ、今日尚ホ其様ニ信シテ居リマス、唯財団全体ノ上ニ於テ財団ノ興亡盛衰ニ重大ナ關係アルヤウナ場合ニ於テハ、或ハ黙視スルコトハ出来ナイカモ知レマセヌガ、今日ニ於テハ之ニ付テ意見ヲ述べル余裕モゴザイマセヌシ、頭ニ何モマダ浮ンデ居リマセヌカラ、唯報告ヲ承ルノミニ止メマスト同時ニ、宇野サント小林サンノ御話ヲ承ツテ見ルト、委員会ノ報告ノヤウデアリマスケレドモ、委員会ガ何ダカマダハツキリ委員会トシテ意見ガ一致シナカツタト云フコトノ報告デアルノカ、意見ガ一致シタト云フコトノ報告デアルノカ、マダ其間ニ議ノ熟スベキ余地ガ十分アルノデナイカ、之ヲ唯前回ノ維持員會ノ成行デ御報告ニナツタ、ソレヲ唯承ツテ置クニ止メタイト存ジマス、尚ホ之ヲ今拝見シマスコト、此儘御出シニナルノデハナイデセウカラ差支アリマセヌガ、普通ノ法規ノ書キ方ナドハ一種ノ約束ガアリマスカラ、サウ

慣習ニ拘泥ル必要ハアリマセヌガ、十分デナイ点モアリマス同時ニ、財団ノ寄附行為ガハツキリト認メテナイ、財団理事長云々ト云フヤウナコトガ四十九条ニアリマス、斯ウ云フコトハ此儘デ若シ大学内部デ規則ニナルニシテモ余リ穩カデナイヤウナ氣ガ致シマスカラ、更ニ御研究願ヒタイト思ヒマス、ソレダケ申上ゲテ置キマス

○小林委員 申上ゲマス、私ハ三ツニ分ケテ答弁致シマス、同時ニ一ツハ質問デゴザイマス、先程京北ノ一番向側ノ維持員ノ御方カラ、財団ニ関スル思掛ナイ御言葉ガゴザイマシタガ、私共ハ先程カラ申上ゲマシタ如ク、委員ニハ本学内部ノ制規ニ関スル委員トシテノ資格ヲ与ヘラレ、又ソレニ基イテ立案致シテ居リマスガ、聊モ京北財団ニ対シテハ立入ツタ覺ハゴザイマセヌ、然ニ京北ノ人事ガ彼是レ、或ハ銀座カラ歩イタソレハ銀座カラ歩カレタカ、或ハ横浜カラ歩カレタカ、北海道カラ歩カレタカ、ソナコトハ私共更ニ関スル限リデハアリマセヌ、然ニソレヲ例ニ引カレ、更ニ學長ガ如何ニ偉カラウガ、京北ノ人事ニ関シテハ一切ジタバタサセナイ、意外ノ言葉デス、誰ガ東洋大学側ノ維持員並ニ學長理事ガ今日マデ京北ノ人事ニ喙ヲ容レルト言ツタ事ガアリマシタラウカ、ソレニ対スル明確ナ

ル御答弁ヲ承リタイ、ソレガ一ツ、更ニ何ヲ以テカ幾ラ學長ガジタバタスル云々ト云フ失礼千萬ナ言葉ヲ御用キニナラレタカ、是ハ直チニ御取消ガ願ヒタイ、此二ツヲ質問致シマス、

次ハ只今コチラノ方ガ不肖私ノ立案致シマシタ東洋大学制規ニ付テノ御尤ニ思ハレル御質問ガゴザイマシタカラ、私ノ感ジマシタ事、又立案精神ニ依リマシテ御答致シマス、先ヅ第一ニ此多クノ案ガ小林昌治ニ依ツテ作ラレ、且委員會ニ於テ審議セラレテ居ルガ、是ハ寄附行為トドウ云フ關係ガアルカト云フ事デゴザイマシタ、此寄附行為ニ対シテハ絶対抵觸ヲシテ居ル箇所ハ一切ナイト思ヒマス、唯一ツ寄附行為ヲ理事長ト云フ言葉ヲ用キラレテ居リマス、是ハ私モ不用意ニ実ハ理事長ト云フ言葉ヲ書キマシタ、之ニ付テハ小委員會ニ於キマシテモ実ハ問題ニナツタノデアリマス、乍併寄附行為ハ文字ノ上ニ於テ理事長ト云フ言葉ハ与ヘラレテ居リマセヌガ、財団ニ於ケル實際ノ仕事ヲスル場合ニ於テ、東洋大学ノ學長ハ理事長トシテノ仕事ヲシテ来テ居ル、故ニ今後寄附行為ヲ一ツ御改正ヲ戴キ、更ニ本学ノ學長ガ財団ノ理事長デアルト云フ名前ヲ冠シテ戴キタイ、冠シテ戴クコトガ出来ルカドウカ、是ハ吾々ノ審議スル範圍デハゴザイマセヌノデ、吾々委

員会トシテノ立場ヨリ希望ヲ皆様ニ御願致シタイト同
時ニ、サウ云フ意味合ニ於テ此制規ノ中ニ一箇所理事
長ト云フ言葉ヲ挙ゲタノデアルト云フコトヲ御承知願
ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第二デアリマス、多クノ
是等ノ案ガ作ラレタノニ対シテ、寄附行為ガ明確デナ
イト云フ御質問ガゴザイマシタガ、本学ノ寄附行為ノ
第十一章六十二条ニハ、寄附行為ノ事項ニ関スル細則
ハ、維持員会ノ決議ヲ經テ之ヲ別ニ定メルコトヲ得ト
云フ規定ガゴザイマス、此規定ニ基キマシテ財団全体
ニ関スルモノデアルナラバ、寄附行為ニモ関係ガゴザ
イマセウ、乍去本学内部ニ関スル制規ヲ作ルト云フコ
トハ、即チ寄附行為ニ基ク所ノ細則ノ決定デアリマス、
吾々ハ大学内部ニ関スル事ニ関シテ、此多クノモノヲ
本財団大学経営ニ関スル目的上施行細則トシテ作ツタ
モノデアリマス、此点御承知ヲ願ヒマス、

次ハ従来ノ東洋大学ノ規定トドウ云フ風ナ関係ニア
ツタカ、此沿革ニアル如ク細カク其相違等ニ付テ説明
スルガ、刷物ニシテ呉レタナラバ結構ダト仰セラレマ
シタガ、御尤ナ御質問ト思ヒマス、之ニ対シテ御答致
シマス、実ハ東洋大学ノ今日迄ニハ東洋大学職制ト云
フ藤村サン時代ニ作ツタモノガ一つゴザイマシテ、ソ
レニハ教授会ノコトモ、教授評議員会ニ関スルコトモ、

理事ニ関スルコトモ、或ハ財団ヲ自由ニ運用出来ルヤ
ウナ事マデガ一切東洋大学職制トサレテ、此僅ナモノ
ニ嵌メラレテ居ルノデアリマス、何ヲ書イテ居ルカハ
ツクリシナイノデアリマス、ソコデ私ハ之ガ立案ニ際
シマシテハ勿論之ヲ参考ニ致シマシタ、ガ之ヲ何処ヲ
訂正スルト云フヤウナ箇所ハ言ヘナイノデアリマス、
何故ナラバ何ト申シマスカ余ニモ不完備ナモノデア
リ、アレモ是モ搦交ゼテアリマスノデ出来ナイノデア
リマス、ソコデ従来ノモノハ全部廃止スル、サウシテ
茲ニ新ナモノヲ作ル為ニ、全体ト申サズニ先ヅ東洋大
学職制ナラバ職制ニ関スル事ノミヲ是カラ沿革シ、且
都下ノ各専門学校、大学校等ノモノモ一切参照シ、更
ニ本学ハ本学トシテノ精神、或ハ財団ノ目的ニ即シテ、
立場ヲ他ノ学校ヨリモ異ニシテ作り上ゲタ箇所モゴザ
イマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ私ハ搦交ゼタモノ
カラ各個々ノモノニ作り上ゲタノデアリマス、ソレガ
職制、教授会規則、教授評議員会規則、或ハ教職員規
律、懲戒規程、事務規程、或ハ協議員会規則及人事規
程ト云フモノニナツテ分割シ且独立サシタ訳デアリマ
ス、乍併個々ノモノニ独立ハ致シマスケレドモ、ソレ
ハ之ヲ以テハ分ラヌ、故ニ此自分ガ作り上ゲタ事ニ依
ツテ、最モ明快ニ、且個々ノ立場ガ判然トスル意味ニ

於テ作り上ゲタノデアリマシテ、今日迄ノモノト对照
スル方法モ無いノデアリマス、ソレガ故ニ一ツ／＼ノ
終ニ、是々限り廃止スル、或ハ何月何日カラ施行スル
ト云フ風ニ區別致シマシタ、其点ドウカ御諒承願ヒタ
イト思ヒマス、以上ヲ以チマシテ私只今ノ御質問ニ対
スル答弁ト致シマス

○鈴木委員 二点要求ガアリマスカラ二点ダケ申上ゲマ
ス、実ハ私ハ大倉学長ヲ何等非難シタ意味デモナシ、
何等不敬ナコトヲ申上ゲタ意味デモ更タナイノデアリ
マス、其言葉ガ小林氏ニ如何様ニ響イタカ知ラヌケレ
ドモ、若シ悪ク響イタト云フナラバ、私ハアナタノ言
フ通りニイツ何時デモ撤回致シマス、之ヲ前提ト致シ
マシテ、先ヅ第一ニ私が北海道カラ歩カウト御勝手ダ
ト云フ、私ハ京北ノ確力四回ノ卒業生デアリマスガ、
アノ学校ガ焼ケマシタ折ニハ、寄附ヲ募ルガ為ニ歩イ
テ廻ツタ事ガアル位私ハ沿革ヲ知ツテ居ルト云フノデ
アリマシテ、決シテ募リ歩イタト云フコトヲ私ハ言ツ
タノデハアリマセヌ、私ノ言葉ヲ能ク玩味シテ貰ヒタ
イ、ソレカラ第二ニ、大倉学長ニ対シテジタバタシタ
所ガ何トモナラヌト言ツタカモ知レヌ、若シサウデア
ツたら洵ニ不敬デアリマスカラ、此点ハ如何様ニモ取
消シマスガ、吾々ト致シマシテハ東洋大学ノ方ノ人事

其他ニ関スル内部ノ事ニハ京北ノ方デ加ツテハ不可デ
アリマセウガ、又東洋大学ノ方デ下ノ方ノ二ツノ学校
ニ余ニ干涉サレテハ困ルヂヤナイカ、従来ノ沿革ガア
ルガ故ニ吾々ハ如何ニ何ト仰シヤツテモ是ハ御断スル
ト云フ意味ヲ或ハジタバタト言ツタカモ知レヌ、此語
ガ悪イナラバ何遍デモ取消シマス、何遍デモ陳謝致シ
マス、乍併私ハ寄附行為ノ何処ヲ睨ンデ見テモ内部ノ
事ニ関係スルト云フヤウナ事ハナイヤウニ私ハ感ジマ
ス、又先程小林氏ノ言ハレタ所ノ東洋大学ノ職制カ何
カ知リマセヌ、ソレノ第何条カニ維持員会ノ規定ガア
ルサウデスガ、私ハソレヲ知リマセヌ、仮ニ吾々ノ沿
革上ノ根拠カラ見テ、東洋大学ノ方デ勝手ニソソナ事
ヲ言ツタツテ何ニナルカ、ソレナラバ吾々京北側ニ於
テ東洋大学ニ対シテ之ヲヤツタラ、アナタ方ハ之ヲ許
スカ、サウ云フモノデハアルマイ、私ハ今ノ二点ニ付
テハ是ダケヲ申上ゲマス、唯小林氏ノ言ハレル所ハ、
従来予算会ニ於テアナタノ議論ヲ私ハ蔭ナガラ拝聴致
シテ居リマシタ、熱意ニ於テ非常ナ賛成ナ所モアル、其
意味合ニ於テ早く予算ヲ出シ、決算ヲ報告シテ貰ヒタ
イト云フコトヲ私ハ希望スル、ト同時ニ学長ニ先程申
シテ置キマシタガ、若シ吾々ノ方ガ東洋大学ノ方ノ内
部ニ干涉シテ宜シイト云フナラバ宜シウゴザイマス、

私ハ学校行政ノ上ニ如何ナモノト云フ感ヲ懷キマス、

私ハ其点ニ付テ学長ノ所感如何ト云フコトヲ最初ニ申上ゲテ置キマシタガ、是レモ私ハ御互ニ干渉シナイデ、予算範圍デ各々努力シタ方ガ宜クハナイカト斯ウ感ズルノデアリマスカラ、私ノ所見ダケ申上ゲテ置キマス

○高島委員 小林君ノ報告ヲ承リマシテ、然ル後ニ宇野君ノ御演説ヲ承リマシテ、僅カ四人ノ委員間ニ、兎ニ

角意見ガ二人ヅ、対立シテ居ルト云フ事ダケハハツキリト分ツタノデアリマスガ、既ニ四人ノ委員ノ半数宛ガ意見ガ対立シテ居ルト云フコトデアレバ、此改正案ナルモノハ小委員会ニ於テ決定サレタモノト吾々ハ信ズル訳ニ行カヌノデアリマス、随テ之ヲ今日承認シロト言ハレテモ尚ホ承認スルコトニ躊躇セザルヲ得ナイ、ドウゾ今日之ヲ茲デ承認スルト云フヤウナ事ニナラナイヤウニ、尚ホ四人ノ委員諸君ノ間ニモツト慎重審議ヲ重ネラレテ、吾々が潔ク承認ノ出来ルヤウナモノニシテ御提出願ヒタイト思ヒマス

○柴田委員 私モ小委員ノ末席ヲ汚シマシテ、報告ニ関スル事ニ付テ一言私ノ信ズル所ヲ申上ゲテ置キマス、此大学制規ヲ改正セラレマシタ此案ハ、少クモ只今ノ場合ニ於キマシテハ東洋大学ノ自立ノ上ニ適當デアルト確信スル者デアリマス、是ハ先程宇野委員、小林委

員等カラ大体御述ニナリマシタガ、是ハ非常ニ熱心ニ慎重審議セラレマシタガ、其結果結局委員会デハ決定セラレタモノト確信ヲ致シマス、併シ宇野委員ハ此人事ニ関スル問題ダケハ維持員会ニ於テ報告シテ呉レト云フ御話デアツタト信ズルノデアリマス、右私ノ確信ヲ申上ゲマシテ、私ノ委員タル責任ヲ果シタイト思フノデアリマス

○高島委員 今柴田委員ノ説明モアリマシタガ、兎ニ角教授側カラ二人委員ガ出、校友側カラ二人委員ガ出、切メテ其二人宛ガ校友側カラ一人、教授側カラ一人賛成シ、教授側一人、校友側一人反対シテ居ルト云フナラバマダ取柄モアルト思ヒマスケレドモ、教授側二人ガ反対シテ居リ、校友側二人ガ賛成シテ居ルト云フノデハ、是ハ委員構成ノ趣旨カラ云ツテモ甚ダ面白クナイ結果ガソコニ現レテ来ルカト思フノデアリマス、殊ニ宇野委員ハ、自分ハ絶対反対ダト今モ言ヒ切ラレル、ソレガ議事ノ記録ノ上ニ果シテドウナツテ居ルカ吾々ハ与リ知リマセヌガ、仮令議事記録ニ決議シタヤウナ形ニナツテ居ルトシテモ、今日ニナツテ宇野君ガハツキリト反対ダト云フ意思表示ヲシテ居リ、尚ホ今日欠席デアリマスケレドモ、藤村君ノ意思ヲ伝ヘ聞ク所ニ依リマス、矢張り宇野君ト同論デアツテ、或点ニ付

テハ絶対ニ反对デアツテ承服出来ナイ、斯ウ云フ趣旨
 ダト云フコトデアリマシテ、其点ハ宇野君カラ先刻一
 寸聞イタノデアリマスガ、サウナリマス、校友ト教
 授ノ対立ニナリマス、一ツ学校ノ中ニ於テ教授側ト校
 友側トガ対立スル位危険ヲ孕ンダ問題ハナイト私ハ思
 フノデアリマス、是ハ学長トシテモ十分御考ニナラナ
 ケレバナライ重大ナ事件ダト考ヘマスカラ、ドウカ
 之ヲ今日承認スルト云フヤウナ事ニナラナイヤウニ、
 尚ホ慎重審議ヲ重ネラレルヤウニ御取計ヒヲ願ヒタイ
 ト思ヒマス

○鈴木委員 其点ニ付テ一寸、……実ハ先程申上ゲマシ
 タ東洋大学内部ノ事ナレバ中学側ノ方ハ余リ立入ラヌ
 ヤウニシタイト、私個人デゴザイマスガ、思ヒマスカ
 ラ、出来ルナラバ内部デ御収メヲ願ヒマシテ、吾々ハ予
 算ノ範囲内デ御互ニ財団々々ガ纏ツテ居リマスカラ、
 各々纏ツタ財団ヲ学長ガ御握リニナツテ發展サセルヤ
 ウニ私ハ切ニ希望致シマス、ドウゾ大学ノ内部ノ事デ
 アリマスナラバ、吾々下ノ方ノ連中ハ御互ニ忙シイ、
 ト云ツテハ申訳アリマセヌガ、幾ラデモ能フル限り出
 テ参リマスケレドモ、サウ云フヤウニ感ジマス、其点
 ニ於テ学長ノ所見如何ト云フコトニモナルト思ヒマス
 カラ、若シ是ガ寄附行為ニ関係ガアルト云フナラバ是

ハ別問題デアリマスガ、マダ見タ所ニ依リマス、適切
 ニサウデモナイヤウニ思ヒマスカラ、或ハ小林サンノ
 言ハレルヤウニ寄附行為モ此処カラ来ルシ、総テノモ
 ノガ其処カラ来ルノデヤナйкаト云フコトニナレバ、
 私ノ方デ又悠クリ研究モ致シマセウガ、ソレ等ノ意味
 合ヲ含ミマシテ、私ハ高島先生ノ言ハレル通りニ本日
 即決ハ是ハ少シ御留保願ヒタイト云フコトヲ、私ハ衷
 心カラ申上ゲマス、

○大倉議長 私一寸……

○小林委員 一寸答弁サシテ戴キマス、先程高島委員カ
 ラ、委員会ニ於テ審議シタコトガ決定サレテ居ラス、
 反对意見ガアツテ決定サレタモノデナイヤウニ思フ故
 ニ、更ニ委員会ニ於テモウ一遍審議シ直シタラドウカ
 ト云フ御言葉ガゴザイマシタガ、茲ニ議事録ガゴザイ
 マス、小林、ソレデハサウ云フコトニ訂正シテ……ト
 云フ言葉ガ入ツテ居リマスガ、是ハドウ云フ事カト云
 フト、宇野サンカラ寄附行為ニ対シ、本学財団ノ大学側
 ト寄附行為ト離ス為ニ、本学財団ノ大学側ノ協議会ヲ
 置クト云フコトガ宜カラウト云フ御意見ガ出マシテ、
 ソコデ私ハ、デハ之ヲ本学ノ財団ト訂正スルコトニシ
 マセウ、ソレデ宜シイト云フノデ是ガ決リマシテ、審
 議決定致シマシタト報告シテ……

○宇野委員 ソレハ第一回議事録デスカ、

○小林委員 是ハ最後ノ議事録デアリマス

○宇野委員 モウ少シ先ヲ読ンデ下サイ

○小林委員 議事録ハ是デ決定シテ居リマス、小委員会ノ議事録ハ是ガ最後デアリマス、斯ウ云フヤウニ宇野委員カラ先程屢々申述ベマシタ如ク、始終一貫シテ、要スルニ結末ヲ申上ゲマス、東洋大学ノ人事ト云フモノハ、今日迄教授ノミニ依ツテ組織サレテ居リマス、東洋大学教授評議員会ト云フモノガアツタノデアリマス、之ニ一切人事ハ左右セラル許リデナク、財団ニ於ケル学科ノ設置トカ廃止、詰リ財団ノ運営ニ関スル事マデ一切ノモノガ教授評議員会ニ於テヤラレテ居ツタノデアリマス、併シソレデハ私ハ委員会デモ度々申シマシタ、之ガ財団ノ為ヲ思ツテ下サル方々デアルナラバ、吾吾ハ校友トシテ、決シテソレガ教授デアラウガ何デアラウガ構ハヌ……

○高島委員 議事進行ニ関シテ発言ヲ求メマス

○小林委員 私ハ答弁デアリマスカラ御聴ヲ願ヒマス、

委員会ノ決定ヲ御注意ニナリマシタカラ其理由ヲ説明シナケレバナライノデス

○高島委員 議事進行ニ関シテ発言ヲ求メマス

○大倉議長 小林君簡單ニ願ヒマス

○小林委員 左様ナ風デ東洋大学ノ教授詮衡ハ学長ノ自

由ニナライバカリデナク、如何ナル人事モ、財団ノ大学側ノ運営ハ一切ノモノガ教授ノミニ於テヤラレテ居ツタノデアリマス、所ガ其教授ノ方々ガヤツテ下サツテソレガ財団ノ大学側ノ運営ヲ円満ニ進行シテ行クコトガ出来、且又之ニ依ツテ損モセズニ是ガ遂行サレルモノデアツタナラバ、私ハ決シテ不平モ何モ申上ゲナイノデアリマス、然ニ本学ノ今日ノ財政ヲ見マスト、年々五万円カラ六万円ノ赤字ガズツト引続イテ出テ居ルノデアリマス、之ガ若シ五年ナリ七年ナリ続クナラバ、東洋大学ト云フモノハ元モ子モ無クナツテシマハナケレバナラヌ、此点ヲ前学長デアリ、且小委員デアル藤村博士ニモ十分申シマシタ、宇野先生ニモ申上ゲマシタ、サウ申スト宇野先生ト藤村先生ノ仰シヤルニハ、ソレハ成程財政上ノ事ハ吾々ニハ分ラヌ、併ナガラ人事ハ昔ノ儘ニ教授評議員会ニ委シタラドウカ、斯ウ言ハレルノデス、私共ハ教授ノ方々ニ委スト云フコトハ、此赤字ヲ切抜ケル所以デナイ、且又今迄ヤツテ来ラレタ人事ガ、大学ノ財団ノ過去ニ遡ツテ見ルト、実ニ拙カツタ、殊ニ是ハ先般宇野先生モ言ハレタデスガ、本学ノ教授ト云フモノハ教授ト云フ地位ニハ居リマスガ、是ハ京北ノ方々ノ立場ト丸切り違フト云フコ

トヲ御考願ヒタイ、京北ノ方々ハ実業ノ方ト云ハズ中
学ノ方ト云ハズ……

○高島委員 議事進行ニ付テ發言ヲ求メマス

○小林委員 学校ノ發展ノ為ニ真剣ニヤツテ居ラレマ
ス、併ナガラ……

○大倉議長 簡單ニ願ヒマス

○高島委員 簡單デハナイ、止メテ下サイ

○小林委員 併ナガラ大学ノ教授ノ方ハ、取ルダケノモ
ノヲ取ツタラ何等顧ナイト云フヤウナ状態デアリマス

○大倉議長 小林君一寸……

○小林委員 私ハ説明中デアリマス、モウ暫ク……

○高島委員 議事進行ノ發言ヲ許シマセヌカ、座長

○小林委員 スウ云フヤウナ雇人的ノ、詰リ月給ヲ取ツ
タラ宜イト云フヤウナ教授ニ、而モ巨額ノ赤字ヲ年々
出シツ、アル本学財団ノ運営ヲ委ス訳ニハ行カスト云
フヤウナ……

○高島委員 議事進行ニ付テ發言ヲ求メマス、

○小林委員 スクノ如キ事ヲ仕向ケテ行クト云フコト
ハ、本財団ヲ打壊スモノデアリマス、此点ニ於キマシ
テ私が京北ノ各位、或ハ教授諸氏、学長ヲ前ニ置キマ
シテ是程闊ハナケレバナラスト云フコトハ、何等ノ私
心ハナイノデアリマス、本学ノ為、本学財政ノ本ヲ枯

ラシ、本学……（高島委員「座長議事進行」ヲ呼ブ）

……何トカ本学財団ノ運営ノ出来テ行ケルヤウニシタ
イト云フノガ私ノ信念デアリマス、ドウカ皆様モ不肖
私ノ衷情ヲ御諒察下サイマシテ、審議ノヤリ直シト云
フコトデナク、或ハ小委員会ノ再付託ナクシテ、今日
ドウカ此案ヲ御承認アランコトヲ私ハ切ニ御願申ス次
第デアリマス、

○高島委員 何デスカ、一体座長ハ議事進行ニ関シテ發
言ヲ求メルト云フノニ、發言ヲ許サスト云フコトガア
リマスカ、

○大倉議長 ドウゾ……

○高島委員 ドウモ困ルデスカ

○大倉議長 發言中デシタカラ……

○高島委員 發言中ダツテ構ハナイ、今小林君ノ弁ジテ
居ルコトハ議論ニナツテ居ル所モアルシ、ソレカラ色
々デアリマスガ、私ハサウ云フコトヲ言ウテ居ルンデ
ハナイ、之ヲ小委員会ノ決議ト認メテ、承認スルト云
フ為ニ之ヲ出サレタノデセウ、所ガ事実ハサウデナイ
ト云フノダカラ、唯承認スルコトヲ留保シテ欲シイ、
斯ウ云フコトヲ言ツテ居ルンデス、茲デ小林君ガア、
云フ風ナ議論ヲシテ、吾々が其議論ヲ拝聴シナケレバ
ナラナイ必要ハナイ筈ダ、其点ヲ私ハ明ニシタイと思

フ

○鈴木委員 私ハ小林サンノ言ハレル所ハ、非常ニ良イト思ハレル所モアル、又非常ニオ若イ所ガアルヤウニ思ハレル、ソコデ実ハ高島先生ノ言ハレル所ガ非常ニ良イト思フ、成程小林サンノ言フヤウニ予算関係カラ行クト、学長初メ理事者ノ方デモ御研究願ヒタイシ、ソレカラ又小林サンノ言ハレル通りニ出来レバ結構ト思ヒマスケレドモ、兎ニ角高島先生ノ言ハレルコトハ否決スルト云フノデハナイ、モウ一応審議シテ此次ニシヨウト云フノデスカラ、小林サン如何デスカ、若シ此処デ決ヲ採ルト云フコトニナルト、アナタノ趣意ハ徹底シナイヤウニ感ジマス、此意味ニ於テ高島先生ノ御提議ガ議題ニ附サレンコトヲ私ハ切ニ希望致シマス

○小林委員 御説御尤トモ思マス、乍去不肖私が先程カラ幾度モ繰返シマス如ク、又先程宇野委員カラ御説明ガアリマシタ如ク、茲ニ議事録モゴザイマス如ク、小委員会ハ実ハ是デ一回分ノ速記デアリマス、是ダケノ速記録ヲ印刷ニシマスレバ、恐ク百頁位ニナルカモ知レマセヌ位ノ言ヲ重ネ、苦勞ヲシテ実ハ審議シタノデアリマス、又宇野先生モ申サレル如ク、人事ト云フコトニ関シテ以外ニ於テハ全部承認ナノデアリマス、人事ノ点ダケガ問題ナノデアリマシテ、是ハ如何ニ審議

ヲ進メテモ意見ガ対立シテ駄目ダ、ケレドモ此案ハ認メル、ケレドモ自分ガ反対デアルト云フコトヲ維持員会ニ報告シテ呉レト云フコトデアリマシタ故ニ、吾々委員ニ之ヲモウ一応協議セヨト仰セラレテモ、先程宇野先生ノ御言葉ニモアリマシタ如ク、恐ク妥協点ニ到達シマイト思フ、ソコデ只今京北維持員側ノ方カラ御言葉ガアリマシタガ、下ノ方々ハ上ノ事ニ余リ立入りタクナイト云フ御言葉モ私分リマス、其御言葉ハ前ノ維持員会ノ節ニ於テ既ニ皆様カラ承ツタ事デアリマス、故ニ大学側ノ事デアルカラ大学側デ小委員ヲ選ンデ、サウシテ決メテ吾々ニ報告シテ呉レト云フ御言葉ヲ戴イタノデアリマス、其御言葉ニ基イテ私共ハヤツタノデアリマスカラ、而モ委員会デ承認サレナイノハ全篇ニ亘ツテデハナクシテ、唯人事ニ関スル事ダケデアリマス、而モ人事ニ関スルコトハ財政ヲ運営スル上ニ於テ最モ重大ナ岐路デアリマス、故ニ私が懇々ト言ツテ居ルノデアリマスカラ、ドウカ下ノ御方モ御忙イ中デアリマセウシ、私共モ此三月ニ委員ニ任命サレマシテカラ以来、自分ノ家ノ事ハ次デ、先ヅ大学へ参リ、アチコチニ行ツテ資料ヲ集メテ立案シ、研究シ、審議シテ来タノデアリマス、ドウカ此辺ヲ御諒察ノ上私ノ意見ニ御賛成下サイマシテ、今日ニ於テ御承認ヲ御願

致シマス

○宇野委員 只今議事録ヲ小林君ガ読上ゲテ協議員会ノ規定ハ是デ済ンダト仰シヤツタノデアリマスガ、此速記録ノ最後ノ頁ヲ能ク御聴願ヒタイ、小林、人事ニ関スル限りハ私ハ一步モ譲ルコトハ出来ナイ——是ハ私ノ提案ニ対スル反对デアリマス、宇野、私モ其点ハ一步モ譲ルコトハ出来ナイ立場デス、要スルニ私ハ命令下ニ居ナイ者ヨリモ命令下ニ居ル者ノ方ガ学長ガ之ヲ行フニ都合ガ好イト云フ意見デアル——是ハ一寸御分リ難イト思ヒマスガ、此協議員会ノ規則デゴザイマス、維持員ヲ以テ組織シマスカラ、学長ノ命令下ニ居ナイ者デアリマス、教授評議員ト云フノハ学長ノ支配権ノ下ニ居ル者デアリマス、サウ云フ意味デアリマス、藤村、私ハ宇野君ト同ジ立場デアル、柴田委員、私ハ飽マデ原案ヲ支持シマス、小林、以上小林ガ立案シタ諸規則ハ之ヲ以テ審議決定シマシタ、斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、デ此人事ニ関スル問題ト云フノハ、結局協議会ニ於ケル人事ニ関スル問題、人事規程ト云フ所ニ関聯シタ事デアリマシテ、之ヲ小林君ハ一步モ譲ラナイト言フシ、私モ一步モ譲ルコトハ出来ナイト言ツテ、是デ最後ノ結論ニナツテ居リマス、ソレデ最後ノ所ニ小林君ガ、以上小林ガ立案シタ諸規則ハ之ヲ以

テ審議決定シマシタト云フ報告ヲサレマシタ、人事ニ関スル限りハ別デアリマスガ、其他ハ今小林君ガ言ハレル通りニ、總テ賛成シテ審議決定シタ訳デアリマス、サウ云フ経緯デアリマス、ソナ訳デアリマスカラ、人事問題ダケハ小林君カラ今縷々述べラレタコトハ皆サン御聴ノ通り、私ハ私ノ信念ヲ申上ゲルト長クナリマスカラ是ハ申上ゲマセヌ、大体御推量下サルト思ヒマス、

○小林委員 只今宇野委員カラ御答弁ガアリマシタ、私ハ之ヲ否定スルモノデアアリマセヌ、乍去私ノ読上ゲタ審議決定ト云フノハ、協議会ノ規則デアリマシテ、宇野委員ノ只今御説明ナラレルノハ人事規程ノコトデアリマス、此点ヲドウカ御承認ヲ願ヒマス、

○宇野委員 ソレデハ私モ説明シマス、協議員会規則ノ所デ、第五条ノ第三人事ニ関スル事項ト云フノハ、私共削除ヲ要求シマシタ、私ノ修正案ハ削除デアリマス、其他ノ所ハ協議員会規則ハ審議決定デアツタト私ハ確ニ信ジテ居リマス、

○小林委員 議事録ニハ削除ト云フコトハ一切出テ居リマセヌ、議事録ハ神聖デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○高島委員 討論終結ダト思ヒマスガ、兎ニ角対立シテ

居ルノデスカラ、一ツ宜シクヤツテ下サイ

○鈴木委員 ドウデセウカ、高島先生ノ動議ヲ議題ニシテ下サイ

○岡村委員 私今マデ御話ヲ伺ツテ居リマシテ、斯ウ云フ事ハハツキリシテ居ルト思フノデス、此改正案ハ人事ニ関スル所ハ別トシテ、ソレ以外ハ小委員会ニ於テ満場一致可決シテ居ル、是ハ間違ナイ事実ダト思ヒマス、サウスルト吾々が信頼シテ選ンダ小委員会ニ於テ、兎ニ角職制或ハ制規ヲ改正スル必要ガアルト認メテ改正シタ、之ヲ人事ヲ除イテ吾々維持員会ガ其儘承認シ得ルカ否カ、サウ云フ一ツノ問題ガアルト思フ、是ハ勿論無条件デ承認出来ナケレバナラヌ筈ダト思フ、モウ一ツノ問題ハ、此前ニ小委員ヲ設ケル時ノ経緯デス、ドウシテモ対立シテ困ツテ居ツタ時ニ、兎ニ角小委員デヤツテ見ヨウ、小委員ダケデ万一ドウシテモ解決ガ付カナイ問題ニ逢著シタ時ハ吾々モ乗出シテ審議シテヤルト云フコトヲ京北側ノ方々カラハツキリ仰シヤラレタト記憶シテ居リマス、ソコノ所ヲ聞イテ見ルト、小林君ノ話ト、宇野先生ノ御話ヲ綜合スルト、要スルニ人事ニ関スル限リハトコトン迄対立シテシマツタ、小委員会ハ将来ニ何等期待スルコトハ出来ナイ、改正ヲシナケレバナラスト必要ヲハツキリ認メテ居リナガ

ラ、何等改正スルコトハ出来ナイト云フコトニナル、ソレデハ吾々ノ無責任ダラウト思ヒマス、吾々維持員デアル職責上非常ニ無責任ダト思ヒマス、今こそ京北側ノ方ニモ御努力ニナツテ、解決シテ戴カナケレバナラス時ガ来テ居ルト思フ、サウスレバ如何ニシタラ宜イカ、是ダケノモノヲ逐条審議ヲヤツテモ堪ラナイ話デスカラ、兎ニ角四人ノ小委員デ纏ラナカツタ人事ニ関スル限リ、吾々一応持つテ帰ツテ、此次モウ一回開イテ、ソコデ最後ノ決定ヲスル、是ハ京北ノ方モ此前小委員会ヲ選ブ時ノ経緯ヲ考ヘテ、御約束シテ戴イタ事ダカラ、非常ニ御苦勞デハアルケレドモ、一応読ンデ見テ、人事問題ニ対スル肚ヲ御決メニナツテ最後ノ討議ヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、此二ツノ問題ニナルト思ヒマス、サウスレバ解決ガ早イト思フ、最後ニ私個人ノ所感トシテ申上ゲレバ、少クトモ今迄ノ東洋大学ノ内規トカ職制トカ云フモノヨリハ、此方ガ一歩進ンダ考ノ下ニ纏ツタモノガ出来テ来テ居ル、唯茲ニ問題ニナツテ居ルノハ人事ノコトデアリマ스가、他ノ事ハドウデモ宜シイ、人事ニ関スル限リハ飽マデ従来通りデナケレバ吾々断ジテ一歩モ譲ルコトガ出来ナイト云フ立場ヲ固持ナサル小委員ノ方々ノ御氣持ノ中ニ、何故ソレ程マデニ有ユルモノヲ擲ツテモ是

ダケハ守ラナケレバナラヌカト云フコトヲマダハツキ
リ私ハ認識スルコトガ出来ナイノデアリマス、私ハ多
少ソコニ個人ノ氣持カラ云ツテ疑問ガアル、勿論此案
ガ完全無欠ナモノトハ思ハヌガ、兎ニ色々々々意味ニ
於テ色々改ムベキモノガ改ツタト云フコトハ、矢張り
考直サレテ宜イ問題デアルト云フ事ダケハ、私ハハツ
キリ感ズルコトガ出来ルノデアリマス、サウ云フ意味
ニ於テ残サレテ居ル対立シテ果シノ付カナイ問題ニ付
テハモウ一度御考慮ツテ、更メテ維持員会ヲ招集シテ
貰ヒタイ、斯ウ思フノデアリマス

○高島委員 サウスルト前ノ小委員デ決定シヨウト云フ
ノカ、別ニ委員ヲ作ラウト云フノカ

○岡村委員 ソレハ別ニ委員ヲ作ツテモ宜シ、全体デモ
宜シ、ドツチデモ宜シイ、更メテ此問題ニ付テ小委員
ヲ作ツテヤツタ方が便宜デアルト云フナラバ、モウ一
度小委員ヲ作ツテモ差支ナイダラウト思フ、見透シト
シテハモウ完全ニ対立シテシマツタノダカラ、是ハモ
ウ今ノ小委員会デハ難シイカモ知レナイ

○高島委員 之ヲドウ解決スルカ、全体ノ委員デヤルト
云フコトニナルト相当是ハ煩ハシイ事ニナル、小委員
ダツテ今マデノ小委員ハ駄目ダ

○早川委員 斯ウ云フ内規のナモノヲ財団維持員会ニ掛

ケ承認ヲ求メル必要ハナイモノト信ジマス、京北側ニ
モ内規ノヤウナモノガアルト存ジマスガ、今日マデニ
財団維持員会ヲ煩ハシタコトハナイト思ヒマス、全体
ノ維持員会トシテ之ヲ承認スル必要ハナイノデアリマ
ス、唯御互ニ賛成スルカシナイカト云ツタヤウナコト
ハ、或場合ニハ申上ゲルカモ知レマセヌガ、維持員ト
シテ之ヲ承認スルコトハ從來ノ慣例上余リ穩カデナイ
ヤウニ考ヘマス、

○高島委員 実ハ其事ハ前ノ維持員会ノ時ニ僕ハ主張シ
タ、上ダケノ問題ニシナケレバナラヌト云フコトヲ力
説シタ、所ガ其時ニ京北側ノ人ガ、事重大ダト見レバ
出ル、斯ウ云フコトヲ言ハレタ為ニ遂ニ之ニ参加セラ
レル事ニナツタ、今早川君ノ説ハ私ノ年来ノ信念デ、
私ハソレヲ力説シタ、今日ニナツテ之ニ対シテ承認ス
ル權利ヲ抛棄セラレルノハ少シ訝シイト思フ

○鈴木委員 私共ハ危急存亡ノ状態トハ思ハヌ、円満ニ
決着ノ付クコト、思ヒマスカラ、高島先生ノ言ハレル
程重大トハ思ハヌ、モウ少シ協調シテヤレバ出来ルコ
ト、思ヒマス、ソレヲ吾々ニ報告スレバ事が済ム、私
共ハ重大問題トハ思ハナイ

○大倉議長 此前ノ維持員会デ色々御意見ガアツタコト
モ見、今又繰返サレマシタ、言換ヘレバ下ノ維持員会

ノ方ハ、大学側ノ問題ニ付テハ、成ベク全体ノ問題ニシタクナイ、大学ノ方ダケデ出来ナイカト云フコトヲ度々繰返サレタノデアリマス、ソコデ色々考ヘラレタ結果、小委員ト云フモノガ出来テ、ソレガ今日茲ニ報告スベキ義務ヲ持ツテ居ルト云フ順序ヲ経タダケデアリマシテ、実ハ私共モ決シテ京北側ノ人事ニ関シテ云々ト云フコトト^(三)言フ積リデナイコトハ、此処ニモ大学側ト云フコトヲ特ニ明記シテアリマスカラ、足ヲ伸バサヤウナ事ハ、私学長トシテ決シテアリ得ナイト思ヒマス、

ソコデ私ハ学長トシテ一言述べサシテ戴キマス、甚ダ入込ンダ事情ガ多年アルト云フコトデ、私モ事ヲ簡單ニ進メルコトヲ躊躇シテ居リマス、ソコデ皆サンノ御意見ヲ成ベク聴イテ来タノデアリマス、前回ノ如キハ可ナリ激論モアリ、細カク斯ウモシタラ宜イカ、ア、モシタラ宜イカト云フ議論ノ結果出タノガ小委員ノ問題デ、皆賛成シタノデアリマシテ、其時ニドウシテ此委員会ヲ開イテ茲ニ報告スベキ義務ヲ持ツタカト云フコトハ、京北ノ三島校長ガ、最モ先輩トシテ、私共多年、学長ハ更ラウトモ常ニ之ヲ見守リ、サウシテソレハ大学ノ為ニモ心配ナサルガ、京北側ノ為ニモ心配ナスツタ、其結果若モ大学側デドウシテモ出来ナイト

云フナラバ吾々モ同ジ軒下デ、又同ジ財団デアリマスカラ、道徳上ドウシテモ乗ラナケレバナラスト云フ意味デアリマセウ、吾々モ決シテ躊躇スルモノデハナイト斯ウ言ハレマシタカラ、皆サンノ空氣ハ、ドウセ決スルニハ相違ナイガ、決ラナカツタカラ持ツテ来イト云フ氣持モ感ゼラレタノデス、今決ツテ、決ラント云フコトハ人事問題ニ関シテダケデアリマスカラ、今岡村委員ノ提案ニ依リマシテ、人事以外ノモノハ小委員ガ非常ニ心配ヲサレテ為スツタモノダカラ、今日承認スルト云フコトノ決議ヲシテハ如何カト云フ案ガ出マシタ、ソレトモウ一ツ、人事ハ重大デアルカラ皆之ヲ持ツテ歸リ、更ニ自分ノ頭デモウ一遍考ヘテ見テ、今迄ノ小委員ガ何カ拘泥ハツテ居ル所ガアリハシイカ、虚心坦懷之ヲ能ク再検討シテ見テ、サウシテ更ニ之ヲ吟味シタラドウカ、此ニツガ関聯サレテ提案ニナツテ居リマス、ソレニ御賛成ノ方ハ手ヲ挙ゲテ……

〔サウ簡單ニハ行カナイ〕ト呼ブ者アリ

○広井委員 此改正案ハ実ニ御苦心ノ跡ガ見エテ居リマス、併シ今日初メテ拝見スルノデアツテ、如何ニ即戦即決デモ、今日之ヲ決スルトカ承認スルトカ云フコト^(率)ハ、是ハ輕卒デハナイカト私ハ思フ、私七八年前ニ或大学ノ学則改正委員ニナツタコトガアリマス、所ガ其

構成分子ハ学長、理事^(全)合部、外教授デアリマス、此學則ト云フモノハ単リ人事バカリデハナク非常ニ重大デアリマスカラ、尚ホ相当期間ヲ置カラレマシテ、逐条審議シテ、円満ニ決定シテ行ク必要ハナイト思ヒマス、仮ニ今ノ小委員会ノ意見ガ完全ニ一致シテ居ツタ所デ、今晚之ヲ承認スルト云フコトハ少シク輕率デハナイカ、ソコデ私ハ岡村君ノ人事並ニ一般ノ規則ノ各条項ニ亘ツテモ、尚ホ審議シタイ、斯ウ云フ意見ヲ述ベテ置キマス

○小林委員 今広井委員カラ御意見ガアリマシタガ、一体吾々委員ヲ選ンデ立案シ審議シ且報告スベシト維持會会ニ於テ決議ラシテ置キナガラ、吾々が立案シ且審議シ、サウシテ維持會会ノ招集ヲ求メテ報告シテ居ルニモ拘ラズ、之ヲ以テ輕率デアルトカ、他所ノ学校ハ一年半掛ツタトカ二年掛ツタトカ、サウ云フ例ヲ持出サレルト云フコトハ、吾々ノ委員トシテノ資格ヲ御認メニナツテソレヲ否決ナサル御積リカ、承リタイト思ヒマス

○広井委員 小委員ノ御努力ハ洵ニ感謝致シマス、併シ小委員ノ協議懇談ノ結果ヲ直チニ其儘認メル必要ハ必シモナイ、却テ小委員ノ努力ニ酬ユル意味合ニ於テ、各条項ニ亘ツテ慎重ニ審議スルト云フコトハ、決シテ

小委員ヲ無視シタ所以デナイト信ジマス、

○平岡委員 協議員會規則ノ第三条ニ「協議員會ハ財団理事云々」トアリマス、財団理事ト云フコトニナリマス、勿論下ノ兩学校ノ理事モ列ブデアリマスガ、サウシマスト僅デアリマスガ人事ニ關係スルコトニナツテ参リマスカラ、ドウカ是ハ下ノ理事デナク、外ノ適当ナ者ヲ選ンデヤツテ戴キタイコトヲ希望シマス

○高島委員 吾々ハ成程四人ノ委員ヲ信賴シテ選ンダ訳デアリマスケレドモ、委員會デ決定スルコトハ總會デ其儘鵜呑ニシナケレバナラスト云フ筋合ノモノデハナイ、如何ナル會議デモ委員會ノ決議ヲ論議ニ附シマシテ、又總會ニ於テ之ヲ修正スルコトモアリ、之ヲ全部否決スルコトモアリ、其儘鵜呑ニシテ承認スルコトモアル、四人ノ委員ヲ選ンダカラ委員ノ報告ニハ盲從シナケレバナラスト云フ會議法ガアリマセウカ、私ハ甚ダ疑ナキヲ得ナイ、ソレカラ段々ト研究シテ居リマス、今京北側カラ御話ガアリマシタヤウニ、協議委員會ノ財団理事ト云フコト、京北側ノ二人ノ理事モ出ラレマスガ、サウスルト自然下ノ方ガ上ノ人事ニ關係スルコトニナル、人事ニ関シテハ上下相冒サナイト云フ建前ニナツテ居ルノニ、此協議員會ハ下ノ理事ガ二人出ラレルト、上ノ人事ニ干涉サレルト云フ形ニナル、

斯ウ云フ事デアツテ必シモ委員ノ作成シタモノヲ全部此儘承認シテ宜イカ悪イカト云フコトハ、吾々少クトモ一応検討スル必要ガアル、ダカラ私ハ是ハ広井委員ノ説ニ賛同致シマス、ドウゾモウ一遍吾々ノ手ニ於テ吟味モスベキデアリ、仮スニ歳月、ト云フ程デナクテモ、時日ヲ以テセラレタイト思フノデアリマス、殊ニ全部六月十五日ヨリ之ヲ施行スト云フヤウナ事デハ、ドウニモナラヌト云フコトモ考ヘラレマスルノデ、座長ハ一ツモツト此問題ニ対シテハ親切ナ御取扱ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小林委員 高島委員カラ御意見ガアリマシタガ、御意見ノ意味モ分リマス、併シナガラ私ハ最早私ノ議論ヲ繰返ス必要ハナイト思ヒマス、故ニ先程岡村委員ガ提案サレタ、又今議長ガ皆サンニ諮ラレマシタ、之ニ依ツテ一ツ決ヲ採ツテ戴キタイ、更ニ只今京北側ノ方カラ協議員会ノ財団理事ト云フコトデ御話ガアリマシタガ、人事ニ関スル事項ト、京北ノ理事ガ入ル、此二ツダケヲ後日ノ問題ニ残シテ、其以外ノ事ヲ御承認アラシコトヲ切望致シマス

○高島委員 段々搜シ出スト色々ナ事ガ出テ来ル、アレモ除ケ是モ除ケルト云フコトニナルト、結局全体ガサウ云フコトニナル、切メテ吾々ニ読ムダケノ時間ヲ与

ヘテ貰ヒタイ

○小林委員 搜スト仰シヤイマスガ、成程搜シテ戴ケバ何ガ出ルカ分リマセヌ、併ナガラソレハ委員ニ委サレタ権限デアリマス、先程高島委員ノ御話デハ、委員ノ決メタ事ニ盲従スル必要ハナイ云々トアリマシタガ、成程普通ハサウカモ知レマセヌ、併ナガラ吾々ハ審議決定報告スベシト明ニ財団維持員会ノ決議録ニ記載サレテ居リマス、其決議ニ基イテ吾々カ行動シタコトヲ、今日ソレヲ取消サレルト云フコトハ断ジテナイト思ヒマス、又同時ニ京北側ニ関スルコトハ、協議員会ノ理事二名以外ハナイノデス、又何ガ故ニ理事二名ヲ中ニ入レナケレバナラナカツタカト云フコトハ、ソレハ要スルニ人事問題ノミニ関スルノデハナイ、故ニ是ト人事トハ関係ガアルマイト私ハ思ヒマスガ、京北側ニ関スル事ハ協議員会ノ理事ト云フコト以外ニハ何モアリマセヌ、是ハ私カラハツキリ答弁シテ置キマス、ドウカ先程座長ノ提案ノ如ク、皆サンガ御承認ニナランコトヲ切ニ希望シテ置キマス

○鈴木委員 如何デセウカ、私考ヘマスト議論が大分枝葉ニ亘ツテ居ルノデハナイカト思フ、実ハ私ハ小林委員ノ熱意ニ対シテハ敬服シマスガ、小委員ニ決定権ガ有ルカ無イカト云フコトハ疑問ヲ持ツテ居リマス、デ

アリマスカラ高島先生カラモ色々御話モアリマシタシ、今日ハ決ヲ採ラナイデ、議熟セスト云フヤウナ事ニシテ、一箇月カ二箇月位ノ間此議論ヲ持越シタト云フ形ニ於テ御願出来マセヌデセウカ、却テ其方ガ宜カラウト思ヒマス、議論ガ大分沸騰シテ来タカラ、議長ノ権限ニ依ツテ之ヲ次回マデ持越スト云フ形式ニ願ツタラドウデセウカ、

〔賛成〕ト呼ブ者アリ

○岡村委員 只今ノ御話ハ洵ニ結構ダト思ヒマス、唯一ツ憂フルコトハ持越シテ此次ニ集ツタ時ニ、又同ジ事ニナル、ソコヲ何トカ打開ノ道ダケハ付ケテ置イテ、モウ一遍開ク方ガ宜イノデハナイデスカ、其為ニ私先刻申上ゲタヤウニ、兎ニ角人事ヲ除ク外ノ小委員会ガ四人一決シテ認メタ所ノ条項、但シ私先程補足ガ足りマセヌデシタガ、非常ニ重大ナ問題ハ人事デスカラ、此人事ヲ切放シタ場合ニハ、自然此中ノ人事ニ関スル問題、例ヘバ今御話ニナツタ京北側ノ理事ガ加入スルト、ソレハ自然人事ノ方ニ関係シテ来ルコトデスカラ、若シ此理事ガ全然放シテシマヘバ、当然京北側ノ理事ガ参加スルコトハ無クナルダラウト思フ、サウ云フ風ニ全然切放シテ、兎ニ角認メ得ルモノハ認メタイ、結局ニ於テ人事ニ関スル問題ガ全然従来通りデ宜シイト

云フコトニナルカ、或ハ其以外ノ所モ吾々が認メテ置イテモ空文ニ了ルカモ知レナイ、空文ニ了ルニシテモ兎ニ角茲デ一応順序トシテ、四人ノ委員ノ決メタモノヲ認メルカ否カ、其一ツノ問題、ソレカラ残サレタ人事ノ問題ハ、皆ガモウ一遍之ヲ帰ツテ読ンデ見テ、更メテ集ル、此二ツニ局限シテ、若シ散会サレルナラバサウ云フ方法ノ下ニ次回ニ持越シテ戴キタイト思ヒマス

○中島委員 私ハ決議ノコトハ別ニ申上ゲマセヌガ、今鈴木サンデスカ、京北側ノ維持委員ガ、斯ウ云フ問題ニ付テハ喙ヲ容レヌ方ガ宜イ、人事ニ付テハ皆独立ト申合せガアルカラ——ソレハ其ノ通りデスガ、寄附行為ノ維持員会ハ財団ノ重要ナル事項ヲ審議決定ト云フノデ私等ガ改革運動ヲシタ時ニ、京北ノ力ヲ借りテ、其条項デ下ノ維持員ガ上ノ事ニ心配シテ下サツタ歴史ガアリマス、ソレハ事実サウ云フ事ヲシテ来タ歴史ガアリマスカラ、其事ヲ一応老人トシテ御参考ノ為ニ申上ゲテ置キマス

○平岡委員 是ハ大学側デハ重要ト認メラレルカモ知レマセヌガ、私ノ方デハ学長ノ取扱如何ニ依リマシテ解決シ得ルモノト認メルノデアリマス、ソレガ故ニ吾々ハサウ言ウテ居ルノデアリマス

○三島理事 前回ノ維持員会デ東洋大学ノ内規ニ関スル

ヤウナ事ハ京北側ハ関係シナイ、ト申シマシタガ初メカラ其建前デ居リマス、唯先程高島君ノ言ハレル如ク、ドウシテモ東洋大学内部ダケデハ解決ガ付カナイ、社会問題ノヤウニナツテ来場合ニハ、財団役員ノ一人トシテ監視スル訳ニ行カナイト云フコトヲ前回申上ゲタ、ソレデアリマスカラ、小委員ノ選定ナドハ京北側ハ参加シナイ、是ハ東洋大学側ガ選定セラレタノデアリマス、今日ハ報告デアリマスガ、ソコデ此問題ガ東洋大学内部ダケデドウシテモ収リガ付カナイカ、或ハ一層世間ニ拡マツテ、世間ニマデ推及ボスト云フヤウナ問題ニナツタナラバ、吾々ノ立場ハソコニ又多少変ツテ来ルダラウト思ヒマス、サウシテ只今色々御動議ナドガ出テ決ヲ採ルコトニマデナツテ居リマスガ、併シ東洋大学側ノ維持員会デハ挙手トカ、起立トカ云フヤウナ多数決ニ依ツテ、一人デモ多数ダカラソレガ決シタト云フ事ハ、実ハ従来ノ慣例ニナイノデアリマス、デアリマスカラ只今ノ議論カラ大体ノ所ヲオ見計ヒニナツテ、之ヲ起立トカ挙手トカ云フコトニ依ツテ私ハ決シタクハナイノデアリマス、是ダケ御参考ニ申上ゲマス

○鈴木委員 ドウデセウカ、何時迄ヤツテモ切りガ付カ

スト思ヒマスガ、提案者ノ方モ議案ヲ潰シタイ訳デハナイシ、御互ニ研究スル余地モアリマスシ、其間ニ鍊レバ良イ考ガアラウト思ヒマスガ、如何ナモノデセウ、

○高島委員

結局今三島君ノ御説ニ従ツテ、座長ノ御考デ何トカ解決シテ戴クヨリ外方法ハナイト思ヒマスガ、唯少クトモ東洋大学側維持員ハ此案ニ對シテ決定シタ訳デハナイノデスカラ、吾々ハ之ヲ十分ニ讀ンデサウシテ考ヘナケレバナラス、先刻早川委員ノ御話ニアリマシタ立法技術的ニ眺メマスコト、矢張り相当ニ整理シナケレバナラス所モアルノデハナイカ、斯ウモ考ヘル、併シソレハ必シモ国家ノ法律デハナイカラ立法技術ノ問題ナド彼是言フ必要ハナイト云ヘバソレ迄デスガ、出来ルダケ立派ナモノニナルコトヲ切望スルノデアリマスカラ、果シテサウ云フコトガアルカナイカ分リマセヌガ、読ンデ見テサウ云フ事ガアリマスレバ吾々モ意見ヲ容レテ戴キタイト云フ事ニナルカモ知レマセヌ、兎ニ角相当マダ問題ガ後ニ残ツテ居リマスカラ、其点ヲ学長ガ能ク懇談ヲナサツテ、サウシテ一ツ善処シテ戴キタイト思ヒマス

○大倉議長 伺ヒマスガ、持越スト云ヒマス、唯空ニ延バスト云フ意味デスカ

○鈴木委員 学団ヲ愛スルト云フ事カラ行キマスレバ、

小林サン何カ第一人者ト思ヒマス、私御意見ヲ拜聴シテ御尤ト思フ説モアリマス、デアリマスカラ大学側ノ方デ十分ニ御話合ヲ願ヒマスレバ、良イ案ガ私ハ必ズ出来ヨウト思フ、サウシテ決ツタラ維持員会ヲ開イテ報告スル、ソレデ結構収マルモノト私ハ思フノデス、ソレデアリマスカラ、モウ少シ御鍊リ願ヒタイ、又立法技術ト云フコトヲ言ヒマスガ、私ハ実ハ其方ノ専門デスガ、読ンデモ見ナイケレドモ、先程早川サンカラ理事ノ問題ガ出テ来マシタシ、此方カラモ出テ来マシタ、随分サウニ云フノガアリハシナイカト思ヒマスカラ、却テ議論ヲ沸騰サセルヨリモ、御延シニナツタ方ガ宜イノデハナイカト思ヒマス、私ノ希望トシテハ京北ノ方デハ決ニ加ラナイデ、東洋大学ノ方デ斯ウ云フ風ニ決メタカラ承知シロ、ハイ結構デス、斯ウ云フヤウニ一ツ学長ノ方デ御処置アランコトヲ希望シテ置キマス

〔賛成〕ト呼ブ者アリ)

○大野委員 先程三島先生ノ仰有ツタ通り、大学ノ重要ナル点ニ於テハ無論同ジ財団ノ事デアリマスカラ、吾々喜ンデ参加シマス、ケレドモ従来ノ会デ屢々アツタヤウニ、成ベク御互ニ関係シナイコトガ慣例デアリマスカラ、大学ノ事ハ大学側ニ於テ収メテ戴キタイト云フノガ吾々ノ趣旨デス、ソコデ此前ノ維持員会ノ決議

デ以テ小委員会ヲ決定シテ報告シロト云フコトヲ決メタノデアリマスカラ、小委員会デ慎重審議ノ結果ニ対シテハ十分尊重スベキ義務ガアル、謂ハバ第三読会ニナツテ大体ノ決ヲ採ル場合ニハ、細カイコトハ言ハナイノガ普通ノ委員会ノヤリ方デス、併シ人事ニ関スル事ハ大分議論モ対立シテ来マシタカラ決ヲ採ル、斯ウ云フ事デアリマスガ、ドウモ多数決ト云フコトハ今仰有ルヤウニ感心シマセヌカラ、ソコデ延期トスルヨリ外仕方ナイト思ヒマスガ、ソレニ付テハ実ハ改正案ガ先程手ニ渡ツタダケデアリマスカラ、ドウ云フ風ナ決定ニスベキカ考ヘル余地ガナイ、是ハ確ニ今直グ決メルノハ無理デス、恐ク二三日前から見ナクチャナラヌ事ダト思ヒマス、是ハ委員諸君ノ一寸手落デアツタト思ヒマス、デアリマスカラ先程学長ノ仰有ツタ通り人事以外ノ事ハ決定スル、人事ニ付テハ議論ガ分レタノデアルカラ持越スト云フコトニ私個人トシテハ賛成デス、全体ガ一致シナイト矢張り思ハシクアリマセヌカラ、兎ニ角改正案ガ先程手ニ渡ツタト云フ点ガ手落ガアルト思ヒマスカラ、次回ヘ延バスコトニ私ハ賛成シタイト思フ、或ハ延期シタツテ同ジ事ヂヤナイカト云フ考モアルカモ知ラヌガ、併シ窮スレバ通ズデ、マダ何トカ開通スル方法モ考ヘラレナイ事モナイダラウト

思ヒマス、直ぐ今晚決メナケレバナラスト云フモノデモナイデセウシ、殊ニ重大ナ問題デスカラ、次回ニ延期スルコトニ賛成致シマス、

○大倉議長 議長トシテモ皆サンニ御諮シマスガ、非常ニ重大ナ問題デアルト私モ思ヒマス、又自重説モ色々アツテ今日議論ガ一致シナイ、私ハ何時モ此会議ニ臨ム毎ニ大学ガ殊ニ文化系統ノ当大学ガ、斯ウモ採マナケレバナラスト云フコトヲ私ハ驚イテ居ルノデス、私ガ年来ヤツテ居リマス精神文化研究所ガ、所謂東洋学ヲ基礎ニシテ西洋学ヲ見テ行カウト云フ此熱意ノ為ニ私ハ命モ財モ捧ゲテ居リマス關係上、之ヲ具體的ニ實現スルニハ、全ク似タリ寄ツタリノ學問ノ府デアルト思ツタカラ当大学ニ来マシタノデ、今尚サウ思ツテ居リマス、若シ出来ル事ナラバ御國ノ為ニト云フ事ヨリ外ニ何モアリマセヌノデスガ、皆サン下ノ方ハ上ノ方ニハ關係シナイ長年ノ慣習ダト云フコトハ、私ハ余リ能ク知ラナカツタ、最初財団ト云ヘバ、下トカ上トカ云フコトハ内輪ノコトデ、法律上下トカ上トカ云ツタツテ、ソレハ同ジ財団ノ中ノ仕事デアルト私ハ思ツテ来タノデス、三島先生カラ色々歴史ヲ伺ツテ、歴史ヲ尊重シテソレ以来私ハ別々ニシナケレバナラスト云フ感じヲ持ツタ、併シ下ト上ト別々ダカラト云ツテ、

何時モ喧嘩シナケレバナラスト云フコトハナイ、下ト上ト云ツテモ外カラ見レバ一ツデアルト思ツテ今日マデ參リマシタガ、又茲デ別々ニシナケレバナラスト云フコトニナリマシタ、私共ハ、是ハ重大ナモノデアラルカラ折角小委員デ決議サレタ事デアリマシテモモウ一度審議シタイト云フ高島委員ノ御考モ、是モ世間ニアリ勝ナノデ、小委員ガ決メタカラ必ズ盲判ヲ押スト云フコトハナイ、ソレハ仮ニモウ一度考ヘルニ致シマシテモ、小委員諸君ガ随分長イ間之ヲ專念シタノデアリマシテ、其間ニ交サレタ議論ヤ説ト云フモノハ、一応吾々ノ參考ニシタイト思ヒマスガ、如何デセウカ

(「結構デゴザイマス」ト呼ブ者アリ)

○大倉議長 私ハ大体東洋大学ニ来ル時ハ白紙デ来マシタノデ、ドウ云フ關係ガアルカ、誰ガ我儘ヲシテ居ルカナド、云フコトハ知りマセヌ、今回第一種第二種ノ委員ニ依テ決ツテ来ルモノハ、マサカ横車ヲ押ス人ハナカラウ、學長ハ其車ニ乗ツテ歩クヨリ仕方ナイ、茲ヘ来テ政治運動ヲスル氣持ハナイノデス、ドウシテモヤツテ行ケナケレバ、私ハ退クヨリ仕方アリマセヌ、ソコデ慎重ニ皆サン御考ニナルニシテモ、専門ニソレバカリヤツタ方ノ議論ヲ一度聴ク方ガ宜イデハナイカ、相当長イモノデアリマセウガ、ドナタカ読ンデ戴

クコトハ如何デスカ

○鈴木委員 如何デセウカ、ソレハ時間モ過ギマシタシ、大分議論モ聴イテ居リマスガ、実ハ今晚ヨリ一ツ寝テ起キタ方ガ宜イカト考ヘマス、今日ハドウシテモ各々考ガ違ヒマスカラ、其方が却テ学長トシテモヤリ宜クハナイデセウカ、ト云フノハ京北側ノ維持員ニ決議権ガ有ルカ無イカ、其辺モ問題ダラウト思フノデス、ソレデスカラ其辺ノ点モ御考下サイマシテ、其間ニ小委員ノ方デ少シク足りナイト御思ニナリマスレバ、学長サンモ御忙シイデアリマセウガ、之ヲ助ケテ戴キタイ、ソレカラ教授ノ方ノ先輩古老ノ方モ、マアオ前ハサウ言フケレドモ暫ク待テヨ、ト云フヤウナ工合ニソコハ子弟ノ関係デ之ヲ導ク、斯ウ出来ルコトガ教育ノ理想ダト思ヒマス、学長サンニ其点ニ於テ辣腕ヲ御願シテ置キマス

○小林委員 只今ノ維持員会ノ御意見モ御尤デスガ、本校ノ過去ヲ緇クト云フヤウナコトヲ私ハ申サナイ、サウ云フ過去トカ、或ハ学校ノ精神トカ云フヤウナ理想論ハ拔ニシテ、私ノ考ヘル所ハ如何ニシタラ東洋大学ノ経営ガ成立ツカト云フコトデアリマス、其為ニ是ガ出来タコトデアリ、随テ其東洋大学ヲ経営スルト云フ意味ニ於テ校友ト教授側トノ対立デアリマス、故ニ下

ノ方が財団トシテ左程重要ナ事件デナイト先程カラ屢々申サレマスガ、私ハ之ヲ実ニ残念ニ思ヒマス、ソレハ京北側ノ方ハ本当ノ上ノ事ヲ御承知デナイカラデアリマス、京北ノ方ハ京北ノ財政ガ十分ニ成立ツテ行カレルカラデアリマス、私共ハ例ヘバ本年度ノ予算案ハ五万円ノ赤字ガ出テ居ル、ソレハ今年初メテデハナイ、モウ五年十年前カラ赤字々々デ、文部省ニ年々供託シナケレバナラヌ金モ、茲ニ三年ヤツテ居ラヌ許リデナク、五十万円ノ供託シナケレバナラヌ中ヲ僅カ二十万円供託シテ、年々更ニ三十万円シナケレバナラヌ事情ニアル、金ヲ年々納メルノヲ納メナイデ、逆ニ五万円借りテ使ツテ居リマス、サウシテ穴埋ヲシテ居リマス、皆様が私共ノ血ヲ吐クヤウニ叫ブコトガ、本当ニ東洋大学ノ為ニ重要ナ問題デナイト云フナラバ、私共ハ私共ノ大学ノ台所ヲ皆サンニ打明ケテ、サウシテ御相談戴ク、是デモ東洋大学ノ為ニ余リ重要デナイト仰シヤルカ、若シ女中モ置ケナイヤウナ苦シイ事情ニアル台所ヲ見テ戴イテ、ソレデモ皆サンガ吾々ハソソナ事ハ知ラヌト云フナラバ、私ハ同ジ財団デアリナガラ、如何ニモ不人情デハナイカト思フノデス、皆様ハ重大デナイト仰シヤルガ、是程東洋大学ニ取ツテ重大ナ事ハナイ、嘗テノ十二年ノ騒動ハ、ドウ云フ問題デアツタカ

知りマセス、併シサウ云フ感情トカ何トカ云フ問題デナクシテ、今度ノ問題ハ、東洋大学ヲ今後大学トシテ存置スベキカ、廃校スルカノ岐路デアリマス、寧ロ私ヲシテ言ハシムレバ、十二年ノ時ニ於ケル騒動ヨリハモット重要ナモノデアリ大切ナモノデアル、之ヲ三年五年経ツタ後ニナツテ東洋大学ガ潰レテ、皆サンガコンナ事ナラ何故モット前ニ言ハナカツタカト言ハレテモ、モウ致方ナイ、此点皆サン十分御含ヲ願ヒタイ、先程モ三島先生カラ社会問題ト云フ御言葉ガアリマシタ、私共東洋大学ニ再ビ大正十二年ノ時ノヤウナ社会問題ヲ惹起サシタクナイノデアリマス、何トカシテ東洋大学ヲ潰サナイデ、今ナラバドウニカ斯ウニカ助ケ得ルト云フ時ニ、私ハ皆サンノ御協力ヲ求メテ居ル訳デアリマス、此点私ハ高島先輩——天下ノ高島米峯先生デアラレ、天下ノ聡明ヲ以テ任ゼラレル高島先輩ハ、小林昌治ハ決シテ横車ヲ押シテ居ルノデハナイ、若氣ノ余リ無茶ヲヤツテ居ルノデハナイト云フコトガ分ツテ下サルト思ヒマス、而モ高島先輩ハ前学長以来ノ相談役デアリマス、東洋大学ノ将来ヲ思ツテ下サルナラバ、ソレニ対スル御理解ノ出来ナイ訳ハナイト思ヒマス、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ維持員会ニ於キマシテモ、又小委員会ニ於キマシテモ、千言万語ヲ費シテ尽

シテ参リマシタ、ソレガ皆サンニ於テ左程重大ナ事デナイト言ハレルコトハ、私ハ実ニ淋シイト思ヒマス、ドウカ此問題程東洋大学ニ取ツテ大キイ問題ハナイト云フコトヲ更ニ御一考戴キマシテ、私ハ先程カラ皆様カラ御意見ガアリマシタカラ、敢テ今日御決議ヲ願ヒタイトハ申シマセス、ケレドモ不肖私ノ意ノ有ル所ヲ御認メ下サレ、何卒本学ノ為ニ、財団ノ為ニ御善処下サイマシテ、私ノ委員トシテノ職責ヲ放免シテ戴キタイト思ヒマス

○柴田委員 私維持員トシテ只今ノ所信ヲ申上ゲマス、先輩、先生、皆様ノ御意見ヲ聴キマシテ、洵ニ啓発セラレマシタ、併シ此問題ハ非常ニ大学ノ上ニ大事ナ問題ト思ヒマスノデ、二ツノ希望ヲ申上ゲテ置キマス、一ツハ只今御話ニナリマシタ通り、人事問題ニ関スル以外ノ事ハ、不肖吾々ニ於キマシテモウ決定シタノデアリマス、残ツテアル問題ハ人事問題デアリマスカラ、ドウカ人事問題ダケハ然ベク得心ノ行クヤウニ御取計ヒ願ヒタイ、其外ノ問題ハ是非茲ニ御承認願ヒタイト思ヒマス、第二ハ上下ノ関係デアリマス、是ハ私實際的ニモ諸先輩カラ伺ツテ居リマスガ、確ニ上下ハ別ニスルコトニナツテ居リマス、併シ財団ト云フノハ一ツ物デアリマスカラ、重大ナ問題トナレバ、最後ハドウ

シテモ一団トナツテソレト、誠意アル御発言ノ下ニ決定シナケレバナラヌモノダト思ヒマス、此問題が重大デアルト云フコトヲ御認ノ時ニハ、愈々ト云フ場合ニハ是非此財団トシテ承認願ヒタイト思ヒマス、以上私ノ信ズル所ヲ申上ゲテ置キマス

○平岡委員 先程小林サンカラ色々御話ガアリマシタガ、同ジコトヲ繰返スヤウデアリマスガ、仮ニ下ニ京北ト云フモノガ財団内ニ居リマスガ、若シ之ガ協力ヲ得ナカツタ場合ニハ如何ニシマスルカ、御決心ニナツテ居ラナケレバナラヌ問題デアリマス、デアルカラ東洋大学ダケデ現在ノ状態デアツタナラバドウヤルカト云フヤウナコトモ御研究下サレ、上ノ方ノ委員側デ涯^{（壁）}ミ合フトカ云フヤウナコトガナクテ、前ニ言ハレタヤウニ吾々ガ双手ヲ挙ゲテ賛成出来ルヤウナ風ニ御話合ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小林委員 ヨク分リマシタ然ラバ私共ガ何ガ故ニ是程ニ京北ノ人々ニ協力ヲ求メナケレバナラヌカト云フコトヲ簡單ニ申上ゲマス、ソレハ御説ノ如ク本学ダケノ財団デアリマシタナラバ私共ハ例ヘバ維持員ノ任命デモ、或ハ理事ノ任命デモ吾々ダケデ決議出来ルヤウナ人数ヲ選ビマス、然ルニ財団ノ関係ガ上下引ツ付テ居ルガ為ニ、例ヘバ財団理事ニ於テモ上ト下トデニ名ツ

、デ是モ偶数デス、自由ニナリマセヌ、ソレデ維持員ノ任命ニ於テ校友ト教授ト半分ヅ、サウシテ校長ト理事ト云フコトニナツテ居リマス、例ヘバ明治大学ノ如キハ維持員ヲ之ヲ評議員ト申シテ居リマスガ、五拾名居リマス、五拾名ノ内ニ拾五名ガ校友、教授ハ僅カ五名、後ノ二拾名ハ対外的ナ明治大学ノ支持者デス、校友ハ二拾五名ヲ占メテ居リマス、事程左様ニ校友ト云フモノハ力ガアラウガナカラウガ、其財団ノ母体トナツテ行クベキモノデアリマス、然ルニドウデスカ本学ニ於テハ、本学ノ生拔キノ本当ニ本学ヲ離レテハ飯ガ喰ツテ行ケナイト云フヤウナ先生方ガ東洋大学ニモ居ツテ下サルナラバ、吾々ハコンナ心配ヲセンデモ宜イ、東洋大学ノ教授デアル、何デアルト言ヒナガラ帝大ノ先生デアツタリ、アツチノ学校ノ先生デアル、東洋大学ノコトヲ本氣ニ考ヘテ下サリ、本当ニ東洋大学デナケレバ俺達ハ生キテ居ラレナイト云フヤウナ方ハ一人モ居リマセヌバカリデナク、科長デアルトカ云フヤウナ人迄東洋大学ヲ悪評シテ居リマス、斯様ナ人ハ京北中学ナリ実業ニ一人デモ居リマスカ、居ラナイデシヤウ、本当ニ京北ノ為ナラバト云フ先生バカリデス、私ハ本学ノ為ニサウ云フ人々ガ欲シイノデス、サウ云フ人々ガ一人モ居ラナイガ故ニ吾々ノヤウナ小僧ガ出

シヤバツテ、本当ニ泣キナガラ……

○高島委員 一人モ居ラストハ何ダ

○小林委員 居ラナイト私ハ認メル

○高島委員 ソレハ君ノ主観ダ

○小林委員 私ノ観ル所ハ居リマセヌ、私ノ観ル所ハ教授デモ、校友デモサウ云フ氣持ノ人ハ居ラナイ、校友ノ中ノ御老人ノ連中ニモサウ云フ方ハ一人モ居ラスヤウニ僕ハ見受ケル、校友ノ中ノ老人連中ニモ本学ノ財団ノ為ニ何等益スル人ハ一人モ居ラスト云フコトヲ、私個人ノ名ニ於テハツキリ申上ゲル、左様ノ事情デアリマス、ドウカ此意味ニ於テ私ハ京北ノ方々ニ何トシテモ、御協力ニナツテ戴キタイ、其点ヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、

○早川委員 モウ時間ガアリマセスカラ多クヲ費シマセヌ、小林君ノ熱烈ナ御演説ヲ拝聴シテ熱意ハ良ク分リマスガ、私共此前ノ予算會議デモ小林君カラ承ツタ所ニ依ツテ幾何カソソナモノカナアト思ツタニ過ギナイノデアリマス、斯ウ云フ風ニ色々ナ制規ヲ改正ナサルコトニ依ツテ果シテ小林サンガ御心配ニナツテ居ルヤウナコトガ完全ニ救済サレルノデアルカドウカ、今迄ノ制規デハドウシテモイケナイノデアルカト云フヤウナ見据ヘデモ御説明ヲ承リ得ナイデスカ、是ハヨク拜

見シテカラ他日承ツテ見タイト思ヒマス、サウ云フコトモ承ツテ唯是ハ小委員ガ斯ウ云フ風ニ決定シタ、此部分ハ全部一致デアル、此部分ハ一致シナイノダ、是ダケデハ若シ仮ニ此維持員會ニ承認ヲ求メラレルヤウナコトガアルトシマシテモ、未ダ時期ガ十分熟シテナイモノト私ハ考ヘタイト思ヒマス、

○大倉議長 ソレデハ皆サンニ御諮リシマスガ、未ダ時期デナイト云フ御議論ガ大分アルヤウデスガ、此儘デ延スト云フコトニシテ次會ハドウ云フ風ニスレバ宜イカト云フコトノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、

○鈴木委員 私ハ次會ハ非常ニ難シイト思ヒマス、此点ニ付テ學長ノ所見如何ト云フコトヲ申上ゲタ、然ルニ學長ハ一向御答ハナイ、又答ラレル筈ハナイト思フ、其意味合ニ於テ非常ニ難シイト感ズル、然シ乍ラ私ガ考ヘマスノニ、是ハ小委員ノ方々ノ意見ヲ承リマス、意見ハ対立ニナツテ居ルサウデゴザイマス、デスカラ何方カモ申サレマシタガ、委員ノ間デ何トカ話合ニナリマシタナラバ恐ラクアル意味ニ於テノ案ガ立チサウニ私ハ感ゼラレルノデアリマス、ソレデモ出来ナイモノデアルナラバ、吾々京北側ノ方ハ更ニ退イテモウ一遍考ヘナケレバナラスト思ヒマス、私ハ先程小林サンノ逆捻ヲ食ヒマシタガ、幾ラ學長ガジタバタシテモ駄

目ダト申シマシタ、ジタバタト云フコトハ私ノ方デハサウ云フ意味デハナイ、私ノ方ハ与ヘラレタ予算ノ範圍内ニ於テ、各々善処シテサウシテ切詰メテ居リマスカラ、此事變ノ為ニ経営困難ナルコトハヨク分ツテ居リマス、ソレデアリマスカラ御互ニ善処シテサウシテ学長ハ財団ノ理事長デアルカラ、ソレヲ御統ベニナツテ居ツタラ宜イデハナイカ、其経営ノ場合ニ於テ從來ノ沿革ヲ無視シテ貰ツテハ困ルカラ、沿革ハ御互ニ侵サヌ方ガ宜イノデハナイカ、若シ仮ニ吾々ニシテ東洋大学ノ方ノ人事ヲ犯スト云フ場合ガアルナラバ、吾々考ヘナクチャナラヌノデハナイカ、御互ニソレハイカヌ、デアリマスカラサウ云フコトヲセンデ、ソコヲ何トカ今日明日ト言ハズ寧ロ長イ期日ヲ御置キニナツテ、賢明ナル教授方ガ御出ニナリマスカラ、ソノ方々ガ御話合ニナツタラ、何トカソコニ道ガ付クノデハナイカト私ハ感ズルノデアリマス、ソレト同時ニ私ノ方トシテハ学長ノ所見如何ト求メマシタガ、此場合東洋大学ノ内部ノ教授ヲ幾何任命シヤウト、俸給ヲ幾何出サウト維持員会ノ御気嫌ヲ伺フテヤル、ソナコトデ学校経営ハ出来ヌト思フ、私ハヤルダケノコトハドン／＼ヤツテサウシテ斯ウ云フヤウニ極メタカラト、報告スレバ宜イノデハナイカ、後ハ学長ノ人格ト御手腕ニ待

ツヨリ仕方ガナイ、サウ云フ意味ニ於テ私ハ快刀乱麻ヲ断タレンコトヲ希望スルノデアリマス、東洋大学ニハエライ立派ナ社会的、否、世界的ノ学者モ居リマスレバ、人格者モ居ラレル、ソノ方々ガ小委員ノ方ノ「オプザーバー」ト云フ意味ニ於テ御参加ニナツタラ、ソコデ何トカ出来サウニ私ハ思フ、ソレデ出来ナケレバ出来ナイヤウニ御報告ヲ願ヒタイ

○広瀬(了)委員 先程カラ伺ツテ居ツタノデアリマスガ、人事問題ノ一項ニ於テ行詰ツタノデアリマス、其人事問題ニ付テ再ビ委員諸氏ヲ煩スト云フコトハ甚ダ結構ト思ヒマス、併シソレ以外ノモノハ委員諸君ガ最善ヲ御尽シニナツタカラ、其御苦勞ニ対シテ或形式ノ下ニ之ヲ入レテ戴クト言フコトハ、今日は非必要ダト思ヒマス、唯人事問題ニ付テハ宇野先生ガ言ハレルヤウニ教授側モ一步モ譲ラナイト言ハレル、是ハ從來弊害ガアリマシタノデ、多年教授ノ独断専行ト云フコトニ付テハ社会一般ノ人モ言ツテ居ル、各方面カラ聞イテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ小林君ガ吾々ハ一步モ引カナイト云フノハ無理モナイ、外ノ事ハイザ知ラズ人事問題ニ付テハ色々ナ人ノ異議ガアルノデアリマス、ソレデ小林君ガ一步モ譲ラヌト云フノハ一理アルト思フ、ソレデ他ノ適任ノ方ニ於テ更ニ人事問題ニ

関スルモノヲ御作り願ヒマシテ、之ヲ旨ク打開シテ戴クナラバ非常ニ結構ト思ヒマス唯延バスト云フコトハ不賛成デアアル、願クバ人事問題ニ対スル第二ノ小委員ヲ選ンデモ結構デアリマスガ、ドウカソコニ曙光ヲ認メルヤウニスルヨリ致シ方ナイト思フノデアリマス、

○大倉議長 食事ノ時刻モ参リマシタカラ十五分バカリ休ミマシテ、モウ少シ会ヲ続行シタイト思ヒマス

午後七時二十分休憩

午後七時四十分再開

○大倉議長 再び開会致シマス

○高島委員 小林君ニ一寸御尋シタイノデアリマスガ、

小林君ハ先刻京北中学ノヤウニ京北中学ヲ離レテハ生キテ行ケナイヤウナ人々ハ東洋大学ニハ居ナイト斯ウ言ハレマシタガ、京北中学ノ諸君ハ京北中学ヲ離レテハ餓死スル人々ナノカドウデスカ、其点ヲ私伺ヒタイト思フノデアリマス、又東洋大学側ニハ京北側ノヤウニ東洋大学ヲ離レテハ飯ガ喰ヘナイヤウナ人ハ一人モナイト云フ意味ニトラレル訳デアリマスガ、東洋大学ハ東洋大学丈デ総テノ教授ノ生活ヲ賄ツテアゲラレルダケノ待遇ヲシテ居ラスト云フ意味デアツテ、サウユフ者ガ一人モナイト云フヤウナ結論ヲ生ミ出スト言フコトハ甚ダ是ハ失礼デアアルシ、論理的ニ考ヘテモ是ハ

モウ少シ言方ガアルト思ヒマス、夫ガ一ツ、モウ一ツハ、校友ノ老人ノ中ニ東洋大学ヲ愛スル者ハ一人モナイト断言サレタノデアリマス、然モ私ハ念ヲ押シタ所ガハツキリトサウ言ハレタノデアリマシテ、是ハ私自身ガドウスウト云フノデアアリマセヌガ、東洋大学校友ノ先輩トシテ現ニ安藤君、三島君等ハ東洋大学ノ現財団理事トシテ働イテ居ラレル、然ルニ校友ノ中ノ老人組ニ一人モ大学ヲ愛スル者ガナイト言ハレマスガ、果シテサウ言ウコトヲ今モ尚ホ堅ク信ジテ居ルノデアリマスガ、ドウデスカ、私ガ念ヲ押シタ時ニハツキリサウ言ハレタノデアリマスカラ単ナル失言ト云フ問題デ処置ハ出来ナイノデス、其点ヲハツキリ御答ヲ願ヒタイ

○小林委員 是ハ今日ノ議事ノ本質デハアリマセヌカラ遺憾ナガラ御答ノ限リニアラズト思ヒマス

○高島委員 小林君ハ人ヲ責メル時ニハ実ニ委曲ヲ尽シテ責メルノデアリマスガ、責メラレル時ニハ何時デモア、云ウ論法ヲ以テ逃ゲヤウトスル、小林君ハ自分一人ガ大学ヲ愛シテ居ルカノヤウニ熱烈ナル演説ヲシテ居リマスケレドモ、其熱烈ガ果シテ真ノ熱烈デアルノカ、ドウカト云フコトヲ今ノ事実ニ依ツテ私ハドウモ承認スルコトガ出来ナイノデアリマス、ダカラ今後小

林君ノ発言ニ関シテハ或程度迄ハ信頼スルトシテモ、或程度迄ハ是ガ偽物ダト云フ信念ヲ以テ小林君ノ論議ヲ聞キタイモノダト思ヒマス、

○小林委員 一寸申上ゲマス……

○大倉議長 大分枝葉ニ亙ツテ来マシタカラ……

○小林委員 高島米峯式ノ論法ガ如何ニソレヲ解釈シヤウト、米峯式ノ論法ハ自由デアリマシテ、私ハ唯先程京北ノ方々ガ京北ヲ離レテ喰ツテ行ケント申上ゲタコトハ是ハ失言デアツタカモ知レマセス、失言デアレバ取消シマスガ、私ノ言ハムトスル精神ハ要スルニ京北ノ方々ノ京北ノ学校ニ対スル信念ノ程度ヲ意味シタノデアリマスカラ、失言デアリマシタナラバ御詫ビヲ致シマス、同時ニ大学側ノ校友ノ先輩ニ誠意ノアル人ガナイト言ツタコトハ之亦誠ニ失言デアリマシテ三島先生、安藤先生其他ノ人々ノ御誠意ニ対シテハ誠ニ多謝スル所デアリマスガ、唯高島米峯氏ハ私ノ関スル限り校友ノ精神ヲ持ツテ居ラヌノデアリマス、ソレダケハハツキリ申上ゲテ置キマス、

○増田委員 鈴木君ニ対シテ失言ヲ取消セトカ何トカ言ツテ鈴木君ヲ責メテ居ツタ人ガ今度ハ校友会ノ老人ノ中デ東洋大学ノコトヲ思ツテ居ル者ハ一人モナイ、ダカラ京北ノ人ノ援助ヲ求メルンダ、ト云フヤウナコト

ヲ言ハレルガ、斯ウ云フ神聖ナ会議デ高島サンダケハドウダトカ言フヤウナ人身攻撃ニ亙ルコトハ御止メニナツタ方が宜イト思フ、サウデナイト此問題ハ今後ノミナラズ、現ニ慎重審議シヨウトスル精神ヲ持ツテ居ル人モ嫌ナ氣ニナツテシマフ、今後維持員会ハズツト引続キ有ルノデスカラ、ドウカ何レノ会デモ御互ニサウ云フコトハ止メテ戴キタイノデス、

○小林委員 御説御尤モデアリマス、是ハ私ノ失言デアリマシタ、取消シマス、然シ乍ラ私ハ貴方ハ御承知デアルカナイカハ存ジマセヌガ、私ノ維持員会ニ出席シタ限リニ於テ本学ノコトデ米峯先生ノ仰有ラレルコトガ、實際是ハ果シテ東洋大学ノ先輩デアリ、今日迄経営ノ方ニ携ツテ居ラレタ人デアルカ疑問ヲ抱クノデス、先程実ハ本学ノ維持員ダケデアチラノ別室デ此問題ニ付テ協議ヲ致シマシタ、其節ニ於キマシテモ、私ガ自カラノ費用ヲ以テ此小冊子ノ「パンフレット」ニシタト云フコトヲ申上ゲタ、ソレモ申上ゲネバナラナイヤウナコトヲ高島サンガ言ハレタ、私ハ少クトモ高島米峯サンガ如何ナルコトヲ仰有ラレテモ失言ニ亙ラヌヤウニ努力シテ来タ心算デアリマス、然シ今日迄私ノ聞ク限リニ於テハ、米峯サンノ仰有ラレルコトハ実ニ横車デアル、私自身サウ云フ信念ヲ持ツテ居リマス、ソ

レハ先程ノヤウナ言葉ヲ幾度モ言ハレルガ故ニ私ハ実ハ申シタノデアリマシタガ、ソレガ失言デアリ攻撃デアツタナラバ止メマスガ、要スルニ私ノ氣持ハ高島先生ヲ単ニ攻撃スルト云フ惡意アルモノデナイト云フトダケヲ申上ゲテ置キマス、

○大倉議長 岡村サン何カ進行上ノコトデ御話ガアリマスナラバ、枝葉ニ亘ルコトハドウゾ……

○岡村委員 枝葉ハ申上ゲナイ積リデアリマス、先程私カラ提案致シマシタコトハ議長ニ於テ取上ゲラレテ議題ニナリカ、ツテ其儘又潰レテシマヒマシタガ、其間ニ皆サンノ御話ヲ承ツテ居ル間ニ多少心境ノ變化モアリマシテ、改メテ議事收拾ニ関スル提案ヲサシテ戴キタイト思ヒマス、從ツテ前ニ申述べタコトノ修正的ナ動議ニナリマスガ私先程人事ニ関スル以外ノコトハ認メルト云フコトヲ申シマシタ、然シ實質ノ上カラ考ヘテ見ルト、ソレダケ認メルト言フコトハ無意味ナコトデアル、要スルニ四人ノ委員ガ革新ノ必要ヲ認メ人事ニ関スル以外ノ条文モ兎ニ角必要デアルト云フコトヲ御認メニナルト云フ嚴タル事實ダケヲ速記録ニ止メ茲デドウスルト云フコトダケデナク、ソレヨリモモツト大切ナコトハ突如吾々ノ前ニ現ハレタ、是ダケノ龐大ナ活字ガ果シテ信賴スル委員ノ審議ノ通りニ承認出来

ルカ出来ナイカト云フコトニ付テ、モウ一度吾々ハ檢討スルコトモ意味ノアルコトダト思ヒマシテ、今日ハ之ヲ戴イテ歸テ皆ナデヨク読ンデミルト言フコトデ一應議事ヲ閉ジテ戴キタイト思フノデアリマス、但ソレデハ之ヲ以テ此次ニ集ツタ時ニドウナルカト云フコトハ、是ハ私ハ先程カラ申シマス通り、目下ノ見通シト致シマシテハ、兎ニ角、人事ニ関スル限り恐ラク解決ノ見込ハ立タナイヤウニ思フノデアリマスガ、或ハ非常ニ旨ク立ツカモ知レナイ、ソレニシマシテモ今度集ル「メンバー」ガ此儘ノ「メンバー」デアルカ、或ハ東洋大学側ダケノ維持員ニ於テモウ一度相談スルガ宜イカ、或ハ又更ニ小委員ヲ上ゲテ、要スルニ今ノ小委員ニ対シテハ最早ハツキリシタ対立ヲ吾々が認メル限リ、モウ一度御議論ヲ伺ツテモ、是ハ無意義ト思フ、ダカラ改メテ小委員ヲ上ゲルカ、此三ツノコトニ付テ決定シテ戴イタラ議事ガ都合ヨク運ブデハナイカト思ヒマス、デ念ノ為ニ補足ヲ申シテ置ケバ、若シ此儘ノ「メンバー」デ此次ニ集リ、或ハ東洋大学側ダケ、或ハ小委員ヲ上ゲルコトトナツタ場合ニ、念ノ為ニ私ハ京北側ノ方々ノ御意見ヲハツキリ伺ツテ置キタイト思ヒマスコトハ、此前吾々が集リマシタ時ニ、小委員ヲ上ゲル前ニ兎ニ角東洋大学側ダケデヤツテ見ロ、ドウ

シテモ解決ガ付ナイ場合ハ俺達モ相談ニ乗ツテヤラウト云フ話デアリマシタ、今日ノ所ハ先程カラ御意見ヲ色々伺ツテ見ルト、京北側ノ方々ト致シマシテハ未ダ吾々ノ相談ニ預ル時期デハナイト御考ヘニナツテ居ルヤウニ私ニハ考ヘラレル、併シ絶対ニ之ニ対シテ吾々ハ干渉スルノデハナイガ、矢張り最初ノ通りドウシテモ解決ガ付ナイ場合ハ相談ニ乗ルノデアルカ、或ハ鮑迄東洋大学側デ解決シロト云フ徹底的ナ御意見デアルカ、詰リ此前ノ御話ト少シ変ツテ来テ居ルノデアリマスカ、此前ノ御話ト少シモ変ツテ居ナイノカ、ソコヲ序ニ将来ノ為ニ明ニシテ戴イタラ此議事ヲ進メルノニ非常ニ便宜ト思ヒマス、其意味ニ於テ私ノ提案ニ対スル御批判ノ前ニ之ニ付テ何方カ、三島先生アタリカラ御答弁ヲ戴ケレバ結構ト思ヒマス

○三島理事 是ハ京北側ノ意見ヲ一応纏メテ申上ゲルノガ本当デアルト思ヒマスケレドモ、只今ハ私ダケノ意見ヲ申上ゲマス、私ダケノ意見ハ前回ノ維持員会ニ於テ申上ゲタ考ヘト別ニ違ヒハナイ、問題ガ愈々悪化スルト言ヒマスカ難シクナリマシテ、ドウシテモ東洋大学ガ切羽詰ツテ浮沈^{フツシ}興亡ノ時ニ当ツテハ役員トシテホツタラカシテハ置ケナイト思ヒマス、私ノ考ヘハサウデアリマスガ尚若シ京北ノ方デ外ニ御考ヘガ有ルナラ

バ仰有ツテ戴キタイ、

○広井委員 結論ダケヲ申上ゲマス、私ハ只今岡村君ノ御提案ニ賛成ヲ致シマスガ、ソレニ付テ方法論ヲ二ツ三ツ指摘致シマス、ソレハ小委員ニ委託スルトシテモ、今迄ノヤウナ小委員ダト矢張り同ジヤウナモノニナリハセヌカト思ヒマス、サウスレバ私ハ寧ろ大学側ノ維持員ノ全部ノ集リデ火花ヲ散ラシテモ構ハナイ、時間ガ掛ツテモ構ハナイ、重大問題ヲ審議スルノデアリマスカラソレハ構ヒマセヌ、ドウカ一ツ大体ニ於テ岡村サンノ御意見ニハ賛成デアリマスガ、矢張り東洋大学側ノ維持員会ヲ開イテ審議スルト云フコトニ御願ヒシタイト思ヒマス

○大倉議長 如何デス

(「賛成」ト呼ブ者アリ)

○大倉議長 ソレデハ近イ中ニ大学側ノ維持員ノミデ開クコトニ致シマス、サウスルト幾日頃ガ宜シウゴザイマスカ、

○広井委員 サウ急イデヤラヌデモ宜イデハアリマセヌカ、重大ナ大学ノ憲法トモ云フモノヲ拵ヘルノデスカ
ラ……

○小林委員 今広井サンガ之ヲサウ急ガンデモ宜イト仰有ツタノデアリマスガ、之ヲ一日延セバ一日数拾円乃

至数百円ノ赤字ガ出テ行クノデス、一日早イト云フコトハ一日ヲ救フコトニナルノデス、ソレハ月給ヲ取ツテ居ラレル先生方ハサウ云フコトハ構ハヌカモ知リマセヌケレドモ、吾々ハ其赤字ヲ見ルニ忍ビナイガ故ニ此改正ヲスル、私ハ先程岡村サンノ御意見ノ如ク之ヲ小委員ニ附託サレテモ、或ハ大学側ノ委員ニ任サレテモ何レデモ構ヒマセヌ、ケレドモ之ヲ漫然ト延バシテ急ガンデモ宜イト云フコトニハ、吾々ハ絶対ニ賛成スルコトハ出来マセヌ、毎日デモ夜通シデモ一ツ審議ヲシテ一日モ早く決定下サルヤウニ私ハ御取計ヒニナルコトガ学長トシテノ立場、又財団理事トシテノ實際ノ責任者トシテ当然デハナカラウカト思ヒマス、

○大倉議長 ソレデハ近イ内ニ開クコトニ致シマス、何レ決算ニ関スル維持員会ヲ矢張り二十二・三日迄ニヤラナケレバナリマセヌカラ、ソノ時ニ一緒ニ致シマス、其以前ニ大学側ノ維持員会ヲ開イテ皆ナガ御持帰りニナツテ、ヨク御検討^{ケントウ}ノ上集ツテ戴イテ其際十分御討議シテ戴キタイト思ヒマス、

○岡村委員 私ノ提案ガ幸ヒニシテ御賛成ヲ得タコトハ光栄トスル所デアリマスガ、唯モウ一度念ヲ押シテ申上ゲテ置キタイコトハ、先程私が提案シタ中ニ此案ノ人事ヲ除ク以外、選バレタ信頼スベキ四人ノ委員ニ於

テ、満場一致デ可決セラレテ居ルト云フ事実、此事実ヲハツキリ此席上ニ於テ記録ニ残シテ置イテ戴キタイト思ヒマス、要スルニソレダケノ革新ヲ必要ト認メテ居ルト云フコトデス、之ニ対シテ吾々ハ尚承認ハ致シテ居リマセヌケレドモ、其精神ハ兎ニ角茲デ認め得ルト云フコト、是ハ恐ラク何方モ御異議ハナイダラウト思ヒマス、之ニ対シテ断ジテ異議ノ有リ得ル筈ハナイト思ヒマス、ソコヲ明カニシテ置イテ戴キタイト思ヒマス、

○大倉議長 承知シマシタ、ソレデハ今日ノ維持員会ハ之ヲ以テ閉会スルコトニ致シマス、ドウモ有難ウゴザイマシタ

(午後八時五分閉会)

千秋文庫所蔵

二〇三 東洋大学財団維持員会議事速記録

(昭和十三年六月一七日)

○大学側維持員会議事速記録

昭和十三年六月十七日午後五時五分
議事日程

一、東洋大学規則改正案

○高島委員 議事ニ入ル前ニ一寸御尋致タイ事ガアリマスガ、ソレハ六月十七日附中外日報ト云フノヲ見マシタ所ガ、斯ウ云フ記事ガ出テ居ルノデアリマス、学校ノ内部ノ事ガ社会ニ曝露サレタト云ツタヤウナ形ニナルノデアリマシテ、是ハ随分前ニ社会問題ニデモナルト大變ダト云フヤウナコトヲ外ノ人カラモ聞イタノデアリマスガ、此記事ヲ一ツ読ミマス「一部教授ノ横暴、特殊利益ノ壟断排除、東洋大学ノ制規更改著々其緒ニ就ク」斯ウ云フ大キナ標題ガ出テ居ル、一部教授ノ横暴トカ、特殊利益ノ壟断排除トカ云フヤウナ大見出デドウ云フ事ガ書イテアルカト云フト「東洋大学ハ既報ノ如ク大倉学長ノ断乎タル決意ニ基キ、同学多年ノ赤字財政、萎微不振ノ原因ヲ成ス教授評議員会ノ過当ナ権限縮小ニ依リ一部教授ノ横暴、特殊利益ノ壟断排除スルコトヲ主題ニ学校内ノ諸則、機構ノ全面的改革ニ着手シ、注目サレテ居タガ、其後同学維持員中ヨリ選ンダ四名藤村作、宇野哲人、小林昌治、柴田甚五郎ノ小委員会ニ於テ同学ノ職制、教授会規則、教授評議員会規則、教職員規律、懲戒規程、事務規程、協議員会規程、人事規程等各原案ヲ前後四回審議シタ結果、大體立案ノ域ニ達シタガ、去十三日ノ綜合維持員会ニ諮ツタ所、

右ノ内協議員会規則ニ於ケル教授ノ任免ニ関スル規定、即チ三章十八条ヨリ成ル規定、同第二章會議第五條協議員会ハ本財団大学内部ニ関スル左ノ事項ヲ審議ス、三人事ニ関スル事項ガ俄然問題トナリ、遂ニ大学側維持員会ヲ明十七日開イテ再審議スル事トシテ未決定ノ儘留保サレタ、蓋シ右ノ更改ニ依リ從來ノ特殊教授等十四名ヲ以テ組織サレ、絶對的權力ヲ行使シテ來タ教授評議員会ノ権能ノ一部ハ教授会ニ、其重要部分ハ維持員ヲ以テ成ル協議員会ニ審議サレル訳デ、同学ノ謂ハ、癌ノ剔出膿ノ切開デ新生面ヲ持來スモノデア
ル、尚同大学デハ右ノ更改ニ次デ學則ノ更改ヲモ行フ段取デ發展策ハ着々其緒ニ就キツ、アル」斯ウ云フ記事ガ新聞ニ出テ居ルノデアリマスガ、是ハ大学当局ガ新聞ニ御出シニナツタノデアリマスカ、ソレトモ又如何ナル機関ヲ通ジテ是ガ新聞ノ記事トナツタノデアリマスカ、其点ヲ一寸伺ヒタヒノデアリマス

○大倉議長 当局デハ全然知ラナイ事デス、ソレハ又詳しく……

○高島委員 当局デハ御存ジナイトスルト、コンナ詳しい記事ガ而モ相当惡意ヲ含ム書キ方デアツテ、癌トカ膿トカ、或ハ一部教授ノ横暴トカ、利益ノ壟断トカ、色々ナ教授ニ對スル惡意ノ記事ダト認メナケレバナラ

ナイヤウナモノガ、何人ノ手ニ依ツテ是ガ新聞ニ公開サレタノデアルカ、從來ト雖モ教學新聞及ビ中外日報ニハチヨイ／＼此種ノ記事ノ出タコトモアリマスケレドモ、私ハ読ミナガラ、ア、是ハドウセ小兒病患者ノ惡戯ダラウ位ニ思ツテ一向本当ト思ハナカツタノデアリマスガ、今度ハ少シ私ノ神經ヲ痛メタ、是ハドウシテモ学校内部ニ暗闘ガアルトカ、戦ヒガアルトカ云フ風ニシカ取レナイ、公平ナ第三者ガ見タナラバ、又東洋大学ハヤツテ居ルゾト云ツタヤウナ工合ニ取ラレル虞モ十分アリマスシ、之ヲ学校ノ教授達が見ラレタナラバ、此一部教授ト云フノハ誰ノ事ダト云フコトデ、是ガ教授側ニ相当ノ渦ヲ卷ク惧レナシトシナイノデアリマス、兎ニ角マダ相談ヲシタ事ガ決定シナイノデアリマスカラ、決定セザル以前ニ於テ斯ウ云フ惡意ヲ含メタ記事ガ発表サレルト云フコトハ、仮令何人ノ手ニ依ツテ出サレタトシテモ、大学ノ為ニ最モ惜ムベキデアリ、悲ムベキデアルト斯ウ考ヘルノデアリマスガ、今茲ニ誰カ斯ウ云フ記事ヲ出シタカト云フヤウナコトヲ追及シヤウト云フ訳デハナイノデアリマスケレドモ、斯ウ云フヤウナ態度デハ始終吾々ノ相談シテ居ルコトガ中途半端ノ儘世ノ中ニ公開サレルコトガアリマスト、吾々一寸相談ニ与カレナクナル、吾々自身トシテ非常

ニ氣持ガ惡イ、公開シナイト云ツテ傍聴サヘ禁ジテ居ル会、ソレガ新聞ニ堂々ト出タト云フノデハ、全ク意味ヲ成サヌ、從來モ度々新聞ニ此種ノ記事ガ出タコトヲ私知ツテハ居リマスケレドモ、大抵ノ場合ニハ問題ニシナカツタノデスケレドモ、今度ノヤリ方ハドウモ黙視スル訳ニ行カナイ、斯ウ云フヤウナ事デ内部ノ攪乱ヲ企テルト云フヤウナ者ガアルナラバ、是ハ実ニ許スベカラザル者デアツテ、サウ云フ者ノ存在ヲ吾々ハ先ヅ第一ニ整理シナケレバナラス、学校ノ平和ト云フモノヲ理想トシテ、斯ウモアリタイ、ア、モアリタイト念願シツ、吾々忙シイ者ガ寄集ツテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ一方斯ウ云フ学園内部ヲ攪乱シヨウト云フ氣持ノ者ガ居ルトスルナラバ、是実ニ許シ難キ大学ノ賊デアルト思フ、斯ウ云フヤウナ者ニ對シテハ当局ハ一体ドウ御覽ニナツテ居ルノカ、御覽ニナツタ事ト思ヒマスガ、之ヲ御覽ニナツタ当局ハドウ御覽ジニナツタノデアルカト云フコトヲ承リタイト思ヒマス

○大倉議長 ソレハ今何ツテ始メテ其記事ヲ知りマシタガ、何時モ大学ノ中ニゴタ／＼シテ居ルコトノナイコトヲ私ハ今日マデ念願シ、又サウ云フ積リデヤツテ来タノデアリマス、当局モサウ云フコトヲ監督スル心持デ居リマスガ、ドウモ警察權デ取押ヘル訳ニモ參リマ

セヌ、サウ云フ事ハドウモ私モ不思議ニ思ヒマスガ、ドウモサウ云フ事ヲ商売ニスルノカ、聞嚙ラウト思フノカ……

○高島委員 仮令商売人ガ居ルトシテモ、材料ヲ出ス者ガナケレバ出ル筈ハナイノデアリマス、ソコヲ私ハ甚ダ不思議ニ思フノデアリマスガ、想像デ書ケル記事デハナイ、一々具体的ナ者ガ入ツテ居ルノデアリマスカラ——從來モ之ニ類シタ記事ハ度々出タコトガアリマス、ケレドモ何人カノ惡戯ダラウ位ニ考ヘテ居リマシタケレドモ、斯ウ何カ事有リゲニ、而モ一部ノ教授ノ横暴トカ利益ノ壟断トカ云ツタヤウナ事ヲ書イテ、如何ニモ教授ト当局トガ対立シテ居ルカノヤウニ取ラレル記事ヲ書イタリ何カスルコトハ、ドウモ私ハ面白クナイト思フノデアリマス、斯ウ云フ風デアリマスレバ、折角斯ウシテ仲好ク御相談ショウトスルコトガ、何カ知ラ非常ニ氣持ガ悪イデスナ、又今日ノ会ノ事モ新聞ニ書カレルノデハナイカト思フト、私ハ一寸御相談ニ乗ツテ話ヲ進メルヤウナ氣持ニサヘナリ得ナイノデアリマスガ、甚ダ是ハ学園ノ為ニ惜ムベキ事ダラウト思ヒマス、教授諸君ニシテモ此新聞ヲ見ラレタナラバ、如何ナル教授ダツテ愉快ナ感ジヲ起ス人ハナイト思フデスネ

○大倉議長 私ナド全ク御同感デゴザイマス、

○高島委員 ドウモ困ツタ書方デスネ、是ガ大学繁栄ノ為ノ所謂宣伝文ナラバ、吾々多々益々弁ズルト思フノデアリマスケレドモ、是ハ或者ニ対スル對抗意識ヲ以テ書イテ居ル、学園ニ対立關係ガ生ジテ居ルト云フコトヲ第三者ニハツキリ知ラセルヤウニ書イテアル、是ハ非常ニ学園ノ為ニ困ツタ事ダト思ヒマス、仮ニサウ云フ空氣ガアリマシテモ、發表スル時ニハソソナ事ハナインダ、實ニ順調ニ進ンデ居ルト云フヤウナ工合ニアリタイモノダト思フノデアリマス、是ハ幸ニシテ宗教界ダケノ新聞デアリマシテ、世間ノ新聞ガ扱ツタノデアリマセヌケレドモ、是同ジ記事ガ東京ノ新聞ニ出タラ騒動デス、事ニ依ルト東京ノ新聞ガ之ヲ読ミマス、吾々ノ所ヘ新聞記者ガ来ルカモ知レナイ、ソレガ實ニ困ル、是ハ大正十二年ノ騒動ノ時ニハ新聞ガワイ／＼騒イデ参リマシタガ、私ハ絶対ニ新聞記者ニ会ハナカツタ、ケレドモ新聞ガデヤン／＼鳴物入デ書クヤウニナルト已ムヲ得ナイ、最初ノ間ハ私ノ所ヘ材料ヲ取ラウト思ツテ何人來タカ分ラナイ、絶対口ヲ緘シテ話サナカツタ、到頭外ノ方面カラ段々ト出テシマツテドウニモナラナクナツタ、何デモナイ所ヘ來ラレタツテ話ノ仕様モナイデスケレドモ、ドウモ世間ノ新聞記

者ニ嗅付ケラレルコトヲ非常ニ心配シテ居ルノデアリマス、

○大倉議長 私モ其通りニ思ツテ居リマス

○宇野委員 モウ一ツ私ハ此前ノ会デ小林サンニ言ツタ事デスガ……

○小林委員 アノ問題ハ私ハモウ発表シテ置キマシタ、先生ハ自分デ言ハレルノハイケナイカラト仰シヤツテ、能ク報告シテ、アレハ全部切取ラセマシタ

○宇野委員 出シタノデセウ

○小林委員 出サナイノデス、一部出シタノデスガ、アト是カラ使ヒマスノデ、全部切取ラシマシテ、破ツテ貼ル所ガ出テ来マスカラ、ソレガ明日出来タラ先生ニ御覧ニ入レル積リデ居リマス、例ノ五人男ノ問題デス

○高島委員 ソレガ私ハ腑ニ落チナイノデス、自分ノ配ル所ヘ配ツテ、今ニナツテ初メテ切り抜イタリ、貼ル所ニ貼ツテ出スト云フコトハ……

○大倉議長 ソレハ僕ガ抗議ヲ申込ンダカラデセウ、宇野先生、藤村先生カラ委員会デ言ハレタカラ……

○小林委員 私ハ学長ニ言ハレタノデ直グ差止メマシタ、然ラバ此上ニ貼ツタラウト云フ意見モアツタ、ソレハ貼ツテハ絶対イカヌ、二頁一枚切ツテ呉レト云フノデ切ラシテ、一枚貼り込ムヤウニ印刷シテ居リマス、

ソレガ明日出来ルサウデスカラ、出来上ツタラ御覧ニ入レヨウト実ハ思ツテ居リマス、

○高島委員 小林君、好意ハ有難イガネ、ア、云フモノヲ大体学校当局ガ御覧ニナラナイト云フ訳ハナイ、御覧ニナツテ居ツテ御覧ニナラナイト云フノガ不思議ダト云フノデス、ソレデ私ノ質問ハ、斯ウ云フモノニ対シテ当局ガドウ考ヘテ居ラレルカ、学校当局ハ新聞記者及ビ印刷物ニ対シテドウカ確カリシタ態度ヲ御示シ願ハナイト、非常ニ困ツタ事件ガ表面化スル虞ガアルト思フノデアリマス

○大倉議長 ドウ云フ風ニシタラ宜イデセウカ、私モ経験ガナイデスガ……

○高島委員 無論外カラ分ル事デハナイデスカラ、内部カラ出ナケレバ分ラヌカラ、内部ニ斯ウ云フモノヲ提供スル者ガアルト云フコトヲ御認メニナルカナラヌカノ問題デス、

○小林委員 実ハ十七日ニ印刷ハ出来テ居ツタノデスガ、併シ委員会ヲ開イテ委員会決定スルマデ一步モ外ヘ出サナイノデ、ソレガ斯ウ云フ記事ガ社会ニ出ルト云フノハ、何処カラ出ルノデスカ……

○高島委員 ソレガ僕等ニハ分ラヌト云フノダ

○宇野委員 此問題デ出タノヂヤアリマセヌネ、是ガ出

タカラ出タノデヤナイ、キツト此間ノ会議ノ結果ニ付
テ会議ノ模様ヲ知ラシタノデス

○小林委員 デスカラ僕等ハ分ラヌノデス、殊ニ今聞イ
テ見ルト学則ノ変更ヲ附議シタト云フコトガアリマス
ガ、サウ云フコトハマダ此方デヤツタ覺エハアリマセ
ヌシ……

○高島委員 サウ云フ先走ツタ事マデ書イテアルカラ余
程枢機ニ参与シテ居ル者デナケレバ見当ノ付カヌ事デ
ハナイカ、斯ウ思フノダ

○大倉議長 マア出来ルダケ注意致シマス、成ベクサウ
云フ事ノナイヤウニトシテ居リマシタガ、ドウモ
押ヘガ付カナカツタリシテ……

○高島委員 今度ハ小林君ニ御尋ネシテ置キタイケレド
モ、此前ノ時ニ、斯ウ云フ風ニ学則ヲ改正シナイト、
一日遅レ、バ何百円ノ損ニナル、ダカラ非常ニ急速ヲ
要スル、斯ウ云フ話デアツタ、ソレニ対シテ早川君辺
リハ質問シタイガ今ハシナイト言ウテ保留サレテ居ツ
タ、ソコデ若シ此規則ガ改正案ニ依ツテ実施サレルト、
直チニ一日ニ何百円ト云フ金ガ減ラナクナルト云フヤ
ウナ意見ラシカツタガ、ソレニ対スル具体的ナ数字ヲ
示シテ貰ヒタイト思フ

○小林委員 私ガソレヲヤルト二時間位掛リマスガ構ヒ

マセヌカ

○高島委員 サウ細カクナクテモ宜イ、大体デ宜イ

○小林委員 細カクナクテハ折角申上ゲテモ価値ガナイ
ノデス、ソレデ折角デスガ申上ゲラレマセヌ、若シ御
必要ナラバ先生ノ御暇ノ時ニ御伺ヒシテモ宜シ、御出
デ願ツテモ宜シ、詳シク御話ヲ致シマス

○高島委員 兎ニ角協議員会ト云フモノ、規則ノ改正ガ
一日遅レ、バ一日何百円損スル、速ニ改正スル必要ガ
アル、斯ウ云フ風ナ御話ガアツタカラ数字ヲ聞キタイ
ト云フノデアツテ……

○小林委員 併シ数字ヲハツキリスルニ付テハ、ソレニ
到ル過程ヲ御話シナケレバナライノデス、ソレヲ御
話スルニハ今申シタ通り二時間位掛リマス

○高島委員 結論ダケ聞ケバ宜イ

○小林委員 結論ダケ言フコトハ困ル、初メカラ説キ起
シテ、一貫シタ社会評論のナ事ニマデ及バナイト……

○高島委員 敢テサウ詳シク承ラナイデモ宜イガ、兎ニ
角此規則ガ実施サレ、バ其日カラ直チニ何百円ト云フ
大学ノ収入ガ殖エルト斯ウ云フコトヲ確信シテ居ラツ
シヤルノデスネ

○小林委員 サウデス

○高島委員 ソレダケ承ツテ置ケバ宜イ、

大倉議長 それでは前回小委員から維持員会に御報告並に御相談がありました、決定に至らずして持越しになつて、今日此上の方の維持員会を開くのであります。どうぞ和やかに御相談を願つた方が能く徹底して宜いと思ひます。是から御相談を願ひます。それから東洋大学規則改正案人事に関する件となつて居りましたが、御承知の通り是は誤りでありまして、前回は是以外は全部決めた方が宜いとか、決めようぢやないとか、多数決がどうかいふやうなことであつたのでありますけれども、併し其事に付ては特に岡村委員から二度程念を押して議事を継続といふ意味に於てといふことで持越しを参りました。それだけは特に申上げて置きます。是は人事に関することばかりでなく、今日御相談を願ふ訳であります。

岡村 私一寸可笑しいと思ひました。私は念を押したことは確かに押しましたが、意味からいふと今日は改めて審議する積りでありましたから、それはさう御訂正を願ひたいと思ひます。

大倉議長 先づ最初にさういふことに訂正して議事に入ります。

高島委員 さうするとどうでせうか議長さん、議事の進行ですが、やはり逐条に審議するといふことが一番私

としては希望に堪へないのでありますが、此前の大体の空氣からいつてもさうするより外に方法がない。一括してといふ訳には行かないですから、それでやはり是は成べくスピードを掛けて逐条審議をして貰つたならば、今までの御研究以外に又新しい何物かを発見することが出来るかと思ふのです。それから私は素人で分りませぬが、規則といふものはやはり条文にするのには何か専門の立場があつて斯う云ふ箇条は此次に入れたが宜いとか、是はなくても意味が分るとか云つたやうなことも相当あるのではないかと思ひますが、私共素人で分りませぬが、立法技術上の問題ですな。是は上の方に失礼だけれども、法律専門の方は居らつしやらないやうです。さういふことになると実に困る。下の方の委員には専門家が二三人居るやうですけれども、吾々はさういふ点に於ては全く無智ですから、折角威張つて出しても、何だ規則として成つて居ないではないかと言はれるのも癪に触りますから、さういふ点の処理等の場合は出来るだけ氣をつけて、立法技術的に見てもそんなにみつともないといふまでにしたい。斯う思ひますから成べく一つつくり御話を願つて、甚だ失礼な言ひ方だが、御互ひにいきり立たないやうに、成べく穏やかに話合ふやうにして戴きたいと

思ふのであります。どうぞそこを然るべく舵を取つて戴きたい。

岡村委員 高島先生どうでせうか。一々之を全部一条々々にやつたら大変ですから、大体四人が意見一致したといふことで精神は良いといふことになれば条文は専門家に之を斯う云ふ精神で作れといふことを命じて改めて専門家に書直さしても宜いではないですか。茲で吾々条文の相談をやつても、今先生が仰しやる通りに、それで完璧といふ訳にも行かない。大体根本精神が是で宜からうといふことになれば、文章は書直さしても宜いではないですか。

朝原委員 それでは斯うしうぢやないか。四人の諸君が何処までも一致して居るといふものだけ言つて貰つて記しをつける。

岡村委員 吾々も読んで来たことですから、此中の異議のあるといふものだけ保留して、好い所を先に採決しちやつて、あとで残つた問題に付て討議する。その方が早く行きませぬか。実は私勝手ですが非常に時間が惜しいのです。

高島委員 今の岡村君の意見は私の意見と大体一致して居るのですが、大体四人の委員諸君の間に今まで論議された結果一致して居る点だけを先に記しをつけて貰

つて、残つた所だけをあとで審議するといふことにすれば大変時間が省けると思ふのです。

広井委員 一寸私も読んで見ましたが、私は文章など批評する力はないのですが、併し内容で少し矛盾して居るやうな所があるやうにも思ふのです。例へば評議員会は前には諮問機関となつて居つて、あとの方では決議機関となつて居る。

小林委員 それは説明します。それは実は議事録にも書いてあるのですが、私実ハ宇野先生の御意見で諮問機関になつたのだから、是は一ツあとの方の決議といふのを審議とでも変へようぢやありませんかと申上げたのですが、併しそれが諮問機関であつても決議といふことは構はないので其儘で宜いだらうといふのであそこを其儘にして置いたのです。決議といつても決議を突付けるといふ意味の決議ではない。議題の決議なのです。議題を決議して、さうして諮問に應ずるといふのですから構はないのです。それで宇野先生の発言を其儘にして置いたのです。

広井委員 諮問機関ならば過半数といふことはなくても宜いではないんですか。

大倉議長 今の討議のやうにすれば稍々逐条的の意味もあり、又一括したやうな意味も含まれて、さうして御

話を聞けば吾々も研究した積りのものが研究されて居らない。分らないといふ所がありますから、皆さん御賛成ならばさういふ風で行きますか。

小林委員 結構です。

大倉議長 それではどうぞ初めから……。

小林委員 それでは第一番の東洋大学職制は異議はないのでしたね。委員会で訂正したのは入つて居りますから……。

岡村委員 それでは文章は別にして職制は大体……。

高島委員 一寸茲がどうかと思ふんだが、職制十六条に「本学教育上並に學術上功績ありたる者に学長は協議委員会の議を経て名誉教授の称号を授けることを得」とありますね。是は学長が単独で授けたらどうです。学長に其位の権限があつても宜いと思ふ。こんなことを一々協議委員会の議を経るといふことでは、学長といふものはまるで何も出来なくなる。

小林委員 それでは「協議委員会の議を経て」といふのを削るんですね。

岡村委員 併し誰かやはり相談するものがないと……。学長の独断で一切構はないですか。

高島委員 名誉教授ですから相談するならば教授会で宜いでせう。

小林委員 所が教授会の仕事の範圍が決めてありますから、協議委員会と云ひましても教授は五人居られるのですから、吾々の方ではそれで宜からうといふことになつたのです。

高島委員 どうも僕は全体を通じて見て学長の権限といふものが非常に狭められ、学長が非常に窮^屈になつて居るやうに思ふのだがな。元評議員で学長を拘束することは改正する必要があるといふことを君は盛に唱へた。所が之を見ると協議員といふものは有ゆる権限があつて、学長は協議員会の前には頭が上がらぬ。仮令学長になつても斯う云ふ規則があつては仕事が生^はしくいと思ふね。

小林委員 併し善良な氣持を持てば差支ないと思ひますね。

高島委員 兎に角是では学長は仕事が出来ない。

小林委員 所が抑へるものもなければいけないでせう。

抑へるといふと語弊があるかも知れませぬが……。

高島委員 諮問機関といふものは宜いが、協議員会が絶対権能を持つて何も彼も協議員会でやるといふのは……。

小林委員 併し財政の伴ふものは仕方ない。名誉教授は財政の伴はないものではないのですから……。

高島委員 財政の伴ふものは維持員会でやる。

小林委員 所が維持員会となると下の維持員会もあつて困るのです。それで上だけでやれるものといふ意味で作つた訳です。

朝原委員 一寸聞きたいんだが、外の方の釣合で十三条の予科長は二年制といふのだけれども……。

小林委員 是は初め全部二箇年としてあつたのです。予科は二年で終るし、専門部は三年だから科長となつて、其二年が終ると同時に自分だけが辞めなければならぬといふことはどうも氣持が宜くないといふ御意見があります。それで予科を二年のものを三年にしたのです。

朝原委員 他の釣合から見ても、二年毎に更正して行くんですか。例へば斯う云ふことがありますよ。六月が年度になつて居るでせう。さうしたらどうしてもちぐはぐになるではありませぬか。

小林委員 それは仕方ないのですけれども、科長といふのは改めてありますやうに、最初は協議会に諮問することになつて居るのですが「予科長、専門部長、各科長、学生、主事及び図書館長の補職、解職を為したる時は学長之を協議委員会に報告すべし」といふので学長の自由になつて居ります。故に是は就任するの就

任せられないのも、要するに其人間が果して科長其他の職に適当なりや否や。又学長の信任ありや否やで決するのです。

高島委員 それは宜い、構はぬ。

朝原委員 さうすると学年の初めにやる訳になりますね。

小林委員 まあさうですね。けれども万^{（一）}已むを得ない妙なことをすれば途中で仕方ないでせう。

朝原委員 それちや協議員会の議を経てといふのをつけたらどうです。

高島委員 それは書いてある。第十五条に「教授講師の任免を為さんとするときは協議員会の議を経て学長之を行ふべし。」

小林委員 是は人事に關係して居るですね。ですから是はあとに延ばしませう。

岡村委員 第十五、十六は共に後廻しにしたら宜いでせう。

大倉議長 それでは十五条、十六条はあとに保留して相談することに致します。あとの部分は全部決定を致します。

小林委員 それから教授会規則も訂正された儘で何も異議はなかつたのです。

宇野委員 教授会は吾々異議はなかつたですね。

高島委員 「教授会は学長の諮問に應ずるものとす」といふことを加へたのですね。

小林委員 それは藤村先生の意見に依つて加へたのです。

高島委員 委員諸君に異存がなければ僕等の方には異存はありません。

大倉議長 それでは教授会規則は是で可決になりました。

小林委員 教授評議員会規則は、これは専門家の御意見に依りまして、第一条の二項に「教授評議員会は学長の諮問に應ずるものとす」といふことで諮問機関にしました。是も藤村さんの御意見に賛成を致しました。

それから第三条は宇野先生でしたか、藤村先生でしたかの御意見で「予科長、専門部長、各科長、及び」選挙制に依りといふので、各部長、科長が入るやうになりました。それであとは選挙するやうにして、是だけ加はつて、やはり人事に関する件を先生方は入りたいといふ御意見がありますので、それを除いたものが要するに決定した訳です。

宇野委員 さうですね。

柴田委員 さうです。

宇野委員 人事問題を入れたいといつて話があつて、入れるか入れないかといふことを次の問題に保留して戴いて……。

小林委員 六条に人事を加へるといふのですから保留して戴きます。

大倉議長 次は教職員規律に付て。

高島委員 是は言葉の問題ですが規律といふのがあつたり、規則といふのがあつたり……。

小林委員 是は一律にすると却て変化がなくて面白くないので、変化があるやうに出した訳です。

高島委員 やはり規則で宜いではないか。

岡村委員 規則で宜いな。

高島委員 規定としてあるのも総て規則としたらどうです。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

小林委員 それでは教職員規則……。是には全然改めた以外には御異議はなかつたのであります。

宇野委員 之には私共斯う云ふことを言ひました。此規則は全く結構だが、此通りにやるには当然専任教授でなければならぬといふことを申上げた。専任教授は必ず置かなければならぬといふことの諒解の下に通つたのです。外の職を持つて居る大学教授など頼んでさう

いふ人を□□を強ひるといふことは不可能なことであります。是は専任教授であるといふ諒解の下に……。それは重要な問題ですからつきりして置いて貰ひたい。

小林委員 専任教授といふことは勿論はつきりして居ります。議事録が出来上つて居りますから、これはそれで終了して戴きたい。

宇野委員 もう一つ休職、復職の問題があります。休職といふものは宜しいけれども、休職給といふものを三分の一位与へて貰ひたい。俸給を与へないなら与へないで宜しいけれども、若し専任教授であれば当然休職給を与ふべきものだと思ひますから、休職給の規定を作ることを当然のこととして必要とするかしないかといふことを申しまして、小林君も当然だらうといふ話でありました。

小林委員 さうです。それに付て私は先生に御答したのが本学に給与規定といふものが正式に決まつたものがない。そこで給与規定を作つて戴いて、その給与規定の中に休職の時にはかう、或は例へば今度のやうな出征軍人に出た場合にはかうといふやうなことを規定したいといふことを申上げたのです。其点御承知を願ひます。

岡村委員 さうですね。茲では規則だから給料のことに触れられない。給与規定を別に設けるといふことが関聯して起つて来る訳ですね。

高島委員 それは議事録に書いてあるか。

小林委員 ちゃんと書いてあります。

高島委員 それならそれで宜しい。

小林委員 懲戒規定ですが、これは二十三条だけ削るといふことであとは御賛成を戴いたのです。

中島委員 一体大学の規則に懲戒規定とか何とかいふのがあるのですか。

小林委員 あります。明治も、日本大学も、法政もあります。

吉田委員 規則が宜いか規定が宜いかな。規定の方に寧ろ統一した方が言葉の関聯は宜いではないかね。

広井委員 それは規定の方が宜いな。

小林委員 それは要するに法律家に任ずといふことで……。

中島委員 何処の大学でも細かい規則がありますか。

小林委員 是は寛大にしたんです。外のはもつと細かく決まつて居ます。

岡村委員 それは役人でも会社員でも何処でもありません。現在少し大きな機構を持つて居る所は実に嚴重な

ものを何処でも持つて居ります。一種の嚇かしですけれどもね。併し屢々発動して居りますよ。

宇野委員 三十一頁の附則の二十三条「施行前の事項に之を適用す」といふのは……。

小林委員 適及法を用ひた訳です。

高島委員 それは無理だ。既往に遡るといふのは……。

小林委員 是は適及法を持つて来たのですが、二十三条を削つて二十四条を二十三条としたんです。

宇野委員 是は非常に研究しましたのは、例へば先生として御願して出て戴いて居るやうな方に対して此懲戒規定を発動するといふことは大変失礼ではないかといふ考があつた所、小林君の説に相当学長が必要と認め場合に懲戒規定といふものを行ふ。学長が認めなければならぬんだから、学長の権限に依つて懲戒に附するや否やといふことは決まるんだといふ話であつたのです。

小林委員 それは十二条を読んで戴きますと分ります。

宇野委員 審議会の請求は誰が之を行ふか。学長の権限である。それならば学長はそんなに非常識なことではないに決まつて居るから宜からうといふことで賛成したのです。

高島委員 さうですか。それならば宜しい。一寸見ると

おつかないよ。

大倉議長 其次に入りまして……。

小林委員 事務規程は何も異存はなかつたのです。唯第四章服務心得の中、外の先生方は講義を始めて居るのに、事務員が出て来ないといふのは不公平であるといふので、四十六頁の六行目、午前九時といふのを八時三十分といふことに改めました。

宇野委員 冬の学校の始まりは八時半ですから、事務員一人だけ置いて戴きたいといつたら、それでは変へませうといふことで変へたのです。

大倉議長 それで宜しうございますね。それでは其次の協議員会規則……。

小林委員 協議員会規則の第一条を藤村先生の御話で第一条「本学に協議員会を置く」といふのを、「本学財団の大学側に協議員会を置く」と改めたいといふので改めました。それから十三条に「協議員会の議事は出席者の過半数を以て之を決す。可否同数なるときは抽籤によりて之を決す」といふのを、「可否同数なるときは議長の決する所に依る」と改めるといふので改めまして、それ以外にはない筈ですが、詰り第五条の人事が問題でありまして、人事を除いた外は只今訂正の箇所を除いた外別に異議はございませんでした。

宇野委員 私の発言は第三条、財団理事といふことはどうだろうか。斯う申上げた。財団理事となると京北側も入つて来るから困りはしませぬかといった所が、小林君は宜からうといふやうな話でさういふ理想を持つて居るならばそれも宜からうといふことになった。此間の御意見は一寸危やしかつたのです。

高島委員 是はやはり財団理事として大学側に下の方が口を容れるといふことは、此間下の方の理事がはつきり言つたやうに、人事には御互ひに喙を容れぬといふ立前だ。歴史もさうなつて居るし、それは吾々として出来ないといふことはつきり言つて居るから、やはり協議員会には下の理事を入れるといふことはいかぬと思ふね。

岡村委員 賛成。

小林委員 所がさうなると何時も上だけで同人数ですからね。問題が起きはしないかと思ふのです。

高島委員 入れたつて同人数になるだらう。

岡村委員 同人数ならば議長の決する所に依るといふのがあるから宜い。

小林委員 私は今まで上下の關係はどうであつても、少くても斯う云ふ大学の非常時の際であるし、まあ下の方に入つて貰つたら宜いと思つたのです。

岡村委員 併し此間の委員会の空氣では入つて貰つても意味ないな。

西山委員 それは大学側と入れた方が宜い。

小林委員 それでは是と人事とは後廻しにして戴きます。

高島委員 もう一つ第四条の財団理事長といふのは是は何だね。

小林委員 是は下を入れて財団理事が二十名あるのに理事長がないといふのは不合理だから、理事長といふ名目を作るが宜い。是は柴田先生の御話で事実に於て理事長なんだから、理事長としても宜からうといふことだつたのです。

宇野委員 其問題は私が寄附行為に触れて来るといふことを申しました所が、それは差支ないだらうといふ御話がありましたから其儘にしたのです。併し私は理事長といふのは今の寄附行為を急に變へる訳に行かないから、何とか遠慮すべきではないかと今でも思ひます。

高島委員 下の方の感情を害する。

朝原委員 「学長たる」と入れたらどうだね。

岡村委員 それはよい。

小林委員 さうすると「学長たる理事」ですな。四十九頁第四条は、「学長たる理事は協議員会を招集し」と

なるんですね。

宇野委員 さうなら結構です。

小林委員 それではそれと今のを除いて……。

宇野委員 第三条と第五条の三の人事に関する事項といふのを私は訂正を要求したのですから、是だけは保留して戴きます。

岡村委員 さうすると第三条と第五条の三項、是だけは保留するんですね。

宇野委員 第六条の「人事に関する規程は之を別に定む」といふのは構はないでせう。

小林委員 是は構はないですね。

宇野委員 第六条の「前条第三号人事に関する規程」といふのはやはり前のと関聯しますから是は記しをつけて戴きませう。

小林委員 あとの五十五頁の人事規程、是が、やはり協議員会に關聯して来ますので、是が問題になります。

岡村委員 是は全般的の問題になりますね。

宇野委員 是は全体的の問題になります。

広井委員 一寸廻りますが、二十四頁の第二十二條三日以上欠勤した時は診断書を出せといふのは少し……。

小林委員 併し是は当然だと思ひますね。大学教授が三日講義を休む人は今の所ないでせう。職員として三日

も休まれては溜まらぬです。

岡村委員 是は少し厳しいな。先づ一週間だな。

広井委員 そんなものは常識で見たつて宜いぢやないか。

岡村委員 まあ七日と書いて居つても十日位勘弁してやるといふことにするんだな。

小林委員 それでは七日にして置きます。

広井委員 岡村君、七日にして十日位宜いといふのははつきりしようぢやないか。十日とか二週間とか、良心の問題で、診断書を出せといふのは侮辱だと思ひます。

小林委員 病氣をしない教授が五日も学校を休校するといふことは実に此上の恥曝しはないと思ふのです。月給を取つて居ながら五日なり六日なり休むなんといふのは無責任も甚しいと思ひます。さういふ人間は大学に幾人も居らぬですよ。

中島委員 併し診断書を出しても八百長で取る所がある。(笑声)

小林委員 それは八百長で取るのは仕方がないでせう。

広井委員 間を取つて十日にしようぢやないか。

小林委員 僕は三日を四日に延ばしたんですから……。

朝原委員 役所などは七日ですよ。

岡村委員 七日として置いて一日二日よいといふことにしたら宜いではないですか。其程度の融通性がある方

が宜いですよ。

小林委員 八百長で取るのも宜いでせう。

高島委員 診断書を取ると金を取られる。何度も診断書を取るゝ俸給はふいになる。

小林委員 以上が委員会としては審議が円満に決定したのです。

大倉議長 それでは委員会では決定したのは全部済みましてから保留された問題、即ち人事規程に付て一つ御相談を願ひたい。

吉田委員 私は前回の維持委員会に來まして色々御議論のある点を考へて見たのですが、多少皆さんには失礼かも知らぬが、兎に角此問題は教育上の問題と考へまして十分に教育の一般の行政問題として論争の点を考へて見たのです。甚だ相済みませぬが、御許しを得て自分の所感を申して皆さんの御参考に使いたいと思ふのであります。校友諸君が非常に本学の将来に付て考へられ、母校のことを考へられて何とかしなければならぬと心配せられて居ることに付ては御尤も千萬なことであるといふ風に先づ感ぜざるを得なかつたのであります。又学校教授側、といふことではありませぬが、宇野、藤村、両教授の方が熱心に人事問題に付て心配せられるといふことにも大いに一面理由の存することを考へま

した。私の解釈に依りますれば、教授の人事に關しましては、大学の研究仲間としての同僚のことでありまして、それから、それに関しまして大学教育といふものゝ威厳を保ち、其職能を果したいといふことの爲に、其同僚の人事に關して多大なる関心を御持ちになるといふことは是亦非常に当然な意義を持つて居ると考へて居るのであります。そこで自分は第三者としてといふ訳ではないですけれども、此両方面の御要求といふものを併せ成立たしむる方法がないものであらうかといふことを考へたのであります。即ち大学の教員の人選に關するレベルを何処までも一方に於ては維持すると共に、一方に於ては大学教授の人選といふことは大学経営といふことゝやはり不可分の關係があるのでありますから、人選に關して大学のことを共に心配する校友諸君の考が加はる途がありさうなものではないかといふことを考へたのであります。それを考へますに付て自分は色々な研究をしました。一体日本並に諸文明國に於て大学教授の人選に關してどういふ風なことがあるかといふことを考へましたが、日本内地のことは恐らく特別委員の方も別に御調べになつたことゝ思ひますから茲には申しませぬが、外国などに於て自分の直接接しました大学教授の人選に關しましても、随分

まじく／＼になつて居るのであります。是は西山君なども疾くと御承知のことと思ふのでありますが、自分の直接に出会はした例を申しますと、第二回目に欧羅巴に参りました時に、ミュンヘン大学に於てリツプス教授が退職をされまして後任の選定をして居りました。

私が参りました時には後任としてフェルスター教授が任命されて居つたのです。御承知の通りリツプス教授は哲学、倫理学等に於ける大家でありまして、其後任の詮衡でございますから、私は多分それに匹敵する第一流の学者が任命されるのではないかと想像を致して居つたのでありますが、其後任として選任されましたフェルスター教授は、ミュンヘンに於ける若い教授でありまして、此人は教育の方に於て特に新しき名の聞えたものであつたものですから、私は個人的にフェルスター教授は前から知つて居つたのでありますが、一寸意外な感じを持つたのであります。そこでミュンヘンに行きました時に、ミュンヘン大学の教授をして居るボイムケルといふ教授が、是は前に留学をしました時に其講義を聞いたり出入りをしたりして能く知つて居る教授であります。其人がミュンヘン大学の教授になつて居つたので、其教授の所へ寄りました時に、一体どういふ事情でリツプス教授のあとにフェルスター

教授が任命せられたかといふことを聞いた。ボイムケル教授のいふのには、実は是は独逸に於ける大学の一般観念であるが、内規に依りまして大学から三名の教授候補者を文部省に出した。其三人の中にフェルスターは入つてなかつたのだ。大学としてはやはりリツプスのあとを継ぐのはもつと立派な人を入れたいといふ考で出した。所が文部省に於て経費其他のことも考へたのであらうが、兎に角フェルスターを文部省から天降的に入れて来たんだ。斯う云ふことであつた。併しボイムケル教授の言ふのには、フェルスターの任命はさういふ事情であるけれども、あの男は非常に通俗的に青年各個の心をアツピールするやうなことをいつて、而もカトリック的な傾向を持つて居つたのであるから、自分達の学校の空氣の上には大變好い影響を持つといふことを今自分は喜んで居る。唯併し学者としては無論物足らぬ所があるといふことをボイムケル教授は言つた。其時の文部大臣といふのは有名な哲学者であつてバードリングといふ大学総長を前にして居つた男で、是はバイエルに於けるカトリック教徒の長老であつた。其人が大学総長をして——総長は互選でやるのですから、任期があるので大学教授から文部大臣になつて大学の事情は能く知つて居る。知つて居るけ

れども非常に熱心なカトリック信者だから、カトリック的な教育といふものを青年各個に普及したいといふ観念であつたのでせう。一方に於てフェルスター教授はまだ下級教授であつたものですから、リツプスのやうな高給を払はぬでも宜いといふ考もあつたらしい。さういふ訳でフェルスター教授が任命されたんだといふことを話されて居りました。尤も私は其前から大学教授の任命の順序といふものは、大学から三名の候補者を文部省に出す。併ながら文部省は其順序に拘らず変更することの権能を持つて居るし、又其三名以外のものも任命するといふ権能を持つて居るといふことを承知致して居つたのであります。兎に角官公立の学校に関しましては大学と雖も教授任命の最終判断といふことに關して、大学内部だけに任せるといふことは私の承知する所では例がないのであります。恐らく日本の内地に於きましては法規上に於ては私は存在して居らないと思ふのであります。是は余程大学の教授の任命といふものと国策といふものとの間の調和が出て来るといふやうな問題になつて居るのであります。純粹な理論から言ふと、官公立の大学はそれが大学と雖も国家なり或は公の団体なりの利益に關係する為に、人事の最終の決定権を大学に於て持つといふことはど

うも教育行政の見地の上から近代国家に於てはないのではないかと思ひます。是はフアツシヨ的だといふ風に御考になるかも知れませぬが、どうも最終としてはさうなるのではないかといふ氣が致します。私立大学等になつて来ると、是はもつと横暴なのであります、所謂ポート・ラフ・トラスチーといふものが殆ど勝手に大学教授の任命をする。尤もポート・ラフ・トラスチーといふ中には大学総長又は学長が其メンバーになります。併ながら甚だ少数であり、大多数は即ち青年のポートです。所が亜米利加に於ける州立大学、即ちステーツ・ユニバーシティーになると、半ば公立なものでありますから、知事がポートといふものを任命することもあり、州民の選挙に依ることもあります。やはり最終の任命権といふものに関してはスクール以外のものが権能を持つて居るのであります。さういふ事情を考へますと、理論的に考へても兎に角大学教授の任命といふものに付て最終の決定権を大学の教授側が持つとか、評議員会が持つとかいふことは、少くも官公立であり、州立であればどうしても理論上通らぬのではないか。又之を實際の問題としましても、教授会自体が或は評議員が教授を選定するといふことは、私共長い間経験を経て来たのでありますが、是は既に決まつ

て居る。出来上つたものを選ぶ場合は大体大した支障なしに行けるのです。所が新しく学科を設けたりするといふ場合になると、今度は嚴重に言ひますと専門以外の人を大学の既定のメンバーで以て決定しなければならぬといふことになるのであります。さうなると即ち教授以外の人が考へる場合と実は大差がないのでありまして、其専門的な新しく設けられる所の学科の教授を補職するといふことに關しては、それが從來の大学教授であつても或は今度出来る協議会であつても、或は維持員会であつてもその判断がつかぬと思ふのであります。さういふやうな事情からしますと、人事問題の最終決定権といふものを協議会に置くか、或は教授会に置くかといふことに關しましてはどうも理論の筋途からどうしても之を是非教授会に置かなければならぬといふことの道理は通らないやうに私は考へる。併ながら一方に於て其教授になる人に付て大学教授らしくない人が入つて来ることは出来るだけ防がなければならぬことは恐らく教授ばかりでなしに大学に關係して居る維持員であらうと何であらうと共通な要求であらうかと思ふのであります。

そこで私の考へましたことは、其事は人事規程の中に於て第三条になると思ふのでありますが、「教授、講

師の任用につき協議委員会(以下)を開会せんとするときは学長予め候補者を選定して之を提出すべし」。斯う云ふ風に学長が改めて候補者を選定する時に協議員会に附さなければならぬといふことになりましたが、或は之を私は「別に定むる所の内規に従つて学長は予め候補者を選定して之を提出すべし」といふことにでもしたらどうであらうか。そこで私の考へるのは場所は何処になるか考へて居りませぬが、教授になる所の候補者の内規といふものを拵へたらどうか。是は東京帝大にも詮衡内規といふものがあるのです。それに準じた所の詮衡内規を作りまして、さうして教授のレベルといふものをそこで維持するといふことに致したならば、教授側の御心配になるやうな点はそこで補ふことが出来るのではないか。其資格に付て私が考へますことは、是は多分帝大の方の内規にもあつたと思ふのですが、「教授の候補者たらんとするものはその一に該當するを要すること」といふ風にしまして、其一是兎に角第一に学位を有する。学位は即ち学界に於ける業績といふものに付て認められたのでありますから、一つは学位を有する者、もう一つは大学令に依る大学に於て教授たり若くはたりし者、是は即ち詮衡の範圍に入つてよいものではないか。第三には成べく此範圍を広く

する方が人材を集めるのに宜からうと思ひますから、大学令に依る大学を卒業したる者、又は学士試験に合格したる者、二様に使つて居る場合がありますから、兎に角大学令に依る大学を卒業した者であるならばそれを詮衡の資格としたら宜いではないか。併しそれでも尚ほ野に遺賢がないといふ風に限る訳に行かぬものでありますから、それを救ひ出す為に第四としまして学界に於ける業績顕著にして協議員の三分の二以上の同意を得たるものといふ風にしまして、候補者の範囲といふものを限定致しましたならば、恐らくは大学の教授といふものゝレベルを下げることなしに維持することが出来るのではないか。其範囲に於て教授側から専任せられたる協議員と校友側から専任せられたる協議員とが決定したならば、恐らくは教授諸君が心配せられるやうな点もなくなり、又校友諸君が心配せられるやうな杞憂もそこで調和することが出来るのではないかといふ風に私は考へた次第であります。無論是は悪意を持つてすればどんな制度でも悪く、善用すればどんな制度でも善いと思ひます。併ながら之を制度としてどれが正しいかといったならば、私ははつきり申上げますが、やはり人事に関する最終の決定権といふものに付ては、大学関係に付て心配をして居る各方面

の意見といふものを参考にするのが本当であらう。併し其レベルを下げないといふことの為に、尚ほさういふやうな候補者の資格の限定をするといふことが宜いのではないか。私は敢て甚だ僭越であります、自分の考付きを御参考に申上げまして、御協議を御願致したいと思ひます。

宇野委員 一寸私一言申上げます。縷々吉田博士の御話を伺ひましてございますが、私は少し私共の考を或は十分に諒解して居られないかと思ひますから、一応弁じて置きたいと思ひます。私の考は大学教授の決定に際し、協議員会が最終の決定権を持つのではないのであります。私共の考では東洋大学の人事は学長が之を行ふといふことに考へて居ります。此小林君の案では大学の人事は協議員会が之を行ふとなつて居る。其点を私共は大いに争つたのであります。何故かといふと協議員会が行ふとなりますと、協議員会といふものは御承知の通り大学側の維持員でありまして、是は教授から選挙され、又校友から選挙されたもので、仮令学長と雖も此協議員会に対しては一指をも染めることの出来ない自分の監督以上の人であります。その範囲内に於て人事を協議員会が決定することを私共は善用すれば、今の御話のやうにどうでも宜しうございま

す。雇用した場合には甚だ困ることも生じはしないかといふ立場で協議委員会が行ふ所を何処までも争つて学長が行ふとしたかつたのであります。学長が行ふに付て、人事をどういふ風にするかといふことを学長の諮問機関として、学長の考に依つて移動し得る。如何様とも指揮し得る所の連中を集めたものに諮問する。斯う云ふ考であつた。さういふ意味で私共は大いに其点だけを争つた訳であります。唯併し今御話のレベルを下げないやうにする為に内規を置くといふやうな所は、それは私共大いに考へて居ることではありましたが、大変結構でさういふことで若し是が協定されるならば私は何処までも学長が行ふとして、さうして其レベルを下げない為に今の内規を設けてそれで如何といふならば、私はそれには何等異存はないのであります。協議委員会に任せるといふことは、私は学長の権限を余りに縮小するといふ点に於て学長がやりにくいだらうといふことを憂ふるのであります。唯それだけを私は申上げて置きます。

吉田委員 それならば一言、私はやはり協議委員会の議を経て結局学長の名前で行はれることであらうといふ風に考へて居つたのです。随て私は学長が行つても結構だと思ふのです。併し学長が行はれる場合に仮りに

協議委員会で決議したものを学長がどうすることも出来るといふことは、恐らく亜米利加や独逸ならば私はそれで宜いと思ふのです。實際独逸の如きは今言つたやうに候補者を出しても文部省で変へるといふことが實際に出来ることになつて実行されて居る。亜米利加でもあのデモクラシーの國に於てポートが権限を持つて、一旦それを拒絶すれば如何なる決議をされても仕方がない。さういふ風に出来て居ればそれでも宜いかと思ふのでありますけれども、日本の現状に依るとどうしても協議委員会が決定して出した候補者といふものを学長が否認したことになると円滑を欠くといふことになると思ふのであります。それだから此諮問機関でも何でも宜い。大体候補者を出したものは事實学長が承認されるのでないと円滑に行かないと思ふ。一方に於ては学長に全権を委認するといふことを言はれるのも御尤もでありますけれども、斯う云ふやうな財団の経営に於ては無論学長に不信の行為はないけれども、学長が財団の方針、命令といふものに依つて動くべきものを持つて居ると思ひます。学長にして若し我慢をするといふことなく、学長をして誤なからしめんとするならば、大学といふものに同じく心配をして居る各方面の意見を反映して、候補者なら候補者を決定する

といふことが親切だらうと思ひます。併し私は是も皆さんがそれが宜いといふならば唯候補者選定であつて、結局学長に一任しても異存はない。唯従来論争の点になつて居つたやうな評議員会といふものが候補者を決定して出すといふことよりも、協議員会に於て候補者を決定して出す。或は諮問機関となつて評議員会でそれを決めるといふよりも、協議員会の相談で決めるといふ方がどうしても斯う云ふ財団といふ客観的な法人といふものを持つて居る。教育方針を持つて居る学校に取りましては、共鳴を持ち心配をして居る各方面の決定といふものを土台として学長が考へられるといふことが宜いのではないかといふ風に私は思つて居ります。

小林委員 私は是の立案者として一言申し上げます。只今吉田先生の大変御親切な御意見を承りまして、私も洵に感謝に堪へませぬ。本学の財団維持員として又斯うした多くの案を作り上げ、且つ本学の現状を財政の上に如実に示されてそれを眺めた私としまして、只今の吉田先生の御意見を感謝すると同時に、私は全幅の賛成を致すものであります。唯私が一言御聞置きを願ひたいのは今日まで宇野先生とも実は此問題に付きまして委員会に於て論争致しました。併し其委員会の席上

に於きまして、宇野先生が小林君と大いに論議をしたけれども、実に愉快であつたといつて、先生は最後に御挨拶下さいました時に、私も胸一杯になる程に感謝を感じたのでありますが、唯人事の問題に付きまして宇野先生は宇野先生として教授の方の立場を考へられ、御心配になられ、それに付て今の吉田先生の按排せられた意見を私は伺つて、斯の如き内規を作製してレベルを下げないといふことに付ての御意見を承りまして洵にさういふことにして戴けば結構であります。私は何が故にそれ程宇野先生や藤村先生を向ふに廻して意見を述べなければならなかつたかといふと、決して校友なるが故に先生方にはむかひ、或は校友の教授が少いから先生方に楯つく。さういふやうな料簡ではなくして、私の心配致しましたのは本学が先程吉田先生の御意見にもありましたやうに、私立の財団法人であります。其財団法人が私委員会に於きまして度々申しましたやうに、是が十分経営が成立つて採算が取れて居つたならば、私は実は出しやばつて申し上げます。さりながら本学が是は既に前の藤村作先生が学長に就かれた年に数万円の赤字であつた。二年目は勿論、三年目も勿論のこと、又大倉先生が学長になつて来られてもずっと続いて居る。之を眺めます時に私は使へ

る財産のある中は宜しいけれども、是が使へなくなつた時に——私は自分で一度何処にも勤めないで食ふや食はずの生活を致しましたが、金の余裕のある時には実に気持も楽でしたけれども、子供が病氣をするとか、或は商売がうまく行かぬとかいつて、明日の支払ひにも困つた時にはつくづくとしつかり土台を作らなければいかぬ。是は自分で考直さなければならぬ。今まで一杯の酒を飲んだのも止さなければならぬ。一度円タクに乗つたのも止さなければならぬといふことを感じ、私は自転車を買ひ、妙な話ですがそれまでして節約を考へ基礎を固めて来ました。さうして経験をして来た私から見まして、本学の財団委員になつて其末席を汚して此内情を見た時に、是は何とかしなければならぬ。本学はまだ何とかし得る途があるけれども、斯う幾年も続いて居る赤字の経済状態を見ると、まだく此儘放つて置いたならば赤字が出来るかも知れない。此赤字を何とかしなければならぬ。それには人事といふことが大きな問題である。人事問題を教授評議員会の方々が為されるのは結構であるけれども、其教授の方は比較的経済、財政といふ方面に於ては御暗い方が多いやうである。同時に又吾々は教授の学歴とか何とかいふことはない。そんなことには或は私共は認識し

て居らないかも知れない。併し一方経営して行かなければならぬ。何とかして之を立てゝ行かなければならぬといふことに付ては、先生方よりも吾々は苦勞したが故に其途を知つて居るかも知れない。斯う云ふ風な両方の気持から私は協議員会といふものを作つて先生方のレベルも下げない。先生方の実力を保つて貰ふ為に教授側から半数、同時に財政の方、経営の方を心配される為にやはり校友側から入れることが又必要であるといふやうな立場から、私はどうか人事、人を採用するといふことに付ては、此維持員会に持つて来て貰ひたい。即ち本学の維持員会、之を称して私は協議員会といふ名前をつけました。茲へ持つて来てさうしてやつて貰ひたい。斯う云ふ気持からでありましたので、決して先生方のレベルを下げるとか、又先生方にはむかうとかいふ気持ではなかつたので、又赤字もあることでありますから、若し私を信用下さるならば此規定を是非御取り願ひたい。さうして本学が将来に向つて慶応大学の如く基礎盤石のやうになつて、幾分かの余裕が出来る。先生方にどれだけ月給を御出ししても何等動揺しないといふことになりましたならば、元のやうに或は評議員会に任されてどのやうに為されても決して否やを申しませぬ。此本学を隆盛にし、本学を建

直すといふ意味に於て私が持出したのは、即ち先生方の給料の問題、即ち金の問題、即ち先生方に金を多く出さないといふのでなくして、如何にして本学の台所と同様にして算盤を合はして行くかといふ心配を吾々にも其一端に連らして戴きたい。斯う云ふ気持でありますから、どうか其点を御含み下さいまして、先程宇野先生の御意見、又吉田先生の御意見を適当に塩梅されんことを切に御願申す次第であります。

高島委員 大体皆さんの御話で問題は真相に触れて来たやうに思ひますが、結局は私共の協議員会規則を見て殆ど疑問に思つたのは、学長の権限を非常に縮小するといふことゝ、それから学長が統轄して居る。此学内に統轄外の決議機関が出来るといふことは、学園の統制上甚だ妥当でないといふ純理の立場から此協議員会規則を見た時に、是は賛成出来ないと思つた。人事問題のことは別として原則的にさう考へた。だから此協議員会が諮問機関といふことになれば、私は吉田君の考を取入れて之を諮問機関として、さうして人事問題を今吉田君の説明したやうにしたならば、そこで吾々と一致するのではないか。是が決議機関となつて居ると、学長としても随分苦しいことになるし、学園の統制上穏やかでないと思ふ。学校の統轄外に特別な決議

機関があるといふことは、財団は別であるけれども、さういふ純理の立場から立法の精神に於てどうも納得の行かぬ点があるものですから、それで私は規則を見た時にさういふ純理の立場からはいかぬと思つた。併し段々吉田君などの説を聞いて見て、諮問機関となつて、人事に關すること、殊に教授の任命に關することは吉田君の説のやうにすれば私もついて行けるといふ氣持がするんですが、其点尚ほ外の諸君の御意見を承りたいと思ひます。

岡村委員 私も今高島先生の御話を伺つて見てもう非常に結論に近付いたやうな氣がするので、別に申し上げなくても宜いと思ふのですが、私は終始此問題に關する限りは実に冷静に公平な眼を以て仕事をしながら臨んで見て居つた積りでありますが、私が此案が宜いといふことを思つた理由は、兎に角大体斯う云ふうるさい問題が起るのは今まで当然あるべき憲法がなかつたからで、斯う云ふものが出来たことは非常によいことであるし、其精神に付ても私が賛成する理由は、吉田先生の先程の御話と全く同じで、一言もそれ以上申上げることではないのであります。実は色々心配しましたものですから、私も方々の学校のことや亜米利加の大学のことなど調べて参りましたのですが、それも私か

ら申上げる必要はなくなりました。唯之を苦勞して御作りになつた小林君の今の御話を聞いて居つて始終心配になつたことは、要するに是が成程今吾々の大学は赤字の為に苦んで居るけれども、唯赤字克服の一つの方便的に作られるものだといふ意味に小林君の御話の中に誤つて取れば取れないこともないやうなことがありました。勿論小林君のいはれる意味はさうでないと思ひますけれども、飽まで純理に即して而も此規定に依つて尚ほ一層積極的に色々な人事に関して範圍が少し広くなつたといふことは、決して消極的に無暗に月給を安くするとか、人を減らすといふことでなく、必要に依つては例へば学科の増設もどし／＼やつて貰ひたいし、有能な立派な教授を沢山擁して、或る場合は借金をしてもさうして行くことが大学の為に必要だとあればさうしなければならぬ。何処までも消極一方でなくして積極的な意味に於て非常な理想案であると思ふのであります。もう一つ序でに宇野先生の先程の御話を伺つて一寸心配したことは、是も今小林君に対すると同じ誤解かも知れませぬけれども、誤解であらうと思ひますけれども、若し強ひて心配して考へれば、例へば学科の設置及び改廃に関する事項、機密に関する事項、斯う云ふやうな重大な事項を協議員会規則に

於て行ふことを御認めになつて、唯人事に関することだけは絶対に教授以外のものに立入らせることが出来ないといふやうなことは、若し之を誤つて解釈するものがあれば、何等かそこに第三者の許し得ないやうな狭い氣持があるのぢやないかといふ心配がないでもないと思ひます。で私は校友と致しまして維持員に出て居りますけれども、少くとも此問題に関する限りは私は校友でも教授でもない。自分の立場といふものと全然離れて、唯大学を思ひ、私の母校が隆々として栄えて貰ひたいといふ氣持だけであります。全部の校友が社会に出るとさう思ふであらうと思ふのでありますが、君は何処の学校を出たといはれた時に、或は君の先輩は誰であると聞かれた時に、履歴書を書く時に實際此学校が隆々とやつて居て呉れゝば呉れる程吾々はそこに強みを感じる。私は今俺は東洋大学の出身者だといふことを大きな声で威張つて言へる氣持を持つて居ります。何故ならば此大学がきつと世間的にも資本的にも亦教育の実績から言つても、益々将来立派になり得る。僕も其一人として協力して学校を善くして行きたいといふ氣持を持つて居る。さういふ信念をはつきり持つて居る。だから大威張りで東洋大学の出身者であるといふことを言つて行くだらうと思ふ。早くいへば

出身学校が隆々として居る。立派である。よいといふことは同時に卒業生の月給の単価が違ふのです。初任給の単価が違ふのです。それ程の密接な問題であるが故に私は自信を持つて言つて居るのであります。恐らく誰しも一票を投ずるが如き維持員になつて行くが如き校友であつたら先づ其点は心配をしなくても宜い。だから例へば人事に關することで教授の方々と吾々が相反するが如きことは断じてないと私は思ふのであります。どうぞさういふ意味に於て私ははつきり斯う云ふ氣持で私自信^(身)を批判して見て、東洋大学は信用されて宜い。学長も教授も信用されて宜い人間だと私は自信致します。さういふ人間ばかり纏でどん／＼集つて来るだらうと思ふ。現在の学校のことを私は何も申す必要もないし、学校に於て学校の規定が不満であつたかも知れないけれども、学校で行はれて来たことに對して何等批判すべきものもないと思ひます。唯若し將來今まで間違ひがなかつたとしても、將來是で絶対に間違ひないといふことは言へない。若しも私心を持つものが現れて来て、さうして其機關を利用すれば先刻吉田先生の仰しやつたやうに、どのやうにでも悪用される。併し此協議員会の規定に依れば、從來の規定よりも人事に關する問題では少くとも其悪用の機會が少く

なつて来るのではないか。是は断じて過去に鑑みて言ふのでなくして、將來を杞憂する時にさういふことが言へるだらうと思ふのであります。高島先生の仰しやられた諮問機關にするが宜いか、決議機關にするが宜いかといふことに付ては、私はどつちが宜いかはつきり今考へられませぬけれども、若し大体今の規定であつたとしても、第一教授を選定する内規といふものが別に出来すれば先づそれに依つて決めて、さうして学長がそれを協議員会に掛ける。仮りに諮問機關であつたとしても協議員会全員が反對するやうな場合には、否といふ答申が出るならば、学長としては行はうとしても行へないのであります。意味は同じになるのではないか。だから諮問としても決議としても格別相違はないのぢやないかと思ふのであります。申上げたことは大体それだけであります。

高島委員 岡村君の意見は何時でも公平なることで敬意を表して岡村君の説には何時でも賛成して来て居るのであります。大体此協議員会規則を諮問機關でも宜し、決議機關でも宜しと岡村君は言つて居るのであります。私は諮問機關であつて欲しい、といふのは前に申しましたやうに学園の統制上どうも学長の統轄外に決議機關が出来るといふことは一寸工合が悪い。原

則として良くないといふので、趣旨は是で良いので、唯諮問機関といふことにして別に吉田君が言はれた内規が設けられさへすれば私はそれで異存はない。唯之を決議機関とすることは学園の統制上学長の権限が縮小されるばかりでなく、学長が統轄することの出来ないものが学園内にあるといふことはどうも穏やかでない。斯う云ふ意味から私は諮問機関にして欲しいといふことを主張するのです。尚ほ私は甚だ失礼であります。諮問機関であります。どうぞ私の趣旨を御酌取り下さいまして皆さん御賛成を願ひたいと思ひます。では失礼致します。

(高島委員退席)

宇野委員 岡村君が私の意味を大変誤解した、誤解でないことを希望すると言はれましたが、私の言はんと欲する所は学長の統制の下に居る人の間で而も学長を決議を以て拘束することは困るといふのが私の趣意であつたのです。教授会が一步も譲らない。さういふ意味ではなかつたので、教授会でなければいかぬといふ意味ではないのです。

岡村委員 其点私の誤解でありまして、先生の御話を伺つて私も嬉しく思ひます。

小林委員 只今の吉田先生、それから米峯先生、又岡村

先輩の御意見御尤もと思ひます。私も此際それを無理に反対も致しませぬが、唯大倉先生に承りたいことは諮問機関とすべきか、又之を決議機関とすべきか。先生が学長でありながら公平な立場に立つて東洋大学を見て下さつた時に、之をどつちに決めたら宜いかといふ御意見を一度伺ひさして戴けるならばさして戴きたいと思ひます。

大倉議長 それは私の代ならば諮問機関が結構ですけれども、私は学長として今自分の立場からは言へないのです。私は茲へ来るまでは茲の財団をもつと穏やかなものだと思つたのです。所が殆ど茲ではどうして宜いか分らない位だから、私も永遠に学長をして居る訳ではない。大倉の時代に斯う云ふことを作つたのでどれもやれはしないといふことになつては困ります。私は思ふに将来本学の学長はやはり学者の諸先生が為さることだと私は思ふのです。併しそれから決議機関にするとかいふのぢやありませんけれども、私といふ立場を考へないで白紙でいふと、何時もそれなのです。皆真心でやれば私心を挟みさへしなければ実に間違ひのないものになるから、私が茲に居る間は真心を持つて仕事をして行きたいから、如何様に御決めになつても構ひませぬ。私は今の場合は学長でありますから、

此学校の為め本学の為に御役に立てば宜いことでありますから、私が意見を申上げなくても宜いのですが、私からいへばそれは学長となる人は誰でも諮問機関の方が宜いといふことに決まつて居る。併し過去の歴史を聞きますと、学長が余り専横をした為にわい／＼騒動が出来たとか、何々があつたといふのですから、そこは適当にやつて行く方がよいので、私は私としての考を茲では述べて居ませぬ。学長として如何なる人が来られるかに依つて決まるので、私の任期中は若し諮問機関ならば非常に結構です。無論私が皆さんに諮つて、是が宜いと真心で言ふのか、何か野心があつて言うて居るのか分ります。そこは横車か真直ぐなものか分りますけれども、成べく余裕ゆとりのあるやうな風に行きたいものだと思います。だから申すまでもなく諮問機関が宜いといふことは分り切つたことで御聞きになる必要もないけれども、学長といふものは一つのパーソナルではないのですから、誰が来るか分らない。此次は誰が来るか分らない。そこを考へてのことでありますから、是は皆さんで御決め願つたら宜いと思ひます。

小林委員 私の心配するのはそこなので、大倉先生がやつて下さる間は心配ありませんが、やはり過去の歴史

があります故に、私は之をさういふ立場から実は決議機関が宜いと思つたのです。で私は要するに小姑としての立場からは、即ち将来好い嬢さんを引張つて行くのはやはり小姑の務めであらうといふ立場からやはり決議機関にするに如かずと思ふのであります。

大倉議長 それは小姑といふのは良い小姑は中々ないので、又本学の学長は何も出来ぬのだ。あれは何も出来ないやうにしてやると言つて追出しも出来るでせう。何もさせないで皆反対だ／＼と言つて居れば明日でも私は逃げて行くやうになる。余りさういふ風な決議機関で誠になつたりするやうな学長を置いて居つては教育は出来なと思ふのです。やはり立法の精神といふものは一種の何か人間なら人間の中に無限の神性を認めるとか、自分の家の親父は土方であるけれども、親として何処までも鄭重にしようといふ気持を持たなければ私は教育は出来ぬと思ふ。併し私は此点に於ては自分は思つても決して言はない。今までは言はなかつたのです。皆さんさへ宜ければ宜いと思つたのです。高島長老も諮問機関が宜いと言はれたから私が代弁して言ふ訳ではないが、私自身の気持を言つたのです。

岡村委員 諮問と言つても結果は同じで、諮問した所でみんながいかにぬといつて否決してしまへば同じにな

る。

柴田委員 私は吉田先生初め皆さんの御意見を伺ひまして私も一言誠意のある所を述べて置きます。私は東洋大学の今までの色々な歴史的関係をつくゞ考へまして、誠心誠意考へますのには、此東洋大学の学制の基礎を作られた建学の精神を実現し、本当の独立を図るのには、どうしても決議機関である協議委員会の此原案を実現したいと思ふのであります。併しそれに付きまして吉田先生から教授任命の候補者の範圍などを御示し願ひまして、一層洵によい案だと思ひまして吉田先生の案に衷心賛成するものであります。

小林委員 吉田先生、一寸「東洋大学の人事は別に定めあるものを除き、協議委員会之行ふ」とあるのですが、「東洋大学の人事は別に定むる如き協議員の議を経て学長之行ふ」と改めたらどうでせう。

吉田委員 私は形はどうでも結構と思ふのです。

小林委員 やはり学長がやらなければならぬのでせう。私は此間宇野先生にも頻りに言つたのですけれども、要するに何れにしても今岡村さんの御意見のやうに、みんなが反対されゝばやれないでせう。十二年の騒動のやうに強行されると、無理やりにやられるとそれは長続きしませぬけれども、確かに学長の体面を保つ上

に於ては諮問機関といふのが穩当かも知れませぬ。

広井委員 範棒のことをやればどうにでも出来るのです。殊に協議委員会の起りといふものが、前の評議員会か諮問機関であるのに決議機関の働きをして居ることから来て居るのですから……。

宇野委員 「議を経て」とすると決議といふことになりません。

大倉議長 本学が決議で多数決といふやうなことをしないで来たといふことは大変美しいと思ひますから、全会一致で諮問機関といふことにしたら如何でせうか。

柴田委員 私はどんな案でも道德的精神を以て運用しなければいけないと思ひます。

大倉議長 それでは之を諮問機関といふことで全会一致で決めて宜しうございますか。

小林委員 結構でございます。

岡村委員 要するに同じだと思ふのです。諮問機関としても……。

小林委員 標準内規を吉田先生の御意見に基いて作るんですな。

宇野委員 さういふものに依つて評議員会も決めて居つたのです。

岡村委員 此内規は改めて作る方が宜いではないです

か。大体に於て吉田先生の今言はれた四つの案に付て

改めてはつきり作つた方が宜いのではないですか。

小林委員 私もそれだつたら非常に宜いと思ふ。

宇野委員 さうすると人事規定といふのは別に作り直して戴く。

小林委員 文字は相当改正しなければならませぬが、諮問機関といふことで学校当局に一任することにしたらどうですか。

大倉議長 それではさういふことにしまして尚ほ字句の修正の上印刷をして御送りします。

岡村委員 学校当局で御作りになつてもう一つ配つて戴いて、さうして最終の決定をする。さういふことに願ひたい。

大倉議長 それではさういふことに致しまして、此実施期は何時からと致しませう。

朝原委員 是は皆さんの御承認を得てから決めた方が宜いではないですか。

岡村委員 改正した瞬間に実施することにしたらどうですか。

大倉議長 維持員会に報告しなければならませぬから、それまでに成べく急いでやることに致します。実施期も其時に決定しようと思ひます。それでは大体是でお

しまひになりました。

岡村委員 最後に私は自分が仕事を持つて居るものですから、何時も怠けてばかり居りまして申訳なかつたのでありますが、斯う云ふ立派な職制が大学の憲法ともいふべきものが完成しようとしつゝあることに付きまして御努力下さいました四人の委員の方に対して深く一同の名を以て御礼を申し上げたいと思ひます。(拍手)どうぞ御賛成を願ひます。更に又非常に一身を捧げて是だけの膨大な案を作り上げた小林君の御努力に対しては特に是亦感謝を致したいと思ひます。(拍手起る)

小林委員 委員を代表して宇野先生から御礼を申し上げて戴きたいと思ひます。

宇野委員 先日来色々大いに論議を致しまして、維持員会に於て公平な御批判に依りまして、私共の作りました此案が円満に御決議になりまして、私共の骨を折りました労を空しくさせられなかつたことに付きまして私非常に愉快に存するのであります。謹んで御礼を申し上げます。是で私共は小委員の任務を果した訳であります。色々御世話様になりました。(拍手)

大倉議長 先般来私もどうなることかと思つて心配致して居つたのですが、最後の今日の会は恐らく未だ曾てない模範的な協議が遂げられましたことは本学の為に

喜ばしいことゝ存じます。有難たうございました。
午後七時五分閉会

千秋文庫所蔵

第二節 協議員会

二〇四 東洋大学協議員会規程（大正八年一二月）

協議員会規程

第壹条 大正八年二月二十八日東洋大学財団商議員会ノ

決議ニ基キ学長ノ協議機関トシテ東洋大学協議員会ヲ
設ケ

第貳条 協議員ハ教授中ヨリ学長之ヲ委嘱シ其ノ数ヲ十
五人以上トス

第參条 協議員ハ学長ノ諮問ニヨリ本大学ニ関スル大小
ノ事項ヲ決議ス
其ノ事項ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- 一 維持員会提出ノ議案
- 一 教授ノ報酬
- 一 授業料

一 教授ノ任免

一 教授会ノ協議事項

一 称号ノ決定（称号規程参照）

一 其ノ他学長ノ協議ヲ必要ト認メタル事項

第四条 協議員中ヨリ常任委員五名ヲ互撰ス

第五条 諮問事項中ニツキ特ニ協議員会開会ノ必要ヲ認
メサル場合ハ学長ハ適宜常任委員ニ諮問シ其ノ意見ニ
ヨリテ之ヲ執行ス

第六条 協議員会ハ学長必要ト認メタル場合隨時之ヲ開
会ス

第七条 協議員ハ学長ニ対シ其ノ開会ヲ要求スルコトヲ
得

協議員

石川	義昌	稲垣	末松	得能	文	上条	辰藏
高島	平三郎	田部	重治	中島	徳藏	内田	周平
前田	慧雲	富士川	游	藤岡	勝二	藤村	作
古城	貞吉	島地	大等	杉	敏介		

『東洋大学一覽（大正八年度）』二〇九—二一〇頁

（大正八年一二月二五日）

二〇五 東洋大学協議員会規程

〔昭和一三年六月二十四日実施〕

東洋大学協議員会規程

第一章 組 織

第一条 本学財団ノ大学側ニ協議員会ヲ置ク

協議員会ハ学長ノ諮問ニ応ス

第二条 協議員会ハ協議員十四名ヲ以テ定員トス

第三条 協議員会ハ財団理事(大学側)財団維持員(大学側)ヲ以テ組織ス

第二章 会 議

第四条 学長タル理事ハ協議員会ヲ招集シ其ノ議長トナル

第五条 協議員会ハ本財団大学内部ニ関スル左ノ事項ヲ審議ス

一 諸規程ノ制定及之カ改廃ニ関スル事項

二 機密ニ関スル事項

三 人事ニ関スル事項

四 学科ノ設置及改廃ニ関スル事項

五 事業ノ計画及改廃ニ関スル事項

六 寄附金及之ニ関スル事項

七 其ノ他財政ヲ伴フ重要事項

第六条 前条第三号人事ニ関スル規程ハ之ヲ別ニ定ム

第七条 議長ハ協議員会ノ承諾ヲ得タルトキハ他ノ教職員ヲシテ其ノ必要事項ノ説明ヲ為サシムルコトヲ得

但シ説明了リタルトキハ直チニ退席セシムヘシ

第八条 協議員会ヲ招集セントスルトキハ其ノ三日前

ニ通知シ且ツ議案ノ要項ヲ文書ニ認メ予メ提示スヘシ

但シ緊急已ムコトヲ得サルトキハコノ限リニ非ス

第九条 協議員四分ノ一以上ノ連名ヲ以テ其ノ目的事項ヲ明示シ臨時協議員会ノ請求ヲ為スコトヲ得

第十条 前条ニ依ル臨時協議員会ノ請求アリタルトキハ学長タル理事ハ五日以内ニ之カ招集ヲ為スコトヲ要ス

第十一条 会議ハ会員ノ半数以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第十二条 前条ノ会員定数ニ充タサルタメ同一議案ニ付再會議ノ招集ヲナシタルトキハ其ノ出席員数

第十三条 如何ニ拘ラス審議ヲ為スコトヲ得
協議員会ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ
決ス

可否同数ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依
ル

第十四条

協議員会ノ議事ハ之ヲ公開セス

但シ議長ハ議事録ヲ作成シ出席者若クハ其ノ
代表者ノ署名捺印ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 任期

第十五条

協議員ノ任期ハ滿三ヶ年トス

但シ財団役員ニ選任セラレタルトキヨリ始マ
リ其ノ任期終了ヲ以テ終了スルモノトス

第十六条

寄附行為第四十四条、第四十五条ニ因リ其ノ
資格喪失シタルトキハ同時ニ協議員ノ資格モ
亦之ヲ喪失スルモノトス

附 則

第十七条

東洋大学任用規程及ヒ東洋大学教員詮衡内規
ハ之ヲ廃止ス

第十八条

本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実
施ス

『東洋大学改正制規』

千秋文庫所蔵

第三節 評議員会

二〇六 東洋大学教授評議員会規程

〔昭和十三年六月二十四日実施〕

東洋大学教授評議員会規程

第一章 組織

第一条

本学ニ教授評議員会ヲ置ク

第二条

教授評議員会ハ学長ノ諮問ニ応スルモノトス
教授評議員会ハ学長、財団理事(大学側)、予
科長、専門部長、各科长及ヒ各教授会ヨリ選
出セラレタル教授ヲ以テ之ヲ組織ス

第三条

前条ニ依ル各教授会ヨリ選舉セラルヘキ教授
評議員数ハ次ノ如ク之ヲ定ム

一 学部教授会

二名

二 予科教授会

一名

三 専門部教授会

二名

第二章 会 議

第四条 学長ハ教授評議員会ヲ招集シ其ノ議長トナル

学長事故アルトキハ財団理事（大学側）之ヲ代行ス

第五条 学長ハ必要アリト認ムルトキハ教授講師若ク

ハ其ノ他ノ職員ヲ教授評議員会ニ列席セシムルコトヲ得

第六条 教授評議員会ハ左ノ事項ヲ評議ス

一 各教授会ニ於テ教授評議員会ノ議ニ付ス

ヘシト決定シタル事項

二 教科目ニ関スル事項

三 緊急ヲ要スル事項ニシテ各教授会ノ審議

ヲ經ル暇ナシト学長思料シタルトキ

四 其ノ他学長ヨリ諮問シタル事項

第七条 教授評議員会ヲ招集セントスルトキハ其ノ旨

三日前ニ各評議員ニ通知シ且ツ議案ノ要項ヲ

文書ニ認メ予メ提示スヘシ

但シ緊急^(三)己ムヲ得サルトキハ此ノ限りニアラ

ス

第八条 会議ハ会員ノ半数以上出席スルニ非サレハ評

決スルコトヲ得ス

第九条 前条ノ会員定数ニ充タサルトキト雖仮評議ヲ

為スコトヲ得

第十条 仮評議ハ其ノ旨欠席会員ニ通知シ五日以内ニ

異議ノ申出ナキトキハ確定スルモノトス

第十一条 前条ノ異議ノ申出アリタルトキハ更ニ七日以

内ニ学長教授評議員会ヲ招集シ出席者ノ過半数ヲ以テ仮評議ノ可否ヲ決ス

第十二条 教授評議員会ノ議事ハ出席会員ノ過半数ヲ以

テ之ヲ決ス

可否同数ナルトキハ議長ノ決スルコロニ依

ル

第十三条 第五条ニヨリ出席ヲ為シタル者ハ評決ニ加ハ

ルコトヲ得ス

第十四条 教授評議員会ノ議事ハ之ヲ公開セス

第十五条 議長ハ教授評議員会議事録ヲ作成スヘシ

但シ議事録ニハ二名以上ノ評議員立会署名捺

印スヘキモノトス

第十六条 前条第二項ニヨリ評議員立会署名ヲ求メラレ

タルトキハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三章 任 期

第十七条 評議員ノ任期ハ之ヲ三ヶ年トス

但シ再選ヲ妨ケス

附 則

第十八条 従前ノ教授評議員会関係諸規程ハ之ヲ廃止ス

第十九条 本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実施ス

『東洋大学改正制規』

千秋文庫所蔵

二〇七 東洋大学教授評議員会規程

〔昭和十六年一月一六日実施〕

東洋大学教授評議員会規程

第一章 組織

第一条 本学ニ教授評議員会ヲ置ク

教授評議員会ハ学長ノ諮問ニ応スルモノトス

第二条 教授評議員会ハ学長、財団理事（大学側）、学部長、予科長、専門部長及学長ノ委嘱シタル教授ヲ以テ之ヲ組織ス

第二章 会 議

第三条 学長ハ教授評議員会ヲ招集シ其ノ議長トナル

学長事故アルトキハ財団理事（大学側）之ヲ代行ス

第四条 学長ハ必要アリト認ムルトキハ教授講師若クハ其ノ他ノ職員ヲ教授評議員会ニ列席セシムルコ

トヲ得

第五条 教授評議員会ハ左ノ事項ヲ評議ス

一 各教授会ニ於テ教授評議員会ノ議ニ付スベ

シト決定シタル事項

二 教科目ニ関スル事項

三 緊急ヲ要スル事項ニシテ各教授会ノ審議ヲ

経ル暇ナシト学長思料シタルトキ

四 其ノ他学長ヨリ諮問シタル事項

第六条 教授評議員会ヲ招集セントスルトキハ其ノ旨三

日前ニ各評議員ニ通知シ且議案ノ要項ヲ文書ニ

認メ予メ提示スベシ

但シ緊急已ムヲ得ザルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第七条 教授評議員会ニ関スル記録ハ教務課ニ於テ作成

保管スベシ

第三章 任期

第八条 評議員ノ任期ハ之ヲ三ケ年トス

但シ再任ヲ妨ゲズ

附 則

第九条 本規程ハ昭和十六年一月十六日ヨリ之ヲ実施ス

『昭和十六年一月 東洋大学改正制規』

第四節 維持会

以上

「東洋大学維持会の設立」(『東洋哲学』第一七編

第三号、明治四三年三月一日)

二〇八 東洋大学維持会規則(明治四三年三月)

東洋大学維持会規則

第一条 本会の目的は東洋大学の拡張を計らんが為め其経費を補助するにあり

第二条 何人にてても本会の会員たることを得

第三条 会員の醸金は一口に付五箇年間毎月金五拾錢を醸出するものとす

但し一箇年分前納の場合は金五円五拾錢とす

第四条 会員の醸金は一人にして幾口にても負担することあるべし

第五条 会員たらんと欲する者は醸金の口数と払込方とを記して申込まるべし

第六条 本会事務所を東京市小石川区原町東洋大学内に置く

第七条 毎月『修身』に於て本会の会計報告及び会員動静を報道し会員に贈呈す

第三章 諸規則

第一節 職制

二〇九 東洋大学職制〔昭和九年一〇月一日施行〕

東洋大学職制

第一条 本学ニ左ノ職員ヲ置ク

学 長

予 科 長

専門部長

夜学部長学部及専門部科長

教 授

講 師

学生主事

図書館長

若干名
若干名

幹 事 若干名
書 記 若干名
司 書 若干名
助 手 若干名

第二条 学長ハ本学一般ノ事ヲ掌リ職員ヲ統督ス

学長ハ相談役ヲ囑託スルコトヲ得

相談役ハ本学一般ノ事ニ関シテ学長ノ諮問ニ応スル

モノトス

第三条 学部各科ニ科長ヲ置ク

科長ハ其ノ科ノ事ヲ掌ル

第四条 予科長ハ予科ノ事ヲ掌ル

第五条 専門部長ハ専門部ノ事ヲ掌ル

専門部各科ニ科長ヲ置ク

科長ハ其ノ科ノ事ヲ掌ル

第六条 夜学部長ハ夜間部ノ事ヲ掌ル

第七条 教授ハ学生、生徒ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第八条 講師ハ教授ヲ助ケ授業ニ従事ス

第九条 学生主事ハ学長ノ命ヲ承ケ学生、生徒ヲ指導監督ス

第十条 図書館長ハ学長ノ命ヲ承ケ図書館ノ事ヲ掌ル

第十一条 幹事ハ学長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十二条 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十三条 司書ハ上司ノ命ヲ受ケ図書館ノ事務ニ服ス

第十四条 助手ハ教授又ハ講師ノ指揮ヲ受ケ研究室ノ事務ニ服ス

務ニ服ス

第十五条 本学教育上特ニ功績アル者ニハ学長ハ名誉教授ノ名称ヲ授クルコトヲ得

第十六条 本学ニ評議員会ヲ置キ学長、本学分属理事、

予科長、学部科長、専門部長及科長、夜学部長、学生主事及図書館長ヲ以テ之ヲ組織ス、但シ必要ト認ムル場合ニハ教授中ヨリ評議員若干名ヲ委嘱スルコトヲ得

評議員会ハ学長之ヲ招集シ其ノ議長トナル

第十七条 評議員会ハ左ノ事項ヲ審議ス

一、学科ノ設置及廃止

二、本学内部ノ制規

三、其ノ他学長ノ諮問シタル事項

第十八条 本学ニ学部教授会予科教授会及専門部教授会

ヲ置ク

学部教授会ハ学長、本学分属理事及学部教授ヲ以テ之ヲ組織ス

予科教授会ハ学長、本学分属理事、学部各科科长予

科長及教授ヲ以テ之ヲ組織ス

専門部教授会ハ学長、本学分属理事、専門部部长及

科長及教授ヲ以テ之ヲ組織ス

教授会ハ学長之ヲ招集シ其ノ議長ト為ル

学長ハ必要ニ依リ一般教授会ヲ招集スルコトヲ得

第十九条 各教授会ハ其ノ部科ニ属スル左ノ事項ヲ審議ス

一、学科課程ニ関スル事項

二、学生生徒ニ関スル事項

三、其ノ他学長ノ諮問シタル事項

第二十条 学位授与ニ関スル事項ハ学部教授会ニ於^(テ)之ヲ審議ス

第二十一条 必要ト認ムルトキハ学長ハ教授以外ノ職員

ヲ教授会ニ列席セシムルコトヲ得

附 則

第二十二条 学部及専門部ニハ第十八条ノ外各科教授会

ヲ設クルコトヲ得

第二十三条 東洋大学財団寄附行為中ニ東洋大学教授ト

アルハ本職制中ノ教授ニ適用スルモノトス

第二十四条 本職制実施ニ関シ補則又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得

第二十五条 本改正職制ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

『東洋大学一覽 昭和九年十二月一日現在』

一六一一九頁（昭和一〇年二月一〇日）

二一〇 東洋大学職制

〔昭和十一年一月一日實施〕

東洋大学職制

昭和十一年十一月十七日決定

昭和十一年十二月一日ヨリ實施

第一条 本学ニ左ノ職員ヲ置ク

学 長

予科長

専門部長

学部及専門部科長

教授 若干名

講師 若干名

学生主事

図書館長

幹事 若干名

書記 若干名

司書 若干名

第二條 学長ハ本学一般ノ事ヲ掌リ職員ヲ統督ス

学長ハ相談役ヲ囑託スルコトヲ得

相談役ハ本学一般ノ事ニ関シテ学長ノ諮問ニ応

スルモノトス

第三條 学部各科ニ科長ヲ置ク

科長ハ其ノ科ノ事ヲ掌ル

第四條 予科長ハ予科ノ事ヲ掌ル

第五條 専門部長ハ専門部ノ事ヲ掌ル

専門部各科ニ科長ヲ置ク

科長ハ其ノ科ノ事ヲ掌ル

第六條 「欠」

第七條 教授ハ学生、生徒ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第八條 講師ハ教授ヲ助ケ授業ニ従事ス

第九條 学生主事ハ学長ノ命ヲ受ケ学生、生徒ヲ指導

監督ス

第十條 図書館長ハ学長ノ命ヲ受ケ図書館ノ事ヲ掌ル

第十一條 幹事ハ学長ノ命ヲ受ケ事務ヲ掌ル

第十二條 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十三条 司書ハ上司ノ命ヲ受ケ図書館ノ事務ニ服ス

第十四条 助手ハ教授又ハ講師ノ指揮ヲ受ケ研究室ノ事務ニ服ス

第十五条 本学教育上特ニ功績アルモノニハ学長ハ名誉教授ノ名称ヲ授クルコトヲ得

第十六条 本学ニ評議員会ヲ置キ学長、本学分属理事、

予科長、学部科長、専門部長及科長、夜学部長、学生主事及図書館長ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ト認ムル場合ニハ教授中ヨリ評議員若干名ヲ委嘱スルコトヲ得

評議員会ハ学長之ヲ招集シ其ノ議長トナル

第十七条 評議員会ハ左ノ事項ヲ審議ス

一、学科ノ設置及廃止

二、本学内部ノ制規

三、其ノ他学長ノ諮問シタル事項

第十八条 本学ニ学部教授会、学部特別教授会、予科教授会及専門部教授会ヲ置ク

学部教授会ハ学長、本学分属理事及学部教授ヲ以テ之ヲ組織ス

学部特別教授会ハ学部専任教授ヲ以テ之ヲ組織ス

予科教授会ハ学長、本学分属理事、学部各教科

長、予科長及予科教授ヲ以テ之ヲ組織ス

専門部教授会ハ学長、本学分属理事、専門部部長及科長並専門部教授ヲ以テ之ヲ組織ス

教授会ハ学長之ヲ招集シ学部特別教授会ヲ除クノ外其ノ議長ト為ル

学長ハ必要ニ依リ一般教授会ヲ招集スルコトヲ得

第十九条 各科教授会ハ其ノ部科ニ属スル左ノ事項ヲ審

議ス

一、学科課程ニ関スル事項

二、学生、生徒ニ関スル事項

三、其ノ他学長ノ諮問シタル事項

但シ学部特別教授会ニ於テハ学位授与ニ関スル事項ヲ審議ス

第二十条 学長ハ必要ト認ムルトキハ教授以外ノ職員ヲ

学部特別教授会ヲ除クノ外教授会ニ列席セシムルコトヲ得

第二十一条 学部特別教授会ニ於テ必要アリト認ムルトキハ学部兼任教授又ハ講師ニ限り列席セシムルコトヲ得

第二十二条 学部及専門部ニハ第十八条ノ外各科教授会

ヲ設クルコトヲ得

第二十三条 東洋大学財団寄附行為中ニ東洋大学教授ト

アルハ本職制中ノ教授ニ適用スルモノトス

第二十四条 本職制実施ニ関シ補則又ハ細則ヲ定ムルコ

トヲ得

第二十五条 本改正職制ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之

ヲ施行ス

東洋大学附属図書館所蔵

二二一 東洋大学職制

〔昭和十三年六月二十四日実施〕

東洋大学職制

第一条 本学ニ左ノ職員ヲ置ク

学 長

予 科 長

専 門 部 長

学 部 科 長

専 門 部 科 長

教 授

講 師

学 生 主 事

図 書 館 長

幹 事 長

幹 事

書 記

司 書

助 手

第二条 学長ハ本学ヲ統轄ス

第三条 予科長、専門部長及ヒ各科長ハ学長ノ命ヲ受

ケ其ノ部又ハ其ノ科ノ教授ヲ統率シ各科ニ属
スル学生ノ行動ニ注意シ常ニ之ヲ指導監督シ

学生主事ト協力シテ訓育ノ目的ヲ達成スヘシ

第四条 教授ハ各所属ノ学科ヲ担任シテ学生生徒ヲ教

授シ其ノ研究ヲ指導スヘシ

第五条 講師ハ教授ヲ助ケ授業ニ従事ス

講師ノ任期ハ之ヲ一ケ年トス

第六条 学生主事ハ学長ノ命ヲ受ケ学生生徒ノ訓育ニ

ツキ予科長、専門部長及ヒ各科長ト協力シ且
ツ学友会、新聞学会ヲ指導監督シ校友会ト連

絡ヲ保チ其ノ効果ヲ挙クルコトニ留意スヘシ

第七条 図書館長ハ学長ノ命ヲ受ケ別ニ定ムルトコロ

ノ図書館規程ニ順ヒ図書館ノ事ヲ掌ル

図書館長ノ任期ハ之ヲ三ケ年トス

第八条 幹事長ハ学長ノ命ヲ受ケ別ニ定ムル事務規程

ニ順ヒ本学ノ事務ヲ掌リ幹事以下書記、司書、助手其ノ他ノ僱員使丁ヲ統率ス

第九條 幹事ハ上司ノ命ヲ受ケ各所属事務ヲ掌リ其ノ部下ヲ統率ス

第十條 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケテ事務ニ従事ス

第十一條 司書ハ上司ノ命ヲ受ケ図書館ノ事務ニ従事ス
第十二條 助手ハ教授又ハ講師ノ指揮ヲ受ケ研究室ノ事務ニ服ス

助手ノ任期ハ之ヲ二ケ年トス

第十三條 第三條ニ定メタル予科長、専門部長及ヒ各科长ノ在職期間ハ予科長ハ二ケ年其ノ他ハ之ヲ三ケ年トス

第十四條 予科長、専門部長、各科长、学生主事及ヒ図書館長ノ補職、解職ヲ為シタルトキハ学長之ヲ協議員会ニ報告スヘシ

第十五條 教授講師ノ任免ヲ為サントスルトキハ協議員会ニ諮問シテ学長之ヲ行フヘシ

但シ幹事長以下ノ職員ニツキテハコノ限リニアラス

第十六條 本学教育上並ニ學術上功績アリタル者ニ学長ハ協議員会ニ諮問シテ名誉教授ノ称号ヲ授クルコトヲ得

〔第〕
第十七條 本学ニ教授会ヲ置ク

教授会規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本学ニ教授評議員会ヲ置ク

教授評議員会規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 事務ニ関スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 本職制ノ補則又ハ之ニ關聯スル細則ハ協議員会ニ於テ審議ノ上財団維持員会ノ議ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第二十一條 従来ノ職制ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 本改正職制ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実施ス

『東洋大学改正制規』
千秋文庫所藏

二二 東洋大学職制

〔昭和一六年一月一六日実施〕

東洋大学職制

第一章 職員

第一條 本学ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|---|---|----------------------|---|--|----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------|--|--|----------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| <p>第六條 図書館長ハ学長ノ命ヲ承ケ図書館ニ関スル事</p> | <p>第五條 学生主事ハ上司ノ命ヲ承ケ学生生徒ノ訓育ノ事ヲ掌ル</p> | <p>第四條 学部主任教授ハ上司ノ命ヲ承ケ学生主事ト協力シテ其ノ科ノ学生ノ研究指導並訓育ノ事ニ当ル</p> | <p>第三條 学部長予科長及専門部長ハ学長ノ命ヲ承ケ其ノ部又ハ其ノ科ノ事ヲ掌ル</p> | <p>第二條 学長ハ本学ヲ統轄ス</p> | <p>学 長
学部長
予科長
専門部長
学部主任教授
学生主事
図書館長
幹事長
課長(事務)
書 記
学生主事補
司 書
助 手</p> | <p>若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名
若干名</p> | <p>第七條 幹事長ハ学長ノ命ヲ承ケ本学全般ノ事務ヲ掌ル</p> | <p>第八條 課長ハ上司ノ命ヲ承ケ其ノ課ニ属スル事務ヲ掌ル</p> | <p>第九條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス</p> | <p>第十條 学生主事補ハ学生主事ヲ補佐シ学生生徒ノ指導監督並之ニ関スル事務ニ従事ス</p> | <p>第十一條 司書ハ上司ノ指揮ヲ承ケ図書館ノ事務ニ従事ス</p> | <p>第十二條 助手ハ研究室ノ事務ニ従事ス</p> | <p>第十三條 本学ニ左ノ教員ヲ置ク
第二章 教 員
教授(専任教授、嘱託教授)
助教授
講 師
教 師</p> | <p>第十四條 教授ハ各所属ノ学科ニツキ学生生徒ニ教授シ其ノ研究ヲ指導ス</p> | <p>第十五條 講師ハ各所属ノ学科ニツキ学生生徒ニ教授ス</p> | <p>第十六條 助教授ハ教授ヲ助ケ授業ニ従事ス</p> | <p>第十七條 教師ハ教練体操武道ニツキ学生生徒ヲ指導ス</p> |
|---------------------------------|-------------------------------------|---|---|----------------------|---|--|----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------|--|--|----------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|

第十八条 学長ハ本学教育上並學術上功績顯著ナリト認

メタル者ニ対シ協議員会ニ諮問シテ之ニ名誉
教授ノ称号ヲ授クルコトヲ得

附 則

第十九条 本改正職制ハ昭和十六年一月十六日ヨリ之ヲ

実施ス

第二十条 従来ノ職制ハ之ヲ廢止ス

『昭和十六年一月 東洋大学改正制規』

第二節 人事・給与規程

二二三 東洋大学任用規程

〔昭和九年一〇月一日施行〕

東洋大学任用規程

第一条 教員ノ任用ハ東洋大学教員銓衡内規ニ拠リ学長
之ヲ行フ

教員ノ任期ハ之ヲ定メス講師ノ任期ハ当該年度限
リトシ毎年二月中ニ次学年度講師ヲ決定シテ其ノ
内諾ヲ受クルモノトス

第二条 事務員、傭員又ハ臨時雇等ノ任用ハ学長之ヲ專

行ス

第三条 本規程ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

東洋大学附属図書館所蔵

二二四 東洋大学人事規程

〔昭和十三年六月二四日実施〕

東洋大学人事規程

第一条 東洋大学ノ人事ハ別ニ定アルモノヲ除キ学長

之ヲ協議員会ニ諮問ス

第二条 教授講師ヲ任用セントスルトキハ協議員会ニ

諮問シテ学長之ヲ行フ

第三条 教授講師ノ任用ニツキ協議員会ヲ開会セント

スルトキハ学長予メ候補者ヲ選定シテ之ヲ提
出スヘシ

第四条 本学教授ノ任用資格者ハ左ノ各号ニ該当スル

コトヲ要ス

一 学位ヲ有スル者

二 大学令ニ拠ル大学ニ於テ教授、助教授タ
リ又ハ教授、助教授タリシ者

三 大学令ニ拠ル大学ヲ卒業シ、学士試験ニ

合格シタル者

四 高等教員ノ免許状ヲ有スル者

五 學術研究上ノ業績顯著ナル者ニシテ協議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得タル者

第五條 學長ハ教授講師ノ候補者選定ニツキ之ヲ各部

長、各科長又ハ特定人ニ委嘱スル事ヲ得

第六條 職員ノ任用ハ學長專ラ之ヲ行ヒ協議員会ニ諮

問スルコトヲ要セス

第七條 職制第十四條ニ規定アルモノハ學長協議員会

ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 教職員規程第十六條ニ因リ休職中ノ教授ヲ復

職セシメントスルトキハ學長之ヲ協議員会ニ諮

ルヘシ

第九條 教職員規程第十三條、第十四條、第十五條ノ

各條項ニ因リ教授講師ノ解職ヲ為サントスル

トキハ學長之ヲ協議員会ニ諮ルヘシ

第十條 懲戒規程第一條第三號ニ因リ罷免セラレタル

モノ有リタルトキハ學長之ヲ協議員会ニ報告

スヘシ

附 則

第十一條 従前ノ人事關係諸規程ハ之ヲ廢止ス

第十二條 本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実

施ス

『東洋大学改正制規』

千秋文庫所藏

二二五 東洋大学人事規程

〔昭和一六年一月一六日実施〕

東洋大学人事規程

第一章 任 用

第一節 職員ノ任用

第一條 學部長、予科長、専門部長、学生主事及図書

館長ハ協議員会ニ諮問シテ學長之ヲ委嘱ス

第二條 學部主任教授ハ專任教授中ヨリ協議員会ニ諮

問シテ學長之ヲ委嘱ス但シ專任教授中ニ適任

者ナキ時ハ他ノ教授中ヨリ協議員会ニ諮問シ

テ學長之ヲ委嘱ス

第三條 前二條中任期ヲ附スルモノヲ再任セントスル

トキハ協議員会ニ諮問シテ學長之ヲ行フ

第四條 幹事長、課長、書記、学生主事補、司書及助

手ノ任用ハ學長之ヲ專行シ協議員会ニ諮問ス

ルコトヲ要セス

第二節 教員ノ任用

第五條 教員ヲ任用セントスルトキハ協議員会ニ諮問シテ学長之ヲ行フ

但シ科外講座講師並教師ノ任用ハ学長之ヲ專行シ協議員会ニ諮問スルコトヲ要セス

第六條 教員ノ任用ニツキ協議員会ヲ開会セントスルトキハ学長予メ候補者ヲ選定シテ之ヲ提出スヘシ

第七條 本学教授、助教授及講師ハ左ノ各号ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一、学位ヲ有スル者

二、大学令ニ依ル大学ニ於テ教授、助教授タリ又ハ教授、助教授タリシ者

三、大学令ニ依ル大学ヲ卒業シ、学士試験ニ合格シタル者

四、高等教員ノ免許狀ヲ有スル者

五、其他學術研究上ノ業績顯著ナル者ニシテ協議員会ニ於テ適當ナリト認メタル者

第八條 外国人ニ授業ヲ委嘱スル場合ハ協議員会ニ諮問シ講師又ハ教師トシテ学長之ヲ委嘱ス

第二章 任期及解嘱

第一節 任期

第九條 学部長、専門部長、学部主任教授及図書館長ノ任期ハ三ケ年、予科長ノ任期ハ二ケ年トス

第十條 講師ノ任期ハ一ケ年トス

第二節 解 嘱

第十一條 教職員ハ所属ノ部、科、課其ノ他事務ノ廃止アリタルトキハ之ヲ解嘱ス

第十二條 教職員身体又ハ精神ノ故障其ノ他ノ事由ニ因リ引続キ職務ヲ執ル能ハサルニ至リタルトキハ之ヲ解嘱スルコトヲ得

第十三條 教職員故ナク三十日以上引続キ欠勤スルトキ又ハ出勤常ナラサルトキハ之ヲ解嘱スルコトヲ得

第十四條 教員ニシテ休講担任時數ノ五分ノ一以上ニ及フ者アルトキハ之ヲ解嘱スルコトヲ得

第十五條 第十二條乃至第十四條ニ依ル教職員解嘱ハ協議員会ニ諮問シ学長之ヲ行フ

但シ第四条ニ依リ任用セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 懲戒規程第一条第三号ニ依リ罷免セラレタルモノアルトキハ学長ハ之ヲ協議員会ニ報告スヘシ

第三章 休職復職

第十七条 教職員ニシテ自己ノ止ムヲ得サル事由ニヨリ

引続キ欠勤三ヶ月以上ニ互ルトキハ学長之ニ

休職ヲ命スルコトヲ得

第十八条 休職者ハ事由ニヨリ何時ニテモ之ヲ解職又ハ

復職セシムルコトヲ得

附 則

第十九条 本規程ハ昭和十六年一月十六日ヨリ之ヲ実施
ス

『東洋大学人事規程』

二二六 東洋大学給与規程

〔昭和九年一〇月一日施行〕

東洋大学給与規程

第一条 給料手当等ノ決定又ハ変更ハ学長之ヲ為ス

但シ特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス

各人ニ対スル給料手当等ノ額ハ理事、會計主任ノ

外之ヲ知ラシムルコトヲ得ス

第二条 役員ノ給料ハ年俸トシ十二分シテ毎月之ヲ支
給ス但シ監事ノ手当ハ二回ニ之ヲ支給スルコトヲ
得

第三条 教員ノ給料ハ之ヲ二種トシ教授ニハ月給ヲ講

師ニハ時間給ヲ支給ス

第四条 事務員、傭員其ノ他給料ハ月給又ハ日給トス

第五条 給料手当等ハ毎月二十三日以後之ヲ支給ス

給料手当等ハ前貸又ハ前払ヲ為サス

第六条 給料手当等ノ計算ハ新任ノ場合ハ就任ノ当日
増給又ハ減給ノ場合ハ之ヲ取極メタル翌日ヨリ起
算シ之ヲ為ス

休講、休職、辭職又ハ退職ノ場合ハ其ノ決定シタ
ル当日死亡ノ場合ハ發喪ノ当日迄ヲ算入シテ計算
ヲ為ス

第七条 新任、休講、休職、辭職又ハ退職ノトキハ年
俸ハ月割計算ニ依リ当月分全額ヲ、月俸ハ日割ヲ
以テ之ヲ支給ス

第八条 時間給ハ本人病氣又ハ自己ノ都合ニ依リ欠勤
シタル場合ノ外ハ之ヲ支給ス 但シ三季ノ休業期
間ハ之ヲ支給セス

日給ハ大祭、祝日、本学記念日、其ノ他本学ノ都
合ニ依リ引続キ五日以内休業シタル場合ハ之ヲ支
給ス其ノ他ノ場合ニハ之ヲ支給セス

第九条 休講又ハ休職ノ期間ハ給料、手当等ヲ支給セ
ス

第十条 病氣ノ為六十日以上欠勤シタルトキハ爾後年

俸又ハ月給ハ其ノ半額ヲ減シ更ニ九十日以上ニ及
フトキハ之ヲ支給セス

第十一条 死亡弔慰金又ハ退職手当金ノ給与ニ付テハ其
ノ都度学長之ヲ定ムルモノトス

本学ノ利益ニ反スト認ムル行為アリテ解職、解備
シタルトキ又ハ之ニ因リ辞職スルニ至リタルトキ
ハ退職手当金ハ之ヲ支給セス

第十二条 本規程ニ規定セサル事項ニ付テハ学長之ヲ決
ス

附 則

第十三条 本規程ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

東洋大学附属図書館所蔵

第三節 事務規程

二二七 東洋大学事務規程（昭和九年一二月）

東洋大学事務規程（要領抜萃）

一、本学ノ事務ハ教務課、学生課、庶務課、会計課並附

属図書館ニ於テ之ヲ分掌ス

一、各係員ハ上長ノ指揮ヲ受ケ事務ヲ分担シ其ノ取扱事
項ニ関シテハ其ノ責ニ任ス

一、事務ノ分掌左ノ如シ

教 務 課

一、授業、学科課程ニ関スル事項

一、教科用参考用図書ニ関スル事項

一、授業時間編成及変更ニ関スル事項

一、授業及休業ニ関スル事項

一、教員ノ出勤欠勤ニ関スル事項

一、演習、見学、実地授業ニ関スル事項

一、学生ノ入学、退学ノ銓衡並志望部科ニ関スル事項

一、成績考査、進級及卒業ニ関スル事項

一、学生、卒業生成績台帳整理ニ関スル事項

一、卒業スヘキ学生名簿ニ関スル事項

一、試験執行及受験票ニ関スル事項

一、各種証明書及推薦書ニ関スル事項

一、教員無試験檢定出願並免許状ニ関スル事項

一、教室、教授室、研究室、教具、教材ノ設備保管ニ関
スル事項

スル事項

一、専修科、研究科、留学生ニ関スル事項

一、教務上ノ統計、調査ニ関スル事項

一、科外講座ニ関スル事項

一、教務ニ属スル文書ノ起案、整理、保管ニ関スル事項

一、教務課日誌、其他、諸帳簿整理ニ関スル事項

一、学報編纂ニ関スル事項

一、其他教務ニ関スル一切ノ事項

学 生 課

一、学生ノ学籍及兵役ニ関スル事項

一、学生ノ出欠席及行状ニ関スル事項

一、学生異動、転学、除名、退学、休学、其他学生ノ事故ニ関スル事項並各課へ通告ニ関スル事項

一、学生ノ体育、衛生並身体検査ニ関スル事項

一、学生ノ思想、風紀取締ニ関スル事項

一、学生ノ訓育、賞罰ニ関スル事項

一、学生ノ服装規律ニ関スル事項

一、学生ノ刊行物ニ関スル事項

一、学生ノ集会、揭示ニ関スル事項

一、級長其他学生代表ニ関スル事項

一、学生ノ願届書受理ニ関スル事項

一、談合会ニ関スル事項

一、卒業スヘキ学生ノ就職ニ関スル事項

一、学生ノ控所食堂取締ニ関スル事項

一、学友会ノ指導ニ関スル事項

一、学生課ニ属スル文書ノ起案、整理及保管ニ関スル事項

一、学生課日誌、其他帳簿整理ニ関スル事項

一、其他学生課ニ関スル一切ノ事項

庶 務 課

一、各種重要印鑑保管ニ関スル事項

一、公文書及通信照會書類ノ收受発送ニ関スル事項

一、統計報告ニ関スル事項

一、学校一覽、学校案内、志願者心得等ニ関スル事項

一、学生募集及広告ニ関スル事項

一、規則ノ制定改廃、編輯、保管ニ関スル事項

一、就職希望者名簿、大学案内、学校一覽等配送ニ関スル事項

一、教職員ノ履歴異動ニ関スル事項

一、会議ノ召集ニ関スル事項

一、式典、招待ニ関スル事項

一、寄附ニ関スル事項

一、校地、校舎ノ整頓、警備、衛生ニ関スル事項

一、当直ニ関スル事項

一、事務職員ノ出勤欠勤ニ関スル事項

一、傭人、傭罷及監督ニ関スル事項

一、教職員ノ慶弔ニ関スル事項

- 一、汽船汽車割引券定期証明書ニ関スル事項
- 一、東洋大学財団事務進行ニ関スル事項
- 一、大学聯盟事務ニ関スル事項
- 一、各種名簿（教職員、出身者）ニ関スル事項
- 一、事務曆作成、揭示ニ関スル事項
- 一、卒業証書調製ニ関スル事項
- 一、郵便物受付、配布等ニ関スル事項
- 一、庶務課日誌、諸帳簿整理ニ関スル事項
- 一、其他各課ニ属セサル一切ノ事項

会計課

- 一、財団ノ大学側ニ属スル財産及資産ノ保管ニ関スル事項
- 一、経費及収入ノ予算決算ニ関スル事項
- 一、金銭ノ収支及保管ニ関スル事項
- 一、物品ノ購入、支給及保管ニ関スル事項
- 一、不用品ノ処分ニ関スル事項
- 一、貸地、貸家ニ関スル事項
- 一、給水、電灯、電話、其他器具ノ管理ニ関スル事項
- 一、校舎ノ建築、營繕ニ関スル事項
- 一、授業料納入ニ関スル事項
- 一、授業料未納学生ノ督促及各課ヘノ報告ニ関スル事項
- 一、会計ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項

- 一、其他会計ニ関スル一切ノ事項

附属図書館

- 一、図書印章ノ保管ニ関スル事項
- 一、図書ノ選定購入ニ関スル事項
- 一、図書ノ出納、整理、保存ニ関スル事項
- 一、図書ノ目錄編纂ニ関スル事項
- 一、寄贈図書ニ関スル事項
- 一、図書ノ閲覧、貸借ニ関スル事項
- 一、官報、雑誌、新聞類ノ管理ニ関スル事項
- 一、其他図書並ニ図書館ノ監督ニ関スル一切ノ事項

『東洋大学一覽 昭和九年十二月一日現在』

一六—二二頁（昭和一〇年二月一〇日）

二二八 東洋大学事務規程

〔昭和一三年六月二四日実施〕

東洋大学事務規程

第一章 総則

第一条 本学ノ事務ハ学長ノ命ヲ受ケ幹事長掌理シ左

ノ各課ニ於テ之ヲ分掌ス

一 教務課

二 学 生 課
三 庶 務 課

四 外 事 課

五 会 計 課

六 図 書 館

第二 条 幹事ハ毎年度始ニ於テ当該課員ノ分担事務ヲ

定メ幹事長ニ具申スヘシ

第三 条 所属不明ナル事務アルトキハ幹事長ニ於テ適

当ナリト認メタル課ニ於テ之ヲ処理セシム

第四 条 所管事務ニシテ他ノ課ニ関聯スルモノアルト

キハ合議ノ上之ヲ処理スヘシ

第五 条 所管事項ニシテ事務一般ニ周知ヲ要スルモノ

ハ回覧簿ニ記入シ之ヲ各課ニ回覧捺印セシム

ルモノトス

第六 条 教授、講師ニ通達事項中急ヲ要スルモノヲ除

キ他ハ之ヲ教授室ニ揭示スルヲ以テ足ル

但シ揭示ハ七日以前ニ於テ之ヲ為スヘシ

第七 条 学生生徒ニ周知セシムル事項ハ凡テ揭示ヲ以

テ之ヲ為ス

第八 条 各課幹事ハ其ノ所管スル年度行事予定表ヲ作

成シ幹事長ヲ經テ之ヲ学長ニ提出スヘシ

幹事長ハ各月行事予定表ノ作成ヲ各課幹事ニ

命シ之ヲ取マトメ学長ニ報告ノ上庶務幹事ヲ
シテ各課員ニ印刷配布セシム

第九 条 各課幹事ハ処務日誌ヲ作成シ毎月曜日幹事長

ヲ經テ学長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十 条 各課ノ起案事項ハ所定ノ用紙ニ記載シ幹事長

ヲ經テ之ヲ学長ニ提出スヘシ

第十一 条 各課係ニ於テ教職員、校友其ノ他本学関係者

ノ住所氏名ノ変更ヲ知リタルトキハ直チニ外

事課幹事ニ之ヲ報告スヘシ

第十二 条 当直ニ関スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 事務分掌

第十三 条 第一章第一条ニ依ル事務ハ左ノ通り各課ニ於

テ之ヲ分掌ス

教 務 課

一 授業、学科課程ニ関スル事項

一 教科用参考用図書選定ニ関スル事項

一 授業時間編成及ヒ変更ニ関スル事項

一 授業及ヒ休業ニ関スル事項

一 教員出勤、欠勤ニ関スル事項

一 教練、演習、実地授業ニ関スル事項

一 学生ノ入学、並ニ志望部科ニ関スル事項

一 成績考査、進級及ヒ卒業ニ関スル事項

- 一 学生、卒業生成績台帳整理ニ関スル事項
- 一 卒業論文研究報告ニ関スル事項
- 一 試験執行及ヒ試験問題ニ関スル事項
- 一 教授要目、授業進度ニ関スル事項
- 一 各種証明書及ヒ推薦書ニ関スル事項
- 一 教員無試験検定出願並ニ免許ニ関スル事項
- 一 教室、教授室、研究室、教員教材ノ設備ニ関スル事項
- 一 卒業生ノ入学願書及ヒ学籍簿保管ニ関スル事項
- 一 教務上ノ各種統計調査ニ関スル事項
- 一 科外各種講座ニ関スル事項
- 一 文部省関係公文書保管ニ関スル事項
- 一 教務事務ノ文書起案、教務課日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項
- 一 其ノ他教務ニ属スル一切ノ事項
- 学 生 課
- 一 学生ノ学籍ニ関スル事項
- 一 学生証並ニ学生手帳ニ関スル事項
- 一 学生ノ兵役ニ関スル事項
- 一 学生ノ出欠席及ヒ行状ニ関スル事項
- 一 本学在留学生ニ関スル事項
- 一 学生ノ座席ニ関スル事項
- 一 学生異動、転学、休学、退学、除名、其ノ他学生ノ事故ニ関スル事項
- 一 学生ノ体育、衛生並ニ身体検査ニ関スル事項
- 一 学生ノ思想、風紀取締ニ関スル事項
- 一 学生ノ訓育、賞罰ニ関スル事項
- 一 学生ノ服装規律ニ関スル事項
- 一 学生ノ刊行物ニ関スル事項
- 一 学生ノ集会揭示ニ関スル事項
- 一 級長其ノ他学生代表ニ関スル事項
- 一 学生ノ諸願届書受理ニ関スル事項
- 一 学生ノ談合会ニ関スル事項
- 一 学生ノ副業ニ関スル事項
- 一 学友会ノ指導ニ関スル事項
- 一 卒業スヘキ学生名簿ニ関スル事項
- 一 学生課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 学生課ニ属スル統計調査ニ関スル事項
- 一 学生課日誌其ノ他帳簿整理保管ニ関スル事項

- | | |
|--|---|
| <p>一 其ノ他学生課ニ関スル一切ノ事項</p> <p>一 庶務課</p> <p>一 各種重要印鑑保管ニ関スル事項</p> <p>一 公文書及ヒ通信、照会書類ノ收受、發送ニ関スル事項</p> <p>一 統計報告書總括ニ関スル事項</p> <p>一 大学一覽、学校案内等ニ関スル事項</p> <p>一 規則ノ編綴、保管ニ関スル事項</p> <p>一 規程ノ制定、改廢ニ関スル事務事項</p> <p>一 大学案内、学校一覽等發送ニ関スル事項</p> <p>一 教職員ノ履歷、異動ニ関スル事項</p> <p>一 會議ノ招集ニ関スル事項</p> <p>一 式典招待ニ関スル事項</p> <p>一 校地、校舍ノ整頓、警備、衛生施設ニ関スル事項</p> <p>一 当直ニ関スル事項</p> <p>一 事務職員ノ出勤、欠勤ニ関スル事項</p> <p>一 傭人、傭罷及ヒ監督ニ関スル事項</p> <p>一 教職員ノ慶弔ニ関スル事項</p> <p>一 汽車汽船割引券、定期証明書ニ関スル事項</p> <p>一 東洋大学財団事務進行ニ関スル事項</p> | <p>一 物品ノ購入及ヒ印刷物、其ノ他大学備品ノ注文保管ニ関スル事項</p> <p>一 給水、電灯、電話其ノ他器具ノ管理ニ関スル事項</p> <p>一 校舍ノ建築、營繕ニ関スル事項</p> <p>一 事務曆作成ノ揭示ニ関スル事項</p> <p>一 卒業証書、精勤、感謝狀調製ニ関スル事項</p> <p>一 郵便物受付配布等ニ関スル事項</p> <p>一 庶務課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項</p> <p>一 庶務課日誌、諸帳簿整理ニ関スル事項</p> <p>一 辞令ニ関スル事項</p> <p>一 講堂使用ニ関スル事項</p> <p>一 其ノ他庶務課ニ関スル一切ノ事項</p> <p>一 外 事 課</p> <p>一 学生募集ニ関スル事項</p> <p>一 宣伝ニ関スル事項</p> <p>一 卒業生ノ就職ニ関スル事項</p> <p>一 出身者及ヒ大学ノ関係者住所移動並ニ名簿作成ニ関スル事項</p> <p>一 寄附金募集ニ関スル事項</p> |
|--|---|

- 一 私立大学聯合会ニ関スル事項
- 一 其ノ他各大学施設調査ニ関スル事項
- 一 外事課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 外事課日誌、其ノ他諸帳簿整理保管ニ関スル事項
- 一 會計課
- 一 財団ノ大学側ニ属スル財産及ヒ資産ノ保管ニ関スル事項
- 一 經費及ヒ收入ノ予算決算ニ関スル事項
- 一 金錢ノ収支及ヒ保管ニ関スル事項
- 一 消耗品ノ購入、支給及ヒ保管ニ関スル事項
- 一 貸地、貸家ニ関スル事項
- 一 授業料納入ニ関スル事項
- 一 学友会、校友会費納入ニ関スル事項
- 一 授業料未納学生ノ督促及ヒ各課ヘノ報告ニ関スル事項
- 一 會計課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 會計課日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項

第十四条

- 一 購売部ニ関スル事項
- 一 其ノ他會計ニ関スル一切ノ事項
- 一 図書館
- 一 図書印章ノ保管ニ関スル事項
- 一 図書ノ選定購入ニ関スル事項
- 一 図書ノ出納、整理、保存ニ関スル事項
- 一 図書ノ目錄編纂ニ関スル事項
- 一 寄贈図書ニ関スル事項
- 一 図書ノ閲覧、貸借ニ関スル事項
- 一 官報、雑誌、新聞類ノ整理ニ関スル事項
- 一 図書館ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 図書館日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項
- 一 其ノ他図書並ニ図書館ノ監督ニ関スル一切ノ事項
- 一 第三章 会 議
- 一 職務ノ円滑ヲ図リ事務ノ運行連絡ヲ保ツ為メ左ノ職員會議ヲ開ク
- 一 職員會議ヲ分チテ定例会議、臨時會議及ヒ幹事会ノ三種トス
- 一 定例会議

定例会議ハ職務ノ円滑ヲ図リ事務ノ運行ヲ密ニスルタメ毎月一回之ヲ開ク
定例会議ニハ学長以下全職員出席スヘシ
臨時會議

臨時會議ハ緊急ノ必要ニ応シテ学長之ヲ招集ス

三 幹事會議

幹事會議ハ每週一定ノ日ニ之ヲ開ク

幹事會ハ各課ヲ代表シ事務ノ運行連絡其ノ他ニ付キ打合セヲ為ス

第十五条

會議録ハ庶務幹事之ヲ作成保管スヘシ

第四章 服務心得

第十六条

職員ハ常ニ關係法規、本學諸規程及ヒ內規ニ通曉シ聊カモ違算ナキヲ期スヘシ

第十七条

職員ハ服務ニ當リ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 出勤ノ際ハ直チニ出勤簿ニ捺印スルコト
二 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ欠勤セントスルトキハ予メ其ノ事由ヲ文書又ハ口頭ヲ以テ届出ツルコト

早退セントスルトキ亦同シ

三 病氣ノ為欠勤三日以上ニ及フトキハ医師ノ診斷書ヲ添付スルコト

四

欠勤七日以上ニ及フトキハ未決事項及ヒ將來処理スヘキ事項ヲ列記シ之ニ意見及ヒ処理方法ヲ認メ上司ノモトニ提出スルコト

五

現住地ヲ離レントスルトキハ庶務課ニ届出ルコト

六

職員ノ定休日及ヒ執務時間左ノ如シ
定休日

日曜、祭日（大祭日ヲ除ク）

本學創立記念日

夏季休暇 自七月十一日至九月十日

冬季休暇 自十二月二十五日至翌年一月

七日

執務時間

自四月一日至十月三十日 自午前八時至

午後四時

自十一月一日至翌年三月三十一日 自午

前八時三十分至午後四時

使丁給仕服務時間

附

全部 自九月五日至翌年七月二十日 自

午前六時至午後五時

一

二名交替

自七月二十一日至九月四日（夏期休間）
自十二月二十五日至一月五日（冬期休間）

自午前七時至午後五時

附 則

第十八条 従前ノ事務規程ハ之ヲ廢止ス

第十九条 本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実施ス

『東洋大学改正制規』

千秋文庫所蔵

二一九 東洋大学事務規程

〔昭和一六年一月一六日実施〕

東洋大学事務規程

第一章 總 則

第一条 本学ノ事務ハ学長ノ命ヲ承ケ幹事長之ヲ掌理

シ左ノ各課ニ於テ之ヲ分掌ス

一 教務課

二 学生課

三 庶務課

四 外事課

五 會計課

六 教練課

七 図書館

第二条 所属不明ナル事務アルトキハ幹事長ニ於テ適當ナリト認メタル課ニ於テ之ヲ処理セシム

第三条 所管事務ニシテ他ノ課ニ関聯スルモノアルトキハ合議ノ上之ヲ処理スベシ

第四条 所管事項ニシテ事務一般ニ周知ヲ要スルモノハ之ヲ各課ニ回覧捺印セシム

第五条 教員ニ通達事項中急ヲ要スルモノヲ除キ他ハ之ヲ教授室ニ揭示スルヲ以テ足ル

但シ揭示ハ七日以前ニ於テ之ヲ為スベシ

第六条 学生生徒ニ周知セシムル事項ハ凡テ揭示ヲ以テ之ヲ為ス

第七条 各課長ハ其ノ所管スル年度行事予定表ヲ作成シ幹事長ヲ經テ之ヲ学長ニ提出スベシ行事予定表ハ庶務課ニ於テ之ヲ取マトメ職員ニ通達ス

第八条 各課長ハ処務日誌ヲ作成シ毎月曜日幹事長ヲ經テ学長ノ檢閲ヲ受クベシ

第九条 各課ノ起案事項ハ所定ノ用紙ニ記載シ幹事長ヲ經テ之ヲ学長ニ提出スベシ

第十条 職員ニシテ教職員、校友其ノ他本学関係者ノ

住所氏名等ノ変更ヲ知リタルトキハ直チニ之

ヲ外事課ニ報告スベシ

第十一条 当直ニ関スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 事務分掌

第十二条 第一章第一条ニ依ル事務ハ左ノ通り各課分掌

ス

教 務 課

一 授業、学科課程ニ関スル事項

一 教科用参考用図書選定ニ関スル事項

一 授業時間編成及変更ニ関スル事項

一 授業及休業ニ関スル事項

一 教員出勤、欠勤ニ関スル事項

一 教練、演習、実地授業ニ関スル事項

一 学生ノ入学並志望部科ニ関スル事項

一 成績考査、進級及卒業ニ関スル事項

一 学生、卒業生成績台帳整理ニ関スル事項

一 卒業論文研究報告ニ関スル事項

一 試験執行及試験問題ニ関スル事項

一 教授要目、授業進度ニ関スル事項

一 各種証明書及推薦書ニ関スル事項

一 教員無試験検定出願並ニ免許ニ関スル事

項

一 教室、教授室、研究室、教員教材ノ設備ニ関スル事項

一 卒業生ノ入学願書及ヒ学籍簿保管ニ関スル事項

一 教務上ノ各種統計調査ニ関スル事項

一 科外各種講座ニ関スル事項

一 文部省関係公文書保管ニ関スル事項

一 教務事務ノ文書起案、^(教)事務課日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項

一 其ノ他教務ニ属スル一切ノ事項

一 学 生 課

一 学生ノ学籍ニ関スル事項

一 学生証並学生手帳ニ関スル事項

一 学生ノ兵役ニ関スル事項

一 学生ノ出欠席及行状ニ関スル事項

一 本学在留学生ニ関スル事項

一 学生ノ座席ニ関スル事項

一 学生異動、転学、休学、退学、除名其ノ

一 他学生ノ事故ニ関スル事項

一 学生ノ体育、衛生並身体検査ニ関スル事

項

- 一 学生ノ思想、風紀取締ニ関スル事項
- 一 学生ノ訓育、賞罰ニ関スル事項
- 一 学生ノ服装規律ニ関スル事項
- 一 学生ノ刊行物ニ関スル事項
- 一 学生ノ集会揭示ニ関スル事項
- 一 級長其ノ他学生代表ニ関スル事項
- 一 学生ノ諸願届書受理ニ関スル事項
- 一 学生ノ談合会ニ関スル事項
- 一 学生ノ副業ニ関スル事項
- 一 卒業スヘキ学生名簿ニ関スル事項
- 一 学生課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 学生課ニ属スル統計調査ニ関スル事項
- 一 学生課日誌其ノ他帳簿整理保管ニ関スル事項
- 一 其ノ他学生課ニ関スル一切ノ事項
- 一 庶務課
- 一 各種重要印鑑保管ニ関スル事項
- 一 公文書及通信、照会書類ノ收受、発送ニ関スル事項
- 一 統計報告書總括ニ関スル事項
- 一 大学一覽、学校案内等ニ関スル事項
- 一 規則ノ編綴、保管ニ関スル事項
- 一 規程ノ制定、改廃ニ関スル事務事項
- 一 大学案内、学校一覽等發送ニ関スル事項
- 一 教職員ノ履歷、異動ニ関スル事項
- 一 会議ノ招集ニ関スル事項
- 一 式典招待ニ関スル事項
- 一 校地、校舎ノ整頓、警備、衛生施設ニ関スル事項
- 一 当直ニ関スル事項
- 一 事務職員ノ出勤、欠勤ニ関スル事項
- 一 傭人、傭罷及監督ニ関スル事項
- 一 教職員ノ慶弔ニ関スル事項
- 一 汽車汽船割引券、定期証明書ニ関スル事項
- 一 東洋大学財団事務進行ニ関スル事項
- 一 印刷物及大学備品ノ註文及購入ニ関スル事項
- 一 校舎ノ建築、營繕ニ関スル事項
- 一 事務曆作成ノ揭示ニ関スル事項
- 一 卒業証書、精勤、感謝狀調製ニ関スル事項
- 一 郵便物受付配布等ニ関スル事項

- | | | | |
|-----|----------------------------|-----|-------------------------|
| 一 | 庶務課ニ属スル文書ノ起案整理保管ニ関スル事項 | 一 | 經費及收入ノ予算決算ニ関スル事項 |
| 一 | 庶務課日誌諸帳簿整理ニ関スル事項 | 一 | 金錢ノ収支及保管ニ関スル事項 |
| 一 | 辞令ニ関スル事項 | 一 | 消耗品ノ購入、支給及保管ニ関スル事項 |
| 一 | 講堂使用ニ関スル事項 | 一 | 物品ノ保管ニ関スル事項 |
| 一 | 其ノ他庶務ニ関スル一切ノ事項 | 一 | 給水、電灯、電話其他器具管理ニ関スル事項 |
| 外事課 | | 一 | 貸地、貸家ニ関スル事項 |
| 一 | 学生募集ニ関スル事項 | 一 | 授業料納入ニ関スル事項 |
| 一 | 宣伝ニ関スル事項 | 一 | 護国会々費納入ニ関スル事項 |
| 一 | 卒業生ノ就職ニ関スル事項 | 一 | 授業料未納学生ノ督促及各課ヘノ報告ニ関スル事項 |
| 一 | 出身者及大学ノ関係者住所移動並ニ名簿作成ニ関スル事項 | 一 | 會計課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項 |
| 一 | 寄附金募集ニ関スル事項 | 一 | 會計課日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項 |
| 一 | 私立大学聯合会ニ関スル事項 | 一 | 購売部ニ関スル事項 |
| 一 | 其ノ他各大学施設調査ニ関スル事項 | 一 | 其ノ他會計ニ関スル一切ノ事項 |
| 一 | 外事課ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項 | 教練課 | |
| 一 | 外事課日誌、其ノ他諸帳簿整理保管ニ関スル事項 | 一 | 兵器保管並手入資材整備ニ関スル事項 |
| 會計課 | | 一 | 練習用具保管並整備ニ関スル事項 |
| 一 | 財団ノ大学側ニ属スル財産及資産ノ保管ニ関スル事項 | 一 | 彈藥購入並保管ニ関スル事項 |
| | | 一 | 実包及狹窄射撃ニ関スル事項 |

- 一 射撃部指導ニ関スル事項
- 一 野営計画並実施ニ関スル事項
- 一 教練関係団体乗車並見学ニ関スル事項
- 一 野営費ニ関スル事項
- 一 考科調書作製並整理ニ関スル事項
- 一 教練合格証明書下付ニ関スル事項
- 一 教練証明書下付ニ関スル事項
- 一 検定原簿作製並保管ニ関スル事項
- 一 教練名簿作製並整理ニ関スル事項
- 一 中途退学者及入隊者ニ対スル教練検定ニ関スル事項
- 一 教練学科術科成績調書ニ関スル事項
- 一 教練教育計画作製ニ関スル事項
- 一 査閲受閲ニ関スル事項
- 一 学生生徒ノ身体検査(教練)ニ関スル事項
- 一 学生生徒ノ週番勤務ニ関スル事項
- 一 教練事務ノ文書整理及日誌ニ関スル事項
- 一 軍事関係成規類聚並配布圖書保管ニ関スル事項
- 一 教練服装ニ関スル事項
- 一 学生点呼実施ニ関スル事項
- 一 学生ノ兵役ニ関スル事項
- 一 防空演習計画並指導ニ関スル事項
- 一 教練ニ関スル諸統計作製ニ関スル事項
- 一 教練ニ関スル定例報告書類提出ニ関スル事項
- 一 対外諸行事参加並指揮ニ関スル事項
- 一 其ノ他教練ニ属スル一切ノ事項
- 一 図書館
- 一 図書印章ノ保管ニ関スル事項
- 一 図書ノ選定購入ニ関スル事項
- 一 図書ノ出納、整理、保存ニ関スル事項
- 一 図書ノ目錄編纂ニ関スル事項
- 一 寄贈図書ニ関スル事項
- 一 図書ノ閲覧、貸借ニ関スル事項
- 一 官報、雑誌、新聞類ノ整理ニ関スル事項
- 一 図書館ニ属スル文書ノ起案、整理保管ニ関スル事項
- 一 図書館日誌、諸帳簿整理保管ニ関スル事項
- 一 其ノ他図書並図書館ノ監督ニ関スル一切ノ事項

第十三条 職務ノ円滑ヲ図リ事務ノ運行連絡ヲ保ツ為メ

左ノ職員會議ヲ開ク

職員會議ヲ分チテ定例會議、臨時會議及課長會議ノ三種トス

一 定例會議

定例會議ハ職務ノ円滑ヲ図リ事務ノ運行ヲ密ニスルタメ毎月一回之ヲ開ク定例會議ニハ學長以下全職員出席スベシ

二 臨時會議

臨時會議ハ緊急ノ必要ニ応ジテ學長之ヲ招集ス

三 課長會議

課長會議ハ每週一定ノ日ニ之ヲ開キ事務ノ運行連絡其ノ他ニ付キ打合セヲ為ス

第十四条 右會議ニ関スル記録ハ庶務課ニ於テ之ヲ作成保管ス

附 則

第十五条 本規程ハ昭和十六年一月十六日ヨリ之ヲ実施ス

『昭和十六年一月 東洋大学改正制規』

二二〇 東洋大学教職員規程

〔昭和一三年六月二十四日実施〕

東洋大学教職員規程

第一章 綱 領

第一条 教職員ハ「護國愛理」ノ學是ヲ服膺スヘシ

第二条 教職員ハ人格ヲ重シ自己及ヒ大學ノ体面ヲ汚ササルコトニ留意スヘシ

第三条 教職員ハ其ノ所屬ニ從ヒ専心大學ノ目的達成ニ努力スヘシ

第二章 總 則

第四条 東洋大学教職員ノ任免、補職、解職、休職、囑託、解囑ハ辭令ノ交附ヲ以テ之ヲ行フ

辭令ノ必要ナキモノハ大學揭示板ニ之ヲ揭示スルヲ以テ足ル

第五条 教職員ハ所屬以外ノ部、科、課ニ兼任又ハ兼職セラレタルトキ故ナク之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六条 教職員ノ本任務又ハ本職消滅シタルトキハ其ノ有セシ兼任兼職ハ同時ニ消滅シタルモノト看做ス

休職ニ付亦同シ

第七条 教職員ハ別段ノ定アルトキヲ除キ其ノ意ニ反

シ罷免セラルルコトナシ

但シ講師備員ハ此ノ限リニ非ス

第八条 教職員ハ校務ニ関シテ大学ノ命スル事項ヲ故

ナク拒ムコトヲ得ス

第九条 教職員ハ大学ノ機密ヲ漏洩スヘカラス

第十条 教職員ハ災害其ノ他非常ノ場合ニ於テハ速ニ

大学ニ参集シ協力シテ保安ノコトニ当ルヘシ

第十一条 教職員他ノ業務ニ従事セントスルトキハ大学

ノ許諾ヲ請フヘシ

但シ講師備員ハコノ限リニアラス

第三章 解任解職

第十二条 教職員ハ所属ノ部、科、課、其ノ他事務ノ廢

止アリタルトキハ其ノ任ヲ失フ

第十三条 教職員身体又ハ精神ノ故障其ノ他ノ事由ニ因

リ引続キ職務ヲ執ル能ハサルニ至リタルトキ

ハ其ノ任ヲ免スルコトヲ得

第十四条 教職員故ナク三十日以上引続キ欠勤スルトキ

ハ其ノ任ヲ免スルコトヲ得

三十日以下ノ欠勤数回ニ及フトキ亦同シ

第十五条 教授、講師ニシテ休講担任時数ノ五分ノ一以

上ニ及フ者アルトキハ之ヲ解任又ハ解嘱スル
コトヲ得

第四章 休職復職

第十六条 大学ハ都合ニ依リ教授、職員ニ休職ヲ命スル

コトヲ得

休職中ハ総テノ服務ヲ免ル

第十七条 休職ヲ命セラレタル者六ヶ月ヲ経過シタルト

キハ其ノ任ヲ失フ

第十八条 大学ハ何時ニテモ休職ヲ解クコトヲ得

第十九条 休職者ヲ職ニ補シタルトキハ休職ヲ解キタル

モノト看做ス

第五章 休 暇

第二十条 大学ハ左ノ期間内ニ於テ教職員ニ休暇ヲ与フ

ルコトヲ得

一 大学創立記念日(十二月二十三日)

二 大学創立記念祝日(十一月二十三日)

三 祝祭日、日曜日、其ノ他一般ノ休日

四 自七月十一日至九月十日(夏季休暇)

五 自十二月二十五日至一月七日(冬季休暇)

第二十一条 大学ハ教職員ニ左ノ忌引ヲ与フ

一 父母祖父母配偶者又ハ子ノ死亡シタル

トキ 七日間

二 前項以外ノ直系血族兄弟姉妹又ハ配偶者ノ父母祖父母ノ死亡シタルトキ 五日間

三 四親等内ノ血族又ハ二親等内ノ姻族死亡シタルトキ 三日間

四 其ノ他ノ親族死亡シタルトキ 二日間

五 第一項第二項ニ掲ケタル者ノ祭祀ヲ営ムトキ 一日間

第二十二條 教職員疾病又ハ傷痍ニ因リ欠勤セントスルトキハ之ヲ届出ツヘシ

欠勤七日ヲ超ユルトキハ医師ノ診断書ヲ添付スヘシ

病氣欠勤三ヶ月ヲ超ユルトキハ之ヲ休職セシムルコトヲ得

第二十三條 教職員ハ已ムヲ得サル事由ニ因リ欠勤セントスルトキハ其ノ事情ヲ具シ大学ノ許可ヲ請フヘシ

旅行セントスルトキハ帰着マテノ旅程ヲ明示スヘシ

第二十四條 前二条ノ規定ハ第十四条及ヒ給与規程第

二条ノ適用ヲ妨ケス

第二十五條 教職員ハ休暇中ト雖旅行セントスルトキハ

其ノ旅程ヲ明記シテ之ヲ届出ツヘシ

第二十六條 教職員退職シタルトキト雖其ノ後任者又ハ上司ニ必ス事務ノ引継ヲ為ス責ヲ負フ

附 則

第二十七條 本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ実施ス

『東洋大学改正制規』

千秋文庫所蔵

二二二 東洋大学服務規程

〔昭和一六年一月一六日実施〕

東洋大学服務規程

第一章 綱 領

第一條 教職員ハ「護国愛理」ノ学是ヲ服膺スヘシ

第二條 教職員ハ人格ヲ重ンシ自己及大学ノ体面ヲ汚サザルコトニ留意スベシ

第三條 教職員ハ其ノ所属ニ從ヒ専心大学ノ目的達成ニ努力スベシ

第二章 總 則

第四條 教職員ハ常ニ関係法規本学諸規程及内規ニ通

曉シ聊カモ違算ナキヲ期スベシ

第五 教職員ハ校務ニ関シテ大学ノ命ズル事項ヲ故

ナク拒ムコトヲ得ズ

第六 教職員ハ大学ノ機密ヲ漏洩スベカラズ

第七 教職員ハ災害其ノ他非常ノ場合ニ於テハ速ニ

大学ニ参集シ協力シテ保安ノコトニ当ルベシ

第八 教職員他ノ業務ニ従事セントスルトキハ大学

ノ許諾ヲ請フベシ

但シ嘱託教授講師ハ此ノ限ニ在ラズ

第九 教職員ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 出勤ノ際ハ直チニ出勤簿ニ捺印スルコト

二 執務時間中外出又ハ退出セントスルトキ

ハ其ノ事由ヲ具シ上司ノ許可ヲ受クルコ

ト

三 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ欠勤セントスル

トキハ予メ其ノ事由ヲ文書又ハ口頭ヲ以

テ届出ヅルコト

四 病氣ノ為欠勤一週間以上ニ及ブトキハ医

師ノ診断書ヲ添附スルコト

五 欠勤一週間以上ニ及ブトキハ未決事項及

将来処理スベキ事項ヲ列記シ之ニ意見及

処理方法ヲ認メ提出スルコト

六 現住地ヲ離レントスルトキハ庶務課ニ届

出ヅルコト

七 出張ノ命ヲ受ケタルトキハ出発前及帰着

後直ニ出張発着届簿ニ記名捺印スヘシ其

ノ手続ヲナス遅ナキトキハ便宜ノ方法ニ

依リ届出ヅルコト

八 本学ノ文書類ハ学長ノ承認ヲ得ルニ非サ

レハ之ヲ他人ニ示シ又ハ其ノ写本ヲ与フ

ルコトヲ得ザルコト

第十 専任教授、助教授ハ授業時数一週十時間乃至

二十時間ヲ担当スル義務ヲ負フ但シ大学ノ許

可ヲ得テ一週二日以内出勤セザルコトヲ得

教職員ノ定休日及執務時間左ノ如シ

定休日

日曜、祝祭日（大祭日ヲ除ク）

本学創立記念日（十二月十三日）

本学創立記念祝日（十一月二十三日）

夏季休暇 自七月十一日至九月十日

但シ職員ノ夏季休暇ハ自七月二十日至九

月五日トス

冬季休暇 自十二月二十五日至翌年一月七

日

執務時間

自四月一日至十月三十日 自午前八時至午後四時
自十一月一日至翌年三月三十一日 自午前八時三十分
至午後四時

附 使丁給仕服務時間

- 一 全部 自四月一日至十月三十一日 自午前七時至午後五時
自十一月一日至三月三十一日 自午前七時三十分至午後五時
一 二名 交替

自七月二十一日至九月四日（夏期休間）

自十二月二十五日至一月五日（冬期休間）

自午前八時至午後四時

第十二条

大学ハ教職員ニ左ノ忌引ヲ与フ

一 父母祖父母配偶者又ハ子ノ死亡シタルト

キ 七日間

二 前項以外ノ直系血族兄弟姉妹又ハ配偶者

ノ父母祖父母ノ死亡シタルトキ 五日間

三 四親等内ノ血族又ハ二親等内ノ姻族死亡

シタルトキ 三日間

四 其他ノ親族死亡シタルトキ 二日間

五 第一項第二項ニ掲ケタル者ノ祭祀ヲ営ム

トキ 一日間

第十三条

教職員退職シタルトキト雖其ノ後任者ニ必ズ
事務ノ引継ヲ為ス責ヲ負フ

附 則

第十四条 本規程ハ昭和十六年一月十六日ヨリ之ヲ実施

ス

『昭和十六年一月 東洋大学改正制規』

二二三 東洋大学懲戒規程

〔昭和一三年六月二四日施行〕

東洋大学懲戒規程

第一条 東洋大学教職員ハ学祖建学ノ精神ニ悖リ校規

又ハ各種規程ニ違反シタルトキハ左ノ各号ニ

依リ処分セラルヘシ

一 譴責

二 減俸

三 罷免

第二条 前条各号ノ処分ハ懲戒委員会ノ決スル所ニ依

ル

第三条 懲戒委員会ハ之ヲ公行セス

第四条 懲戒委員会ハ懲戒委員三名及予備委員二名ヲ

以テ構成ス

第五条 懲戒委員会ノ任期ハ之ヲ二ケ年トス

懲戒委員ハ任期滿了スト雖既ニ着手シタル事

件ハ之ヲ完結スヘシ

第六条 懲戒委員及予備委員ハ協議委員会ニ於テ之ヲ互

選スヘシ

予備委員ハ抽籤ニ依リ補欠及填補ノ順位ヲ定

ムヘシ

第七条 懲戒委員欠ケタルトキハ順位ニ依リ又予備委

員欠ケタルトキハ遅滞ナク之ヲ補欠スルヲ要ス

第八条 懲戒委員会ハ委員長ヲ互選スヘシ

第九条 委員長差支アルトキハ年長ノ委員之ヲ代理ス

ヘシ

第十条 懲戒委員会ハ全委員出席スルニ非サレハ職務

ヲ行フコトヲ得ス

第十一条 委員差支アルトキハ順位ニ依リ予備委員ヲ以

テ填補スルモノトス

第十二条 懲戒委員会ハ請求アルニ非サレハ事件ノ審議

ニ着手スルコトヲ得ス

審議開始ノ請求ハ大学之ヲ行フ

第十三条 委員長ハ一人又ハ数人ノ委員ニ特定ノ事項ノ

調査ヲ命シ又ハ自ラ之ヲナスコトヲ得

第十四条 懲戒委員会ノ決議ハ多数決ニ依ル

第十五条 懲戒委員会ハ事実及一切ノ情状ヲ調査シ校規

ノ精神ニ則リ本人ノ心情ヲ考量シテ決議ヲ行フヘシ

第十六条 懲戒委員会ハ決議前本人ヲ審問シ其ノ弁明ヲ

聴クヘシ

但シ本人ノ居所不明ナルトキ又ハ審問ニ応セ

サルトキハ此ノ限りニ在ラス

第十七条 懲戒委員会ノ決議書ニハ事実及情状ノ要領ヲ

記載シ校規ノ適用ヲ示スヘシ

第十八条 懲戒委員会ノ決議書ハ之ヲ大学ニ提出スヘシ

第十九条 決議書ヲ受取リタル大学ハ直チニ之ヲ本人ニ

送付スヘシ

但シ本人ノ届出テタル住所ニ發送スルヲ以テ

足ル

第二十条 懲戒ニ因ル処分ハ決議書ノ發送ニ因リテ其ノ

効力ヲ生ス

第二十一条 予備委員ハ懲戒委員会ニ出席シテ意見ヲ述

フルコトヲ得

第二十二条 幹事長ハ懲戒委員会ノ事務ヲ掌ル

附 則

第二十三条 本規程ハ昭和十三年六月二十四日ヨリ之ヲ

施行ス

『昭和十六年一月 東洋大学改正制規』